

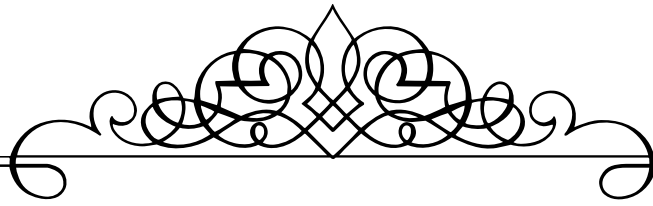


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

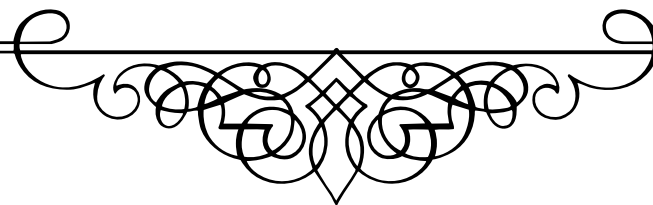


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう。今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



はじめに

兵庫県立こども病院
病院長 丸尾 猛

平成23年3月11日の東日本大震災で被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。16年前に阪神・淡路大震災を経験しているだけに、この度の大地震では大地震に加えて巨大津波、さらにはあってはならぬ原子力発電所のメルトダウンが重なり、地域住民の方々のご心痛はいかばかりかといたまれぬ思いです。いままでにない力、質の違う力で、自然と故郷が破壊されていく怖さを禁じえません。天地を脅かす、文明の不気味な綻びを感じます。強いリーダーシップのもと、国一体となった支援によって、早期の復旧と復興を願うばかりです。

当院は、昭和45年に県政100周年記念事業として全国2番目の小児病院として開設され、平成6年には周産期医療センターが、平成19年には小児救急医療センターが開設され、「ハイリスク胎児とこども達を守る砦」として第3次小児周産期救急医療の役割を担っています。当院では常に50名前後の患児が人工呼吸器管理下にあり、言い換えれば入院患児の5人に1人は人工呼吸器管理下にあり、総合病院では想像できない別世界の臨床が動いています。特に、本館病棟の狭い4人病室で複数台の人工呼吸器が動き、年毎に入院患児の重篤さが高まる中、安心・安全な高度専門医療の実践には病院建替えが急務であるとの思いを日々強く感じています。

当院の高度専門技能は全国小児医療施設の中でも矚目される実績を示しており、今では兵庫県外からの患者さんが入院患者の約20%を占めています。小児周産期の高度専門医療は、昼夜を問わず大きなマンパワーを要し、採算がとりにくい分野です。しかしながら、職員の意識改革と病院運営に向けた力強い協力、さらには小児入院医療管理料アップが原動力となり、平成20年度に当院開設以来39年目にして初めてプラスに転じた収支損益は、平成21年度にはさらに大きくプラスに転じ、平成22年度は病床稼働率91.1%が達成されて収支損益はさらに一層大きくプラスとなりました。これは当院の早期建替え実現に向け、職員一丸となった底力が発揮された証しであり、感謝の念で一杯です。

平成 21 年末には、朽ち果てた「母と子の教室」をリニューアルして「研修センター」を整備し、平成 22 年 4 月には老朽化した医師公舎を撤去しての駐車場拡張整備にあわせて駐車場のゲート管理化に踏み切った結果、当院の長年の懸案であった駐車場不足問題は解消されるに至りました。さらに 12 月には、当院を訪れるこども達を少しでも明るく迎えることができるよう、玄関周辺の整備と玄関ロビーのリニューアルを実施しました。

当院は医療施設から紹介の患者さんのみを対象とする第 3 次施設ですが、今後も当院の高度専門機能を広くご活用いただけるよう連携施設へ積極的に情報を発信し、従来の「待ち受ける医療」から「集まる医療」への転換を徹底したいと考えています。

また、シアトル小児病院との姉妹連携に基づき、11 月にシアトル小児病院から Melzer 副院長、Jackson 新生児科教授はじめ 6 名の幹部スタッフを迎えて、Kobe Children's — Seattle Children's Joint Seminar on Perinatology を開催しました。若手医師を中心に活発な討議が展開され、当院スタッフの層の厚さを改めて感じ入った次第です。平成 22 年度は医師 3 名と看護師 1 名をシアトル小児病院へ 4 週間派遣しました。新生児・小児医療での世界最先端の取り組みを学び、当院での診療に活かされればと願っています。若手医療者の海外派遣による国際交流活性化は、若手医療者の意識改革とモチベーションアップに大きくつながると信じます。世界トップレベルの医療施設との双方向的な国際交流を通して、小児周産期の専門トレーニングを受けるために多くの医療従事者が集まり、さらには小児周産期の専門医療を受けるために多くの患者さんが集まる病院となるよう努めたいと考えています。

当院では、職員一人ひとりが新しい生命の誕生と将来を担うこども達の命に関わる仕事に従事していることを自覚し、皆様に安心して信頼される医療を実践する所存です。本年報を通じ、兵庫県立こども病院の活動をご理解いただき、今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

最後に、本年報の編纂にあたり多大なご尽力を頂いた広報委員会の橋本ひとみ委員長、田中亮二郎副委員長、木村弘子副委員長ならびに長尾 洋総務部次長をはじめとしたスタッフの方々に深甚なる謝意を表します。

目 次

I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
(2) 看護単位別看護職員等配置状況	8
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	9
研修・教育認定施設内容	10
委員会一覧	11

II 診 療 統 計

III 学術・研究・教育活動

1 書 籍	133
2 雑 誌	135
3 学 会 発 表	143
4 報 道 関 連	176
5 実習生・研修生受け入れ状況	177
6 院内・院外研修	182

IV ボランティア

V 一年のあゆみ

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などがあります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

2. 沿革

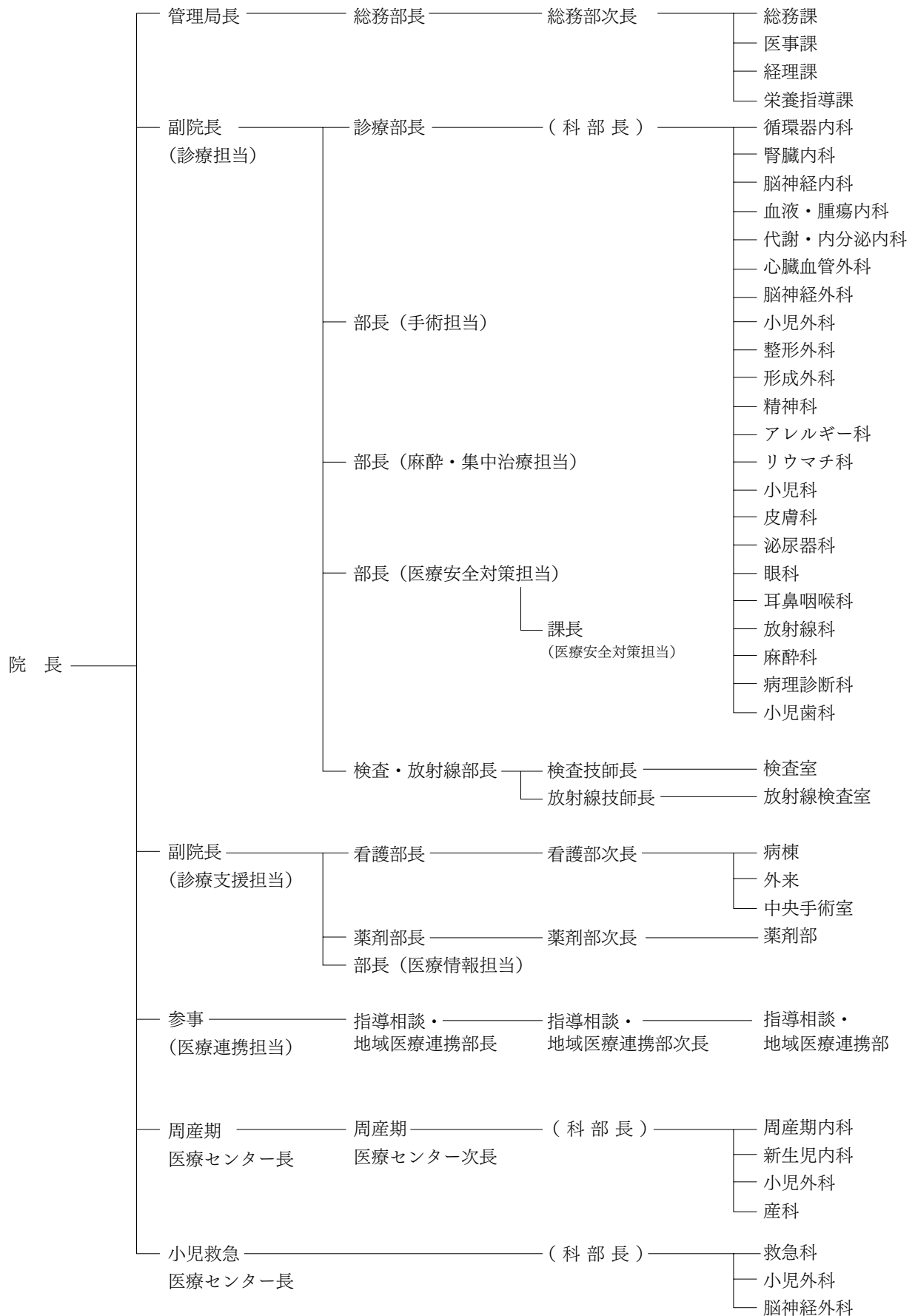
- | | | | |
|-------|-------------|---|----------------|
| (1) 名 | 称 | 兵庫県立こども病院 | |
| (2) 開 | 設 | 昭和45年4月1日（現管理者 丸尾 猛） | |
| (3) 所 | 在 | 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1 TEL 078-732-6961（代表） | |
| (4) 診 | 療 | 精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、代謝・内分泌内科、周産期内科、新生児内科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、産科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、小児歯科 | |
| (5) 病 | 床 | 数 | 一般290床（稼働266床） |
| (6) 沿 | 革 | | |
| | 昭和45年4月1日 | 病院開設（管理者 平田 美穂） | |
| | 昭和45年4月30日 | 病院本館完成 | |
| | 昭和45年5月8日 | 診療開始 | |
| | 昭和45年7月23日 | 基準寝具実施（寝第295号） | |
| | 昭和45年9月17日 | 基準給食実施（食第307号）基準看護実施（看第130号） | |
| | 昭和46年12月28日 | 母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称 | |
| | 昭和47年2月1日 | 基準看護一般特類変更承認（険第98号） | |
| | 昭和47年12月1日 | 基準看護精神特類変更承認（険第219号） | |

昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 26 日 兵庫県条例第 11 号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 玉木 健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成 元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 竹峰 久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更受理（管理者 小川 恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成
平成 6 年 10 月 1 日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第 66 号）により、周産期医療センターを設置

平成 6 年 10 月 3 日	周産期医療センター開設記念式典
平成 6 年 10 月 4 日	周産期医療センター診療開始
平成 7 年 1 月 17 日	阪神・淡路大震災
平成 7 年 9 月 1 日	本館改修工事に着手
平成 8 年 4 月 1 日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成 10 年 6 月 30 日	本館改修工事完了
平成 11 年 4 月 2 日	管理者変更受理（管理者 山本 節）
平成 12 年 3 月 1 日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成 12 年 4 月 24 日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成 13 年 10 月 10 日	駐車場立体化工事に着手
平成 14 年 2 月 28 日	立体駐車場完成
平成 14 年 4 月 1 日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第 0401006）
平成 14 年 4 月 1 日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成 14 年 10 月 15 日	第 3 次小児救急開設（稼働病床 260 床）
平成 15 年 4 月 2 日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成 15 年 10 月 30 日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1030005 号 -511,519,526,533）
平成 15 年 11 月 28 日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1128007 号 -330）
平成 16 年 3 月 22 日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成 16 年 4 月 1 日	アレルギー科追加
平成 18 年 4 月 1 日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成 18 年 4 月 1 日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成 19 年 10 月 1 日	小児救急医療センターを開設（稼働病床 266 床）
平成 20 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成 21 年 4 月 1 日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成 21 年 7 月 3 日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成 21 年 12 月 16 日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成 22 年 1 月 4 日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成 22 年 4 月 1 日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成 23 年 1 月 4 日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始

3. 業務図

(1) 機構一覧表 (2010.12.31 現在)



(2) 担当医師表 (2010.12.31 現在)

- (1) 小児科 宅見晃子、山口善道、山崎武美 (非常勤)
- (2) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、溝淵雅巳、坂井仁美、岸田祐介
- (3) 脳神経内科 永瀬裕朗
- (4) 循環器内科 城戸佐知子、田中克敏、富永健太、藤田秀樹、佐藤有美
- (5) 腎臓内科 田中亮二郎
- (6) 代謝・内分泌内科 郷司克己
- (7) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、川崎圭一郎、竹田洋樹
- (8) 救急科 上谷良行、長谷川大一郎、福原信一、尾崎佳代、丸山あずさ、中岸保夫、佐治洋介、神田杏子、奥野美佐子
- (9) アレルギー・リウマチ科 三好麻里、笠井和子
- (10) 小児外科 西島栄治、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、岡本光正
- (11) 心臓血管外科 大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美
- (12) 脳神経外科 長嶋達也、河村淳史、山元一樹
- (13) 形成外科 大山知樹、小野田素大
- (14) 整形外科 薩摩眞一、小林大介
- (15) 泌尿器科 杉多良文、中川賀清、高木志寿子、久松英治
- (16) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、阪本浩一 (兼務)
- (17) 眼科 山本節 (名誉院長)、野村耕治、中村礼恵
- (18) 精神科 前田宏章
- (19) 小児歯科 曾根由美子
- (20) 産科 船越徹、佐本崇 (周産期内科)、喜吉賢二、田中達也、高松祐幸、笹原淳、佐々木紘子、牧志綾、(丸尾猛)
- (21) 放射線科 赤坂好宣
- (22) 麻酔科 黒寄明子、香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子、野々村智子、波戸章郎
- (23) 病理診断科 吉田牧子
- (24) フェロー・専攻医 岩谷壮太、猪俣慶、藤田杏子、小川禎治、古賀千穂、河場康郎、米倉圭二、石田敏章、田中愛子、中川拓、安部信吾、田中裕也、亀井直哉、田中聡、浅野貴大、西山将広、川崎英史、水田麻雄、辻真之介、石原佳代 (小児科)
橘木由美子、清水裕史、田浦康明、田村亮、谷本光隆 (小児外科)
門脇輔、中井秀和 (心臓血管外科)
長嶋宏明 (脳神経外科)
鄭聡柄 (形成外科)
衣笠真紀、井上美帆 (整形外科)
岡田桂輔 (泌尿器科)
平井宏二 (眼科)
城道久 (産科)
西井達矢 (放射線科)
楠大弘、野村有紀、植村直哉、山本亜也、丸山佑子、川崎安希 (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (平成 22 年 12 月 1 日)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	総合診療	◎笠井	各担当医	◎上谷	各担当医	◎山口	各担当医	1・3・5週 ◎宅見 各担当医 2・4週 ◎山崎 各担当医		◎佐治	各担当医
	アレルギー			◎安部 (三好)					◎田中(裕) (三好)		
	リウマチ					◎中岸	中岸				
	予防接種	三好 安部 田中(裕)									
	脳神経	◎永瀬			丸山			◎永瀬 丸山 児玉			
	循環器	田中(敏)	城戸	◎田中(敏)	田中(敏)	◎城戸		◎城戸 田中(敏)	城戸	◎藤田(秀)	藤田(秀)
	腎臓	神田	3週 田中(亮)	◎田中 (亮)		◎田中 (亮)					◎田中 (亮)
	代謝内分泌		1・2・4週 郷司			◎郷司		◎郷司		◎尾崎	
	新生児				◎坂井 岩谷 溝渕		◎中尾(秀) 溝渕 岸田		◎中尾(秀) 芳本 中村		◎岩谷 猪俣 芳本
	血液	◎小阪	1・3週 川崎 2・4週 長谷川(大) 5週 竹田			◎小阪				◎小阪	小阪
外科	一般	◎中尾(真)	中尾(真)	◎荒井	荒井	◎尾藤	尾藤	◎西島	西島	◎横井	
	ヘルニア外来	◎担当医						◎担当医			
	特殊外来		ストマ		在宅療法						
	心臓		◎大嶋 松久				◎大嶋 松久 圓尾				◎大嶋 松久
	脳神経	◎山元					◎長嶋			◎河村 (淳)	河村(淳) 1・3週 二脊(長嶋) 2・4週 二脊(山元)
	形成			◎大山 小野田 言語療法				◎大山 小野田 西本 言語療法			
科	整形		◎薩摩 ◎小林	◎薩摩 ◎衣笠	小林 衣笠 (1週間隔外来)	◎薩摩 ◎小林					二分脊椎
	放射線科									副島	
眼科	◎野村 中村 平井			野村 中村 平井	◎野村 中村 平井		◎野村 中村 平井	野村 中村 平井			
泌尿器科	◎久松		◎杉多 中川 高木 久松	杉多 中川 高木 久松	◎高木			杉多 中川 高木 久松	◎中川 高木 久松	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	◎大津	1週・2週 補聴器	◎阪本	3週・4週 補聴器			◎大津		◎阪本		
		言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根	曾根			◎曾根	曾根	◎曾根	曾根	
精神科	◎長谷川 (弘)	◎前田			◎前田	前田			◎前田 ◎松川	前田	
ADHD外来			前田	前田							
卒煙外来							◎永瀬				
発達行動							◎永瀬				
産科	◎船越 ◎佐本	超音波 検査	◎高松 ◎田中(達)	超音波 外来	◎佐本 ◎城	超音波 検査	◎喜吉 ◎笹原	超音波 外来	◎船越 ◎牧志	超音波 検査	

◎印は新患受付曜日となります。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1-1-1

TEL 078-732-6961・FAX078-732-6980 (指導相談地域医療連携部予約センター)

(2) 看護單位別看護職員等配置狀況 (2010/4/1 現在)

看護單位	產科	NICU	GCU	ICU	HCU	救急	一般外科	循環器 主体A	循環器 主体B	內外科 混合A	內外科 混合B	血液主 体	中央手 術室	外来	看護部	休暇	合計
稼働病床数	32	15	35	8	20	10	24	24	24	24	24	26					266
看護師定数	40	40	32	34	32	40	25	27	27	25	25	27	32	9	4		419
看護師現員数	42	39	33	35	33	39	25	27	28	26	26	28	32	9	4	41	467
内 訳	助産師	22													1		24
	看護師 (女性)	20	38	33	34	31	24	26	26	25	25	28	29	9	3	41	424
	看護師 (男性)			1	2	7	1	1	2	1	1		3				19
	合計	42	39	33	35	33	25	27	28	26	26	28	32	9	4	41	467
保育士							1	1	1	1	1	1					5
看護補助業務 (派遣)														14			14
看護補助業務 (派遣)							1	1		1	1	1					5
看護補助業務 (委託)	0.5	1		0.5	1	1	1	1		1	1	1					8

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項につき届出を行っています。

入院基本料

一般病棟入院基本料（7 対 1）

入院基本料等加算

臨床研修病院入院診療加算（協力型）
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算
医師事務作業補助体制加算
急性期看護補助体制加算
地域加算（4 級地）
重傷者等療養環境特別加算
栄養管理実施加算
医療安全対策加算
褥瘡患者管理加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
新生児特定集中治療室退院調整加算

特定入院料

特定集中治療室管理料 1
新生児特定集中治療室管理料 1
 同上（小児加算）
総合周産期特定集中治療室管理料
小児入院医療管理料 1
 同上（保育士加算）

特掲診療料

高度難聴指導管理料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
医薬品安全情報等管理体制加算
検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅱ）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
心臓超音波検査胎児心エコー法
補聴器適合検査
小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算 1 2
単純CT撮影及びMRI撮影
心臓MRI撮影加算
外来化学療法加算 1 2
一酸化窒素吸入療法
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）（Ⅲ）
集団コミュニケーション療法料
頭蓋骨形成手術
上顎骨形成術、下顎骨形成術（いずれも骨移動を伴う場合に限る。）
ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術（電池交換を含む）
大動脈バルーンパイピング法
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。）に掲げる手術
麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）
放射線治療専任加算
クラウン・ブリッジ維持管理料
歯科矯正診断料

入院時食事療養費 I

6. 研修・教育認定施設内容

<p>厚生労働省認定病院等</p>	<p>◆ [厚生労働省認定] 厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定] 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本気管支学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設</p>
<p>姉妹提携病院</p>	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア）</p>

7. 委員会一覧（平成 22 年 1 月～平成 23 年 3 月）

委員会名	開催回数	活動内容と結果
幹部会	毎月第 2 月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
運営協議会・経営計画推進委員会	毎月第 4 月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
保険診療対策委員会	毎月第 4 金曜日	減点内容の検討、返戻に対する対応の検討
医療事故防止対策委員会	毎月第 2 月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
リスクマネジメント会	毎月第 2 火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④平成 22 年度の重点取り組み課題の決定と実施、評価
医療事故対策部会	事故発生時	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
院内感染対策委員会	毎月第 2 金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
ICT	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
衛生委員会	月 1 回	職員の健康障害の防止対策等について審議
薬事委員会	21：1 回 22：2 回	採用・中止薬品の検討、薬剤情報提供内容の追加 21：新規医薬品（2 品目）、中止医薬品（5 品目） 22：新規医薬品（33 品目）、中止医薬品（33 品目）
手術運営委員会	21：1 回 22：4 回	手術スケジュール調整、安全管理、感染管理、機種保守点検、更新など
放射線安全管理委員会	21：1 回 22：1 回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について
倫理委員会	22：3 回	詳細は別紙のとおり
治験審査委員会	21：1 回 22：6 回	詳細は別紙のとおり
輸血療法委員会	21：1 回 22：3 回	21 ①輸血用血液製剤の使用状況報告 ②救急病棟での製剤管理の開始 ③輸血後に肝炎検査が陽転化した症例の報告 ④遡及調査用患者検体の採取依頼 22 ①輸血用血液製剤使用状況報告 ②輸血前検査としての HB c 抗体の院内測定実施 ③輸血療法委員会主催勉強会の開催 ④交差適合試験における T&S 法の導入（試行） ⑤輸血同意書の改訂
検査委員会	22：2 回	①検査システムサーバー入れ替え ②時間外検査項目の拡大 ③保存検体の廃棄 ④検査結果の至急報告方法の検討
栄養給食委員会 NST 部会	21：2 回 22：6 回	21 ①NST 活動にタイする意見 22 ①NST 勉強会の役割分担 ②NST 加算 ③NST 担当者研修の受け入れ ④NST 活動

患者サービス向上委員会	21：2回 22：2回	21 ①検査データの患者への掲示状況調査 ②患者・医療者のパートナーシップ ③院内ラウンド実施 ④患者満足度と遊佐・ハートメッセージより検討 ⑤患者・家族用図書の設置について 22 ①患者満足度調査・ハートメッセージより改善検討 ②院内ラウンド実施
接遇部会	21：1回	①挨拶運動
防災対策委員会	21：1回 22：1回	防災対策の推進について審議
小児救急医療センター運営委員会	22：1回	救急センター開設以来の実績 現在の問題点と対応について 身病院における救急センターの体制について
広報委員会	21：2回 22：9回	①ニュースレター「がんきカエル」の発行（年4回） ②2009年報の発行 ③ホームページの容量増加と一部更新 ④診療のご案内2010の発行
IT化推進委員会	21：3回 22：3回	21 ①各部門のオーダーリングシステムの問題点の解明 ②給食オーダーリングの進捗状況 22 ①各部門のオーダーリングシステムについて ②新病院電子カルテの取り組みについて （毎月の診療支援システム室会議において討議を行い、特に問題がある場合に随時開催）
診療記録等管理委員会	22：3回	①カルテの編綴について ②不明カルテの取扱いについて ③カルテのアリバイ管理について ④診療支援システムの標準病名への切り替えについて
外来運営委員会	22：4回	①外来診察枠について ②外来患者案内板表示システムについて ③死亡診断書の取扱いの見直しについて ④外来患者の持ち込みCDの取扱いについて
病棟運営委員会	22：1回	①集中治療病床の利用状況 ②夏休みのベッドコントロールについて
クリニカルパス委員会	21：3回 22：11回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理について ②新規クリニカルパス3作成（合計55承認） ③診療支援システム仕様に規格改訂
褥瘡対策委員会	21：3回 22：3回	褥瘡発生報告
国際交流推進委員会	21:2回 22:7回	①シアトル小児病院研修派遣について ②シアトル小児病院との学術交流 ③国際交流のための講演会について
化学療法レジメン委員会	21：1回 22：2回	①新規化学療法レジメンの承認および周知 ②抗がん剤調整時における閉鎖式調整器具および専用ラインの導入について ③抗がん剤（免疫抑制剤として使用する場合）の調整について
省エネルギー推進委員会	22：3回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証

21：平成22年1月～3月

22：平成22年度

各種委員会（別紙）

名	称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議 題
倫理委員会	会	上谷 良行	5月6日 10:00～	応接室	7	1 再発小児固形腫瘍に対するトポテカンとイホスファמיד併用療法（TI療法）の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験及び臨床薬理試験＜小阪血液・腫瘍内科部長＞
						2 再発小児固形腫瘍に対する低侵襲性外来治療ビノレルビン＋シクロホスファミド対テモゾロミド＋エトポシド・ランダム化第Ⅱ相試験＜同上＞
倫理委員会	会	上谷 良行	10月4日 10:00～	応接室	8	1 頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象にしたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験＜田中腎臓内科部長＞
						2 ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療＜同上＞
倫理委員会	会	上谷 良行	12月10日 15:00～	応接室	7	1 未熟児網膜症（ROP）に対する Avastin（bevacizumab）の使用＜平井眼科医員＞
						2 2005年出生超低出生体重児6歳時予後の全国調査＜上谷総合診療科部長＞
治験審査委員会	会	中尾 秀人	3月17日	応接室	8	現在進行中の治験7課題の継続について審議とA9451162試験の終了報告をした
治験審査委員会	会	中尾 秀人	5月14日	応接室	9	MK-0991試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験6課題の継続についても審議した
治験審査委員会	会	中尾 秀人	6月25日	応接室	8	現在進行中の治験7課題の継続について審議した
治験審査委員会	会	中尾 秀人	8月26日	応接室	8	現在進行中の治験7課題の継続について審議とD2E7試験並びにA9451162試験の終了報告をした
治験審査委員会	会	中尾 秀人	10月29日	応接室	10	JR-401試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験5課題の継続についても審議した
治験審査委員会	会	中尾 秀人	12月24日	応接室	7	MC710試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験6課題の継続についても審議した。さらに治験薬製造・適応追加承認状況のHPでの公開についても審議した
治験審査委員会	会	中尾 秀人	2月24日	応接室	8	現在進行中の治験5課題の継続について審議した

II 診 療 統 計

(1) 月別患者統計

H22年

区 分			1月	2月	3月	合計	
外 来	a	診 療 日 数	日	19	19	22	60
	b	新 患 者 数	人	636	619	735	1,990
	c	一 日 平 均 新 患 者 数	人	33.5	32.6	33.4	33.2
	d	延 患 者 数	人	6,788	5,709	8,211	20,708
	e	一 日 平 均 延 患 者 数	人	357.3	300.5	373.2	345.1
	f	平 均 通 院 日 数	日	10.7	9.2	11.2	10.4
入 院	g	稼 働 日 数	日	31	28	31	90
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	
	l	入 院 患 者 数	人	446	419	508	1,373
	j	一 日 平 均 入 院 患 者 数	人	14.4	15.0	16.4	15.3
	k	退 院 患 者 数	人	399	405	478	1,282
	l	一 日 平 均 退 院 患 者 数	人	12.9	14.5	15.4	14.2
	m	延 入 院 患 者 数	人	7,151	6,788	7,917	21,856
	n	一 日 平 均 延 患 者 数	人	230.7	242.4	255.4	242.8
	o	病 床 利 用 率	%	86.7	91.1	96.0	91.3
	p	病 床 回 転 数	回	1.6	1.5	1.9	1.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	7	9	8	24
	s	NICU・GCU 入 院 患 者 数	人	77	78	83	238
	t	平 均 在 院 日 数	日	16.0	15.5	15.1	15.5
	u	外 来 入 院 比 率	%	94.9	84.1	103.7	94.7
v	入 院 率	%	70.1	67.7	69.1	69.0	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((l+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((l+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (l/b) × 100 ※ r 日帰り入院患者数は 20 年度 5 月分より						

(2) 月別科別外来患者数

H22年

		1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	23	33	39	95
	再来患者数	521	481	706	1,708
	延患者数	544	514	745	1,803
腎臓内科	新患者数	7	12	8	27
	再来患者数	215	186	273	674
	延患者数	222	198	281	701
脳神経内科	新患者数	11	8	14	33
	再来患者数	191	196	219	606
	延患者数	202	204	233	639
血液内科	新患者数	3	1	5	9
	再来患者数	235	184	280	699
	延患者数	238	185	285	708
代謝・内分泌内科	新患者数	8	15	14	37
	再来患者数	383	349	427	1,159
	延患者数	391	364	441	1,196
新生児内科	新患者数	55	52	55	162
	再来患者数	327	294	333	954
	延患者数	382	346	388	1,116
アレルギー内科	新患者数	10	6	17	33
	再来患者数	221	209	249	679
	延患者数	231	215	266	712
小児科	新患者数	26	30	29	85
	再来患者数	161	139	179	479
	延患者数	187	169	208	564
精神科	新患者数	7	9	11	27
	再来患者数	285	271	351	907
	延患者数	292	280	362	934
小児外科	新患者数	55	47	64	166
	再来患者数	421	402	491	1,314
	延患者数	476	449	555	1,480
心臓血管外科	新患者数	0	2	0	2
	再来患者数	81	90	95	266
	延患者数	81	92	95	268
脳神経外科	新患者数	27	13	24	64
	再来患者数	283	286	358	927
	延患者数	310	299	382	991
整形外科	新患者数	53	61	81	195
	再来患者数	381	335	517	1,233
	延患者数	434	396	598	1,428
形成外科	新患者数	39	35	42	116
	再来患者数	281	267	325	873
	延患者数	320	302	367	989
泌尿器科	新患者数	66	51	82	199
	再来患者数	388	365	533	1,286
	延患者数	454	416	615	1,485
眼科	新患者数	48	47	63	158
	再来患者数	743	713	901	2,357
	延患者数	791	760	964	2,515
産科	新患者数	80	65	59	204
	再来患者数	278	262	299	839
	延患者数	358	327	358	1,043
耳鼻咽喉科	新患者数	24	38	42	104
	再来患者数	327	345	373	1,045
	延患者数	351	383	415	1,149
放射線科	新患者数	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
麻酔科	新患者数	0	0	0	0
	再来患者数	80	75	95	250
	延患者数	80	75	95	250
救急科	新患者数	67	62	66	195
	再来患者数	85	62	65	212
	延患者数	152	124	131	407
菌科	新患者数	27	32	20	79
	再来患者数	265	195	266	726
	延患者数	292	227	286	805
合計	新患者数	636	619	735	1,990
	再来患者数	6,152	5,706	7,335	19,193
	延患者数	6,788	6,325	8,070	21,183

(3) 月別科別入院患者数

H22年

		1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	23	23	25	71
	退院患者数	21	25	29	75
	延患者数	755	709	820	2,284
腎臓内科	新規入院患者数	4	7	11	22
	退院患者数	7	6	9	22
	延患者数	55	57	170	282
脳神経内科	新規入院患者数	2	2	3	7
	退院患者数	4	6	11	21
	延患者数	129	148	206	483
血液内科	新規入院患者数	25	31	44	100
	退院患者数	26	35	41	102
	延患者数	651	560	639	1,850
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	3	3	5	11
	退院患者数	1	6	3	10
	延患者数	16	28	38	82
新生児内科	新規入院患者数	69	59	70	198
	退院患者数	51	49	65	165
	延患者数	2,183	1,998	2,135	6,316
アレルギー内科	新規入院患者数	4	3	4	11
	退院患者数	4	4	5	13
	延患者数	15	20	50	85
小児科	新規入院患者数	5	6	10	21
	退院患者数	23	17	21	61
	延患者数	140	156	198	494
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
小児外科	新規入院患者数	51	42	48	141
	退院患者数	51	55	43	149
	延患者数	764	743	783	2,290
心臓血管外科	新規入院患者数	5	6	11	22
	退院患者数	5	7	10	22
	延患者数	302	288	414	1,004
脳神経外科	新規入院患者数	20	13	32	65
	退院患者数	21	19	36	76
	延患者数	248	282	343	873
整形外科	新規入院患者数	21	21	28	70
	退院患者数	18	19	25	62
	延患者数	199	219	288	706
形成外科	新規入院患者数	25	16	21	62
	退院患者数	23	15	21	59
	延患者数	172	90	176	438
泌尿器科	新規入院患者数	22	25	25	72
	退院患者数	20	25	22	67
	延患者数	102	122	117	341
眼科	新規入院患者数	36	39	35	110
	退院患者数	32	37	38	107
	延患者数	152	176	157	485
産科	新規入院患者数	52	55	54	161
	退院患者数	54	48	57	159
	延患者数	851	839	990	2,680
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	5	5	11	21
	退院患者数	5	4	10	19
	延患者数	45	43	68	156
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
救急科	新規入院患者数	74	63	71	208
	退院患者数	33	28	32	93
	延患者数	372	310	325	1,007
菌科	新規入院患者数	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	446	419	508	1,373
	退院患者数	399	405	478	1,282
	延患者数	7,151	6,788	7,917	21,856

(4) 時間外患者状況

H22年

		1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	1	1	0	2
	入院	1	2	0	3
	計	2	3	0	5
腎臓内科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
脳神経内科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
血液内科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
代謝・内分泌内科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
新生児内科	外来	23	17	19	59
	入院	21	21	17	59
	計	44	38	36	118
アレルギー内科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
小児科	外来	0	1	0	1
	入院	0	1	1	2
	計	0	2	1	3
精神科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
小児外科	外来	2	4	4	10
	入院	0	2	0	2
	計	2	6	4	12
心臓血管外科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
脳神経外科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
整形外科	外来	0	0	1	1
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	1	1
形成外科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
泌尿器科	外来	1	0	1	2
	入院	0	0	0	0
	計	1	0	1	2
眼科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
産科	外来	4	6	4	14
	入院	10	12	3	25
	計	14	18	7	39
耳鼻咽喉科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
放射線科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
麻酔科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
救急科	外来	63	33	47	143
	入院	28	22	18	68
	計	91	55	65	211
菌科	外来	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
合計	外来	94	62	76	232
	入院	60	60	39	159
	計	154	122	115	391

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別

区 分				19年度	20年度	21年度	22年度
外 来	a	診 療 日 数	日	245	243	242	243
	b	新 患 者 数	人	7,833	7,671	8,101	7,923
	c	一 日 平 均 新 患 者 数	人	32.0	31.6	33.5	32.6
	d	延 患 者 数	人	85,922	87,351	84,186	86,269
	e	一 日 平 均 延 患 者 数	人	350.7	359.5	347.9	355.0
	f	平 均 通 院 日 数	日	11.0	11.4	10.4	10.9
入 院	g	稼 働 日 数	日	366	365	365	365
	h	稼 働 病 床 数	床	260	266	266	266
	l	入 院 患 者 数	人	5,081	5,175	5,483	5,261
	j	一 日 平 均 入 院 患 者 数	人	13.9	14.2	15.0	14.4
	k	退 院 患 者 数	人	5,064	5,154	5,470	5,294
	l	一 日 平 均 退 院 患 者 数	人	13.8	14.1	15.0	14.5
	m	延 入 院 患 者 数	人	86,111	85,048	86,991	88,487
	n	一 日 平 均 延 患 者 数	人	235.3	233.0	238.3	242.4
	o	病 床 利 用 率	%	89.5	87.6	89.6	91.1
	p	病 床 回 転 数	回	19.5	19.4	20.6	19.8
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人		92	92	108
	s	NICU・GCU 入 院 患 者 数	人	536	553	713	771
	t	平 均 在 院 日 数	日	16.0	15.5	14.9	15.8
	u	外 来 入 院 比 率	%	99.8	102.7	96.8	97.5
v	入 院 率	%	64.9	67.5	67.7	66.4	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 ※ r 日帰り入院患者数は20年度5月分より						

(2) 月別

H22 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診 療 日 数	日	21	18	22	21	22	20	20	20	19	19	19	19	240
	b	新 患 者 数	人	692	614	780	708	785	626	630	643	595	601	570	679	7,923
	c	一 日 平 均 新 患 者 数	人	33.0	34.1	35.5	33.7	35.7	31.3	31.5	32.2	31.3	31.6	30.0	35.7	33.0
	d	延 患 者 数	人	7,208	6,101	7,175	7,499	8,681	7,292	6,914	6,928	7,002	6,829	6,429	8,211	86,269
	e	一 日 平 均 延 患 者 数	人	343.2	338.9	326.1	357.1	394.6	364.6	345.7	346.4	368.5	359.4	338.4	432.2	359.5
	f	平 均 通 院 日 数	日	10.4	9.9	9.2	10.6	11.1	11.6	11.0	10.8	11.8	11.4	11.3	12.1	10.9
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	3,192
	I	入 院 患 者 数	人	439	442	443	444	516	452	421	414	403	438	411	458	5,281
	j	一 日 平 均 入 院 患 者 数	人	14.6	14.3	14.8	14.3	16.6	15.1	13.6	13.8	13.0	14.1	14.7	14.8	14.5
	k	退 院 患 者 数	人	474	422	424	467	513	438	436	403	461	385	412	459	5,294
	l	一 日 平 均 退 院 患 者 数	人	15.8	13.6	14.1	15.1	16.5	14.6	14.1	13.4	14.9	12.4	14.7	14.8	14.5
	m	延 入 院 患 者 数	人	7,471	7,439	7,348	7,830	7,620	7,113	7,728	7,203	7,358	6,967	6,815	7,541	88,433
	n	一 日 平 均 延 患 者 数	人	249.0	240.0	244.9	252.6	245.8	237.1	249.3	240.1	237.4	224.7	243.4	243.3	242.3
	o	病 床 利 用 率	%	93.6	90.9	92.1	95.0	92.4	89.1	93.7	90.3	89.2	84.5	91.5	91.5	91.1
	p	病 床 回 転 数	回	1.7	1.6	1.6	1.7	1.9	1.7	1.6	1.5	1.6	1.5	1.5	1.7	1.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	9	9	5	6	10	8	10	10	11	15	9	6	108
	s	NICU・GCU 入院患者数	人	93	66	82	91	84	85	98	85	72	101	85	72	1,014
	t	平 均 在 院 日 数	日	15.3	16.8	16.0	16.2	13.8	15.0	17.0	16.6	16.0	16.0	15.6	15.4	16.2
	u	外 来 入 院 比 率	%	96.5	82.0	97.6	95.8	113.9	102.5	89.5	96.2	95.2	98.0	94.3	108.9	97.6
v	入 院 率	%	63.4	72.0	56.8	62.7	65.7	72.2	66.8	64.4	67.7	72.9	72.1	67.5	66.7	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 ※ r 日帰り入院患者数は 20 年度 5 月分より															

2. 月別科別外来患者数

H22 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	29	29	46	39	47	44	46	34	39	32	28	40	453
	再来患者数	621	465	571	519	735	643	563	553	547	525	465	732	6,939
	延患者数	650	494	617	558	782	687	609	587	586	557	493	772	7,392
腎臓内科	新患者数	8	6	20	38	42	9	5	10	11	3	5	5	162
	再来患者数	203	168	203	246	289	240	220	205	239	232	207	262	2,714
	延患者数	211	174	223	284	331	249	225	215	250	235	212	267	2,876
脳神経内科	新患者数	12	7	14	9	12	6	12	10	6	13	13	8	122
	再来患者数	226	183	229	221	258	219	192	236	237	209	233	288	2,731
	延患者数	238	190	243	230	270	225	204	246	243	222	246	296	2,853
血液内科	新患者数	4	7	10	8	0	4	5	4	5	7	10	9	73
	再来患者数	225	180	207	286	353	228	231	227	253	218	226	265	2,899
	延患者数	229	187	217	294	353	232	236	231	258	225	236	274	2,972
代謝・内分泌内科	新患者数	12	12	22	17	15	11	10	8	11	5	13	12	148
	再来患者数	404	325	386	418	414	456	382	371	374	373	371	482	4,756
	延患者数	416	337	408	435	429	467	392	379	385	378	384	494	4,904
新生児内科	新患者数	61	57	64	58	55	55	64	59	43	65	51	48	680
	再来患者数	258	288	282	277	254	282	295	280	312	300	276	362	3,466
	延患者数	319	345	346	335	309	337	359	339	355	365	327	410	4,146
アレルギー内科	新患者数	14	13	14	12	14	13	11	8	12	11	11	9	142
	再来患者数	201	193	222	223	251	237	198	220	216	213	196	259	2,629
	延患者数	215	206	236	235	265	250	209	228	228	224	207	268	2,771
小児科	新患者数	35	23	35	25	30	26	24	36	26	26	23	36	345
	再来患者数	152	134	173	165	184	144	169	160	155	145	146	197	1,924
	延患者数	187	157	208	190	214	170	193	196	181	171	169	233	2,269
精神科	新患者数	10	12	9	7	12	12	8	8	9	7	6	8	108
	再来患者数	288	280	317	297	351	294	319	348	303	291	285	260	3,633
	延患者数	298	292	326	304	363	306	327	356	312	298	291	268	3,741
小児外科	新患者数	53	74	80	84	77	61	64	53	56	51	59	58	770
	再来患者数	465	374	366	471	530	416	430	407	427	441	361	504	5,192
	延患者数	518	448	446	555	607	477	494	460	483	492	420	562	5,962
心臓血管外科	新患者数	0	1	1	0	0	0	1	1	2	1	0	2	9
	再来患者数	139	97	111	126	112	137	107	107	122	115	86	132	1,391
	延患者数	139	98	112	126	112	137	108	108	124	116	86	134	1,400
脳神経外科	新患者数	29	19	26	13	25	23	17	24	14	18	20	19	247
	再来患者数	339	230	268	323	392	342	260	257	306	291	268	328	3,604
	延患者数	368	249	294	336	417	365	277	281	320	309	288	347	3,851

整 形 外 科	新患者数	77	45	79	65	79	55	45	47	63	58	50	70	733
	再来患者数	380	291	381	424	568	430	377	387	408	380	342	489	4,857
	延患者数	457	336	460	489	647	485	422	434	471	438	392	559	5,590
形 成 外 科	新患者数	32	27	48	39	37	32	37	37	32	40	37	45	443
	再来患者数	306	257	284	328	394	276	279	314	279	302	256	381	3,656
	延患者数	338	284	332	367	431	308	316	351	311	342	293	426	4,099
泌 尿 器 科	新患者数	71	57	64	58	87	75	67	73	64	63	53	62	794
	再来患者数	451	342	412	423	630	493	420	423	435	387	382	460	5,258
	延患者数	522	399	476	481	717	568	487	496	499	450	435	522	6,052
眼 科	新患者数	49	52	58	65	75	50	53	60	51	50	54	62	679
	再来患者数	763	712	882	847	1,001	840	780	775	764	762	816	921	9,863
	延患者数	812	764	940	912	1,076	890	833	835	815	812	870	983	10,542
産 科	新患者数	61	48	59	48	55	45	45	48	48	52	48	48	605
	再来患者数	290	292	352	319	259	251	258	242	229	276	236	265	3,269
	延患者数	351	340	411	367	314	296	303	290	277	328	284	313	3,874
耳 鼻 咽 喉 科	新患者数	46	41	46	49	51	38	35	39	30	28	31	42	476
	再来患者数	400	339	384	451	483	394	417	407	391	408	365	477	4,916
	延患者数	446	380	430	500	534	432	452	446	421	436	396	519	5,392
放 射 線 科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 醉 科	新患者数	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	4
	再来患者数	87	73	83	97	89	87	87	83	80	86	85	95	1,032
	延患者数	87	73	84	97	90	87	87	83	80	86	85	97	1,036
救 急 科	新患者数	60	62	58	52	42	50	50	56	51	52	41	59	633
	再来患者数	64	75	63	69	71	77	76	64	100	81	80	111	931
	延患者数	124	137	121	121	113	127	126	120	151	133	121	170	1,564
歯 科	新患者数	29	22	26	22	29	17	31	28	22	19	17	35	297
	再来患者数	254	189	219	261	278	180	224	219	230	193	177	262	2,686
	延患者数	283	211	245	283	307	197	255	247	252	212	194	297	2,983
合 計	新患者数	692	614	780	708	785	626	630	643	595	601	570	679	7,923
	再来患者数	6,516	5,487	6,395	6,791	7,896	6,666	6,284	6,285	6,407	6,228	5,859	7,532	78,346
	延患者数	7,208	6,101	7,175	7,499	8,681	7,292	6,914	6,928	7,002	6,829	6,429	8,211	86,269

3. 月別科別入院患者数

H22 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	25	22	32	25	35	24	19	23	18	19	25	29	296
	退院患者数	34	23	30	30	36	21	25	25	22	16	30	29	321
	延患者数	876	805	866	921	761	686	794	858	708	699	660	803	9,437
腎臓内科	新規入院患者数	7	5	4	9	5	6	6	4	6	4	6	5	67
	退院患者数	14	4	8	7	9	7	9	6	12	7	8	4	95
	延患者数	157	84	108	140	101	70	141	154	153	95	34	44	1,281
脳神経内科	新規入院患者数	0	4	2	3	3	3	2	0	1	2	5	2	27
	退院患者数	7	8	13	7	5	3	5	4	8	4	12	3	79
	延患者数	109	175	148	86	92	116	239	172	142	122	176	130	1,707
血液内科	新規入院患者数	33	35	37	46	42	41	49	37	33	40	30	39	462
	退院患者数	35	42	37	50	44	40	50	39	43	40	29	50	499
	延患者数	687	789	707	840	821	843	887	783	721	780	755	803	9,416
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	8	7	10	6	7	9	6	2	5	3	4	5	72
	退院患者数	9	8	9	9	8	9	7	1	6	4	4	7	81
	延患者数	47	50	80	64	28	38	20	16	63	35	38	80	559
新生児内科	新規入院患者数	63	55	61	57	60	59	59	66	46	67	52	50	695
	退院患者数	65	50	48	62	61	53	56	64	44	59	54	43	659
	延患者数	2,101	2,009	2,001	2,239	1,999	1,802	2,050	1,933	1,991	1,912	1,810	1,854	23,701
アレルギー内科	新規入院患者数	4	2	3	1	7	2	4	0	1	3	4	1	32
	退院患者数	6	2	3	2	7	3	4	0	1	1	6	2	37
	延患者数	18	3	9	14	83	7	18	0	2	21	15	4	194
小児科	新規入院患者数	3	1	2	3	1	1	1	2	0	1	1	1	17
	退院患者数	10	16	21	14	14	13	10	11	7	11	14	7	148
	延患者数	83	183	215	153	87	96	69	90	51	61	87	57	1,232
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児外科	新規入院患者数	44	34	46	45	66	61	40	45	45	44	44	60	574
	退院患者数	57	41	49	62	62	69	51	44	57	41	45	61	639
	延患者数	817	749	775	721	666	793	740	635	664	674	709	834	8,777
心臓血管外科	新規入院患者数	8	11	6	18	16	12	15	15	14	14	8	11	148
	退院患者数	12	15	12	12	23	16	13	17	20	12	12	12	176
	延患者数	322	316	256	298	415	364	403	309	394	320	304	353	4,054
脳神経外科	新規入院患者数	21	12	14	20	19	11	6	11	13	16	13	9	165
	退院患者数	31	18	16	32	20	14	11	11	22	14	12	19	220
	延患者数	362	351	332	400	294	261	212	282	283	242	319	386	3,724

整 形 外 科	新規入院患者数	13	21	21	19	30	17	24	20	14	18	18	26	241
	退院患者数	22	18	16	19	36	16	27	19	20	14	16	29	252
	延患者数	197	178	202	353	367	250	292	211	270	231	306	368	3,225
形 成 外 科	新規入院患者数	24	25	25	23	26	27	21	21	20	27	24	26	289
	退院患者数	24	29	21	26	24	23	28	20	27	27	22	26	297
	延患者数	173	168	175	183	182	207	204	151	180	157	161	231	2,172
泌 尿 器 科	新規入院患者数	20	24	17	21	24	24	24	23	30	17	23	26	273
	退院患者数	23	21	18	21	24	27	24	25	32	14	24	26	279
	延患者数	103	136	106	139	136	124	135	135	149	76	125	137	1,501
眼 科	新規入院患者数	40	38	33	39	46	37	32	38	35	38	37	45	458
	退院患者数	39	37	35	38	45	34	36	36	40	33	36	44	453
	延患者数	186	170	159	165	221	150	159	168	186	164	178	198	2,104
産 科	新規入院患者数	54	49	49	47	64	52	41	44	51	48	49	49	597
	退院患者数	49	51	54	51	55	51	42	43	50	50	52	46	594
	延患者数	876	968	852	744	987	962	970	972	1,030	1,012	812	893	11,078
耳 鼻 咽 喉 科	新規入院患者数	9	10	11	8	12	6	8	8	7	8	8	11	106
	退院患者数	11	9	10	8	11	7	9	7	10	5	9	12	108
	延患者数	66	49	56	75	90	49	87	36	79	54	67	85	793
放 射 線 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	新規入院患者数	63	67	70	54	53	60	64	55	64	69	60	63	742
	退院患者数	26	30	24	17	29	32	29	31	40	33	27	39	357
	延患者数	291	310	301	295	290	295	308	298	292	312	259	281	3,532
歯 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	新規入院患者数	439	422	443	444	516	452	421	414	403	438	411	458	5,261
	退院患者数	474	422	424	467	513	438	436	403	461	385	412	459	5,294
	延患者数	7,471	7,493	7,348	7,830	7,620	7,113	7,728	7,203	7,358	6,967	6,815	7,541	88,487

4. 年度別科別外来患者数

		19年度	20年度	21年度	22年度
循環器内科	新患者数		457	464	453
	再来患者数	7,707	7,150	6,817	6,939
	延患者数	7,707	7,607	7,281	7,392
腎臓内科	新患者数		149	174	162
	再来患者数	2,472	2,414	2,543	2,714
	延患者数	2,472	2,563	2,717	2,876
脳神経内科	新患者数		104	125	122
	再来患者数	2,403	2,281	2,360	2,731
	延患者数	2,403	2,385	2,485	2,853
血液内科	新患者数		74	61	73
	再来患者数	3,095	3,216	2,995	2,899
	延患者数	3,095	3,290	3,056	2,972
代謝・内分泌内科	新患者数		161	137	148
	再来患者数	4,862	4,714	4,546	4,756
	延患者数	4,862	4,875	4,683	4,904
新生児内科	新患者数		359	662	680
	再来患者数	4,253	3,841	3,486	3,466
	延患者数	4,253	4,200	4,148	4,146
アレルギー内科	新患者数		152	127	142
	再来患者数	2,585	2,502	2,562	2,629
	延患者数	2,585	2,654	2,689	2,771
小児科	新患者数		336	348	345
	再来患者数	4,339	1,798	1,918	1,924
	延患者数	4,339	2,134	2,266	2,269
精神科	新患者数	150	133	125	108
	再来患者数	3,376	3,339	3,297	3,633
	延患者数	3,526	3,472	3,422	3,741
小児外科	新患者数	771	736	685	770
	再来患者数	5,447	5,520	5,167	5,192
	延患者数	6,218	6,256	5,852	5,962
心臓血管外科	新患者数	6	5	11	9
	再来患者数	1,556	1,510	1,305	1,391
	延患者数	1,562	1,515	1,316	1,400
脳神経外科	新患者数	199	212	243	247
	再来患者数	3,044	3,469	3,547	3,604
	延患者数	3,243	3,681	3,790	3,851

整 形 外 科	新患者数	800	689	714	733
	再来患者数	4,602	4,683	4,631	4,857
	延患者数	5,402	5,372	5,345	5,590
形 成 外 科	新患者数	525	502	449	443
	再来患者数	3,824	4,133	3,629	3,656
	延患者数	4,349	4,635	4,078	4,099
泌 尿 器 科	新患者数	797	812	782	794
	再来患者数	5,068	5,271	5,181	5,258
	延患者数	5,865	6,083	5,963	6,052
眼 科	新患者数	618	602	560	679
	再来患者数	10,051	9,747	9,205	9,863
	延患者数	10,669	10,349	9,765	10,542
産 科	新患者数	728	660	753	605
	再来患者数	3,760	3,510	3,467	3,269
	延患者数	4,488	4,170	4,220	3,874
耳 鼻 咽 喉 科	新患者数	413	403	393	476
	再来患者数	4,325	4,613	4,389	4,916
	延患者数	4,738	5,016	4,782	5,392
放 射 線 科	新患者数	0	0	0	0
	再来患者数	5	3	1	0
	延患者数	5	3	1	0
麻 醉 科	新患者数	4	0	0	4
	再来患者数	1,016	958	989	1,032
	延患者数	1,020	958	989	1,036
救 急 科	新患者数		698	929	633
	再来患者数	小児科に含む	1,734	1,094	931
	延患者数		2,432	2,023	1,564
歯 科	新患者数	311	427	359	297
	再来患者数	2,810	3,274	2,956	2,686
	延患者数	3,121	3,701	3,315	2,983
合 計	新患者数	7,833	7,671	8,101	7,923
	再来患者数	80,600	79,680	76,085	78,346
	延患者数	88,433	87,351	84,186	86,269

5. 年度別科別入院患者数

		19年度	20年度	21年度	22年度
循環器内科	新規入院患者数	332	310	280	296
	退院患者数	346	309	297	321
	延患者数	8,605	6,700	7,329	9,437
腎臓内科	新規入院患者数	94	67	90	67
	退院患者数	100	79	105	95
	延患者数	1,071	1,321	1,414	1,281
脳神経内科	新規入院患者数	34	25	34	27
	退院患者数	78	74	94	79
	延患者数	1,880	1,638	1,548	1,707
血液内科	新規入院患者数	437	475	509	462
	退院患者数	462	508	563	499
	延患者数	8,931	8,999	9,192	9,416
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	53	62	44	72
	退院患者数	60	63	47	81
	延患者数	526	646	439	559
新生児内科	新規入院患者数	787	786	786	695
	退院患者数	742	756	735	659
	延患者数	22,556	23,033	23,875	23,701
アレルギー内科	新規入院患者数	56	50	47	32
	退院患者数	67	65	59	37
	延患者数	775	500	485	194
小児科	新規入院患者数	708	24	61	17
	退院患者数	489	164	256	148
	延患者数	5,160	1,890	1,715	1,232
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
小児外科	新規入院患者数	577	522	565	574
	退院患者数	627	592	642	639
	延患者数	7,639	7,648	9,035	8,777
心臓血管外科	新規入院患者数	122	135	109	148
	退院患者数	148	160	125	176
	延患者数	5,823	5,675	4,064	4,054
脳神経外科	新規入院患者数	137	161	191	165
	退院患者数	182	225	248	220
	延患者数	2,900	3,473	3,383	3,724

整形外科	新規入院患者数	186	202	249	241
	退院患者数	192	208	248	252
	延患者数	3,217	3,377	3,122	3,225
形成外科	新規入院患者数	237	237	249	289
	退院患者数	240	252	264	297
	延患者数	1,928	1,817	2,137	2,172
泌尿器科	新規入院患者数	251	279	269	273
	退院患者数	252	286	274	279
	延患者数	1,378	1,497	1,499	1,501
眼科	新規入院患者数	418	388	438	458
	退院患者数	415	391	438	453
	延患者数	1,800	1,661	1,968	2,104
産科	新規入院患者数	592	619	635	597
	退院患者数	604	606	638	594
	延患者数	11,417	10,944	11,233	11,078
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	59	92	88	106
	退院患者数	59	88	91	108
	延患者数	503	728	700	793
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0
救急科	新規入院患者数		741	839	742
	退院患者数	小児科に含む	328	346	357
	延患者数		3,500	3,853	3,532
歯科	新規入院患者数	1	0	0	0
	退院患者数	1	0	0	0
	延患者数	2	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,081	5,175	5,483	5,261
	退院患者数	5,064	5,154	5,470	5,294
	延患者数	86,111	85,047	86,991	88,487

6. 年齢別患者状況

H22 年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0 歳～1 歳未満	3,415	11.1%	1,187	26.3%
1 歳以上～3 歳未満	4,816	15.7%	686	15.2%
3 歳～6 歳未満	6,053	19.7%	657	14.6%
6 歳～13 歳未満	10,973	35.7%	1,009	22.4%
13 歳以上～16 歳未満	2,514	8.2%	209	4.6%
16 歳以上	2,939	9.6%	761	16.9%
合 計	30,710	100.0%	4,509	100.0%

7. 死亡病名一覧

病 名	新患計	未熟児	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	その他
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
18 トリソミー、呼吸不全	1	1									
早産児、敗血症ショック	1	1									
先天性水頭症、致死性不整脈	1	1									
致死性不整脈、敗血症ショック	1		1								
ファロー四徴症、心原性ショック	1	1									
低出生体重児、致死性不整脈	5	5									
肺低形成、先天性横隔膜ヘルニア	1	1									
急性肺炎	1		1								
双胎児、肺低形成	1	1									
早産児、肝不全	1		1								
重症新生児仮死、肺高血症	1		1								
慢性心不全、VSD	1				1						
致死性不整脈、急性心不全	1	1									
致死性不整脈、うっ血性心不全	1	1									
完全大血管転位症	1		1								
心室細動、三尖弁閉鎖	1					1					
総肺静脈還流異常症	1		1								
憎帽弁閉鎖症	1							1			
VSD, 先天性気管狭窄症	1		1								
脳内出血、肺動脈閉鎖	1										1
間質性肺炎、VSD	2					2					
急性循環不全	1		1								
パーキットリンパ腫	1						1				
急性骨髄性白血病	2										2

先天性胆道閉鎖症	2					2						
悪性神経膠腫	2							1	1			
重症肺炎、18トリソミー	1					1						
播種性血管内凝固症候群	1		1									
来院時心肺停止	6			1	1	2	2					
血球貧食症、先天性心疾患	1						1					
インフルエンザ脳症	1								1			
多臓器不全	1					1						
急性呼吸不全	2					1			1			
細菌性肺炎	1											1
肺水腫、腎不全	1				1							
脳動静脈奇形、脳内出血	1										1	
溺水、多臓器不全	2						1	1				
低酸素脳症	1								1			
汎発性腹膜炎、敗血症ショック	1		1									
悪性脳腫瘍	1			1								
間質性肺炎、急性リンパ性白血病	1									1		
肺出血、肝不全	1											1
小脳髄芽腫	1						1					
	0											
	0											
合計	58	13	10	2	3	10	6	3	5	1	5	

1. 総合診療科

総合診療科は専門各科における診療になじまない紹介患者への対応、院内各科からの相談、セカンドオピニオンの相談に応じることなどを行っている。発達障害や感染症を中心として、各診療科にまたがる疾患に罹患していたり、よくある病気に加えて様々な問題を抱えた症例が数多く紹介されてくる。

担当スタッフは2名になっている。また、研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートすることも重要な役割である。

入院患者は小児救急医療センターからの転科症例を主に担当している。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

新しい病院に向けて、総合診療科は救急部門と連携して、救急総合診療という考え方で病院全体として全診療科がそれに参画するようなイメージで進めていければと考えている。

今後は総合診療科として独自のアイデンティティーを確立し、各診療科と共有しながら診療に当たれるようになることを目指したいと考えている。

外来担当スタッフ：上谷良行、宅見晃子、山崎武美（阪神北広域こども急病センター）、笠井和子、山口義道、中岸保夫、佐治洋介

小児救急医療センター開設後は救急センター退院患者のフォローを午後の総合診療科外来で実施し、主として専攻医が担当している。

2. 救急集中治療科

1. 診療活動

平成 14 年 10 月に県下における小児 3 次救急の拠点として救急医療室が設置されて以来当院では小児救急医療特に三次救急医療に特化して取り組んでいる。

平成 19 年 10 月 1 日より開設した小児救急医療センターも 3 年が経過し、重症患者の増加や院内の術後患者の受け入れの増加などに対応すべく、少しずつ運営体制も見直していく時期である。

本年は昨年と違って新型インフルエンザの爆発的な流行もなく、比較的コンスタントな診療が継続された印象である。

大きなトピックとしては、臓器移植法の改正に伴い、小児でも脳死下臓器提供が実施できることになり、臓器提供施設として全国のこども病院を中心とした小児総合医療施設協議会の会員施設が加わったこともあり、当院でも臓器提供を望まれる方にはその思いを無駄にせぬように対応することが決定された。それを受けて兵庫県臓器移植ネットワークと協力して院内体制の整備に取り掛かり、救急センターを中心としてその業務に携わっている。

本年は救急医の取扱患者数が年間 2122 人で、インフルエンザの大きな流行がなかったためか昨年より 400 人程度減少している。最重症に分類したいわゆる救命救急に相当する患者数は 232 件で昨年の 226 件よりやや増加している。入院総数が減少しているにもかかわらず最重症症例がやや増加していることは当院が診るべき症例はきちんと運ばれていることを意味しており、本来の機能を果たしていると考えられる。最近では豊岡病院におけるドクターヘリの運航などヘリコプター搬送も増加しており、当院への搬送例も増加傾向である。常に使用できるヘリポートが病院近辺にないことは今後大きなマイナスとなるため、その対策も重要である。

小児救急医療センターが小児三次救急医療を着実に実施できるためには、これまで以上に院内各科、各部署の協力と連携が必要である。今後とも一段階飛躍した救急医療を提供できるように努力したい。

2. スタッフ

救急集中治療科：上谷良行、長谷川大一郎、尾崎佳代、丸山あずさ、福原信一、山口善道、
中岸保夫、佐治洋介、神田杏子、奥野美佐子

兼 任：三好麻里（部長・免疫アレルギー科）、田中亮二郎（腎臓内科）、永瀬裕朗（脳神経内科）
川崎圭一郎（血液腫瘍科）、竹田洋樹（血液腫瘍科）、笠井和子（免疫アレルギー科）

専 攻 医：亀井直哉（平成 22 年 1 月～ 3 月）
辻真之介（平成 22 年 4 月～ 7 月）
川崎英史（平成 22 年 8 月～ 11 月）
水田麻雄（平成 22 年 12 月～）

初期研修医：

森下 英明	県立尼崎病院	7月～9月	救急集中治療科・血液腫瘍科
舞鶴賀奈子	県立塚口病院	4月～6月	救急集中治療科・脳神経内科
魚住加奈子	県立塚口病院	9月	救急集中治療科・脳神経内科
吉岡悠太郎	姫路循環器病センター	6月～8月	救急集中治療科
尾張 慶子	県立がんセンター	12月～	救急集中治療科
倉橋 幸也	県立西宮病院	10月～12月	救急集中治療科
松橋 美波	神戸赤十字病院	10月	救急集中治療科
黒瀬 潤	神戸赤十字病院	11月	救急集中治療科
水沼 謙一	神戸赤十字病院	12月	救急集中治療科
塩津 聡一	神戸赤十字病院	9月	救急集中治療科
今田 宙志	神戸赤十字病院	7月	救急集中治療科
大久保悠祐	神戸赤十字病院	10月	救急集中治療科
斎藤 光	神戸赤十字病院	11月	救急集中治療科
西村 健	神戸赤十字病院	9月	救急集中治療科
大鶴 徹	神戸赤十字病院	6月	救急集中治療科
田原奈津子	神戸赤十字病院	8月	救急集中治療科

小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。

兵庫県立こども病院 小児救急医療センター 統計 2010年1月～12月

【1】 救急医療センター 来院患者 全体統計

2010年	外来のみ				本館入院				救急センター入院				小計		合計					
	時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外		時間内			時間外				
	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診		初診	再診			
救急集中治療科 Dr 外来診察	95	354	126	556	16	42	12	50	91	165	232	267	41	75	202	602	370	948	2122	
小計	449	682	58	62	256	499	116	804	1318											
外科系	小児外科	0	29	0	14	0	7	0	15	0	0	0	0	0	0	36	0	29	65	
	脳外科	0	11	0	6	1	1	0	0	1	12	0	0	6	1	12	0	6	19	
	泌尿器科	5	10	2	8	0	4	1	3	5	14	3	11	33	5	14	3	11	33	
	形成外科	1	21	0	10	0	1	0	1	1	22	0	11	34	1	22	0	11	34	
	その他	1	5	1	6	1	1	1	0	0	2	6	1	6	2	6	1	6	15	
	心外・循環器科	0	24	0	14	2	15	3	4	2	39	3	18	62	2	39	3	18	62	
新生児科	0	101	0	161	0	52	0	58	6	25	0	219	372	6	25	2	8	41		
他の内科系	0	19	0	7	6	6	2	1	17	307	9	308	317	17	307	9	308	641		
小計	7	220	3	226	10	87	6	82	324	317										
中計	227	229	97	88																
合計	102	574	129	782	26	129	18	132	91	165	232	267	41	75	1128	1635	2763			
	1892										871									

【2】救急センター外来・入院患者の内訳 2010年1月～12月

1) 総内訳

外来患者	1251 (本館入院 120 帰宅 1131)
------	--------------------------

入院患者	死亡	23	PICU	269
	最重症	209		
	重症	606	Q病棟	569
	計	838	計	838

2) 来院患者重症度別

① 重症度

来院患者		初診	再診	計	%
	死亡	13	10	23	1.1
	最重症	101	108	209	10.0
	重症	215	391	606	29.0
	外来	257	994	1251	59.9
	計	586	1503	2089	100

② 事故・疾病別 重症度

来院患者		事故	%	疾病	%	計
	死亡	4	17.4	19	82.6	23
	最重症	45	21.5	164	78.5	209
	重症	103	17.0	503	83.0	606
	外来	191	15.3	1060	84.7	1251
	計	343	16.4	1746	83.6	2089

③ 来院方法別

		小計	計	%	
自家用車・タクシー・徒歩		2067	2067	75.8	
救急車	公共	560	568	20.8	
	Dr car	当院			1
	災害医療	6			
	中央市民	1			
	その他	0			
ヘリ		11	11	0.4	
転棟		82	82	3.0	
計		2728		100	

ヘリでの搬送例

県立柏原病院	13歳	痙攣・意識障害
県立加古川病院	5歳	多発交通外傷
京都府立与謝の海病院	4歳	呼吸不全
災害医療センター	10歳	多発交通外傷
県立加古川病院	9歳	多発交通外傷
災害医療センター	8歳	転落外傷
県立加古川病院	4歳	多発交通外傷
香川小児病院	4歳	プルンベリー症候群
災害医療センター	14歳	多発交通外傷
鳥取大学	4歳	ステロイド抵抗性ネフローゼ
宍粟総合病院	5歳	溺水

④ 主な症例

1	人工換気療法	87
2	緊急手術	70
	消化器系	26
	脳神経系	33
3	交通外傷	26
4	脳低温・平温療法	12
5	血液浄化	6
6	到着時心肺停止	11

⑤ 外科系緊急協力科(含重複)

小児外科	176	泌尿器科	27
脳外科	174	放射線科	24
麻酔科	16	耳鼻科	14
形成外科	58	眼科	12
整形外科	32	精神科・指導相談	6
心外循環器	42	歯科	0

⑥ 救急センター入院 最重症患者住所

	2010年		2009年		2008年		2007年		2006年	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
神戸	80	34.5	91	40.3	49	28.0	74	40.4	46	31
阪神	34	14.7	41	18.1	45	25.7	36	19.7	40	25.8
東播	56	24.1	48	21.2	36	20.6	41	22.4	34	21.9
西播	25	10.8	10	4.4	15	8.6	17	9.3	5	3.2
丹波	5	2.2	0	0.0	7	4.0	1	0.5	4	2.6
但馬	4	1.7	8	3.5	6	3.4	3	1.6	3	1.9
淡路	3	1.3	11	4.9	1	0.6	3	1.6	3	1.9
県外	25	10.8	17	7.5	16	9.1	8	4.4	14	8.5
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	3.2
計	232	100.0	226	100.0	175	100.0	183	100.0	154	100

3. 代謝内分泌科

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。また、当科では新生児マススクリーニング対象疾患である先天代謝異常、クレチン症および先天性副腎過形成も担当している。本年度の新規外来患者数は220名であった。

近年、分子生物学の分野における技術的な進歩はめざましく、各種疾患における病態も分子レベルで解明されるようになった。その結果、当院の様な小児専門病院の臨床の現場においても遺伝子工学的手法に基づく診断、治療技術が必須となってきた。当科では、遺伝子工学的手法を駆使して診療にあたることこそが社会的要請に合致することと考え分子生物学の技術の確立に努めている。本年度は、偽性副甲状腺機能低下症1a型と進行性骨異形成の家系における解析において臨床と直結する成果が得られた。今後も、神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法をもちいた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	76
甲状腺疾患	19
性腺疾患	37
副腎	2
糖代謝異常	10
肥満	10
マススクリーニング クレチン症	26
先天代謝異常症	7
先天性副腎過形成	0
その他	33
計	220

入院患者

	患者数
低身長症	15
糖代謝異常	17
性腺疾患	5
甲状腺疾患	3
副腎疾患	3
その他	9
計	52

4. リウマチ・アレルギー科

リウマチ・アレルギー科は部長の三好、医長の中岸、笠井 医員の安部、田中裕也の5人のチームで診療を行った。兵庫県で小児科での日本アレルギー学会指導医、日本リウマチ学会指導医がいる病院は当院のみであり、それぞれの学会の認定教育施設として重要な役割を持って機能している。増え続けるアレルギー性疾患のこどもへより良い対応をするため、また治療が日進月歩であるリウマチ性疾患のこどもへより良い対応をするため、さらにそれらの疾患を診療していく専門医を育成するため、さらなる発展を遂げて行きたいと考えている。

【診療活動】

アレルギー科の対象疾患としては、以下のような内容である

- 1) アレルギー疾患；気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー 等
- 2) 膠原病・リウマチ性疾患；若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、自己炎症性疾患 等

アトピー性皮膚炎については、ドクターショッピングやアトピービジネス、民間療法などの果てに受診される患者さんも多く、スタンダードな治療の普及に努めた。食物アレルギーの確定診断および不必要な食事制限を解除するための食物負荷試験を行っているのも特徴のひとつである。気管支喘息については、乳児喘息の早期診断と長期管理薬による発作予防療法、思春期喘息の治療管理に力を尽くした。

膠原病・リウマチ性疾患の患者数も年々増加し、JIA に対する生物学的製剤の診療実績も積み重ねられてきており、日本の中心的病院としての役割を担っており、引き続きその責務を果たせるよう努力を重ねた。

1) 外来初診患者数 131

1. アレルギー疾患 92

気管支喘息	20
アトピー性皮膚炎	9
好酸球性胃腸症	2
食物アレルギー	55
じんましん	5
その他のアレルギー疾患	1

2. リウマチ性疾患 39

若年性特発性関節炎	29
SLE	2
皮膚筋炎	1
その他のリウマチ性疾患	7

3. 予防接種 3

2) 入院患者数 39

1. アレルギー疾患 18

アトピー性皮膚炎	9
気管支喘息	5
胃食道逆流症	1
アナフィラキシー	2
食物負荷試験	1
好酸球性胃腸症	0

2. リウマチ性疾患 21

若年性特発性関節炎	11
皮膚筋炎	2
SLE	5
不明熱	1
その他のリウマチ性疾患	2

5. 脳神経内科

【スタッフ・人事異動】

永瀬 裕朗

丸山 あずさ

藤田 杏子（フェロー 2009.4-）

本年はフェローの藤田杏子が2年目を迎え、救急集中治療科兼務の丸山とあわせ3人体制での診療を行った。児玉荘一先生に引き続き週1回スーパーバイズをお願いしている。

【診療活動】

診療活動は、脳神経内科外来初診 122 名・外来延べ総数 2853 人、発達行動小児科外来初診患者は 39 人・外来延べ人数 244 人であった。また入院患者延べ数は 1707 人であった。

小児神経疾患には、集中治療を要する急性脳炎などの病態から、まれな先天性代謝異常の診断まで幅の広い疾患が含まれる。

一般的な診療は可能であるにしても、小児専門病院としてのより専門的な医療を満すには外来スペース、人員の不足があり他の小児専門病院と比べても圧倒的に不足している。新病院への建替え計画が始まったが、拡充を引き続き働きかけている。

また兵庫県では小児神経疾患の中核施設が存在せず、その医師の育成も困難である。当院が小児神経領域に対してどこまでの役割を担うのかというグランドデザインと、それに向けた対策が必要である。

これまで神経内科の診療範囲は、神経疾患・発達障害・心身症であったが、米国の小児医療体制では、発達障害・心身症に関しては、主として発達行動小児科医が診療にあたっており、今後日本の小児病院・大学病院でも専門外来が開設されつつある。当科では平成 17 年 7 月に発達行動小児科外来を開設したが、初診患者の受診待ちが平均 2 ヶ月程度となっている。

在宅医療が進む中、神経内科領域でも在宅人工呼吸・在宅酸素・在宅中心静脈栄養などを要する患儿が増加しつつある。現在、一般外科にて、在宅外来が行われているが、関係他科とも協力した、専門外来が必要である。

【その他の活動】

学会活動としては米國小児科学会に4年連続採択された。原著論文3篇を発表し、専門病院として本院に課せられている学術的貢献も可能となってきた。

脳神経内科外来

疾患名	症例数
てんかん	102
熱性痙攣	20
急性脳炎・髄膜炎	3
その他の痙攣性疾患	0
非痙攣性発作性疾患	17
脳血管障害	2
頭部打撲	5
その他の脳外科疾患	2
脱髄疾患・その他の白質病変	6
末梢神経疾患	4
筋疾患	1
歩行障害・運動失調	9
低酸素性脳障害・脳性麻痺	14
染色体異常・奇形症候群	0
神経皮膚症候群	2
代謝・内分泌障害	2
チック	1
頭痛	13
摂食障害	4
睡眠障害	1
その他の心身症	1
精神運動発達遅滞	20
広汎性発達障害	3
その他の発達障害	2
その他	10
合計	244

発達行動小児科外来

疾患名	症例数
ADHD	11
自閉症	7
精神遅滞	11
学習障害	1
その他の発達障害	11
チック	2
行為障害	1
抑鬱状態	1
卒煙	4
自傷	1
睡眠障害	1
合計	51

6. 血液腫瘍科

【スタッフ・人事】

部長 小阪嘉之

部長 川崎圭一郎

医長 長谷川大一郎

医長 竹田洋樹

フェロー 奥野啓介（～ H.22.5.31、鳥取大学へ転出）

フェロー 石田敏章（H22.4.1～）

フェロー 田中愛子（H22.4.1～）

専攻医 西山将広（H.22.4.1～H22.7.31）

専攻医 辻真之介（H.22.8.1～H22.11.30）

専攻医 川崎英史（H.22.12.1～H23.3.31）

短期（1ヶ月未満）ローテーター（研修医）は省略

【診療活動】

外来患者は微減、入院患者は微増である。しかし県下で発症している小児悪性腫瘍は小児がん登録事業が進み、年間 80～90 例程度と判明しており、表 1 からわかるように、その約 2/3 は当院で診療していることになる。小児悪性疾患の新患が年間 50 名を超える施設はおそらく全国的にもほとんど無いのが現状であり、症例数は全国でも有数であると思われる。実際、常に 30 名程度の入院患者がいて、スタッフにとっては極めて多忙な毎日である。そんななか鳥取大学から研修に来ていただいていた奥野啓介先生が1年間の当科での研修を終了して、鳥取大学に帰られた。ただし4月より当科のフェローとして、岡山大学より石田敏章先生、倉敷中央病院より田中愛子先生が赴任されてスタッフに加わっていただいている。とは言ってもご他間にもれず慢性的なマンパワー不足であることは否めない。

臨床面における方針は変わらず、白血病他全国レベルでの多施設臨床研究が存在する疾患においては、積極的に臨床研究に参加しつつ、難治性疾患に対しては、造血幹細胞移植を施行している。表 2 に示すように平成 22 年は計 19 例に施行した。これは昨年の 20 例に続き、小児対象の数字としては全国でも有数である。

もちろんすべての非悪性血液疾患にも対応していることが当科の特徴であり、ITP（免疫性血小板減少症）は表 1 のごとく年間多数の新患がおり、血友病は当院で診療している患者数は 30 名を超えている。

これらの多くの患者の大半は他施設からの紹介であり、各医療機関におかれましてはこの場を借りて深謝申し上げます。

スタッフ一同、患者を単に治すだけではなく、QOL を保ちながら、後遺症無き治癒を達成できるよう今後も精進していく所存です。

表1 新患一覧

疾患	症例数	その他
急性リンパ性白血病	9	Ph+ 1, 乳児白血病 1
急性骨髄性白血病	4	
骨髄異形性症候群	1	
若年性骨髄単球性白血病	1	
悪性リンパ腫	3	DLBCL 1, Burkitt 1, Hodgkin 1
ランゲルハンス細胞組織球症	3	
血球貧食リンパ組織球症	3	
脳腫瘍	12	MB 5, GB 1, low grade glioma 3, AT/RT 1, Ependymoma 1, Neurinoma 1
神経芽細胞腫	5	
卵黄のうがん	1	
網膜芽細胞腫	1	
ウィルムス腫瘍	1	
横紋筋肉腫	3	
ユーイング肉腫	1	
胸膜肺芽腫	1	
肝腫瘍	1	
血管内皮細胞腫	1	
好中球減少症	4	すべて免疫性
突発性血小板減少性紫斑病	11	
血栓性血小板減少性紫斑病	1	
溶血性貧血	2	
遺伝性球形赤血球症	5	
血友病	4	
フォンビルブランド病	1	
免疫不全疑い	2	
出血傾向疑い	2	
成熟奇形腫	5	
軟部組織良性腫瘍	4	
非特異的リンパ節炎	8	
骨髄移植ドナー(家族内検索)	23	
その他	5	
計	128	

表2 造血幹細胞移植一覧

	疾患名	年齢 / 性	病期	移植の種類	転帰	備考
1	RMS	3/M	2nd CR	APBSCT	担がん生存	
2	NBL	6/M	2nd PR	UBMT	担がん生存	
3	acute bilineal leukemia	15/M	1st CR	RBMT	担がん生存	
4	MBL	2/F	1st CR	APBSCT	腫瘍死	
5	ALL	11/M	2nd CR	UBMT	合併症死	肺合併症
6	MBL	2/F	1st CR	APBSCT	腫瘍死	
7	AA	4/M		CBT	無病生存	
8	CGD	12/M		UBMT	無病生存	
9	NBL	6/M	1st relapse	CBT	無病生存	
10	ALL	0/F	1st CR	CBT	無病生存	
11	MBL	3/F	1st CR	APBSCT	無病生存	
12	MDS	15/F		UBMT	無病生存	
13	NBL	3/M	1st CR	APBSCT	無病生存	
14	MBL	3/F	1st CR	APBSCT	無病生存	
15	embryonal tumor	4/M	1st CR	APBSCT	無病生存	
16	ALL	13/M	2nd CR	UBMT	無病生存	
17	plumunary blastoma	2/M	1st CR	APBSCT	無病生存	
18	JMML	1/M		UBMT	無病生存	
19	MBL	15/M	1st CR	APBSCT	無病生存	

N B L: 神経芽腫

A A: 再生不良性貧血

M B L: 髄芽腫

C G D: 慢性肉芽腫症

JMML: 若年性慢性骨髄単球性白血病

A L L: 急性リンパ性白血病

APBSCT: 自家末梢血幹細胞移植

R B M T: 血縁者間同種骨髄移植

U B M T: 非血縁者間同種骨髄移植

C B T: 臍帯血移植

表3 死亡例（当科関連分）

年齢 / 性	疾患名	死因	備考
5/M	Burkitt リンパ腫 / 白血病（再発）	合併症死	移植後 HHV6 脳炎
10/M	急性リンパ性白血病	腫瘍死	他院にて死亡
15/F	急性骨髄性白血病（再発）	合併症死	敗血症
16/F	肝芽腫	腫瘍死	自宅にて死亡
1/M	ウィルムス腫瘍	腫瘍死	
8/F	神経膠腫	腫瘍死	
17/M	急性骨髄性白血病	腫瘍死	
11/M	Burkitt 白血病	合併症死	移植後肺炎
3/F	神経芽腫	腫瘍死	

7. 循環器科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	専攻医	山下 達也
	田中 敏克		麻生 安曇
	藤田 秀樹		川崎 英史
	齋木 宏文		亀井 直哉
	富永 健太		水田 麻雄
フェロー	佐藤 有美		
	小川 禎治		
	古賀 千穂		

スタッフ5名、フェロー3名、他に専攻医数名。専攻医はほぼ3-4ヶ月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を自身の判断でこなせるように指導している。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本1診。外来総患者数は6923名（再診のみ）、新規外来患者数は536名（うち376名に心疾患・不整脈など経過観察を要する疾患あり）であった。外来での有疾患患者の主体は、心室中隔欠損（108）、心房中隔欠損（77）、ファロー四徴症（10）、房室中隔欠損（5）など。カテーテル治療相談外来（木曜午前、担当：田中医師）や成人先天性心疾患外来（月曜午後、経過観察、妊娠・分娩の相談など、担当：城戸）など専門外来についても、昨年どおり。成人に達した患者については他院での診療応援なども含めて病診連携を深める取り組みをしている。また、昨年に引き続き、待ち時間がやや長めとなっていることが問題であるが、心電図・心エコー検査と診察・結果説明を同日に行なうシステムであるため、ご容赦いただいている。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は334名。199名がカテーテル検査・治療目的の入院。新生児・乳児期早期の新規患者の入院は52名（内訳下表）。比較的重症の疾患が多く、ほとんどが長期入院になり、常に病棟がフル回転している印象があった。新生児の入院のうち、胎児心エコーで診断がついていた症例が24名であり、当院母子センターへの母体搬送により、出生直後からの管理が可能となっている。今後ますます胎児心エコーの役割が大きくなっていくと思われる。一方、本年も22名の成人患者の入院があった（17名がカテーテル検査・治療）。
- (3) 生理検査：総心電図件数4325件、Master 負荷心電図件数2027件、Holter 心電図件数134件、トレッドミル負荷心電図は71件とほぼ例年通りの状況である。心エコーは5037件（本年統計はICUや手術室でのエコー件数を除いている）、胎児心エコーは162件（うち84件で異常所見あり。担当：佐藤医師、協力病院でも胎児心エコーの協力をしており実際の件数はさらに多い）。心エコー検査担当は外来では検査技師・担当医師が分担、入院では全て主治医の手により行なわれている。
- (4) カテーテル検査：総件数247件。カテーテル治療の件数は67件。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝隔週で抄読会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC 研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT 研究会、川崎病研究会などへの参加。

【新規患者内訳】

1. 新患総数	584 名 (423 名に心疾患)
A 新生児期・乳児期早期 (入院患者)	52
大動脈縮窄複合	2
心室中隔欠損・心内膜症欠損	6
大血管転位	3
肺動脈閉鎖・ファロー四徴症	5
両大血管右室起始	4
多脾症候群・無脾症候群	7
三尖弁閉鎖	2
左心低形成症候群、左心系低形成を伴う疾患	7
その他の単心系系疾患	4
総肺静脈還流異常	2
エプスタイン奇形	2
肺動脈弁欠損	1
総動脈幹症	1
修正大血管転位	2
冠動静脈瘻	1
不整脈・心不全	1
心臓腫瘍	1
感染性心内膜炎・僧帽弁閉鎖不全	1
B 乳児期以後 (外来紹介の新生児含む)	
心室中隔欠損	108
心房中隔欠損	77
動脈管開存	26
心内膜床欠損	5
肺動脈弁狭窄	34
大動脈弁狭窄・閉鎖不全	7
ファロー四徴症	10
両大血管右室起始	2
僧帽弁閉鎖不全	2
大動脈縮窄 (軽度)	2
川崎病	15
不整脈	42

【カテーテル検査・治療内訳 (総数 247 件)】

4. 心臓カテーテル検査 (治療重複あり)	
心室中隔欠損 (合併奇形・肺高血圧を伴う)	15
心房中隔欠損	13
心内膜床欠損	8
ファロー四徴症 / 肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	63
両大血管右室起始	5
大血管転位	13
純型肺動脈閉鎖・重症肺動脈狭窄	5
いわゆるフォンタン適応症例	43
肺動脈弁狭窄	1
大動脈弁狭窄・閉鎖不全	4
大動脈縮窄	1
修正大血管転位	2
総肺静脈還流異常	2
大動脈肺動脈中隔欠損	1
エプスタイン奇形	2
冠動静脈瘻	1
僧帽弁狭窄・逆流	2
腎血管性肺高血圧	4
川崎病	10
肺高血圧	1
その他	
5. カテーテル治療	67
弁形成 (大動脈弁・肺動脈弁)	2
血管形成	28
ステント留置術	3
コイル塞栓術 (動脈管開存)	4
コイル塞栓術 (側副血管・動静脈瘻)	6
バルーン心房中隔裂開術	3
心房中隔欠損閉鎖術 (Amplatzer)	11
動脈管開存閉鎖術 (Amplatzer)	10

8. 腎臓内科

外来／入院診療については、河場康郎医師（フェロー、4月—12月）と神田杏子医師と田中亮二郎医師が担当した。また2010年度の外来初診患者数は216名、入院患者数は98名であった。

【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後のフォロー等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して41例の腎生検を施行した。またPICUにおいて7名の患児（TTP/HUS 2名、劇症肝炎 1名、メチルマロン酸血症 1名、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群 1名、多臓器不全 2名）に急性血液浄化を施行した。また低形成腎による慢性腎不全の患児1名に対して腹膜透析を導入し、現在2名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計5名の患者さんが外来にてフォロー中である。平成19年より最新の持続血液透析濾過器が常備され、急性腎不全に対する透析や他の血液浄化療法に対して迅速に対応可能となった。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に押し進めたいと考えている。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設共同研究」に参加し、巣状メサンギウム増殖を示す小児IgA腎症、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設共同非盲検ランダム化比較試験、平成19年度から小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備事業にも参加している。また平成20年度より小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対するIDEC-C2B8の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験を医師主導治験として開始し、これまで6例の登録を行った。また本邦小児の新たな診断基準による小児慢性腎臓病（CKD）の実態把握のための調査研究や小児の急性血液浄化療法の全国規模の実態調査および標準的治療指針の作成の研究に関しては、分担研究者として参加している。臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。さらに平成18年より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。

平成22年 入院患者

ネフローゼ症候群	46
IgA腎症	8
膜性増殖性糸球体腎炎	1
巣状分節性糸球体硬化症	2
メサンジウム増殖性腎炎	1
急性糸球体腎炎	3
ループス腎炎	5
混合性結合組織病	1
紫斑病性腎炎	6
TTP/HUS	1
ネフロン癆	2
慢性腎不全	4
保存期腎不全	3
腎臓移植後	2
尿路感染症	3
腎血管性高血圧	4
その他	6
計	98名

9. 精神神経科

平成 22 年度のスタッフは常勤 1 名（前田宏章）と非常勤 2 名（長谷川弘子、松川悦之）であった。

県立清水が丘学園（情緒障害児短期治療施設）への診療支援は引き続き週に 1 日行っている。ここは、虐待や様々な事情で情緒的に不安定となり、家庭や地域では生活できない小中学生が大半を占めている。スタッフの親身なかかわりで、回復、成長していく子どもたちが多くいる一方、根深い問題行動が続いたり、卒業しても家庭に戻ることが出来ない子ども達も多い。

こども病院精神神経科ではそういった多くの支援が必要な子どもから、軽い症状の情緒的問題や発達的問題の子どもまで、幅広く診療（外来を中心とした）を続けている。

この度、常勤の前田が転勤することとなった（長いことお世話になり、有り難うございました。）。児童精神科医不足の問題がある中、幸いにも平成 23 年 5 月より、関口典子先生に常勤医師として来ていただけることとなった。非常勤の先生方と合わせて、外来を毎日開けられる予定である。

平成 22 年度新患分布

疾患	年齢		乳児	幼児前期	幼児後期	学童前期	学童後期	中学 高校	18 歳 以上	計
	男	女								
精神遅滞	7	7	0	0	2	3	2	5	2	14
学習障害	6	3	0	6	2	1	0	0	0	9
自閉症圏	31	11	0	6	9	8	10	9	0	42
多動性障害	20	5	0	0	2	13	6	4	0	25
行為障害	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
不安障害	6	5	0	0	2	0	5	4	0	11
強迫性障害	0	2	0	0	0	0	1	1	0	2
ストレス障害、適応障害	7	19	0	0	2	4	7	12	1	26
解離性障害	5	12	0	0	0	4	11	2	0	17
身体表現性障害	5	2	0	0	0	2	2	3	0	7
選択性緘黙	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
愛着障害	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
チック障害	5	4	0	0	1	6	2	0	0	9
遺尿症、遺糞症	4	2	0	0	0	3	3	0	0	6
哺育障害、異食症	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
吃音	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2
器質性精神障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症圏	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
気分障害	1	3	0	0	0	0	0	1	3	4
摂食障害	0	3	0	0	0	1	1	1	0	3
睡眠障害	4	3	0	0	1	1	3	1	1	7
抜毛症	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2
てんかん	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	104	88	0	12	21	51	56	45	7	192

10. 小児外科

2010 年度

小児外科スタッフ

西島栄治（昭和 53 年卒）
 横井暁子（平成 2 年卒）
 中尾 真（平成 3 年卒）
 尾藤祐子（平成 5 年卒）
 荒井洋志（平成 7 年卒）
 岡本光正（平成 15 年卒）

小児外科フェロー・専攻医

田浦康明（平成 16 年卒）
 田村 亮（平成 16 年卒）
 橋木由美子（平成 13 年卒 1 月～）
 清水裕史（平成 15 年卒 4 月～）
 谷本光隆（平成 17 年卒～）

【診療活動】

入院患者数 895 名（前年度 882 名）に対して 920 件、日帰り手術患者数 344 名（前年度 350 名）に対して 345 件の手術を行った。全手術件数 1265 件（前年度 1238 件）であった。うち新生児患者数 43 名（前年度 40 名）に対して 57 件の手術を行った。鏡視下手術は 27 件であった。

手術待ち時間は入院手術で 1 ヶ月～2 ヶ月、日帰り手術で約 4～10 週間であった。

【教育活動】

例年通り神戸大学と熊本大学の 5-6 年生を臨床実習生として受け入れた。本年は海外からの留学生の受け入れはなかった。

【学会活動】

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、小児がん学会、日本胆道閉鎖研究会、日本小児呼吸器外科研究会等で発表した。発表論文は邦文 3 編であった。

入院手術

部位	術式	件数
頭頸部	耳前瘻孔摘出術	2
	舌小体形成術	1
	側頸瘻摘出術	3
	鰓弓遺残摘出術	1
	Sistrunk	3
気道	喉頭前方切開 T-tube 留置	1
	声門下腔閉鎖術	1
	スライド喉頭気管形成術	1
	気管切開術	14
	気管切開孔閉鎖術	1
	喉頭気管分離術	5
	胸骨部分切除・大動脈つり上げ術	3
	腕頭動脈離断術	6
	スライド気管形成術	5
	気管再形成術	3
	気管切除端々吻合術	2
	左主気管支形成術	1

縦隔	気管支原性嚢胞摘出術	1	
肺	肺葉切除術	7	
胸壁	Nuss bar 挿入	1	
	Nuss bar 抜去	9	
	胸骨挙上術	4	
横隔膜	横隔膜ヘルニア修復術	9	
	横隔膜縫縮術	2	
食道	食道閉鎖症		
	頸部食道瘻造設術	1	
	食道延長術	1	
	食道食道吻合術	3	
	食道狭窄部切除端々吻合術	1	
	食道番バンディング胃瘻造設術	2	
	食道離断術・穿孔部閉鎖術	1	
	食道重複症手術	1	
	胃	胃固定術・脾固定術	1
		胃瘻造設術	23

	噴門形成術	23		臍ヘルニア白線ヘルニア手術	10
	肥厚性幽門狭窄症手術	10		腹壁癒合ヘルニア手術	2
十二指腸	十二指腸閉鎖・狭窄症手術	3	泌尿・生殖器	腎摘出術	2
小腸・大腸	腸回転異常症手術	1		卵巣捻転手術	3
	小腸閉鎖症手術	3		卵巣のう腫開窓術	2
	腸重積観血的整復術	3		回腸利用膀胱拡大術	3
	イレウス解除術	11		尿管遺残摘出術	7
	Hirschsprung 病			直腸瘻閉鎖術	1
	腹腔鏡補助下 Swenson 手術	3		瘻形成術	1
	筋層切開術	1		陰唇癒合剥離術	1
	レベリング腸生検・腸瘻造設術	1		睾丸固定術	4
	腸切除術	3	腫瘍	生検	16
	人工肛門・腸瘻造設術	14		切除術	13
	人工肛門形成術等	6		核出術	2
	人工肛門・腸瘻閉鎖術	13	軟部	奇形腫術後嚢胞摘出術、仙尾部形成術	1
	虫垂切除術	16		癒合切除術	1
	肝胆膵脾	葛西手術	5	処置・検査	縦隔・胸腔ドレナージ
拳上空腸癒着剥離術		1		開腹止血術	1
総胆管拡張症手術		6		試験開腹	1
胆嚢摘出術		1		腹腔ドレナージ	5
開腹肝生検・胆道造影		2		切開排膿	2
脾摘術		2		ピシバニール注入	5
直腸・肛門	鎖肛根治術	12		肛門ブジー	1
	肛門形成術	2		摘便	4
	直腸生検	5		ECMO 装脱着	11
	直腸重複症手術	1		中心静脈カテーテル留置・抜去	130
	直腸・肛門脱手術	3		テンコフカテーテル挿入、抜去	8
	痔瘻根治術	3		腹腔鏡検査	1
	経肛門のポリープ切除術	3		気管支鏡検査・処置	190
腹壁	腹壁閉鎖術	1		上部消化管内視鏡検査・処置	86
	サイロ形成術	2		下部消化管内視鏡検査・処置	11
	臍帯内ヘルニア・臍腸管遺残手術	1		膀胱鏡検査	2
	鼠径ヘルニア手術	100		計	920

日帰り手術

術式	件数
鼠径ヘルニア手術	297
臍ヘルニア	24
陰唇癒合剥離術	5
腫瘤切除	3
切開排膿	3
用手的肛門拡張術	3
経肛門のポリープ切除	2
ピシバニール局注	1
直腸脱手術	1
上部消化管内視鏡	6
計	345

新生児手術

病名	術式	件数
先天性横隔膜ヘルニア	直接閉鎖術	3
	パッチ閉鎖術	4
	ECMO カニューレ装脱着	2
	胸腔ドレナージ術	2
先天性十二指腸狭窄・閉鎖症	ダイヤモンド吻合術	2
	膜切除術	1
先天性小腸閉鎖症	切除端々吻合術	3
胎便性腹膜炎	腹腔ドレナージ術	1
	腸瘻造設術	1
	開腹止血術	1
	腸瘻閉鎖術	1
先天性気管狭窄症	スライド気管形成術	1
先天性食道閉鎖症	一期的食道食道吻合術	1
	食道バンディング・胃瘻造設術	2
	食道離断術・胃穿孔部閉鎖術	1
	術後腹水ドレナージ術	1
腸回転異常症	Ladd 手術	1
腸管重複症	重複腸管切除術	1
鼠径ヘルニア嵌頓	腸瘻造設術	1
胎便病・消化管穿孔	腸瘻造設術	3
	中心静脈カテーテル挿入術	1
腹壁破裂	サイロ形成術	1
	脱出腸管還納・腸瘻造設術	1
臍帯ヘルニア	サイロ形成術	1
	癒着剥離・サイロ再形成術	1
	腹壁閉鎖術	1
	臍腸管遺残切除術	1
肥厚性幽門狭窄症	幽門筋切開術	1
先天性総胆管拡張症	肝管空腸吻合術	1
胆道閉鎖症	葛西手術	1
鎖肛	人工肛門造設術	4
総排泄腔遺残症	人工肛門造設術	1
総排泄腔外反症	人工肛門造設術	1
Hirschsprung 病	腸生検、人工肛門造設術	1
	直腸生検	1
卵巣のう腫	嚢腫開窓術	1
卵巣腫瘍捻転	付属器切除術	1
尿管遺残	尿管遺残切除術	1
胎児水腫	腹腔ドレナージ術	1
ALL	中心静脈カテーテル挿入術	1
腎不全	テンコフカテーテル留置術	1
	計	57

鏡視下手術

術式	件数
Nuss bar 挿入	1
胸腔鏡下横隔膜修復術	1
胸腔鏡下腫瘍生検	1
腹腔鏡検査	1
腹腔鏡下噴門形成術	11
腹腔鏡下脾摘術	2
腹腔鏡下虫垂切除術	5
腹腔鏡補助下 Swenson 手術	3
腹腔鏡補助下鼠径ヘルニア手術	2
計	27

気管支鏡検査・処置

	件数
気管支鏡のみ	153
気切カニューレ交換	17
気管異物摘出術	6
KTP レーザーによる肉芽焼灼	4
T-tube 交換・留置	7
気管バルーン拡張術	1
経鼻挿管チューブ入れ替え	1
レティナ挿入	1
計	190

消化管内視鏡検査・処置

	件数
上部消化管内視鏡	
検査のみ	49
食道バルーン拡張術	26
異物摘出術	8
食道静脈瘤硬化療法	7
ERCP	1
胃ポリープ切除術	1
NG チューブ留置術	1
縫合糸切離術	1
下部食道内視鏡	11
計	105

2010 年度 研修医記録

谷本 光隆

術式	症例数	
	執刀医	助手
<気道・頸胸部>		
C型食道閉鎖根治術	0	2
気管形成術	0	2
喉頭気管分離	2	0
気管切開	0	1
気管支鏡検査	0	25
気道異物除去	0	1
ECMO カニューレション	0	2
Sistrank 手術	0	1
側頸瘻	2	0
Nuss bar 挿入	0	1
Nuss bar 抜去	1	1
Ravitch 手術	1	0
腹腔鏡下ブラ切除術	1	0
胸膜剥皮術	1	0
皮下腫瘍摘出	1	0

<上腹部手術>		
横隔膜ヘルニア根治術	3	2
幽門筋切開術	1	1
開腹噴門形成・胃瘻造設術	2	4
腹腔鏡下噴門形成術	0	3
胃瘻造設術	0	1
先天性十二指腸狭窄・膜切除	1	0
先天性小腸閉鎖 小腸切除術	0	3
Ladd 手術	0	1
胎便性腹膜炎	0	2
腸重積観血の整復術	0	1
上部消化管内視鏡	3	3
内視鏡下異物摘出	0	1
食道静脈瘤硬化療法	0	2

<肝・胆・膵>		
エコー下肝生検	0	1
総胆管拡張症手術	1	2
開腹胆嚢摘出術	0	1
胆道閉鎖症手術	0	2

<下腹部手術>		
回盲部切除術	1	0
開腹虫垂切除	0	3
腹腔鏡下虫垂切除	3	0
人工肛門造設	1	3
人工肛門閉鎖術	0	1
腹腔鏡補助下 Swenson 手術	0	1
直腸生検	1	0
PSARP	0	3
直腸脱手術	0	1
痔瘻	1	0
肛門形成術	0	1
肛門ポリープ	1	0
人工肛門縁ポリープ KTP 焼灼	0	1
下部消化管内視鏡	0	1
左腎摘出術	0	1
尿管管遺残	1	1

<ヘルニア>		
臍帯ヘルニア手術	1	2
腹壁破裂	0	1
臍ヘルニア手術	6	0
ソケイヘルニア	52	3

<その他>		
腫瘍生検(開腹 or 開胸)	2	1
腫瘍摘出(開腹 or 開胸)	2	1
IVH 挿入(Hickman)	10	0
IVH 抜去	4	0
テノコフカテーテル挿入	1	0
舌小体形成術	1	0
リンパ節炎切開排膿	1	0
陰唇癒合	2	0
腹腔内ドレナージ	1	1
全身麻酔下摘便	1	0

11. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（手術部長兼任） 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、
神戸大学医学部臨床教授、心臓血管外科専門医、胸部外科指導医
医長 圓尾 文子（平成 7 年神戸大卒）心臓血管外科専門医
医長 長谷川 智巳（平成 8 年京都府立医大卒）
心臓血管外科専門医、4 月に神戸大学より転任
医長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医
医長 井上 武（平成 12 年神戸大卒）心臓血管外科専門医
4 月に神戸大学へ転任
医長 河村 朱美（平成 12 年名古屋大卒）
後期研修医
門脇 輔（平成 16 年岡山大卒）
中井 秀和（平成 17 年島根医大卒）
4 月に高砂市民病院より転任

吉田昌弘が 7 月に退職、ピッツバーグ小児病院心臓外科スタッフに採用された。

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金、長時間手術枠を見直し、第 2、4 火→水に変更。

軽症例、重症例とも、全体の手術件数は前年度を上回った。循環器科の出張診断により、胎児診断症例が増加している。2010 年の体外循環を用いた手術は 173 例（新生児 14 例）、体外循環非使用の心臓手術は 60 例（新生児 27 例）、その他 48 例で、心臓手術死亡 4 例（1.7%）であった。毎日の ICU カンファレンス、循環器カンファレンスに加え、Audit meeting、手術検討会、看護部とのカンファレンスを定例化した。また、MRSA 感染対策を強化、マニュアルを作成。

心臓外科関連のカンファレンスは表に示した。

【学会活動】

英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死
PDA															
CoA (simple)				1	0	0	1	0	0				2	0	0
+VSD	2	0	0	3	0	0							5	0	0
+DORV				1	0	0							1	0	0
+AVSD				2	0	1							2	0	1
+TGA	1	0	1	1	0	0							2	0	1
+SV				1	0	0							1	0	0
+others	1	0	0										1	0	0
IAA (simple)															
+VSD															
+DORV															
+Truncus															
+TGA															
+SV															
+others							1	0	0				1	0	0
Vascular ring							3	0	0				3	0	0
PS							2	0	0				2	0	0
PPA or critical PS							1	0	0				1	0	0
TAPVR	3	0	0										3	0	0
asplenia	1	0	0										1	0	0
PAPVR ± ASD				1	0	0	2	0	0				3	0	0
ASD				3	0	0	21	0	0				24	0	0
Cor triatriatum				1	0	0							1	0	0
AVSD (partial)				1	0	0							1	0	0
AVSD (complete)				2	0	0							2	0	0
+TF or DORV															
+others				3	0	0							3	0	0
VSD (I)				1	0	0	4	0	0				5	0	0
VSD (II or IV)				32	0	0	6	0	0				38	0	0
VSD + PS				2	0	0	1	0	0				3	0	0
DCRV ± VSD				1	0	0	1	0	0				2	0	0
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF				4	0	0	3	0	0				7	0	0
PA + VSD (Rastelli)															
(SP shunt)							1	0	0				1	0	0
DORV				3	0	0	5	0	1				8	0	1
TGA (simple)	1	0	0										1	0	0
+ VSD	1	0	0										1	0	0
+ VSD + PS															
corrected TGA	1	0	0										1	0	0
Truncus arteriosus															
SV (SP shunt)				3	0	0							3	0	0
(BDG)				3	0	0	1	0	0				4	0	0
(Fontan)															
TA (SP shunt)															
(BDG)															
(Fontan)															
HLHS (Norwood)	1	0	0	2	0	0							3	0	0
(BDG)				2	0	0							2	0	0
(Fontan)															
Aortic valve lesion (形成)															
(弁置換)							3	0	0				3	0	0
SAS				1	0	0	1	0	1				2	0	1
supra AS															
Mitral valve lesion (MR 形成)															
(MR 弁置換)							1	0	0				1	0	0
(MS 形成)							2	0	0				2	0	0
(MS 弁置換)															
Ebstein	1	0	0				1	0	0				2	0	0
Coronary disease				1	0	0							1	0	0
その他	1	0	0	3	0	1							4	0	1
再手術 VSD 再閉鎖				1	0	0							1	0	0
PS 解除				1	0	0							1	0	0
RV-PA 導管再置換							3	0	0	2	0	0	5	0	0
(PVR を伴う)							3	0	0	3	0	1	6	0	1
その他							6	0	0	1	0	0	7	0	0
総数	14	0	1	80	0	2	73	0	2	6	0	1	173	0	6

12. 脳神経外科

2010年度の脳神経外科スタッフは長嶋達也（参事・部長）、河村淳史（部長）、山元一樹（医長）の指導医3名とローテーション医師1名の4名である。2009年10月1日—2009年3月31日の間は堀 達雄（専攻医）、4月1日—9月31日は溝脇 卓（医員）、2010年10月1日—2011年3月31日は長嶋宏明（専攻医）が脳神経外科専門医研修の一環として着任した。

診療活動では兵庫県下のみならず他府県からの紹介例、セカンドオピニオン例が増加しており、小児救急医療センター（三次救急施設）に搬送される頭部外傷・脳腫瘍例が増加傾向にある。本施設の特色としてはこども病院複数科との連携によるチーム医療があり、脳神経外科・血液腫瘍内科・放射線科・病理診断科による集学的治療を必要とする脳腫瘍症例、脳神経外科・整形外科・泌尿器科による治療および管理が必要な二分脊椎症例、脳神経外科・形成外科による合同外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、脳神経外科・救急部・脳神経内科をはじめ多数科の関与が必要な頭部外傷・多発外傷症例などの紹介・搬送例が増加し、発達など将来を見据えた集学的なアプローチを要する分野の手術を中心に取り組んでいる。手術前後に小児医療各方面と密な連携を保ち長期の追跡を行っている。神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術成績を積み重ねていきたい。

放射線治療装置更新、脳血管撮影装置更新、顕微鏡手術専用手術台や脳神経外科手術ナビゲーションなどの導入も進み困難な手術を支える施設面も充実した。24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を今後も維持し続けたい。

脳腫瘍 (*2)	(1) 摘出術 (2) 生検術 ・開頭術 ・定位手術 (3) 経蝶形骨洞手術 (4) 広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術 その他	27 0 0 0 0
脳血管障害 (*2)	(1) 破裂動脈瘤 (2) 未破裂動脈瘤 (3) 脳動静脈奇形 (4) 頸動脈内膜剥離術 (5) バイパス手術 (6) 高血圧性脳内出血 ・開頭血腫除去術 ・定位手術 その他	0 0 0 0 7 3
外傷 (*2)	(1) 急性硬膜外血腫 (2) 急性硬膜下血腫 (3) 減圧開頭術 (4) 慢性硬膜下血腫 その他	6 4 0 4

奇形 (*2)	(1) 頭蓋・脳 (2) 脊髄・脊椎 その他	14 19 0
水頭症 (*2)	(1) 脳室シャント術 (2) 内視鏡手術	28 2
脊椎・脊髄 (*2)	(1) 腫瘍 (2) 動静脈奇形 (3) 変性疾患 ・変形性脊椎症 ・椎間板ヘルニア ・後縦靭帯骨化症 (4) 脊髄空洞症 その他	11 1 0 0 0 0 6
機能的手術 (*2)	(1) てんかん (2) 不随意運動・頑痛症 ・刺激術 ・破壊術 (3) 脳神経減圧術 その他	0 0 0 0
血管内手術 (*2)	(1) 総数 (2) 動脈瘤塞栓術 ・破裂動脈瘤 ・未破裂動脈瘤 (3) 動静脈奇形 ・脳 ・脊髄 (4) 閉塞性脳血管障害 (内、ステント使用例) その他	0
脳定位的放射線治療*注 (*2)	(1) 総数 (2) 腫瘍 (3) 脳動静脈奇形 (4) 機能的疾患	0
その他 (*2)	上記の分類すべてに当てはまらない	27
計		159

脳神経外科 専攻医指導記録

医 員 溝脇 卓

研修期間 2010.4.1 ~ 2010.9.31

指 導 医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第 1 助手	第 2 助手
脳腫瘍摘出術		14	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫	1	2	
バイパス手術		4	
急性硬膜外血腫		2	
急性硬膜下血腫	2	2	
慢性硬膜下血腫・水腫	2	0	
頭蓋・脳奇形		4	
脊椎・脊髄奇形	1	6	
水頭症脳室シャント	4	8	
神経内視鏡手術			
脊椎・脊髄腫瘍		8	
脊髄空洞症		4	
その他		19	
計	10	74	0

専 攻 医 堀 達雄

研修期間 2009.10.1 ~ 2010.3.31

指 導 医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第 1 助手	第 2 助手
脳腫瘍摘出術		13	
経蝶形骨洞手術		0	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫		2	
急性硬膜下血腫		1	
慢性硬膜下血腫・水腫		2	
頭蓋・脳奇形		11	
脊椎・脊髄奇形		13	
水頭症脳室シャント		19	
水頭症神経内視鏡手術		2	
脊椎・脊髄腫瘍		5	
脊髄空洞症		4	
その他		6	
	0	79	0

13. 形成外科

2010年は4月に北村奈都子医師が大阪大学に転出、大阪警察病院より鄭聡柄医師が転入した。小児専門病院での治療を希望される紹介患者が多く、特に日帰り手術に関しては約3カ月待ち状態となっている。色素レーザーの治療スケジュールの変更等により、レーザー照射患者は減少したが、2011年より青あざ、茶あざ用のQスイッチルビーレーザーが導入されることになり再び患者数が増加することが予想される。積年の課題である言語訓練の人的・物的整備が急務である。

年間の患者数及び手術件数

2010年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	437	名
----------	-----	---

形成外科入院患者数	274	名（延べ人数ではない）
-----------	-----	-------------

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	276	件	(合計 276 件)
	腰麻・伝達麻酔	0	件	
	局所麻酔・その他*	0	件	
外来手術	全身麻酔	160	件	(合計 412 件)
	腰麻・伝達麻酔	0	件	
	局所麻酔・その他*	252	件	

手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	11						11
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	4						4
顔面軟部組織損傷							0
顔面骨折	6						6
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷							0
下肢の外傷	1						1
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
II. 先天異常	188			65		5	258
唇裂・口蓋裂	108			5		3	116
頭蓋・顎・顔面の先天異常	35			58		1	94
頸部の先天異常							0
四肢の先天異常	37			1			38
体幹（その他）の先天異常	8			1		1	10
III. 腫瘍	54			60		4	118
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	54			60		4	118
悪性腫瘍							0
腫瘍の続発症							0
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	18			2		2	22
V. 難治性潰瘍	2						2
褥瘡	1						1
その他の潰瘍	1						1
VI. 炎症・変性疾患							0
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	3			33		241	277
良性腫瘍でのレーザー治療例	3			33		241	277
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	276	0	0	160	0	252	688

14. 整形外科

2010年4月より布居医師が転出し変わりに井上医師が赴任した。2年続けての女医2人体制である。手術件数は288件と前年とあまり変化はなかった。衣笠医師は当院赴任後2年目となり徐々にその実力を発揮しだした。整形外科は今後とも更なる技術向上に努め患者サービスに貢献していきたいと考えている。

手術

	病名	術式	手術数	小計
頸 椎	環軸椎脱臼(含む他疾患)	ハロー装着	4	
	環 軸 椎 脱 臼	頸椎固定術	3	
	環軸椎回旋位固定	整復	0	
	脊 椎 腫 瘍	後方固定術など	0	
体 幹	斜 頸	切腱術	0	
	側 弯 症	矯正術など	4	
		グローイングロッド挿入(含むシーラ)	2	
		ロッド延長	0	
	イリザロフ	0		
股関節	先天性股関節脱臼など	観血的整復術	3	
		SA+OR+VO	0	
		SA+OR	0	
		内反減捻骨きり術	3	
		白蓋形成術(SA以外)	1	
	股 遺 残 亜 脱 臼	ソルター	2	
		ソルター+OR	0	
	大 転 子 高 位	大転子下降術	0	
	ペ ル テ ス 病	大腿骨内反骨きり術	5	
		骨頭遊離体切除	0	
	P F F D	大腿骨外反骨きり術	0	
	内 反 股	大腿骨外反骨きり術	0	
	化膿性関節炎後遺症	大腿骨転子下内反骨切り	0	
	骨 頭 す べ り	大腿骨屈曲骨切り術	0	
	骨 頭 す べ り	ピンニング	4	
	麻痺性股関節脱臼	大腿骨頭切除術	0	
		筋解離術	0	
		SA,OR,DVO など	0	
		観血的整復術	0	
		大腿骨内反骨切り術	1	
総 排 泄 腔 外 反	骨盤骨切り	0		
膝関節	膝 蓋 骨 脱 臼	観血整復	0	
	J R A	鏡視下滑膜切除	0	
足 部	先 天 性 内 反 足	後方解離	2	
		アキレス腱切腱(Ponseti)	32	
		イリザロフ矯正(組換え含む)	6	
		距骨下関節全周解離	3	
		腱移行術(TAを外側)	0	
Evans	0			

		PMR, PMR Evans	6	
	麻痺性変形(奇形性)	後方解離	0	
		ATL	3	
		PMLR	0	
		Grice-Green	3	
		後内方解離	2	
		PMR 腱移行 (with or without GG)	9	
		三関節固定術	2	
		足根骨矯正骨切り術	1	
		距骨摘出術	1	
		下腿変形	0	
		腱移行 (TP を外側に)	0	
	(踵足)	腱移行 (TA を踵骨に)	2	
	垂直距骨	観血的整復術など	4	
		距舟関節ピンニング、アキレス腱切腱	2	
	尖足	後方解離術 ATL	2	
	脛骨列形成不全	足関節形成術	0	
		脛骨、腓骨癒合術	1	
	外脛骨	摘出	0	
上肢	橈骨頭脱臼	観血的整復術	1	
	上肢短縮	上肢骨延長術(上腕、前腕)	2	
	橈尺骨癒合症	回旋骨切り術	0	
	裂手・裂足	形成術	0	
	前腕変形	矯正骨切り術	0	
	橈側列形成不全	矯正・延長	0	
	足根骨癒合症	癒合部切除	0	
	膝蓋骨脱臼	整復術	4	
	絞扼輪症候群	形成術	0	
下肢	先天性偽関節	bone transport (イリザロフ)	0	
		骨接合	0	
		髓内釘	0	
	脚長差変形	延長, 矯正 (イリザロフ (含む Taylor Frame))	19	
		成長抑止術	0	
		骨性架橋除去	0	
		骨移植	1	
		短管骨延長	0	
		変形矯正 (創外固定以外)	2	
		観血的整復術	0	
膝関節脱臼	矯正骨切り術	0		
変形	下肢骨きり術	4		
	絞扼輪症候群	形成術	0	
外傷	上腕骨外顆骨折	整復固定術	2	
	上腕骨内顆(内上顆含む)	整復固定術	2	
	上腕骨顆上骨折	整復固定術	3	
	陳旧性モンテジア	尺骨骨切り術、橈骨頭整復術	0	
	肘関節脱臼	徒手整復	0	

	下 肢 骨 折	観血的整復術	0	
	肘 頭 骨 折	骨接合術	0	
	関 節 脱 臼	徒手整復ギプス固定	0	
	骨 折 後 偽 関 節	骨接合術	0	
	骨 折 な ど	鋼線牽引	4	
	内 反 肘	矯正骨切り術	0	
	その他骨折(徒手整復、観血的整復術)	整復固定術	8	
	腱 断 裂	腱縫合	0	
炎 症	化 膿 性 関 節 炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	6	
	関 節 炎	滑膜切除	0	
	骨 髄 炎 ,LCH, 病 態 不 明	生検術	9	
腫 瘍	腫 瘍	切断術		
		病巣搔爬	1	
		骨	5	
そ の 他	多 ・ 合 指 (趾) 症	軟部	2	
		余剰指(趾)切除	12	
		指(趾)間形成	9	
	手 指 (足 趾 含 む) 変 形	矯正、骨切り術など	3	
	癬 痕 拘 縮	形成術	1	
	剛 直 母 指	腱鞘切開	10	
	そ の 他		65	
			0	
		0		
年間手術件数		288		
		0		

検査

部位	方法	検査数	総数
股関節	アルトロ	31	
その他	アルトロ	1	

研修医

井上美帆

研修期間(予定含む)

2010年4月1日ー2011年3月31日

指導医

薩摩真一 小林大介

主な症例	執刀	助手
骨盤骨きり術	0	3
先天股脱観血的整復術	0	3
大腿骨骨きり術	0	5
骨延長術	0	19
腫瘍性疾患	0	7
足部矯正	16	36
側湾症など脊椎疾患	0	13
骨折	12	7
抜釘など	42	18
骨頭すべり	2	2

15. 眼科

本年の眼科医師の異動は4月に福村美帆医長に代わって中村礼恵医長が着任した。また、平井宏二医師がフェローとして着任、同時に6ヶ月ローテーションの別所宣洋研修医が寺岡力新研修医と交代した。同研修医は10月に異動し以後、研修医枠は空席であったが、次年度は前期、後期ともに配属が予定されている。

医師の偏在が叫ばれる昨今であるが、小児眼科を専門とする医師も全国的に不足している。小児眼科医は絶滅危惧種とさえ言われており、このため、近年、こども病院には近畿一円はもとより、中四国の主要施設、大学病院からも患者さんの診療依頼がある。その縁もあって、来年度より2年間、広島大学から研修を兼ねて医師(助教)の派遣を受ける。当院に長くおられる方は懐かしく思い起こされるであろう高山昇三先生以来、久しぶりに広島弁が聞かれることになる。

こども病院では未熟児網膜症(ROP)の勉強が出来ない? 前の話題とも関連するが、各地で周産期施設がオープンする一方、ROPの管理を行うべき眼科医の非常勤が問題となっている。対策として新生児科の先生に眼底写真を撮って貰い、それをもとにROPの診療経験のある眼科医が加療の必要性を判断するという一種のtelemedicineが検討されている。翻って当院のROP診療状況はどうかと言うと、児の未熟性は主要施設の平均より高い条件を維持する中、2000年を境に発症率、治療率ともに右肩下がり、特に2005年以降は光凝固術施行例も年間0~2例(従来、20例弱)と激減している。これは全国的な傾向であるが、I型の改善のみならず高度視覚障害を後遺する危険性のあるII型など重症ROPの発症も減少している点で当院の状況は際だっている。原因は何より新生児管理の秀抜さであり、加えて眼科の合理的な治療判断にあると言える。

2010年 眼科 新患患者数

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1~5ヶ月	6~11ヶ月	1~3歳	4~6歳	7~9歳	10~12歳	13歳以上	
屈折異常	0	6	13	197	149	136	56	38	595
斜視および疑い	1	13	40	185	94	70	25	10	438
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	5	31	4	1	1	2	1	0	45
眼瞼疾患	3	10	22	48	43	23	15	0	164
涙器疾患	1	8	14	14	2	2	1	2	44
結膜疾患	0	5	3	4	4	6	2	3	27
角膜・強膜疾患	3	5	3	1	1	3	1	2	19
ブドウ膜疾患	2	5	6	3	4	2	3	1	26
網膜・硝子体疾患	2	13	11	7	5	9	0	6	53
水晶体疾患	3	14	8	8	6	4	1	3	47
眼窩疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺伝性疾患	0	0	0	0	1	1	1	0	0
視神経、視路傷害 (眼振ほか)	0	7	7	35	20	13	3	4	89
緑内障	2	1	2	8	9	5	5	8	40
外傷	0	0	0	5	1	5	1	2	14
症候群	0	2	3	3	0	1	1	0	10
心因性視力障害	0	0	0	0	2	7	4	0	13
腫瘍	2	2	0	3	1	0	1	0	9
その他	3	8	2	6	3	1	1	1	25
小計	27	130	138	528	346	290	122	80	1661

入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	0	2	40	70	74	64	48	298
内反症	0	0	0	6	17	10	5	1	39
眼瞼下垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼瞼・眼窩疾患	0	0	2	7	3	3	4	0	19
結膜疾患（腫瘍）	0	0	0	0	0	1	0	0	1
角膜疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網膜疾患（腫瘍）	0	0	0	3	0	1	0	0	4
硝子体	0	3	0	0	0	0	0	0	3
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	0	5	1	1	0	0	7
眼瞼形成	0	0	0	1	1	0	0	0	2
緑内障	0	2	0	4	1	1	3	1	12
白内障	0	6	0	6	12	2	3	0	29
未熟児網膜症	0	5	0	0	0	0	0	0	5
眼球振盪症	0	0	0	0	0	0	1	3	4
外傷・検査・その他	0	3	0	6	4	6	0	1	20
合計	0	19	4	78	109	99	80	54	443

日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
内反症	0	0	0	0	8	6	8	0	22
霰粒腫	0	0	0	3	10	3	1	0	17
斜視	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	2	0	2
合計	0	0	0	3	18	9	11	0	41

屈折矯正・弱視訓練・斜視訓練	172名
視野検査	195名
合計	367名

実習生受け入れ状況（合計6名）

学校名	人数	期間	実習場所
神戸総合医療専門学校	4名	5月6日～5月31日	外来および手術室（見学）
大阪医療福祉専門学校	2名	5月24日～6月25日	

16. 耳鼻咽喉科

診療内容充実への取り組み

1. 外来診療

今年度も常勤医師1名（大津）、兼任医師1名（火曜、金曜日、阪本）は変わらずで診療を行った。新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、慢性扁桃炎などが多い。難聴や精神発達遅滞、自閉症を背景とした言葉の遅れの精査依頼が多いのも従来と同様である。他の医療施設で検査の難しい、いびきや睡眠時無呼吸の症例は引き続き増加傾向である。診察室の耳鼻科診療ユニットは1台しかないため、1診体制での診療であり、外来の診察患者数はほぼ限界に達している。言語療法については後述する。

耳鼻科外来新患数 紹介元別内訳

年	総数	院内	他院	健診	紹介なし
2002	439				
2003	555				
2004	523	254	218	29	22
2005	632	263	298	40	28
2006	748	295	380	36	37
2007	779	303	422	17	37
2008	703	234	419	26	24
2009	661	200	420	32	9
2010	791	246	505	29	11

2. 手術・入院診療

週に半日の入院手術枠をやりくりして年々増加してきた手術件数は、ほぼ限界に達し頭打ちになった。一方手術待機は日帰りが約3ヶ月、入院が約6ヶ月と延びる一方である。引き続き増加傾向にある地域の医療機関からの紹介による手術対象例に対応すべく、2011年からは第2金曜日に2時間枠が増える見通しである。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力で支えられている。今後も限られたスタッフであるが医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組むたい。手術統計以外に、入院治療として突発性難聴に対する点滴治療があった。

3. 診療内容充実への取り組み、地域連携への取り組み

補聴器外来を行い、引き続き聾学校と連携を取りながら、難聴児の福祉、療育にも寄与している。

睡眠時無呼吸に対する携帯式アプモニターは予約貸出制としたため年間約170件の検査が行えているものの約2ヶ月待ちの状況である。2011年から1台増設し3台で検査の予定である。

長期にわたる治療や経過観察が必要になる滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎の症例を中心に地域医療機関の先生方と連絡を取って患者紹介を行ない病診連携を進めた。限られた医療資源の活用のため、かかりつけ耳鼻科医との連携を深めて「日常診療はかかりつけ医で、検査・手術治療は当院で」という診療体制とともに、今後は連携パスの策定も視野に入れて病診連携を推進してゆきたい。

言語聴覚療法について

耳鼻科言語聴覚士は常勤1名、非常勤1名の計2名体制で、聴力検査および言語評価・訓練を実施している。

① 聴力検査

対象者の多くがダウン症や発達障害を持つケースであるため、開業医での聴力判定が難しい。聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。また産院での新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えている。週一度の補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

② 言語評価・訓練

外来では「ことばの遅れ」や「発音の異常」を主訴に来院されるケースが多い。三歳児検診からの精査目的が大半であるが、親が心配して自発的に来院されるケースもある。症状の多くは、全般的な発達遅滞によることばの遅れや器質的な異常を持たない機能性構音障害である。近年は、発達に偏りのある広汎性発達障害と考えられるケースも増えている。耳鼻科ではマンパワー不足によりこれらのケースを抱える余力がないため、特別な事情以外は各関連機関へ紹介させていただいている。

入院では脳外科や外科からの紹介症例を受けている。脳損傷後の高次脳機能障害や構音障害の評価および訓練、気管切開カニューレ使用中（または抜管後）の発声・構音訓練を実施している。言語室の防音効果が乏しい、車椅子利用が困難などハード面の問題もさることながら、脳機能評価のためのテストバッテリーが乏しい状態にあり、言語評価・訓練への課題は山積みである。今後は課題を解決し、よりよい環境を整えてゆきたいと考えている。脳損傷者は、意識レベル改善後の早期リハビリが効果的であると考えられている。言語聴覚士が介入することで、現状把握、コミュニケーションのとり方、どのような経過をたどりそうか、転院するならどの方向かなどの情報が少しは提供できると考えている。

診療実績：

手術（併施を含む）

入院手術	件数	日帰り手術	件数
扁桃摘出術	57	鼓膜チューブ挿入術	170
アデノイド切除術	56	鼓膜肉芽切除術等	8
鼓膜チューブ挿入術	56	鼓膜穿孔閉鎖術	2
鼓膜肉芽切除、チューブ抜去等	6	口唇粘液嚢胞摘出術	2
深頸部膿瘍切開排膿・穿刺術	3	外耳道異物摘出術	1
後鼻孔ポリープ摘出術	3	咽頭異物摘出術	1
外耳道・中耳真珠腫摘出術	2	合計患者数	179
がま腫ピシバニール注入	2		
下鼻甲介切除術	1		
外耳道腫瘍切除術	1		
合計患者数	129		

聴力検査・言語聴覚・補聴器外来統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
気導純音聴力検査	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	8
標準純音聴力検査	28	32	45	44	25	38	59	106	31	28	15	35	381
標準語音聴力検査	2	0	1	2	0	2	8	1	3	2	1	1	20
遊戯聴力検査	154	175	181	193	170	189	245	189	177	198	201	188	1750
補聴器適合検査1回目	0	4	0	3	3	0	1	3	4	6	6	5	31
補聴器適合検査2回目以降	16	19	19	21	13	19	13	21	24	20	22	30	183
高度難聴指導管理料	0	2	0	3	1	0	3	0	1	2	5	2	17
音声機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発達及び知能検査 容易	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発達及び知能検査 複雑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心理検査 極複雑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
聴力検査件数													2390
心理検査件数													0
検査総件数													2390

リハビリテーション料Ⅲ(補外)	10	13	5	4	4	5	0	0	0	0	1	0	14
リハビリテーション料Ⅲ(言語)	27	15	25	33	35	16	27	24	24	20	24	28	231
言語総単位数													245

聴力検査人数(人)	184	207	227	239	195	229	312	296	218	229	217	224	2159
補聴器外来人数(人)	16	25	19	27	17	19	17	24	29	28	33	37	231
言語聴覚療法(補聴器:人)	10	9	14	5	5	5	0	0	0	0	0	0	15
言語聴覚療法(人)	14	7	13	15	17	8	14	13	10	13	14	19	123
延べ人数(人)	224	248	273	286	234	261	343	333	257	270	264	280	2528
実人数(人)	206	235	252	276	223	254	323	316	253	262	255	274	2436
言語新患数(人)	5	1	0	0	2	1	8	5	1	6	2	5	30

耳鼻科新患統計 2010年耳鼻咽喉科新患（疾患は重複計上）・紹介元別内訳

病 名	症例数	院 内	耳鼻科	小児科	産 科	健 診	な し
言語発達遅滞	21	3	8	6		4	
構音障害	13	3	5	2		2	1
心因性難聴	25		22	3			
難聴	27	15	5	3	2	2	
一側性感音難聴・一側聾	7		6	1			
高度難聴	6		5	1			
感音性難聴	30	1	23	3		2	1
新スク後の聴力精査依頼	23	2	6	3	12		
突発性難聴	1		1				
ムンプス難聴	5		4		1		
めまい症	6	3	3				
顔面神経麻痺	12	4	2	4	2		
内耳奇形	4		4				
耳小骨奇形・連鎖異常	4		2	2			
急性中耳炎・反復性中耳炎	27	15	12				
慢性中耳炎	5	1	4				
滲出性中耳炎	237	45	166	15	3	6	2
癒着性・真珠腫性中耳炎	5	1	4				
外耳炎	5	4	1				
外耳道異物	3	2	1				
小耳症・耳介奇形	10	2	1	2	5		
先天性耳ろう孔	8		8				
外耳道閉鎖症	10	3	4	3			
外耳道腫瘍	2		2				
外傷性鼓膜穿孔	4		4				
側頭骨骨折	3	3					
耳垢・耳垢塞栓	17	9	4	3		1	
アレルギー性鼻炎	55	20	28	5			2
慢性副鼻腔炎・鼻ポリープ	42	16	20	6			
急性副鼻腔炎	6	3	3				
鼻出血	5	5					
鼻骨骨折	1	1					
鼻咽頭閉鎖不全症	2	1		1			
アデノイド肥大	190	37	122	26		3	2
後鼻腔閉鎖・鼻孔狭窄	4	2	1	1			
上顎腫瘍	1		1				
口蓋裂・粘膜下口蓋裂	7	2	2	1	2		
舌小帯短縮症	9		5	4			
口唇粘液嚢胞	5		2	2			1
舌根嚢胞	2	1		1			
ガマ腫	2		1			1	
舌腫瘍・口腔腫瘍	2			1		1	
習慣性扁桃炎・慢性扁桃炎	12		6	6			
扁桃肥大	84	23	48	11			2
睡眠時無呼吸症候群	119	28	72	17		1	1
咽後膿瘍	1	1					
咽頭異物	2	2					
咽頭狭窄	2	1		1			
耳下腺炎・顎下腺炎	7		6	1			
反復性耳下腺炎	2		1	1			
耳下部血管腫	1		1				
唾石症	3		3				
耳下腺腫瘍	1		1				
声帯結節・声帯ポリープ	2		1	1			
急性喉頭炎・喉頭浮腫	8	8					
喉頭軟化症	29	18	2	9			
反回神経麻痺	23	21	2				
嚥下障害	1			1			
食道異物	1		1				
先天性気管狭窄症	2	2					
頰ろう	1		1				
頰部リンパ管腫	4		4				
頰部腫瘍	3		1	1		1	
頰部リンパ節炎	1	1					
頰部膿瘍	2	1	1				
合計（重複を除く）	: 791	246	385	89	28	29	11

17. 泌尿器科

2010年度は4月に専攻医の岡田桂輔が着任し、それまでの4人体制から5人体制（杉多、中川、高木、久松、岡田）で診療を行った。外来および入院診療実績は2009年と著変なく、全身麻酔手術症例は入院手術が282例、日帰り手術が212例の計494例であった。手術待機期間は入院手術が約3ヶ月、日帰り手術が約3ヶ月と長くなっているが、緊急手術および準緊急手術に関しては、手術室と連携し適切に対応している。学術活動に関しては、中川がニューデリー（インド）での第3回世界小児外科学会に出席し、発表する機会を得た。国内学会は、日本泌尿器科学会、日本小児外科学会、日本小児泌尿器科学会等の学会に参加し、臨床研究の成果を発表した。

尿路系

計

VUR	Cohen	40
	Lich-Gregoir	1
巨大尿管	膀胱尿管新吻合 尿管形成	5
VUR、巨大尿管、水腎症術後	DJ カテーテル抜去	29
神経因性膀胱	膀胱拡大術	3
	膀胱皮膚瘻造設	2
	逆流防止術	1
	膀胱鏡	1
	膀胱皮膚瘻閉鎖	1
水腎水尿管症	尿管皮膚瘻造設	1
水腎症	腎盂形成術	18
後部尿道弁、尿道狭窄	内視尿道切開術	4
水腎症	逆行性腎盂尿管造影	1
尿失禁	尿失禁防止手術	1
	膀胱鏡	1
重複腎盂尿管	半腎切除	4
	逆流防止術	2
	膀胱鏡	1
膀胱腫瘍	TUR-B t	1
	膀胱鏡	2
女兒外尿道口腫瘍	腫瘍切除	1
異型性腎	膀胱鏡	1
	腎尿管切除	3
ネフローゼ症候群	開放腎生検	3
尿道損傷	尿道修復	2
	膀胱鏡	1
水腎症、腔腫瘍	D J カテーテル留置	7
膀胱結石	経尿道的碎石術	1
膀胱外反	膀胱閉鎖	1
鎖肛	膀胱鏡	3
重複子宮腔	腔中隔切除	1
		143

性器系		計
先天性副腎皮質過形成	腔形成	1
BXO	包皮環狀切除	12
chordee without hypospadias	陰莖形成	2
Cloaca	内視鏡検査	3
尿道下裂	free graft	32
	Koyanagi	2
	陰莖形成	4
	Thiersch-Duplay	1
	外尿道口形成	4
	TIP	3
	口腔粘膜	3
	二期的尿道下裂手術	4
	Johanson 手術	1
	再手術	1
	そけいヘルニア	ヘルニア手術
前置陰囊	陰囊形成術	1
陰囊水腫	陰囊水腫根治術	28
外尿道口囊腫	外尿道口囊腫摘除	3
精索静脈瘤	顕微鏡下精索静脈低位結紮術	15
	顕微鏡下高位結紮	1
停留精巣	精巣固定術 (transinguinal)	123
	精巣固定術 (transscrotal)	12
精巣腫瘍	精巣腫瘍核出術	2
	精巣腫瘍高位摘除	1
精巣捻転	精巣摘除	4
	捻転整復	5
停留精巣 / vanishing	精巣摘除	10
	腹腔鏡	1
停留精巣 / 腹腔内	腹腔鏡下精巣血管結紮 (F-S1 期目)	2
	腹腔鏡下精巣固定術 (F-S2 期目)	6
	精巣固定	1
包莖	包皮環狀切除	6
埋没陰莖	包皮形成術 (逆 Byars flap)	6
尿道下裂	瘻孔閉鎖術	8
	内視鏡	1
遊走精巣	精巣固定術 (transscrotal)	15
尿道上裂	包皮翻転	1
尿道下裂術後狭窄	内視鏡	1
	外尿道形成、切開術	2
尿道下裂術後憩室	憩室切除	1
精巣性女性化症候群	性腺摘除	1
M R T K 症候群	腸管利用腔形成	1
	会陰式造腔術	1
	内視鏡	1
処女膜肥大	処女膜切除	2
急性陰囊症	試験切開	1
ovotesticular DSD	卵巣成分切除	1
		351

入院	282
日帰り	212

18. 小児歯科

診療内容として全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内の心疾患や血液疾患などを有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。それに加え形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児のホツツ床、術前顎矯正治療の患児の成長により歯列矯正治療を受ける患者数が増加している。

人事面には変わりはなく、現在小児歯科は常勤歯科医師一名の体制をとっているが、一人医長体制では患者数に限りがありまた引継ぎが困難で問題が生じやすいため、複数医師体制が望ましい。病院歯科としてより機能の幅を広げるためには口腔外科分野に秀でた歯科医師との2人体制が望まれる。

新患内訳 (2010)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	66	0	0	0	66
	齲蝕	17	33	2	1	53
	乳歯晚期残存	3	2	0	0	5
	先天性歯	0	0	1	0	1
	その他	1	1	2	0	4
矯正歯科関連	不正咬合	16	1	0	0	17
	術前顎矯正	19	0	1	0	20
	その他	0	0	0	0	0
口腔外科関連	外傷	3	3	0	0	6
	小帯異常	3	1	3	0	7
	埋伏歯・過剰歯	2	7	0	0	9
その他		4	3	3	1	11
鼻咽腔閉鎖不全		0	0	0	0	0
摂食嚥下障害		12	0	1	0	13
計		146	51	13	2	212

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	6	6
外来手術	51	1	52
計	51	7	58

19. 麻酔科

1. 人事異動

専攻医の異動として、神戸大学は大井医師、岡田医師が大学に戻り、山本医師、野村医師、丸山医師を迎えた。大阪医大からは浅野医師が大学に戻り、楠医師を迎えた。香川大学からは笠間医師が大学に戻り、植村医師を迎えた。大阪市立大学から萩原医師が大学に戻り、吉岡医師、川崎医師を順次迎えた。公募で来ていた阪本医師は神戸大学へ異動、上北医師は姫路循環器病センターへ研修に行くことになった。

県立がんセンターから波戸医師、当院小児科から制野医師を、それぞれ6ヶ月間の研修に迎えた。

村田医師は2010年9月末をもって当院の非常勤を終了し、引き続き県立塚口病院などで麻酔に従事することになった。

2010年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、野々村、鹿原、黒寄、楠、山本、波戸、野村、植村、丸山、川崎の15名で業務を行っている。

2. 活動状況と反省

2010年の総麻酔件数は4687件であり、前年（4756件）に比べて微減した。麻酔件数は阪神大震災の後より一貫して増加傾向にあったが、現在の件数は施設の規模からみてもほぼ限界ではないかと考えている。

症例の内容として複雑心奇形、気管狭窄、新生児緊急、大量出血症例など重症例が多く、知識、技術、体力が要求される一方で、人員面では、麻酔科医の半分を占める専攻医のほとんどが1年以下で異動となっており、指導可能な医師の負担が増加している。この点については次年度は2年勤務予定の医師を公募し、一定の技能を持った麻酔科医をより多く確保することで解決したいと考えている。

入院手術、日帰り手術、検査の麻酔、病棟麻酔、術前麻酔科診察の各業務において、大きな事故もなく一年を過ごせたことに安堵しており、看護部や外科系各科からは様々な協力をいただいたことにこの場を借りて感謝を申し上げたい。

3. 展望

多くの件数を抱える一方で、安全かつ快適に手術・麻酔を行うことは大命題である。麻酔科医の教育や知識技術の向上、十分なコミュニケーション、麻酔業務の効率化、そして麻酔科医の確保により、安全・快適な麻酔を提供し続けたい。

麻酔科 診療統計

総麻酔件数（麻酔科管理症例数） 2010.1.1～12.31

4687 件

上記に手術室で行われた局所麻酔症例を加えた
症例数：4951 件

入院区分および麻酔の場所による内訳

入院手術の麻酔（手術室1～7室）	2771
日帰り手術の麻酔（日帰り手術室）	1134
病棟での麻酔	445
放射線部門（アンギオ室、透視室）での麻酔	313
MR I 検査時の麻酔	24
計	4687

麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	4201
全身麻酔・静脈麻酔	112
全身麻酔・吸入麻酔＋硬膜外麻酔	140
全身麻酔・静脈麻酔＋硬膜外麻酔	3
硬膜外麻酔＋脊椎麻酔	1
脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔）	227
その他	3
全身麻酔 小計	4456
合計	4687

年齢別内訳

1ヶ月まで	107
12ヶ月まで	781
5歳まで	1891
18歳まで	1608
65歳まで	300
66歳以上	0
計	4687

手術部位による内訳（概略）

開頭術	80
開胸・縦隔手術	107
先天性心疾患根治術	172
先天性心疾患姑息術	63
その他の心臓手術	39
胸腹部手術	2
上腹部手術	111
下腹部手術	173
帝王切開	255
頭頸部・咽喉頭手術	1314
胸壁・腹壁・会陰手術	1123
脊椎手術	31
股関節・四肢手術	370
検査、手術室内	173
検査、手術室外	396
その他	278
計	4687

20. 新生児科

1. 医師の異動

4月をもって、2度の在勤を終了し、新生児専門医を取得した上田 雅章医師が、豊岡病院に赴任した。兵庫県北部の新生児医療に貢献し、兵庫県の周産期医療体制の充実に寄与することが期待される。替わって、岸田 祐介・岩谷 壮医師がフェローとして着任した。当科での研修経験もあり、いずれ中核を担う即戦力として活躍が期待される。坂井 仁美、溝渕 雅巳、芳本 誠司、中尾 秀人は引き続き在任した。4月に岡山大学に帰局した妹尾 恵美に続き、10月に岡山大学より石原 佳代が6ヶ月の研修予定で着任した。他に本年も多くの専攻医・後期研修医の往来があり、新生児・小児医療の展開にあたらしい息吹を吹き込んでいただいた。専攻医に対する教育・研修の工夫を重ね、着任する医師の要望にこたえていく努力も重要と認識している。周産期医療の従事者を再生産していくことは、総合周産期母子医療センターの重大な使命であり、そのためにもスタッフの確保は最重要案件となっている。

2. 診療活動

新生児病棟は変動はあるものの重症児、長期入院児が引き続き多く、業務は上限を超えつつある。Simple, Clear, Speedy を旨として医療の安全には充分留意して、全員の意志疎通を計り、患児の最善の利益が尊重できる診療行為の遂行に勤めている。NICU・GCUの両看護長をはじめ、看護部門の全面的な理解と協力は、年を経て洗練された新生児医療に反映している。入院患児の重症化を反映して、在宅患児を対象とする外来業務も重症児の管理が増加するため、担当医の負担はますます多くなり、他の医療機関との連携、役割分担の相互理解も引き続き重要な案件である。本年も集学的治療を要する重症児の診療については、関連各科・関連病棟の御理解と御協力をいただき、厚く感謝するところである。地域医療連携部門との協力体制が確立し、長期入院児の在宅医療への移行も一段とスムーズになった。今後は、在宅の重症児に対するサポートを、病院全体の機能の中で如何に円滑に対応できるかの課題の解決にも、展望を開きたい。

3. 学会活動

多忙な診療の傍ら、国内外に渡って主要な学会での活発な活動がなされている。出来る限り、多くのスタッフが各学会に参加できるように県当局、病院の研修に対する支援を活用したい。

2010年新生児科統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
53	46	54	56	45	53	53	52	50	55	55	40	612

2) 診療科別入院数

新生児科入院	612	新生児科からの転科	50
		循環器内科	34
		一般外科	11
		脳神経外科	4
		血液腫瘍科	1

3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	160	98	9	0	37	0	0	1	5	4	1	5
一次搬送	126	84	6	0	34	0	0	1	0	1	0	0
(14日以上)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	34	14	3	0	3	0	0	0	5	3	1	5
院内出生	452	264	18	2	93	13	0	27	13	2	3	17
緊急母体	149	91	5	1	27	3	0	9	10	1	2	0
非緊急母体	303	173	13	1	66	10	0	18	3	1	1	17
院内出生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	575	345	24	2	127	13	0	28	13	3	3	17

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生症例、転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	3	3	100%	0	0
500-749 g	12	12	100%	0	0
750-999 g	21	21	100%	0	0
1,000-1,499 g	47	46	97.9%	0	0
1,500-1,999 g	96	89	92.7%	0	2
2,000-2,499 g	154	132	85.7%	5	64
2,500 g 以上	242	149	61.6%	18	78
計	575	452	78.6%	23	144

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22、23	4	4	100%	0	0
24、25	13	13	100%	0	0
26、27	13	13	100%	0	0
28、29	19	19	100%	0	0
30、31	30	30	100%	0	0
32、33	48	46	96%	0	0
34-36	144	126	87.5%	4	36
37以上	304	201	66.1%	19	108
計	575	452	78.6%	23	144

2) 分娩方法

出生体重	患者数	帝切例	率
500 g 未満	3	2	66.7%
500-749 g	12	10	83.3%
750-999 g	21	21	100%
1,000-1,499 g	47	41	87.2%
1,500-1,999 g	96	65	67.7%
2,000-2,499 g	154	114	74.0%
2,500 g 以上	242	98	40.5%
計	575	351	61.0%

週数	患者数	帝切例	率
22、23	4	1	25.0%
24、25	13	13	100%
26、27	13	13	100%
28、29	19	18	94.7%
30、31	30	22	73.3%
32、33	48	35	72.9%
34-36	144	106	73.6%
37以上	304	143	47.0%
計	575	351	61.0%

3) 生存率、死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	3	0	100%
500-749 g	12	0	100%
750-999 g	21	1	95.2%
1,000-1,499 g	47	1	98%
1,500-1,999 g	96	4	95.8%
2,000-2,499 g	154	2	98.7%
2,500 g 以上	242	3	98.8%
計	575	11	98.1%

週数	患者数	死亡数	生存率
22、23	4	0	100%
24、25	13	0	100%
26、27	13	0	100%
28、29	19	1	94.7%
30、31	30	1	96.7%
32、33	48	1	98%
34-36	144	3	97.9%
37 以上	304	5	98.4%
計	575	11	98.1%

4) 多胎割合 (品胎 4 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	3	1	33.3%	0
500-749 g	12	0	0.0%	0
750-999 g	21	4	19.0%	1
1,000-1,499 g	47	11	23.4%	8
1,500-1,999 g	96	30	31.3%	0
2,000-2,499 g	154	55	35.7%	2
2,500 g 以上	242	23	9.5%	0
計	575	124	21.6%	11

週数	患者数	多胎	率	品胎
22、23	4	0	0.0%	0
24、25	13	0	0.0%	0
26、27	13	1	7.7%	0
28、29	19	4	21.1%	0
30、31	30	11	36.7%	9
32、33	48	10	20.8%	0
34-36	144	62	43.1%	2
37 以上	304	36	11.8%	0
計	575	124	21.6%	11

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	3	3	100%	0	3
500-749 g	12	12	100%	5	12
750-999 g	21	20	95%	4	18
1,000-1,499 g	47	31	66.0%	2	41
1,500-1,999 g	96	28	29.2%	0	28
2,000-2,499 g	154	23	14.9%	0	23
2,500 g 以上	242	35	14.5%	2	18
計	575	152	26.4%	13	143

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22、23	4	4	100%	0	4
24、25	13	13	100%	6	13
26、27	13	13	100%	3	12
28、29	19	19	100%	2	18
30、31	30	22	73.3%	0	24
32、33	48	15	31.3%	0	27
34-36	144	22	15.3%	0	17
37 以上	304	44	14.5%	2	28
計	575	152	26.4%	13	143

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	6例 (+ 二次搬送 7 例)	生後ステロイド全身投与	31例
NO 吸入療法	12例	ステロイド吸入	34例
ECMO	1例	在宅酸素療法	7例 (内 CLD5 例 + 二次搬送 CLD1 例)
		ROP レーザー	4例

7) 新生児搬送出動回数

65 回

入院	64
転院	1

分娩立合い	2
時間外搬送	24

8) 双胎生存率、死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	1	0	100%
500-749 g	0	0	
750-999 g	3	0	100%
1,000-1,499 g	3	0	100%
1,500-1,999 g	30	1	97%
2,000-2,499 g	53	0	100%
2,500 g 以上	23	0	100%
計	113	1	99%

週数	患者数	死亡数	生存率
22、23	0	0	
24、25	0	0	
26、27	1	0	100%
28、29	4	0	100%
30、31	2	0	100%
32、33	10	0	100%
34-36	60	0	100%
37 以上	36	1	97%
計	113	1	99%

21. 産 科

本年も大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝しております。

病床稼働率は年間平均95%と高い数字を示すことができました。これは総合周産期母子医療センターとしては非常に高い数字です。

診療統計は次ページ以降の表をご覧ください。限られた医療資源の中で高いパフォーマンスを示すことができました。

本年行われた厚労省の周産期母子医療センターの評価において産科は新生児科と共に「A」評価をいただきました。

また、学術活動では本誌の該当頁に掲載されておりますように多くのoutputを行いました。

中でも、喜吉賢二医長が4月23～25日に東京で開催された第62回日本産科婦人科学会学術集会におきまして「当院における切迫早産、特に頸管短縮例、胎胞形成例の管理」が優秀演題賞候補プログラムに選ばれました。審査の結果惜しくも受賞を逃しましたが、今後の症例の蓄積と研究の発展が期待されます。また、10月10～14日チェコのプラハで開催された「20th World congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology」で「Twin-twin transfusion syndrome followed by the recipient intrauterine fetal death and the donor right heart failure after selective fetoscopic laser photo-coagulation: a case report」を発表しました。当科での海外学会の発表は初めてでした。

喜吉医長はSabrina's Foundationのご支援で米国のクリーブランドクリニックを訪れ(5/10～5/24)、プリセプターシッププログラムを受けました。7月1日に「クリーブランドクリニック研修報告会」でUSA及びクリーブランドクリニックでの医療の現状や研修内容の報告を行いました。こうした機会は若手産科医師のmotivation upに繋がると思われます。

10月16日東京で開催された第27回日本分娩管理研究会のシンポジウムにおいて船越は「胎盤早期剥離の取り扱い“超緊急帝王切開術”の実際と児の予後」の講演を行いました。本年の超緊急帝王切開は19件でした。

また、12月19日兵庫県主催で兵庫県医師会館にて開催されました「平成22年度兵庫県周産期医療研修会」におきまして、御茶ノ水大学大学院人間文化創成科学研究科教授の川目 裕教授が特別講演として「周産期医療における先天異常の診かた、考え方：診断とフォローアップを中心に」を講演されました。研修テーマとして「胎児発育不全を指摘され出生した新生児の看護」を杉森恵美 GCU 看護師が、また、「胎児機能不全—最近経験した症例から学ぶ—」を高松祐幸医長が発表しました。

今年も 県立がんセンターから尾張慶子 11月、神戸赤十字病院から大鶴 徹 8月、今田宙志 9月、田原奈津子 10月、西村 健 11月、大久保悠祐 12月、斎藤 光 1月(敬称略)が臨床研修医(2年目)として各1ヶ月間当科で研修を行いました。1ヶ月間という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたことと思います。

2008年5月から始まった放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の状態を検討する「MRIカンファレンス」を月1回隔月で開催しております。読影報告書からだけでは伺えないMRIの読み方についてリアルに研修することができます。

また、同6月より管理に難渋した症例のふりかえりと今後の対応について検討する「症例検討会」を月1回隔月で開催しております。

船越は病院建て替えに向けて「新病院構想委員会」の会議に出席し、その一環として静岡県立こども病院

と愛知小児保健医療総合センター病院見学（6/10～11）を行いました。

当院は兵庫県の唯一の総合周産期母子医療センターですので、兵庫県の周産期医療の最後の砦として診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。平成22年の病床稼働率は95%、緊急母体搬送の受け入れ率は69%でした。病床稼働率が高くなれば、満床またはオーバーベッドの日が多くなるためベッドコントロールの困難な日が増加し、結果として緊急母体搬送を受け入れることができません。また、外来紹介を受け即日入院が必要と判断されても入院ベッドがないこともあります。当科はこども病院に併設された周産期母子医療センターですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。平成22年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は176名でした。また、産科以外の成人を診る常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学病院や神戸医療センター中央市民病院をご紹介しております。

また、近畿ブロック周産期医療広域連携が行われこども病院は兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送に対応しています。

当科も常にマンパワー不足の危険性があり、現在のスタッフの退職や病気・事故で長期休暇を取得すると、たちまち診療レベルや当直体制を維持することができなくなって崩壊してしまう可能性がありますので、神戸大学医学部産科婦人科学教室から医師の派遣と第2当直医のご協力をいただき、また、医師公募も行っております。

臨床上の変更点の主な部分を列挙します。

1. 先天性サイトメガロウイルス感染スクリーニングのための新生児尿検査：神戸大学医学部産科婦人科学教室から依頼を受けてGCU、NICU、産科病棟看護師の協力の下、5月より開始した。
2. 死産児のAI（autopsy imaging）システムの導入：放射線部、放射線科の協力を得て導入した。
3. 面会制限：面会に来たこどもから入院中の母体への感染予防のため9月から面会制限を強化した。
4. 乳房外来：2011年3月に産婦人科外来で助産師、看護師が開始するべく準備している。

2010年人事

- 1月：船越 徹周産期センター次長、産科科長兼産科部長、佐本 崇部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、田中達也医長、笹原 淳医長、牧志 綾医長の7人体制で2010年をスタートした。佐々木絢子医長は2009年12月10日より産休・育休取得中。
- 4月：前澤陽子専攻医が神戸大学医局人事により県立淡路病院から、城 道久専攻医が和歌山県立医大より赴任し9人体制となった（当院の当直、オンコール体制を労働基準法に準拠して維持するためには最低8人以上の医師が必要である）。
- 10月：前澤先生が9月末で大学病院へ移動となり、8人体制になった。

1) 平成 22 年産科診療状況

入院患者数	610
うち母体搬送依頼電話によるもの	172
紹介元へ返送または他院紹介	176
分娩母体数 (22 週以降)	397
正期産	183
早産	214
過期産児	0
多胎妊娠	63
うち双胎	60
うち品胎	3
うち要胎	0
経膈分娩	142
うち鉗子・吸引分娩	14
うち骨盤位牽出術	1
帝王切開術	254
出産児数 (22 週以降、死産含む)	462
正期産児	202
早産児	260
過期産児	0
低出生体重児 (2500 g 未満)	319
巨大児 (4000 g 以上)	0
その他	
切迫流産	8
子宮内胎児死亡 (22 週以降)	4
産後出血・DIC	7
自己血貯血回数	29

入院患者数は 2010.1-12 入院したもの、
 分娩母体数、出産児数は 2010.1-12 に出
 産したもの
 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、入院
 せず外来レベルで行われたものもある

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	2	1%	中播磨	姫路市	24	13%
	西宮市	17	9%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	2	1%		小計	24	13%
	小計	21	11%	西播磨	相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	2	1%		龍野市	1	1%
	三田市	0	0%		赤穂市	0	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	1	1%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	3	2%		宍粟郡	4	2%
	小計	3	2%	小計	5	3%	
神戸市	須磨区	141	74%	但馬	豊岡市	3	2%
	中央区	37	19%		城崎郡	1	1%
	西区	88	46%		出石郡	0	0%
	垂水区	22	12%		美方郡	0	0%
	灘区	17	9%		養父市	0	0%
	東灘区	15	8%		朝来郡	0	0%
	北区	22	12%		小計	4	2%
	兵庫区	0	0%	丹波	篠山市	2	1%
	長田区	13	7%		丹波市	1	1%
	小計	355	186%		小計	3	2%
	東播磨	明石市	110	58%	淡路	洲本市	15
加古川市		9	5%	淡路市		1	1%
高砂市		3	2%	南あわじ市		0	0%
加古郡		0	0%	小計		16	8%
小計		122	64%	他府県	大阪府	8	4%
北播磨	西脇市	8	4%		京都	2	1%
	三木市	2	1%		その他	12	6%
	小野市	14	7%		小計	22	12%
	加西市	0	0%	海外	1	1%	
	美囊郡	0	0%	院内紹介	2	1%	
	加東郡	1	1%	不明	5	3%	
	多可郡	2	1%	計	610	319%	
	小計	27	14%				

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 入院時疾患名別 (重複あり)

疾患名	件数	率
切迫早産	234	15%
高齢妊娠	183	12%
胎児形態異常	139	9%
子宮内胎児発育遅延	138	9%
多胎	82	5%
うち双胎	73	5%
うち品胎	9	1%
既往帝王切開	65	4%
羊水検査	55	4%
前期破水	55	4%
妊娠高血圧症候群	52	3%
羊水過多・過少	49	3%
胎児機能不全	45	3%
胎位異常	39	3%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	38	2%
B群溶連菌保菌者	33	2%
胎盤早期剥離	17	1%
発育不均衡双胎	16	1%
頸管無力症	13	1%
子宮筋腫合併	13	1%
他科合併症	10	1%
切迫流産	8	1%
糖尿病合併・妊娠糖尿病	6	0%
前置胎盤	6	0%
その他	161	10%
計	1539	100%

入院母体1人あたり平均2.5件の疾患を有す。

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	462	76%
平日日勤帯		
時間外	148	24%
平日夜勤帯	68	11%
休日日勤帯	35	6%
休日夜勤帯	45	7%
計	610	100%

6) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	178	70%
平日日勤帯		
時間外	76	30%
平日夜勤帯	38	15%
休日日勤帯	17	7%
休日夜勤帯	21	8%
計	254	100%

5) 分娩時間帯 (流産、死産含む)

時間帯	件数	率
時間内	239	59%
平日日勤帯		
時間外	164	41%
平日夜勤帯	95	24%
休日日勤帯	25	6%
休日夜勤帯	44	11%
計	403	100%

7) 出産時児体重 (流産、死産含む)

児体重	件数	率	累積率
～499 g	15	3%	3%
～999 g	36	8%	11%
～1499 g	47	10%	21%
～1999 g	91	19%	40%
～2499 g	133	28%	69%
～2999 g	109	23%	92%
～3499 g	31	7%	99%
～3999 g	6	1%	100%
～4499 g	0	0%	100%
計	468	100%	

8) 入院時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
～21週	89	15%	15%
22～24週	40	7%	21%
25～28週	82	13%	35%
29～32週	109	18%	52%
33～36週	140	23%	75%
37週～	144	24%	99%
不明	0	0%	99%
産後	6	1%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	610	100%	

9) 分娩時妊娠週数 (流産、死産含む)

週数	件数	率	累積率
～21週	6	1%	1%
22～24週	14	3%	5%
25～28週	30	7%	12%
29～32週	46	11%	24%
33～36週	124	31%	55%
37～41週	183	45%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	403	100%	

10) 妊娠延長期間 (37週未満の入院から分娩まで)

延長期間	件数	率	累積率
当日	59	28%	28%
～1日	26	12%	40%
～1週間	42	20%	59%
～2週間	19	9%	68%
～4週間	22	10%	79%
～8週間	29	14%	92%
～12週間	15	7%	99%
12週間～	2	1%	100%
計	214	100%	
平均	15.1日間		

11) バックトランスファー (紹介元へ戻す) および他院紹介件数

	件数
外来患者	131
入院患者	45
計	176

12) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	21	0	0%
2	24	8	33%
3	23	11	48%
4	24	5	21%
5	23	6	26%
6	19	3	16%
7	14	4	29%
8	30	7	23%
9	33	11	33%
10	20	6	30%
11	18	9	50%
12	27	15	56%
不明	0	0	0%
計	276	85	31%

依頼件数には、結果的に外来受診となったものも含む。

13) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFIU6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	

14) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	2	1%	中播磨	姫路市	2	1%
	西宮市	13	5%		神埼郡	0	0%
	芦屋市	2	1%		小計	2	1%
	小計	17	6%		西播磨	相生市	0
阪神北	宝塚市	1	0%	赤穂市		0	0%
	三田市	0	0%	宍粟市		0	0%
	川西市	1	0%	たつの市		0	0%
	伊丹市	0	0%	揖保郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%	赤穂郡	0	0%	
	小計	2	1%	佐用郡	0	0%	
神戸市	須磨区	70	25%	小計	0	0%	
	中央区	13	5%	但馬	豊岡市	3	1%
	西区	36	13%		養父市	0	0%
	垂水区	11	4%		朝来市	0	0%
	灘区	9	3%		美方郡	0	0%
	東灘区	6	2%	小計	3	1%	
	北区	12	4%	丹波	篠山市	3	1%
	兵庫区	1	0%		丹波市	0	0%
	長田区	14	5%	小計	3	1%	
	小計	172	62%	淡路	洲本市	13	5%
東播磨	明石市	48	17%		南あわじ市	0	0%
	加古川市	3	1%		淡路市	0	0%
	高砂市	1	0%		小計	13	5%
	加古郡	0	0%	他府県	大阪府	1	0%
	小計	52	19%		京都府	1	0%
北播磨	西脇市	2	1%	島根県	鳥根県	1	0%
	三木市	0	0%		他	0	0%
	小野市	7	3%	小計	3	1%	
	加西市	0	0%	海外		0	0%
	加東市	0	0%		院内紹介	0	0%
	多可郡	0	0%	不明	0	0%	
小計	9	3%	計	276	100%		

救急隊はその所属地域にカウントした

15) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	2	1%
地域周産期医療センター	17	6%
一般病院	120	43%
診療所	124	45%
助産院	2	1%
救急隊	8	3%
他	0	0%
不明	3	1%
計	276	100%

16) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	124	45%
	時間外	74	27%
	休日・日勤帯	39	14%
	休日・夜勤帯	39	14%
不明		0	0%
計		276	100%

17) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	139	50%
前期破水	29	11%
妊娠高血圧症候群	22	8%
胎児機能不全	13	5%
胎盤早期剥離	11	4%
子宮内胎児発育遅延	7	3%
前置胎盤	4	1%
多胎	0	0%
他科合併症	0	0%
胎児形態異常	3	1%
胎児死亡	1	0%
出血多量	1	0%
既往帝切	1	0%
切迫流産	0	0%
難産	0	0%
未受診	0	0%
ショック	0	0%
子宮外妊娠	0	0%
その他	28	10%
不明	17	6%
計	276	100%

主たる理由で分類

18) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22週以前	9	3%
22～24週	34	12%
25～28週	65	24%
29～32週	64	23%
33～36週	55	20%
37～40週	34	12%
41週以降	2	1%
分娩後	4	1%
不明	7	3%
非妊娠	2	1%
計	276	100%

19) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～1分	214	78%
～3分	26	87%
～10分	24	96%
～20分	4	97%
～30分	2	98%
～60分	1	98%
～120分	2	99%
不明	5	100%
計	276	100%

20) 受け入れ不可の理由

理由	件数	率
NICU 満床	7	7%
産科満床	57	55%
両方満床	4	4%
対象外	5	5%
その他	29	28%
不明	2	2%
計	104	100%

22. 放射線科

1. 人事異動

2010年度は、3/31に専攻医の板橋健太郎医師、田中大輔医師が退職し、神鋼病院から専攻医として西井達也医師が着任した。今年度は画像診断担当の赤坂好宣、西井達也の2名と、放射線治療担当で副島俊典医師ががんセンターと兼務で週1回の診療にあたる。非常勤医師として藤本雄介医師に月曜、水曜、木曜の週3日、西山章次医師に金曜午前に応援していただいている。

2. 2010年の動向

常勤医が3→2とマンパワーの低下に伴い、CTやMRI、RIの注射業務を主治医で行っていただくようにした。

昨年同様、小児科医の放射線科研修希望者があり、6ヶ月研修者2名を迎えた。

阪神北広域こども急病センターより藤本雄介医師（週3日）の応援が得られ、超音波診療と小児科医の研修指導に尽力していただいている。

3. 放射線科の取り組み

2009年より赤坂が毎週木曜日に塚口病院へ出張し、読影や透視検査、超音波検査、カンファレンスを行っており、徐々に隠れた需要が掘り起こされ、軌道に乗ってきている。

塚口病院からの小児科医の研修希望者も多く来年度は3名を予定している。

この、塚口病院出張がいいモデルケースとなって、マンパワーの確保ができれば今後は県内の他の小児科へも画像に基づいた診療体制の推進を図る予定である。

また、院内の小児科医の研修希望者も従来どおりあり、数名を予定する。

放射線科読影件数（2010年）

CT 3034 件
 単純 2454
 造影 600（心血管系 3D 構築：169）

MRI 2105 件
 単純 1558
 造影 547

RI 488 件

他院持込画像の読影
 131 件

超音波 4108 件

透視 329 件

IVR 2 件
 エコー下肝生検 1
 腎瘻造設 1

単純写真 63 件

放射線治療（照射） 21 件

研修医・専攻医指導記録

専攻医：西井達也
 研修科：放射線科
 研修期間：2010.4.1. ～ 2011.3.31
 指導医：赤坂好宣

読影件数（2010/12/31 まで）

CT：1581
 MRI：1110
 RI：264
 透視検査：142
 超音波検査：792

専攻医：浅野貴大
 研修科：放射線科
 研修期間：2010.1.1. ～ 2010.3.31
 指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：12
 MRI：6
 RI：0
 透視検査：5
 超音波検査：152

フェロー：中川 拓
 研修科：放射線科
 研修期間：2010.7.1. ～ 2010.12.31
 指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：210
 MRI：75
 RI：0
 透視検査：27
 超音波検査：322

専攻医：田中 聡
 研修科：放射線科
 研修期間：2010.10.1. ～ 2011.3.31
 指導医：赤坂好宣

読影件数（2010.12.31 まで）

CT：6
 MRI：2
 RI：0
 透視検査：2
 超音波検査：200

23. 病理診断科

病理診断科は2008年に医療法施行規則の一部を改正する省令により標榜診療科として決定された。兵庫県立こども病院では1970年に開院された当時から現在に至るまで常勤病理医1名体制で行われてきた。胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断を行っている。胎盤はほとんど全例を肉眼的～光顕的病理診断を行っている。ヒルシュスプルング病では病変全域の標本作製とプレパラート毎の神経節細胞カウントを行っている。小児腫瘍では免疫染色を活用し、固形腫瘍においては腫瘍の種類によってそれぞれの全国的なスタディグループに参加して中央病理診断とのダブルチェックを行っている。その他の疾患も侵襲的に摘出された病変の検索であるので、一例一例を大切にしたいと考えている。胎児～小児期の成長という特徴は組織像にも表れると考えられる。多数標本作製して病変のみならず、年齢に応じた正常組織のバリエーションの範囲を把握出来るよう努めている。稀少症例は国立成育医療センターや群馬大学病院病理部、脳腫瘍リファレンスセンター、名古屋第一日赤病院、名古屋第二日赤病院等、移植後肝生検は京都大学病院病理部等にコンサルテーション依頼を行ったり、西神戸医療センターや神戸市立中央市民病院や神戸大学医学部附属病院病理部や大阪府立母子保健総合医療センターや大阪市立総合医療センターの病理部門とディスカッションを行ったりコンサルテーション依頼したりしている。腎生検は通常のパラフィン切片標本の病理報告書作成は病理診断科でおこなっているが、凍結検体を用いた蛍光免疫染色や電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。

病理診断は診療の流れの中では1ポイントのみの関わりであり、全身の中では病変部局所のみを検索であるが、院内カンファレンスやPACSや診療支援システムを通じて、病態の推移の中で検体が採取された時期や、全身の中での病変の位置や広がりなども加味出来るよう努力している。

2009年3月には免疫染色自動装置や抗原不活化のための圧力がまを購入して頂き、免疫染色をより有効に活用することが出来るようになり、新規機器購入及び導入と運用に対するご協力に感謝している。

剖検は11件中、開始・終了のいずれも時間外が4件、開始は時間内であったが終了は時間外にかかった件数は5件、開始・終了のいずれも時間内は2件であった。剖検は介助なしの体制であるが、主治医の積極的な協力が得られた剖検もあり、主治医の熱意に頭が下がった。53件の迅速中、休日の迅速診断は2件だった。

診断の標準化を目指して各種学会、研究会に積極的に参加するようつとめている。小児において病理診断が行われる病態は稀少な病変が多く、稀少であるがゆえに統計学的有意差が出ず論文になりにくい場合もある。論文に至らない症例報告レベルの研究会にも積極的に参加するようにつとめ診療のトピックスに立ち遅れないように心がけている。2010年は平成21年度日本ウィルス腫瘍スタディ(JWiTS)研究会JWiTS報告(1月23日、キャンパスイノベーションセンター東京)日本小児肝癌スタディグループ(JPLT)研究会2010(1月23日、キャンパスイノベーションセンター東京)、日本横紋筋肉腫研究グループ(JRSG)第10回JRSG研究会(1月30日、慶応義塾大学医学部)、第1回小児腫瘍セミナー(2月6日、国立成育医療センター)、第48回日本病理学会近畿支部学術集会(2月27日、大阪市立総合医療センター)、第49回日本病理学会近畿支部学術集会(5月15日、大阪市立総合医療センター)、第28回日本脳腫瘍病理学会2010(5月21日、大阪市中央公会堂)、第63回関西小児病理研究会(6月26日、大阪市立総合医療センター)、第9回小児脳腫瘍治療研究会(7月17日、帝人ビル)、第2回小児腫瘍セミナー神経芽腫セミナー(8月7-8日、国際文化会館)、2010年小児腫瘍症例検討会・第30回日本小児病理研究会・第7回小児病理セミナー(9月3-4日、大阪市立総合医療センター)、第50回日本病理学会近畿支部学術集会(9月11日、京都府立医科大学)、

第 21 回日本小児呼吸器外科研究会（11 月 19 日、ワークピア横浜）、第 41 回日本臨床細胞学会秋期大会（11 月 22 日、神戸ポートピアホテル）、第 26 回日本小児がん学会学術集会（12 月 17 日、大阪国際会議場）に参加した。第 63 回関西小児病理研究会は世話人も行った。

2010 年

組織診断件数 1156 件（うち迅速有り 53 件、胎盤 406 件、腎生検 40 件、その他）

細胞診断件数 191 件

剖 検 件 数 11 件（産科死産児 5 件、循環器科 1 件、新生児科 2 件、小児外科 1 件、血液腫瘍科 1 件、救急科 1 件）

参加カンファレンス

院内：平成 21 年度臨床病理検討会（CPC）（2010 年 3 月 12 日（金）17:30 ～）：臨床担当；循環器科小川禎治先生

周産期カンファレンス（毎週月曜日 16:30 ～）

外科カンファレンス（毎週火曜日 8:00 ～）

腫瘍カンファレンス（毎週水曜日 17:30 ～）

院外：神戸大学病院病理部くすのき会（わからん会）（第 4 水曜日 19:30 ～）

24. 看護部

看護部の理念

- 命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- 固定チームナーシング（継続受け持ち制）体制で、継続的かつ個別的な看護提供を行っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

平成 22 年度看護部目標

1. 安全で確実な看護の提供を行う
 - 1) 看護実践能力の向上
 - 2) 看護外来の導入
 - 3) 医療事故防止
 - 4) 感染防止
2. 新人教育体制の確立
 - 1) 新人教育への全員参加
3. 他職種との連携を図り、チーム医療を推進する
 - 1) 患者・家族の医療参加への支援
 - 2) 他職種とのチーム活動の促進
4. 在宅医療との向けた取り組みを推進する
 - 1) 地域医療連携室と連携した退院支援
 - 2) 地域で活動する看護師の研修受け入れ
5. 経営感覚を醸成する
 - 1) 病床の有効活用と利用率の向上

2) 業務改善の推進

6. 接遇の向上

看護部の活動

【一般外科主体病棟】

手術を目的とした入院患者が90%以上を占めるため周手術期の看護が中心となり今年度は手術を受ける患者、家族に手づくりの絵本を使用してプレパレーションを積極的に行なった。また退院指導も丁寧に実施した。

【循環器A病棟】

入院患児の生活の安全と質の向上を家族と共に考えて、看護を展開した。例えば保育士と共同してプリパレーション他、検査時のリフレクションを試みたり気管切開部の安全確保の工夫をした。又長期入院患児の退院も進められた。

【循環器B病棟】

当病棟における新人教育体制を確立し、スタッフ全員が教育に関われるよう方向性を示した。また、セルフケア能力向上に向けた関わりから、キャリアオーバーの児に対し、循環器患者教室を開催することができた。

【混合A病棟】

今年度は特に整形外科看護の質向上に向けて活動した。内容は昨年作成した創外固定患者のケアマップを活用後クリニカルパスの作成、ヘルテス病のクリニカルパス・標準看護計画、発達性股関節脱臼の看護マニュアルを作成した。

【混合B病棟】

検査、手術入院の患者に対しプレパレーションを積極的に導入し、患者、家族のがんばる力を引き出せるように支援した。慢性の呼吸器管理の患者に対して家族面談を取り入れるなど、家族と同じ視点で在宅ケアができるよう活動した。

【血液主体病棟】

2月26日に神戸市に於いて、第33回近畿小児がん研究会を主催した。そのために準備委員会と発表グループを設置し毎月活動した。医師との合同の会ではあるが、当日看護部会への参加人数は45名であった。

【ICU】

各チーム①ICUにおける救急蘇生の実践能力が向上する。②プリパレーションを取り入れ、安楽にICUでの生活を送ることができる。③成長発達や個性を踏まえた看護計画が立案できる。④ME機器の取り扱いに関する基本的知識、トラブル時の対応ができる、を目標に上げ取り組んだ。

【HCU・外科系一般病棟】

チーム異動となった看護師が、術後の経過を理解しアセスメントできるよう、気管形成術後の予測される問題点や術後の経過に沿った治療方針、吸引などの一連の経過を医師と協同、ラダーⅢ、Ⅳの看護師の知識、スキルを共有、可視化し経過表を作成した。

【NICU】

今年度の主な取り組みとして、日本新生児看護学会が神戸市で開催されたこともあり、これまで取り組んできたことをまとめ計6題発表、その他にも、新生児呼吸フォーラム、県看護協会の看護研究会、周産期事例検討会など積極的に発表した

【GCU】

新人看護職員研修の努力義務化に伴い、全てのスタッフが何らかの形で新人教育に携われるように教育プ

ランを立案し実施した。また、週1回地域連携室看護師と情報交換を行う事により地域への連携を図ることができた。

【産科】

母性における継続看護充実のため、保健指導内容や手順の見直し・母乳外来の開設・緊急時の対応に取り組んだ。「楽しくやろう！」を合言葉に、新人からベテランまで何らかの役割を担い、達成することができた。

【手術室】

入院手術件数が前年度比2%増加し、看護師も5月以降に5名の入れ替わりがあった。安全な看護の提供をめざし、計画的な教育体制を取り個々の看護師の能力の向上を図った。滅菌業務の外部委託、セット化等、業務整理を行った。

【外来】

今年度は、専門病院の外来看護師の役割として、看護相談外来を開設に取り組んだ。糖尿病患者を対象とした看護相談外来を開設し、成長発達に伴った指導・家族の相談を行っている。今後、範囲を拡大していく計画である。

【小児救急センター】

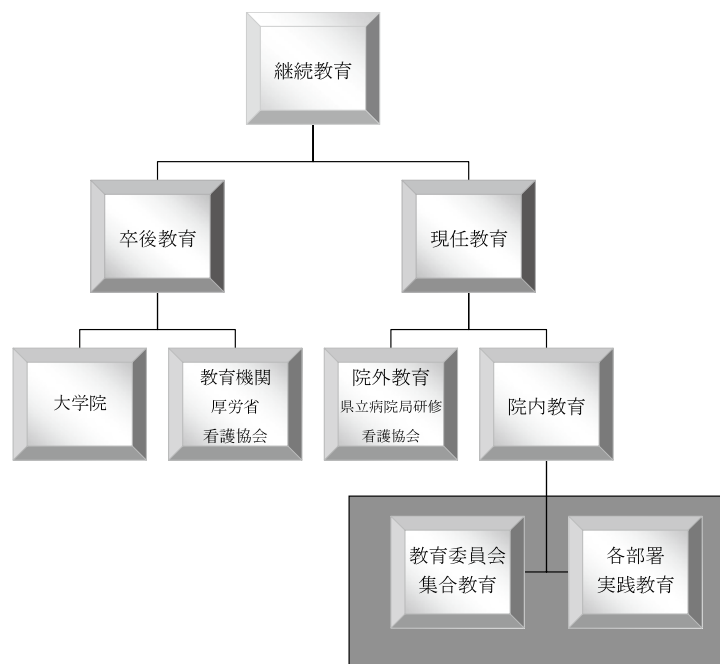
病棟勉強会の一部を受け身的な講義形式から事前課題発表・参加者討論形式に切り替えた。それにより、受講者の主体的な学習意欲と満足、高い学習効果につなげることが出来た。こども病院看護部教育理念

病院・看護部の理念をふまえ、高度専門的医療に対応し質の高い看護が提供できる豊かな人間性を備えた看護師を育成する

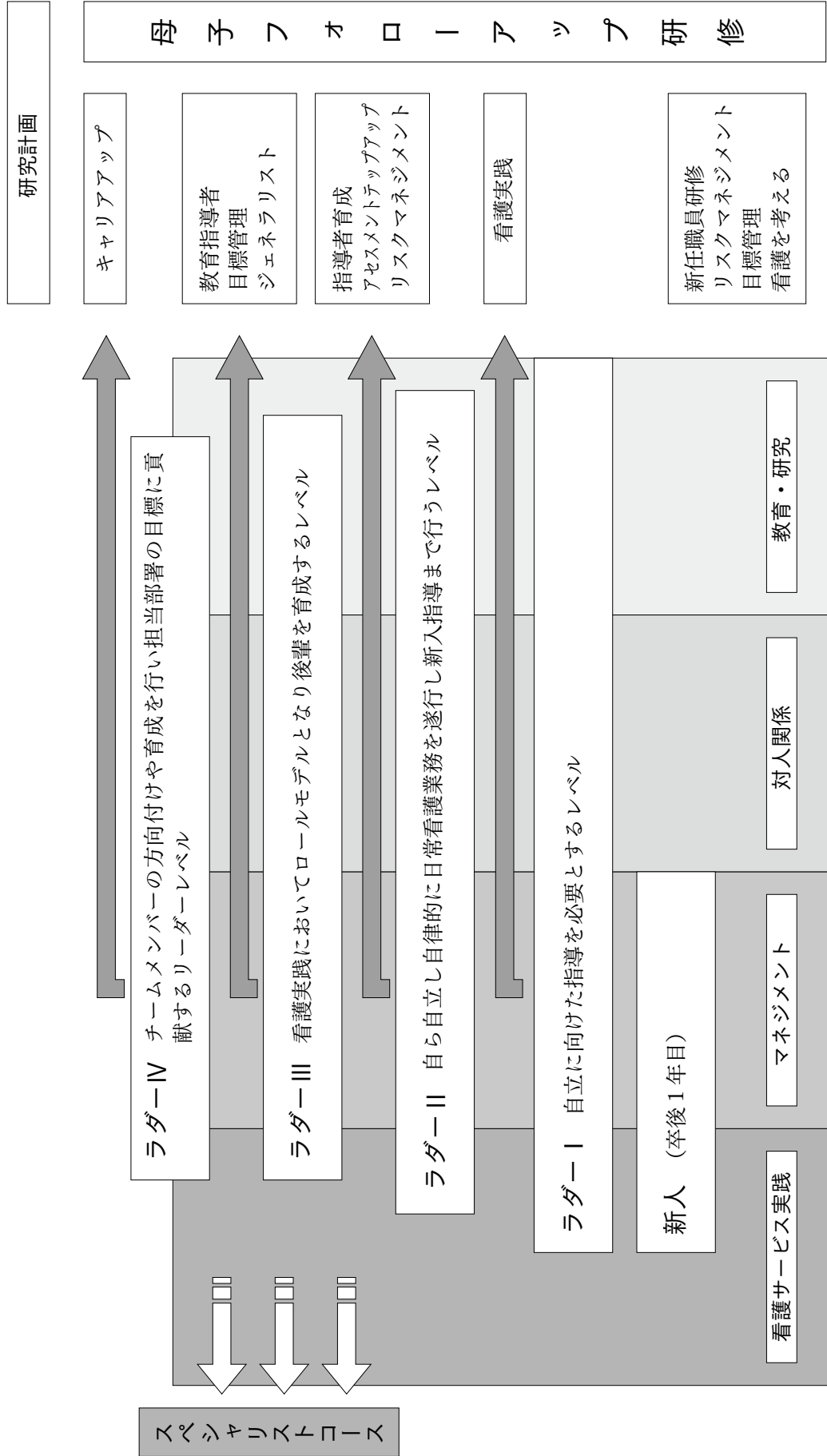
こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



小児ジェネラリストの実践家として役割を認識し行動できる



平成 22 年度 看護部集合教育企画

研修コーナー	新人	新人	新人	新人
研修会名	フォロー研修①安全（感染防止も含む）	フォロー研修②こどもの特徴と看護	フォロー研修③記録	フォロー研修④救急蘇生
研修月日	4月9日（金）	4月16日（金）	4月30日（金）	5月14日（金）
研修時間	8：30～17：15	8：30～17：15	8：30～17：15	8：30～17：15
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養環境の安全性について考えられる 2. 当院の事故発生時の対応方法が分かる 3. 感染防止の基本が理解できる 4. 就職後1週間の思いを共有し今後の意欲へつなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの特徴と必要な看護がわかる 2. 看護提供方式についてわかる 3. 必要な看護技術を段階的に見つけることができる 4. 就職後2週間の思いを共有し今後の意欲へつなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども病院における看護記録がわかる 2. 就職後1ヶ月の思いを共有し今後の意欲へつなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 蘇生場面における一次蘇生、二次蘇生の内容がわかり行動できる 2. 就職後の思いを共有し今後の意欲へつなげる
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な安全確認行動の必要性が分かり、自分の役割が認識できる 2. 療養環境の危険に気づき、報告できる 3. ヒヤット報告の必要性が分かり、記入方法が分かる 4. スタンドアードプロシジョン、ゴミの分別が正確に実施できる 5. 1週間の自分の成長を認めることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの各期の特徴がわかる 2. こどもの成長発達に沿った看護がわかる 3. 固定チームナースングについてわかる 4. 看護技術の振り返りができる 5. 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 6. 2週間の自分の学びを語ることが出来る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記録の必要性を理解する 2. 看護記録の方法がわかる 3. 看護技術の振り返りができる 4. 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 5. 1ヶ月の自分の学び（できたこと）変化について語ることが出来る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 蘇生場面における基本的技術が実施できる 2. 一次蘇生（BLS）の内容がわかり実施できる 3. 二次蘇生における新人の役割がわかり実施できる 4. 看護技術の振り返りができる 5. 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 6. 自分の成長を認めることができる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養環境についての講義 2. ヒヤット報告書の記載方法 3. 技術チェック、GWで振り返り（個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える） 4. 技術習得のための講義、演習 5. GW 新人と既卒をわけておこなう 	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの特徴と看護についての講義 2. 看護提供方式についての講義 3. 技術チェック、GWで振り返り（個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える） 4. 技術習得のための講義、演習 5. GW 新人と既卒をわけておこなう 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録についての講義 2. 記録方法の実際 3. 技術チェック、GWで振り返り（個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える） 4. 技術習得のための講義、演習 5. GW 新人と既卒をわけておこなう 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 蘇生場面における新人の役割を学び、実施する 2. 技術チェック、GWで振り返り（個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える） 3. 技術習得のための講義、演習 4. GW 新人と既卒をわけておこなう
研修方法	講義 GW 演習	講義 GW 演習	講義 GW 演習	講義 GW 演習
学習者	新規採用看護職員 34名	新規採用看護職員 33名	新規採用看護職員 30名	新規採用看護職員 41名
院内外講師	斉藤看護長 鳴滝 CNS	井上 CNS	斉藤看護長	清水 CN
教育委員の執務者	教育担当看護長（桜垣） 教育責任者 中谷 教育委員長（武川） 教育副委員長（菰野 竹井） 教育委員（●菰野 和田 伊丹）	教育担当看護長（桜垣） 教育責任者 中谷 教育委員長（武川） 教育副委員長（菰野 竹井） 教育委員（●小林 土井 竹田 中村）	教育担当看護長（桜垣） 教育責任者 中谷 教育委員長（武川） 教育副委員長（菰野 竹井） 教育委員（●藤田 斉藤 後藤）	教育担当看護長（桜垣） 教育責任者 中谷 教育委員長（武川） 教育副委員長（菰野 竹井） 教育委員（●圓尾 伊丹）
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB

研修コース	新人	新人	新人	新人	新人	新人
研修会名	フォロー研修⑤呼吸器管理基礎	フォロー研修⑥家族看護 放射線科	フォロー研修⑦子どもの権利 摂食 小児麻酔	フォロー研修⑧多重業務 DPC 看護必要度 薬剤管理		
研修月日	5月26日(水)	6月22日(火)	7月27日(火)	8月24日(火)		
研修時間	8:30～17:15	8:30～17:15	8:30～17:15	8:30～17:15		
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児呼吸管理の基礎がわかる 2. 就職後2ヶ月の思いを共有し今後の意欲へつなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児専門病院看護士として子どもの家族の病気体験の理解ができる 2. 小児看護における家族看護の必要性がわかる 3. 放射線についての基礎知識がわかる 4. 就職後3ヶ月の思いを共有し今後の意欲へつなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児専門病院の看護士として子どもの擁護者としての自覚を持つことができる 2. 子どもの権利について理解できる 3. 子どもの摂食について理解できる 4. 小児麻酔について理解できる 5. 就職後4ヶ月の思いを共有し今後の意欲につなげる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務の優先順位について考えられる 2. 看護必要度について理解し入力できる 3. DPCについて理解し入力できる 4. 病棟で取り扱っている薬剤の管理について理解できる 5. 就職後4ヶ月の思いを共有し今後の意欲につなげる 		
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児呼吸管理の基礎知識を学ぶ 2. 看護技術の振り返りができる 3. 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 4. 2ヶ月の自分の成長を認めることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護の基礎知識を学ぶ 2. 入院治療を要することも、家族の心理が理解できる 3. 家族支援について考えることができる 4. 放射線についての基礎知識を学ぶ 5. 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 6. 3ヶ月間の自分の成長を認めることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利がわかる 2. 入院している子どもの療養環境がわかる 3. 倫理原則がわかる 4. 摂食機能、摂食ケアについて学ぶ 5. 周手術期、麻酔をうける子どもの看護がわかる 6. 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 7. 4ヶ月の自分の学び(できたこと)を語る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務の優先順位の根拠について言える 2. 看護必要度基礎知識と入力方法について学ぶ 3. DPC 基礎知識と入力方法について学ぶ 4. 薬剤管理の実際について学ぶ 5. 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 6. 4ヶ月間の自分の成長を認めることができる 		
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児呼吸管理の基礎について学ぶ 2. 技術チェック、GWで振り返り(個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える) 3. 技術習得のための講義、演習 4. GW 新人と既卒をわけておこなう 5. 今後の自己の課題を明確にする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族についての基礎知識・アセスメントの視点についての講義 2. 実践方法について考える 3. 放射線についての基礎知識を学ぶ 4. 技術チェック、GWで振り返り(個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える) 5. 技術習得のための講義、演習 6. GW 新人と既卒をわけておこなう 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利についての講義 2. 摂食についての講義 3. 小児麻酔についての講義 4. 技術チェック、GWで振り返り(個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える) 5. 技術習得のための講義、演習 6. GW 新人と既卒をわけておこなう 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護必要度、DPCについての講義 2. 看護必要度、DPCの各項目内容について学ぶ 3. 業務の優先順位の考え方についての講義 4. 技術チェック、GWで振り返り(個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える) 5. 技術習得のための講義、演習 6. GW 新人と既卒をわけておこなう 		
研修方法	講義 GW	講義 GW	講義 GW	講義 GW		
学習者	新規採用看護職員 32名	新規採用看護職員 38名	新規採用看護職員 33名	新規採用看護職員 33名		
院内外講師	清水 CN ME	井上 CNS 放射線担当者	井上 CNS 鹿原麻酔科医 森本摂食部会長	井上 CNS 椛垣次長 薬剤部担当者		
教育委員	教育担当看護次長(椛垣) 教育責任者 中谷 教育委員長(武川)	教育担当看護次長(椛垣) 教育責任者 中谷 教育委員長(武川)	教育担当看護次長(椛垣) 教育責任者 中谷 教育委員長(武川)	教育担当看護次長(椛垣) 教育責任者 中谷 教育委員長(武川)		
の執務	教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●竹田 和久)	教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●竹田 東谷 瀨尾 後藤)	教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●竹田 東谷 瀨尾 後藤)	教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●藤田 小林 伊丹 馬道 圓尾)		
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB		

研修コース	新人	新人	新人
研修会名	フォロー研修⑨目標管理 継続看護 デザイン 褥瘡	アセスメント〈基礎〉フィジカルアセスメント	看護を考える
研修月日	9月14日(火)	11月30日(火)	H23年2月22日(火)
研修時間	8:30～17:15	8:30～17:15	8:30～17:15
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 組織、部署の目標を踏まえ、現実的な個人目標を立てることを理解する 継続看護について理解する 褥瘡対策について理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 看護過程の展開を学び、日々の実践に活かすことができる 	<ol style="list-style-type: none"> 看護実践について振り返り、次のステップへの目標を明確にし、小児専門病院で求められている看護師像を理解する
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 各部署の新人到達目標に沿って自己の課題を具体的にすることが出来る 継続看護の実際について学ぶ 褥瘡対策について学び、褥瘡発生報告書および診療計画書が記載できる 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 6ヶ月の自分の学び(できたこと)を語る事ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 小児看護における看護理論を理解する 問題解決思考型での看護過程を理解する 指導を受けながら提示事例のアセスメントができ、患者の問題点を抽出し、計画立案について理解できる 新たな看護技術の手順を学ぶことができる 	<ol style="list-style-type: none"> 日々の看護実践の根拠を言葉にして話すことが出来る 6ヶ月間でできたこと、出来なかった事の理由を整理することができる 小児専門病棟の看護師として求められている事を理解し、次年度の課題を明確にする 自分の大切にしたい看護、今後の自己の課題を明確にできる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 目標管理についての講義 継続看護についての講義 褥瘡対策についての講義 技術チェック、GWで振り返り(個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える) 技術習得のための講義、演習 今後の自己の課題を明確にする GW 新人と既卒をわけておこなう 	<ol style="list-style-type: none"> 事例を用いて看護過程を展開する 小児看護に必要な看護理論を理解する 自分が大切にしたい看護を明確にする 技術チェック、GWで振り返り(個別性や病棟の特徴を踏まえ、根拠を押える) 技術習得のための講義、演習6. 今後の自己の課題を明確にする(ケーススタディー) 	<ol style="list-style-type: none"> 6ヶ月間の成果を発表する 実践事例を検討する 次年度の目標を設定する
研修方法	事前課題 発表 GW 事後課題	講義 GW 事後課題 自部署で事例を通して看護過程を展開する	事前課題 発表 GW 事後課題
学習者	新規採用看護職員 33名	新規採用看護職員 33名	新規採用看護職員 33名
院内外講師	井上 CNS 鎌田 CN	二星 CNS	
教育委員の執務	教育担当看護次長(桧垣) 教育責任者 中谷 教育委員長(武川) 教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●伊丹 藤田 圓尾 小林 馬道)	教育担当看護次長(桧垣) 教育責任者 中谷 教育委員長(武川) 教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●和久 松本 高橋 斉藤)	教育担当看護次長(桧垣) 教育責任者 中谷 教育委員長(武川) 教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●和久 松本 高橋 斉藤)
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB

研修コース	ラダー1	ラダー1	ラダー1	ラダー1	ラダー1
研修会名	アセスメントステップアップ	発表	発表	接遇・5S	看護観
研修月日	6月15日(火)	10月19日(火)	10月19日(火)	12月21日(火)	2月15日(火)
研修時間	8:30～17:15	13:30～17:15	13:30～17:15	8:30～12:30	13:30～17:15
研修のねらい	1. 根拠に基づいた看護ケアを自立して実践できる能力を養う	1. 自己のアセスメントを振り返り他者の考えや意見を聴く事で、更なるアセスメント能力の向上を目指す	1. 自分の考えを正確に言葉で伝えるとができる	1. 接遇の基本を身につけることで患者サービスの向上が図れる 2. 医療安全の5Sについて理解できる	1. 自分の大切にしたい看護を明文化すること で考えを整理することができる
研修目標	1. 科学的根拠に基づいた看護判断が出来る(判断を理論的に説明できる) 2. 個別性(疾患・発症など)を考えた看護計画の立案ができる 3. 知識と経験、判断を活かして看護ケアの展開ができる 4. 看護実践の妥当性を評価し、次の看護ケアプランへと発展させる方法がわかる	1. 関連図を用いて発表する	1. 正しい言葉遣い、姿勢、お辞儀などを身につけることができる 2. 自身の身だしなみを振り返り、社会人としてのマナーが守れる 3. 仕事をしやすい環境づくりを理解し、効率的に業務に従事できる。また、このことが医療安全につながることを理解できる	1. 接遇についての講義 2. 医療安全の5Sについての講義	1. 自分の考えを伝えることができる 2. より効果的に伝達する為の方法が選択できる
研修内容	1. 看護過程・クリティカルシンキングについての講義 2. GW 事例を用いての看護過程の展開 3. 根拠をもった看護計画の評価、修正の講義	1. 関連図を用いて発表する	1. 関連図を用いて発表する	1. 接遇についての講義 2. 医療安全の5Sについての講義	1. 自分の看護観についての発表
研修方法	講義 GW 事後課題：発表会までに最低2事例の看護展開を行う	発表会 事後課題：研修後に1事例以上アセスメントし12月中に自部署で発表	発表会 事後課題：研修後に1事例以上アセスメントし12月中に自部署で発表	講義 GW	発表会
学習者	ラダー1対象者 23名	ラダー1対象者 22名	ラダー1対象者 22名	ラダー1対象者 19名	ラダー1対象者 17名
院内外講師	二星 CNS	二星 CNS	二星 CNS	看護長補佐	
教育委員の執務者	教育担当看護次長 榎垣 教育委員長 武川 教育副委員長 菰野 竹井 教育委員 (●和久 松本)	教育担当看護次長 榎垣 教育委員長 武川 教育副委員長 菰野 竹井 教育委員 (●和久 松本)	教育担当看護次長 榎垣 教育委員長 武川 教育副委員長 菰野 竹井 教育委員 (●和久 松本)	教育担当看護次長 榎垣 教育委員長 武川 教育副委員長 菰野 竹井 教育委員 (●高橋 和久 松本 斉藤)	教育担当看護次長 榎垣 教育委員 (●和久 松本)
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB

研修コース	既卒	既卒
研修会名	目標管理・マイプラン	マイプラン評価、次年度の目標
研修月日	6月1日(火)	1月25日(火)
研修時間	8:30～12:30	8:30～12:30
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標管理について理解し、自分自身が組織にとって大切な人材であることが確認できる 2. 生涯教育とキャリアアップの重要性について理解し、自己の能力評価およびマイプランの立案ができる 	マイプランの成果を自己の成長につなげることができる
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標管理の目的と方法が理解できる 2. 自己の能力評価を行い小児専門病院の看護師として、行動目標の設定ができる 3. 自己の個性を最大限に活用する方法を知る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マイプランを発表することで、達成感や組織のプラスの変化を感じることができる 2. 取り組みの成果を共有できる
研修内容	目標管理とマイプランについての講義	マイプラン発表
研修方法	講義 GW	
学習者	既卒対象者 18名	既卒対象者 14名
院内外講師	武川 HN	桧垣看護部次長
教育委員の執務者	教育担当看護次長 桧垣 教育委員長 武川 教育副委員長 菰野 竹井 教育委員(●斉藤 和久 松本)	教育担当看護次長 桧垣 教育委員長 武川 教育副委員長 菰野 竹井 教育委員(●斉藤 和久 松本)
研修場所	研修室 AB	研修室 AB

研修コース	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2
研修会名	後輩育成	家族看護	看護研究<基礎>	既卒教育担当者研修
研修日時	平成23年3月15日(火) 8:30~12:30	8月3日(火)	H23年2月1日(火) 8:30~12:30	6月1日(木) 13:30~17:15
研修のねらい	後輩指導の役割を理解し、主体的に後輩指導に臨める。	家族看護の理論を理解し、活用できる。	看護研究の基本的知識を学び、研究に能動的に参加できる	既卒者が困っていることと、教育担当者が困っていることの摺り合わせを行い、組織への適応を支援する
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場似おけるOJTとOFFJTについて学ぶ。 2. 後輩指導の役割について理解し、日々の業務の中で意識して関わる事ができる。 3. 後輩への教育的関わりの具体的な方法について学び実践できる。 4. 後輩指導について求められる姿勢について考えられ実践できる。 5. プリセブターシップを理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護の理論を活用できる。 2. 事例を通して家族看護が展開できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究を行う手順が理解できる 2. 研修の種類や分析方法について理解できる 3. 日々の実践において研究的視点をもつことができる 4. 共同研究者として研究に参加する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な価値観や看護観を承認しあう 2. 既卒者が期待し望む仕事、教育スタイルを理解し、組織が期待することの摺り合わせができる 3. 大人の学びを支援する方法を考え実践できる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新人教育システムについての講義 2. 後輩指導に必要な姿勢とスキルを学ぶ 3. 自分自身に必要な知識や指導技術を考える 事後課題：様式5 後輩・新人指導に対する具休策を立案する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護についての講義 2. 理論の活用について学ぶ 3. 事例を通して理論を学ぶ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究についての講義 2. 研究計画書の書き方、看護研究のPMについて学ぶ 3. 研究に参加する 	<ol style="list-style-type: none"> 1・既卒看護師の育成、定着に向けての講義 2. 教えるから共に育つについての講義 3. 既卒者の悩みや思いの情報を提供する 2. 臨床実践現場で困っていることを共有する 3. 今後の指導方法を考える
研修方法	講義 GW 事後課題	講義 GW 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 GW
学習者	ラダーII対象者 28名	ラダーII対象者 19名	ラダーII対象者 19名	既卒教育担当者 12名
院内外講師	本田CNS	井上CNS	井上CNS	松垣看護部次長
教育委員の執務者	教育担当看護次長(松垣) 教育委員長(武川) 教育委員(菟野 竹井)	教育担当看護次長(松垣) 教育委員長(武川) 教育委員(伊丹 藤田 丸尾 小林 馬道)	教育担当看護次長(松垣) 教育委員長(武川) 教育委員(菟野 竹井)	教育担当看護次長(松垣) 教育委員長(武川) 教育委員(馬道 藤田 丸尾 小林 伊丹)
研修場所	研修室AB	研修室AB	研修室AB	研修室AB

研修コース	ラダー2・3	ラダー2・3	ラダー2・3
研修会名	プリセプターフォーロー	看護研究①	看護研究②
研修日	6月30日(水)	7月6日(火)	12月7日(火)
研修時間	13:30～17:15	13:30～17:15	8:30～12:30
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリセプターとしての3ヶ月を振り返り病棟での自己の役割、方向性を明確にできる 2. プリセプターの成長に合わせた教育的関わりができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実践の質を上げるための研究に率先して取り組むことができる 2. 小児専門病棟の看護師として看護の質を高めるために、自己の果たすべき役割について行動計画が立案できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実践の質を上げるための研究に率先して取り組むことができる 2. 小児専門病棟の看護師として看護の質を高めるために、自己の果たすべき役割について行動計画が立案できる
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリセプターの成長が確認できる 2. プリセプターの役割機能から人間関係調整の大切さが分かり実践できる 3. 学び方のタイプを知ること、より効果的なコミュニケーションや指導方法が分かり実践できる 4. GWを通して役割を遂行する上での不安やストレスが発散でき、問題解決の糸口を見つけることができる 5. プリセプターとしての今後の行動目標の修正、立案ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の実践を研究の視点から検証できる 2. 小児専門病棟の看護師として看護の質を高めるために、看護研究に取り組む 3. 研究のまとめ方やデータ分析について理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書が作成できる 2. 看護実践場面に研究の成果を応用できる 3. 次年度、院内または院外で研究の成果を発表できる
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリセプターの成長が確認できる(評価) 2. 学びのタイプと指導方法 3. プリセプターの役割機能 	看護研究についての講義	看護研究についての講義
研修方法	講義 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
学習者	ラダーII・III対象者 21名	ラダーII・III対象者 20名	ラダーII・III対象者 20名
院内外講師	本田 CNS	井上 CNS	井上 本田 二星 CNS
教育委員の執務者	教育担当看護次長 桧垣 教育委員長 武川 教育副委員長 菟野 竹井 教育委員 (●)伊丹 藤田 圓尾 小林 馬道	教育担当看護次長 (桧垣) 教育委員長 (武川) 教育副委員長 (菟野 竹井) 教育委員 (●)伊丹 藤田 圓尾 小林 馬道	教育担当看護次長 (桧垣) 教育委員長 (武川) 教育副委員長 (菟野 竹井) 教育委員 (●)伊丹 藤田 圓尾 小林 馬道
研修場所	研修室A B	研修室A B	研修室A B

研修コース	ラダー3・4
研修会名	交渉術
研修日	12月14日(火)
研修時間	8:30～17:15
研修のねらい	交渉術を学ぶことにより、経営の視点に立ったヘルスケア・サービスの提供することができる
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場における一般的な経営論および交渉術を学ぶ 2. ヘルスケア・サービスに活かすことができる
研修内容	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
研修方法	講義 GW 事後課題
学習者	ラダーIII・IV 29名
院内外講師	看護部次長
教育委員の執務者	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(菰野 竹井) 教育委員(●東谷 竹田 後藤 瀬尾)
研修場所	研修室A B

ジェネラリスト研修	
	ねらい：小児専門看護師として、役割モデルとなり、こども病院の看護の質を高める
目 標	1. 患者・家族の人權を尊重した看護実践ができる 2. 小児看護領域の専門性を高め、こども（個）に適した看護方法を創意工夫できる 3. 実践場でのリーダーシップが発揮できる
研 修 会 名	平成 21 年度研修生ジェネラリスト発表
研 修 日 時	平成 23 年 2 月 15 日（火） 時間外
研 修 の ね ら い	ジェネラリストとして取り組んだ研究を発表し、今後の自己の役割行動を再確認できる
研 修 目 標	1. 研究発表を行い、達成感や組織の変革を実感できる 2. 取り組みの成果を共有できる
研 修 内 容	取り組み成果の発表
研 修 方 法	発表会
学 習 者	ジェネラリスト研修生 9 名
院 内 外 講 師	
教 育 委 員 の 執 務 者	教育担当看護次長（桧垣） 教育委員長（武川） 教育副委員長（菰野 竹井） 教育委員（●後藤 竹田 瀬尾 東谷）
研 修 場 所	研修室 A B

教育担当者研修			
研修会名			
研修日時	9月21日(火) 8:30～17:15	10月26日(火) 8:30～17:15	H23年1月18日(火) 8:30～17:15
研修のねらい	1. 新人看護職員に対するガイドラインや組織における取り組みを知り、教育担当者としての役割を認識するとともに、教育についての知識を深める	1. 新人看護師教育の進捗状況についての情報交換を行う 2. 年間プログラム II期についての評価を行う	1. 新人看護師教育の進捗状況についての情報交換を行う 2. 年間プログラム III期についての評価を行う
研修目標	1. 新人看護職員ガイドラインの概要と教育担当者の役割を理解できる 2. 部署で新人看護職員を育成する重要性を理解する 3. 指導に必要な知識を理解できる	1. 新人看護師教育の組織的取り組みを理解する 2. 教育担当者の役割を認識できる 3. 具体的な指導知識・技術を自己の中で考えられる	1. 新人看護師教育の組織的取り組みを理解する 2. 教育担当者の役割を認識できる 3. 具体的な指導知識・技術を自己の中で考えられる
研修内容	1. 新人研修目標I期の評価 2. GW 3. 情報共有	1. 新人研修目標II期の評価 2. GW 3. 情報共有	1. 新人研修目標III期の評価 2. GW 3. 情報共有
研修方法	講義 GW	講義 GW	講義 GW
学習者	部署の教育担当者 30名	部署の教育担当者 30名	部署の教育担当者 25名
院内外講師	井上 CNS	井上 CNS	井上 CNS
教育委員の執務者	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(孤野 竹井) 教育委員(●東谷 竹田 後藤 瀨尾)	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(孤野 竹井) 教育委員(●東谷 竹田 後藤 瀨尾)	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(孤野 竹井) 教育委員(●東谷 竹田 後藤 瀨尾)
研修場所	研修室C	研修室A B	研修室A B

研修コース	母子フォロー	母子フォロー	母子フォロー	母子フォロー
研修会名	家族看護	家族看護	WOCにおける家族看護	救急における家族看護
研修日	6月18日(金)	8月5日(木)	10月22日(金)	12月17日(金)
研修時間	17:30～18:30	17:30～18:30	17:30～18:30	17:30～18:30
研修のねらい	家族看護理論を理解し、活用できる	家族看護理論を理解し、活用できる	家族看護理論を理解し、活用できる	家族看護理論を理解し、活用できる
研修目標	1. 家族看護の理論を理解し活用できる 2. 家族看護が提供できる	1. 家族看護の理論を理解し活用できる 3. 家族看護が提供できる	1. 家族看護の理論を理解し活用できる 4. 家族看護が提供できる	1. 家族看護の理論を理解し活用できる 5. 家族看護が提供できる
研修内容	家族看護理論についての講義	家族看護理論についての講義	家族看護理論についての講義	家族看護理論についての講義
学習者	一般聴講	一般聴講	一般聴講	一般聴講
院内外講師	井上 CNS	伊達 CN	鎌田 CN	清水 CN
教育委員の執務者	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(菟野 竹井) 教育委員(後藤 松本)	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(菟野 竹井) 教育委員(後藤 松本)	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(菟野 竹井) 教育委員(泊 和久)	教育担当看護次長(桧垣) 教育委員長(武川) 教育副委員長(菟野 竹井) 教育委員(伊丹 圓尾)
研修場	研修室A B	研修室A B	研修室A B	研修室A B

看護部委員会（2010年度）

委員会名	開催回数	目標と活動内容内容
看護長補佐会	計 12 回	<p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質の向上を図る</p> <p><目標> 1. 病院としての課題達成に向けて取り組み率先して実行できる 2. 看護師として責任ある行動が自主的に取れるようにスタッフの育成を行う</p> <p><活動内容> 1. グループ活動 1) 業務改善 ①他部門との連携グループ ②入退院・転棟・書類や申し送り等の検討グループ ③ケア・物品グループ スタッフからの意見を聞き、看護業務を見直しと簡略化に向けた他部門との連携。書類の整理、ディスポ化、給食オーダーリングの導入前の調整 2) 倫理グループ 倫理事例検討シートの修正と倫理研修会の開催 3) 患者・家族参画型看護計画グループ 入院時初期計画書の導入と入院後の家族参加による看護計画の立案システムの構築 2. その他 1) 実践報告会の企画運営（平成 23 年 2 月 19 日） 2) ふれあい看護体験の企画運営（平成 22 年 7 月 22 日） 3) 身体拘束アセスメントシートの検討</p>
看護部教育委員会	計 12 回	<p><目的> 1. さまざまな教育背景を持つ看護職員に対して、当院で看護を行っていくために必要な知識・技術の習得や態度を育成し、より質の高い看護ケアを提供できるように看護師個々を支援する 2. 看護部の理念や目標を達成するために、看護師継続教育について企画・運営・評価を通して看護師個々の成長を図ることができるように活動する 3. 看護部における集合教育は、現場における日々の教育支援につながることや動機付けが主たるねらいであるから、現場における教育と関連性・継続性を図ることができるように運営する</p> <p><目標> 1. 新人教育体制の充実 2. 年間計画に沿って集合研修を実施する 3. 集合教育と OJT との連動性・継続性を図る</p> <p><活動内容> 1. 新規採用者オリエンテーションの企画・運営 2. 集合教育の企画・運営（別紙）</p>

委員会名	開催回数	目標と活動内容内容
看護部業務・手順委員会	計 11 回	<p><目的> 看護業務を見直し、当院に必要な看護基準・手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p><目標> 看護業務を見直し、当院に必要な看護基準手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを行う</p> <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現行の手順の見直し、手順新規作成を行い、ファイリングを行う 2. 新規作成手順、オムツ交換の監査の実施 3. 全病共通の患者支援パンフレットの作成 4. 緩和ケアマニュアル：癌性疼痛、術後疼痛ケアマニュアルの作成
安全委員会	計 11 回	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性の向上に向けて取り組む</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内服・注射薬共に誤薬に関するヒヤリハット発生件数が減少する 2. リスクの視点から患者さまの安全に配慮した療養環境を整える 3. 院内での業務の統一を図り、患者の安全を守る <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誤薬に関するヒヤリハット報告の集計と各部署の傾向分析と対策の実施 2. 与薬手順の確認と見直し 3. ダブルチェックの定義、方法についての認識の統一 4. 療養環境監査と転倒転落ヒヤリハット現状分析より対応策の検討 5. 家族用の転倒転落防止の啓蒙ポスター作成と掲示 6. 部署間での方法の違いによるヒヤリハットの分析、課題の抽出と対応策の検討 <ol style="list-style-type: none"> ① 確実なビューレット交換のための検討 ② 持参薬の取り扱いについての検討 ③ 膀胱留置カテーテル管理の手順作成 ④ 骨折をおこしやすい患者の看護計画立案

委員会名	開催回数	目標と活動内容内容
看護記録委員会	計 11 回	<p><目的> 電子カルテを見据え、看護の可視化と質評価につながる看護記録ができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録記載要項を見直すことで記録の効率化と内容を図る 2. 機械的・質的監査を継続し看護記録の質が保持される 3. 治療の効率化の実現と患者・家族に明確な診療情報を提供できるように、クリニカルパスの見直しができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質的監査ツールの見直しを行った 2. 上記質的監査ツールに基づいて監査を9月10月に実施した 3. 経過記録の8時間サマリーについて検討を行い廃止した 4. 看護記録記載要項の見直しを行った 5. 麻酔科記録、イエローシートの記載項目の変更を行った 6. カルテの綴じる順番を検討し、同意書を1箇所にとめるように変更した 7. 記録に関する問題点や困っていることの検討を通し、看護記録のあり方について話し合いを行った 8. クリニカルパスのエクセル化を行い、PDF処理にてMOに保存した 9. パス委員会と連携し新フォーマットへの意見を提出した
看護部感染対策委員会	計 11 回	<p><目的> 感染防止対策を検討し、院内感染防止する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染集計、血流サーベイランス、環境監査の実施 ICTとの協議などにより感染防止をはかる 2. 感染マニュアルの見直しとスタンダードプリコーションの教育を行う 3. 勉強会、研修会、学会参加などを通して、リンクナースが実践モデルとしての役割がとれる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染集計は毎月、血流サーベイランスを2回実施、感染率を出し比較した。環境監査を2回実施し改善した 2. 洗浄、消毒、滅菌に対するマニュアルを完成しICTへ提出した。部署での1次洗浄が廃止となった 3. リンクナース用チェックをリストを用いて自己評価を3回実施した 4. 委員会内での学習会を計画に沿って6回実施した 5. リンクナースは院外研修に1回以上参加した。日本環境感染学会に2題発表した
看護部臨床指導者会	計 6 回	<p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習ができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床指導者の育成ができる 2. 看護学生の効果的な臨床実習ができるように支援する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習の目標達成に向けた指導のあり方の検討 2. 看護系学校との連絡・調整

委員会名	開催回数	目標と活動内容内容
WOC ケア部会	計 11 回	<p><目的> WOC における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員自身の WOC ケア知識と技術の習得 2. スタッフの WOC ケア知識と技術の向上 3. 院内の WOC ケアの向上 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員の WOC ケア習得チェックリストの定期チェック (6・8・12 月) と事例検討会の開催 2. 新人研修において WOC ケア勉強会を開催する。(9 月・11 月・2 月) 3. リンクナースの各部署での取り組みを報告 4. グループ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・啓蒙新聞の年 4 回の発行 (7・9・11・1 月) ・気管カニューレ固定による褥瘡予防 ・褥瘡対策用紙を使用した検討 ・監査の実施
呼吸障害ケア部会	計 11 回	<p><目的> 呼吸障害における専門知識を習得し、ケアの質の向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸ケアの実践と教育において、現場に即した支援を行う 2. 安全で確実な呼吸ケア実践を支援する 3. 呼吸ケアの実践や教育に役立つ資料を充実する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸ケアに関するヒヤリハット対策 毎月、共有・対策を検討し、安全啓蒙を行う。病棟訪問活動年 3 回。安全啓蒙新聞の発行年 2 回。 2. 関連マニュアルの整備、呼吸ケア指導方法の検討 3. 在宅指導マニュアルの作成
摂食ケア部会	計 12 回	<p><目的> 摂食障害における専門知識を習得し、ケアの質の向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新メンバーの基礎知識の確認と学習支援を行う 2. 症例検討を通じて、現場で難渋しているケアについて方向性や考え方を提示し、問題解決に向けた活動をし、病棟へ還元する 3. 新人看護師へ講義を通して「食」の大切さを理解してもらう <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会勉強会 (総論・各論) 2. 症例検討 (各回 2～6 回症例検討) 3. 新人対象講義 (教育委員会のプログラムに添って 7 月に実施) 4. 年々変化する各メーカーの乳首一覧表マニュアル作成 5. 日本摂食燕下リハビリテーション学会参加 (新潟県)

25. 薬 剤 部

1 薬剤部員異動

(平成 22 年 4 月 1 日付)

【転出者】	次 長	田中 雅子	県立光風病院 (薬剤部長)	(平成 22 年 4 月 1 日付)
	課長補佐	上田 里恵	県立尼崎病院 (薬剤部次長)	(平成 22 年 4 月 1 日付)
【転入者】	次 長	藤本 潤子	県立がんセンター	(平成 22 年 4 月 1 日付)
	職 員	池田絵里佳	新規採用者	(平成 22 年 4 月 1 日付)

2 平成 22 年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、学会等での発表や専門・認定薬剤師等への取組を支援した。その結果、日本静脈経腸栄養学会等での 8 演題の発表や妊婦・授乳婦研修への参加等、新たなことへのチャレンジが芽生えてきた。

(2) 治験への取組

治験審査委員会に外部委員として薬学系女性委員を 1 名追加し、体制の強化を図った。また治験参加被験者の声を基に、治験薬の製造・適応追加承認状況を当院ホームページ上で公開することとした。

(3) 薬学生の長期実務実習への取組

本年度から開始された薬学生の長期実務実習のため、新たに 1 名の部員に指導薬剤師認定を取得させた。また実務実習モデル・コアカリキュラムに沿って、当院での実施スケジュール等を作成し、9 月には 2 名の学生を受入、順調に動き出しているところである。

(4) 新病院構想への対応

今後実施されるこども病院建て替えに向けて、薬剤部員の意見や他施設視察結果等を基に機能面、設備面等での要望案 (その 1) を作成し院内新病院構想検討委員会に提出した。

(5) 薬剤部内での医薬品に係わるミス軽減への取組

従来から実施している業務環境の整備、鑑査体制の充実等と共に本年も部員間での情報の共有を徹底した。

3 来年の展望と予定

薬剤管理指導業務を推進すると共に 22 年 4 月に示された「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」を参考に、新たな業務を薬剤師業務として取り入れるべく検討していきたい。

また 22 年度から開始された新病院構想検討においても将来の薬剤師業務も念頭に機能面、設備面等のさらなる充実案を提案していきたい。

(1) 調剤件数

区 分	処方箋 枚 数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	35,897	60,161	67,481	309,808	45,833	53,152	279,989	14,328	14,329	29,819
外 来	6,599	14,263	40,174	277,646	9,784	35,695	240,803	4,479	4,479	36,843
計	42,496	74,424	107,655	587,454	55,617	88,847	520,792	18,807	18,808	66,662
一日平均	174.9	306.3	443.0	2,417.5	228.9	365.6	2,143.2	77.4	77.4	274.3

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	95,113	514,381
外 来	6,930	9,925
計	102,043	524,306
一日平均	419.9	2,157.6

(3) 薬剤管理指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	103	101	134	109	103	108	108	104	123	108	124	101	1,326
心外・循内	16	25	41	34	30	30	39	40	33	27	24	23	362
血 内	57	53	66	62	48	58	61	59	55	51	60	63	693
腎 内	4	6	13	6	4	14	10	9	4	10	9	4	93
眼 科	35	33	26	36	32	28	33	39	29	26	30	26	373
計	215	218	280	247	217	238	251	251	244	222	247	217	2,847

(4) 退院指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	31	27	27	0	29	29	31	32	28	20	28	27	309
心外・循内	1	6	6	0	9	5	4	7	4	3	3	4	52
血 内	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
腎 内	1	2	0	0	1	3	1	3	0	1	0	0	12
眼 科	28	27	26	0	22	21	21	24	20	11	8	8	216
計	61	63	59	0	61	58	57	66	53	35	39	40	592

(5) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	365	359	373	361	364	361	366	412	404	391	403	490	4,649

(6) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	98	103	142	121	107	134	138	141	127	137	125	105	1,478
高カロリー	105	103	89	126	133	162	100	166	158	100	120	124	1,486
計	203	206	231	247	240	296	238	307	285	237	245	229	2,964

(7) 薬物の血中濃度測定

		メトキシート	総検体数
22年		99	99
平成 22年 の 月 別 内 訳	1月	7	7
	2月	10	10
	3月	4	4
	4月	8	8
	5月	7	7
	6月	8	8
	7月	10	10
	8月	14	14
	9月	13	13
	10月	9	9
	11月	6	6
	12月	3	3

(8) 院内D I 業務

① 電子メールによる情報提供

送 信 日	件 名
2010. 1.14	医薬品・医療機器等安全性情報 No.264
2010. 2.17	医薬品・医療機器等安全性情報 No.265
2010. 3.18	医薬品・医療機器等安全性情報 No.266
2010. 4. 7	当院採用薬一覧の送付について
2010. 4.15	医薬品・医療機器等安全性情報 No.267
2010. 5.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.268
2010. 6. 9	医薬品・医療機器等安全性情報 No.269
2010. 7. 6	医薬品・医療機器等安全性情報 No.270
2010. 8. 6	医薬品・医療機器等安全性情報 No.271
2010.10.17	医薬品・医療機器等安全性情報 No.272
2010.11. 4	医薬品・医療機器等安全性情報 No.273
2010.12.13	医薬品・医療機器等安全性情報 No.274

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none">・ 注射薬配合変化について・ 注射薬溶解後の安定性について・ 注射薬のフィルター透過性について・ 食品と薬剤の相互作用について・ 内服薬の飲み易い飲み方について・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について	<ul style="list-style-type: none">・ 抗がん剤の適切な投与方法について・ 医薬品の副作用について・ 血液製剤の投与方法について・ 小児薬用量について・ 錠剤の粉砕可否について

(9) 院内製剤

① 内用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
内服用ルゴール液	120

② 軟膏

製剤名	製剤量 (単位 /g)
バリアー	190000
10%テストステロン軟膏	1260
0.4%エストラジオール軟膏	2800

③ 外用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
アセモトール	16000
1/2 カプトドロップ	2080
0.5%アトロピン点眼	40
25%グリセリン液	11300
耳垢水	100
20%硝酸銀	10
30%硝酸銀	70
40%硝酸銀	60
10%ピオクタニン青液	150
1%ピオクタニン青液	80
0.2%ピオクタニン青液	200
30%アルコール	430
50%アルコール	430
3%酢酸液	200
ツェンテール液	150

④ 予製剤

製剤名	製剤量 (単位 /g)	製剤名	製剤量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		インデラル散 (× 100)	600
0.01%ジゴシン散	1500	ワーファリン (× 500)	9000
(錠→散)		ポラキス散 (× 100)	2400
ニュートライド (× 10)	400	ドルナー散 (× 50000)	10000
コートリル散 (× 20)	1200	ロングス散 (× 100)	2400
フラジール散 (× 4)	600	グリチロン散	180
フロリネフ散 (× 1000)	600		

26. 検査・放射線部（検査部門）

1) 検査部門の人事異動

【転出者】	主任検査技師	林 隆雄	県立塚口	(平成22年4月1日付け)
	課長補佐	幸福淳子	県立加古川	(平成22年4月1日付け)
	課長補佐	上田堅恵	県立西宮	(平成22年4月1日付け)
	職員	八木智恵	県立がんセンター	(平成22年4月1日付け)
【転入者】	主任検査技師	戸田圭三	県立尼崎	(平成22年4月1日付け)
	課長補佐	松本郁子	県立姫路循環器センター	(平成22年4月1日付け)
	主査	野口啓子	県立がんセンター	(平成22年4月1日付け)

2) 活動状況

本年度検査部門が実施した活動を以下に示す

① 院内感染対策活動

- ・感染対策委員会（ICC）事務局として ICC 会議を開催。また、ICT 委員として検出菌情報の提供、病棟ラウンド、感染対策指導を実施した。
- ・院内感染対策講習会で、当院での「耐性菌検出状況」と「抗菌薬の使用状況」について講義を行った。
- ・院内細菌分離について、MRSA 発生状況・無菌材料からの検出菌・耐性菌情報・感受性情報などを定期的（毎週）に発信した。
- ・厚生労働省・神戸市の感染症サーベイランス資料を作成した。
- ・病棟感染対策として、水痘など院内流行性感染情報を感染症通報にて院内に発信した。

② 安全な輸血医療（輸血療法委員会事務局としての活動）

- ・輸血用血液製剤使用状況報告。
- ・輸血前検査としての HB c 抗体の院内測定を開始した。
- ・輸血療法委員会主催院内研修会を開催し、「緊急時の輸血対応」と「輸血前後における感染症検査」の講義を行った。
- ・交差適合試験における T&S 法の一部導入を開始した。

③ 検査委員会活動（診療支援、患者サービスの向上）

- ・安定稼働のため、検査サーバーの入れ替えを実施した。
- ・時間外項目の D-Bil・LAP・ γ -GTP・CHE・T-CHO・TG の 6 項目を追加した。
- ・生理検査の脳波計・誘発電位検査装置・心電計・ホルター心電計の機器更新を実施し、全ての変更機種で検査結果の DVD やファイリングシステムでの保存が可能となった。ホルター心電計の軽量化（45g）を行い患者負担を軽減した。

④ 医療事故防止の強化

- ・検査部医療安全目標の作成と推進
「未検査・未報告のチェック」についてキャンペーンを実施した。
- ・定例的に検査部内事故防止委員会を開催し、ニアミスの集計、4 M-4 E シートによる原因分析と改善を実施した。
- ・始業前の朝の会で準夜・深夜時間帯の検査実施状況を確認し、ヒヤリハット情報を共有した。

⑤ 資質向上と教育

- ・検査部内勉強会の充実（本年は 15 回）
- ・検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導
岡山大学医学部保健学科（施設見学実習：2 名）
神戸大学医学部保健学科（選択臨地実習：2 名）

⑥ その他

- ・病理検査ホルマリン対策の実施
病理検査室と剖検室のホルマリン濃度精密測定を実施した。
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者の認定を 1 名取得した。
- ・脳死判定検査の準備
検査部脳死判定マニュアル及び法的脳死判定時連絡網を作成し、脳波計、誘発電位測定装置を最新機種に更新したことで随時脳死判定が可能となった。

(1) 平成 22 年臨床検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	7,943	7,750	11,082	9,648	8,237	9,274	10,837	12,588	10,098	9,481	9,876	10,336	117,150
血液	17,380	17,202	20,529	19,461	17,371	19,213	19,848	22,007	19,202	19,089	18,488	18,933	228,723
細菌	3,108	2,622	2,805	2,805	2,523	2,533	2,607	2,762	2,428	2,283	2,579	2,417	31,472
血清	4,936	4,936	5,617	5,298	4,753	5,402	6,314	6,456	5,399	5,200	5,416	5,120	64,847
生化学	34,196	33,588	40,270	40,633	34,515	37,454	39,238	45,005	38,599	38,118	36,747	38,620	456,983
病理	216	254	291	250	196	271	250	216	298	390	251	158	3,041
生理	1,043	1,075	1,568	1,353	1,044	1,326	1,183	1,633	1,333	1,217	1,153	1,118	15,046
外部委託	79	79	82	3,382	2,813	3,151	3,212	3,781	3,255	3,347	2,923	3,268	29,372
職員検診	79	79	82	85	85	2,974	166	154	139	154	79	70	4,146
合計	68,980	67,585	82,326	82,915	71,537	81,598	83,655	94,602	80,751	79,279	77,512	80,040	950,780

(2) 平成 22 年時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
項目数	2,075	1,691	1,777	1,867	1,890	1,782	1,830	1,951	1,924	2,020	1,811	2,171	22,789
対前年比	110.5%	112.9%	113.0%	113.5%	100.7%	110.1%	108.3%	107.6%	105.4%	99.4%	73.2%	111.6%	105.5%
患者数	766	662	645	618	712	610	639	835	797	823	765	884	8,756
対前年比	86.8%	96.8%	91.9%	86.3%	88.0%	93.6%	81.7%	105.4%	105.0%	91.5%	91.5%	121.9%	95.0%

(3) 平成 22 年血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	購入数 単位数	218	257	205	292	237	242	330	285	300	253	290	261	3170
	使用量 単位数	205	234	183	278	231	229	318	270	285	245	274	248	3000
	廃棄量 単位数	13	23	22	14	6	13	12	15	15	8	16	13	170
	廃棄率 %	6.0	8.9	10.7	4.8	2.5	5.4	3.6	5.3	5.0	3.2	5.5	5.0	5.4%
FFP-LR	購入数 単位数	204	238	160	398.5	122	216	246	179	268	292	374	544	3241.5
	使用量 単位数	202	234	154	395.5	121	216	240	174	266	287	372	536	3197.5
	廃棄量 単位数	2	4	6	3	1	0	6	5	2	5	2	8	44
	廃棄率 %	1.0	1.7	3.8	0.8	0.8	0.0	2.4	2.8	0.7	1.7	0.5	1.5	1.4%
PC	購入数 単位数	870	785	625	1205	835	820	780	1170	1045	900	1115	1225	11375
	使用量 単位数	850	765	625	1205	825	820	780	1170	1045	900	1115	1225	11325
	廃棄量 単位数	20	20	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	50
	廃棄率 %	2.3	2.5	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4%

材料別検査件数

材料	依頼件数
喀痰	641
気管洗浄液	1303
咽頭粘液	1132
鼻腔粘液	1237
その他（呼吸器系）	45
口腔、気道又は呼吸器からの検体合計	4358
尿・カテーテル尿	986
膣分泌物	990
悪露	248
子宮腔内	248
その他（泌尿器系）	67
泌尿器又は生殖器からの検体合計	2539
便	418
G B S 増菌	488
その他（消化器系）	51
消化管からの検体合計	957
血液	1581
髄液	184
胸・腹水	54
その他（穿刺液）	37
血液又は穿刺液検体合計	1856
IVH 先端	483
ドレナチューブ	226
膿（開放・非開放）	180
Aライン先端	60
耳漏	33
皮膚	93
眼脂	65
その他	344
その他の部位からの検体合計	1484
トリコモナス	15
培養合計	11209
感受性試験 1 菌種	2057
感受性試験 2 菌種	529
感受性試験 3 菌種	142
その他の検査	21
ウイルス迅速検査	1107
M R S A 検査	6762

病棟別検査件数

病棟	依頼件数
一般外科病棟 4B	282
循環器 A 病棟 5A	239
循環器 B 病棟 5B	146
混合病棟 6A	111
混合病棟 6B	180
血液病棟 7F	1115
救急病棟	1003
産科病棟	1655
I C U	800
H C U	468
N I C U	2785
G C U	1400
総合診療科	11
アレルギー科	4
脳神経内科	2
循環器内科	20
腎臓内科	18
新生児科	30
血液内科	20
一般外科	40
形成外科	4
整形外科	9
泌尿器科	91
耳鼻科	43
産科外来	634
心臓外科	3
救急集中治療科	228
眼科	5
代謝内科	8
脳神経外科	2

分離菌内訳

菌種	菌名	総件数	感受性報告件数	
グラム陽性菌	ブドウ球菌	S.aureus	636	607
		S.aureus(MRSA)	668	662
		S.epidermidis	65	65
		S.epidermidis(MRSE)	895	836
		その他の CNS	1483	513
		Micrococcus sp.	20	20
	連鎖球菌	S.agalactiae	211	209
		S.pneumoniae	89	88
		Group G Strep	20	20
		S.mitis	8	8
		S.pyogenes	18	18
		その他の Viridans strep	1042	13
	その他の Streptococcus	36	3	
	腸球菌	Ec.faecalis	382	211
		Ec.faecium	156	51
		その他の腸球菌	37	10
	その他	Bacillus sp.	25	10
		Corynebacterium sp	325	2
		Lactobacillus sp	987	0
		嫌気性菌	3	0
グラム陰性菌	腸内細菌	Kl.pneumoniae	550	547
		E.coli	193	189
		Ent.cloacae	414	414
		Ent.aerogenes	49	49
		Ser.marcescens	337	337
		Kl.oxytoca	26	26
		Prt.mirabilis	26	26
		その他の腸内細菌	33	33
	ブドウ糖非発酵菌	Ps.aeruginosa	742	702
		Ac baumann/haem	104	104
		Burk.cepacia	42	42
		Steno.maltophilia	117	117
		その他の pseudomonas	17	16
		その他の非発酵菌	13	13
	その他	H.influenzae	115	114
		Haemophilus sp.	26	6
		Mor.(B)catarrhalis	94	91
		Neisseria sp.	621	0
		G.vaginalis	263	0
		その他の陰性菌	194	15
真菌	C.albicans	181		
	C.glabrata	70		
	C.parapsilosis	6		
	Aspergillus sp.	3		
	Candida sp.	20		

耐性菌検出状況

菌名	件数
S.epidermidis(MRSE)	895
S.aureus(MRSA)	668
その他の MRCNS	633
St.pneumoniae(PISP)	34
St.pneumoniae(PRSP)	17
H.influenzae(BLNAR)	50
E.coli ESBL	58
K.oxytoca ESBL	2
K.pneumoniae ESBL	1
K.pneumoniae MBL	6
P.aeruginosa MBL	11

MRSA サーベイ

科・病棟	件数	陽性	陰性	陽性率
一般外科病棟 4B	70	21	49	30.0%
循環器 A 病棟 5A	162	56	106	34.6%
循環器 B 病棟 5B	133	49	84	36.8%
混合 A 病棟 6A	77	17	60	22.1%
混合 B 病棟 6B	114	62	52	54.4%
血液病棟 7F	159	11	148	6.9%
救急病棟	11	3	8	27.3%
I C U	69	9	60	13.0%
H C U	153	63	90	41.2%
N I C U	166	17	149	10.2%
G C U	403	43	360	10.7%

MRSA 発生報告書分類

病棟名	院内	持込	発病	保菌	不明
一般外科病棟 4B	8	13		21	
循環器 A 病棟 5A	5			5	
循環器 B 病棟 5B	5	4		9	
混合 A 病棟 6A		14		14	
混合 B 病棟 6B	1	8		9	
血液病棟 7F	1			1	
救急病棟	3	24		31	1
I C U	4		2	2	1
H C U	2	16		18	2
N I C U	5	2		7	
G C U	17	1		18	1
産科病棟		1		1	

無菌材料検出菌

材 料	件数	陽性件数	陽性率
静脈血	1038	70	6.7%
I V H 先端	483	119	24.6%
プロビアク血	320	20	6.3%
動脈血	219	18	8.2%
髄液	184	39	21.2%
A ライン先端	60	11	18.3%
腹水	32	11	34.4%
穿刺液	25	8	32.0%
胸水	22	3	13.6%
関節液	12	5	41.7%
臍帯血	0	0	0.0%
ポット血	4	0	0.0%
組織	21	7	33.3%
羊水	5	1	20.0%

血液培養検出菌

S.epidermidis	19
S.aureus	9
S.aureus(MRSA)	16
その他 CNS	7
S.pneumoniae	5
S.mitis	2
その他連鎖球菌	2
腸球菌	5
K.pneumoniae	2
E.coli	3
その他腸内細菌	6
Paeruginosa	11
溶血性連鎖球菌	2
H.influenzae	2
GPR	11
その他	1

IVH 先端培養検出菌

S.epidermidis	45
S.aureus(MRSA)	21
S.aureus	4
その他 CNS	45
腸球菌	9
S.marcescens	3
その他腸内細菌	9
Paeruginosa	9
その他非発酵菌	1
GPR	2
GBS	1

髄液検出菌

E.coli	3
その他の GNR	4
S.aureus(MRSA)	21
S.epidermidis	12
その他の CNS	1

細菌別薬剤感受性率

グラム陽性球菌

菌名	株数	PCG	ABPC	MIPIC	CEZ	CDTR	CMZ	MEPM	GM	AMK	ABK	EM	CAM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	ST	LZD
S.aureus	637	50%	50%	-	100%	100%	100%	100%	73%	99%	100%	85%	85%	84%	98%	100%	96%	100%	100%	100%	100%
S.aureus(MRSA)	668	0%	0%	-	0%	0%	-	0%	44%	56%	97%	9%	9%	9%	34%	48%	14%	100%	100%	100%	100%
S.epidermidis	65	19%	19%	-	100%	99%	100%	100%	94%	99%	-	85%	85%	85%	99%	100%	99%	100%	100%	100%	100%
S.epidermidis(MRSE)	894	0%	0%	-	0%	0%	0%	0%	61%	81%	-	43%	43%	43%	78%	98%	55%	100%	100%	92%	100%
Ec.faecalis	382	100%	100%	-	-	-	-	74%	-	-	-	6%	-	-	-	11%	100%	100%	100%	-	100%
Ec.faecium	156	10%	10%	-	-	-	-	-	-	-	-	0%	-	-	-	24%	6%	100%	100%	-	100%

肺炎球菌

菌名	株数	ABPC	CTM	CTX	CFPM	CDTR	MEPM	EM	LVFX	VCM
St.pneumoniae(PSSP)	37	50%	89%	97%	100%	95%	100%	22%	100%	100%
St.pneumoniae(PISP)	34	0%	18%	68%	88%	94%	94%	3%	97%	100%
St.pneumoniae(PRSP)	17	0%	0%	59%	71%	77%	12%	0%	100%	100%

グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	PIPC	CEZ	CTX	CAZ	CFPM	CDTR	CFPN	FMOX	MEPM	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST
E.coli	136	45%	53%	68%	91%	82%	95%	71%	74%	79%	100%	88%	100%	68%	90%	85%	73%
E.coli ESBLs	58	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	91%	100%	91%	29%	29%	69%
E.coli MBL	0																
Kl.pneumoniae	543	1%	20%	28%	87%	73%	95%	27%	27%	64%	100%	99%	100%	89%	99%	98%	30%
Kl.pneumoniae ESBLs	1	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	0%	0%
Kl.pneumoniae MBL	6	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	100%	100%	0%
Kl.oxytoca	24	8%	50%	67%	88%	88%	92%	83%	88%	88%	88%	96%	100%	96%	100%	96%	88%
Ent.cloacae	414	15%	86%	0%	83%	86%	95%	64%	70%	16%	99%	99%	99%	91%	100%	100%	100%
Ent.aerogenes	49	33%	86%	2%	94%	92%	100%	63%	80%	29%	100%	100%	100%	88%	100%	100%	86%
Ser.marcescens	337	0%	86%	0%	80%	80%	100%	37%	40%	55%	100%	99%	99%	85%	99%	98%	98%
Prt.mirabilis	26	68%	77%	96%	100%	96%	100%	96%	96%	84%	100%	100%	100%	0%	100%	100%	73%

緑膿菌

菌名	株数	PIPC	CPZ	CAZ	CFPM	MEPM	S/C	GM	TOB	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	FOM
Ps.aeruginosa	731	97%	90%	94%	94%	90%	87%	94%	99%	98%	0%	97%	99%	0%	13%
Ps.aeruginosa MBL	11	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	-	0%	46%	-	0%

27. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動

（転出者）	高橋 政晴	平成 22 年 4 月 1 日付	県立加古川医療センターへ
	藤井 康司	平成 22 年 4 月 1 日付	県立塚口病院へ
（転入者）	大谷 幸広	平成 22 年 4 月 1 日付	県立姫路循環器病センターから
（新規採用）	射場 智美	平成 22 年 4 月 1 日付	徳島大学卒

2. 活動状況

昨年導入した放射線検査システム（検査オーダーリング・RIS・PACS・レポートシステム）が順調に稼動しフィルムレス化が大きく推進され、画像情報・会計情報に関しても正確で迅速に伝わり、業務の効率化と患者サービスの向上が図れた。

1) 放射線検査業務実績

平成 22 年の放射線検査実績は、総検査件数は 38,887 件、前年比 8.4%（3,029 件）の増加であった。

- ・外来患者の増加と病床利用率の向上により一般撮影検査や病室撮影の増加が著しく、また、CT 検査・MRI 検査が飛躍的に増加した。
- ・PACS 導入により他院からの紹介患者の画像や当院患者の紹介画像のコピーは、基本的にデジタル情報として処理されることとなった。

2) 機器の更新

①放射線治療装置（リニアック）の更新

- ・平成 6 年 9 月に導入され 16 年間使用してきた放射線治療装置 (ML-15MDX 三菱) に替わり、1 月更新工事に着手、3 月新装置 (ONCOR Impressin Plus シーメンス) を導入し、文部科学省やその他関係省庁の手続き、装置の基礎データ取得・調整等を完了して、5 月より稼動させている。新装置は複雑な腫瘍の形に合わせた照射が行えるマルチリーフコリメータ (MLC) が装備され、また、画像誘導放射線治療 (IGRT) の機能も有しており、より精度の高い放射線治療が行え、小児のがん医療に大きく貢献できる装置である。

②MRI 検査室対応輸液ポンプの導入

- ・MRI 検査がより安全に行えるように、コンティニューム MRI 室用輸液システム (CMRIP-1JP MEDRAD) を導入した。

3) 医療事故防止の取組み

今年度 MRI 検査室内への磁性体持ち込みが 3 件発生したことに対し、医師・看護師を対象に臨時で MRI 検査についての安全講習会を開催した。また、シリンジポンプの吸着事例に対し、より安全に検査が行えるよう MRI 検査室対応の輸液ポンプを導入した。

ヒヤリ・ハット報告事例数も昨年より若干の増加傾向であり、科内会議での「ヒヤリ・ハット」報告事例の分析、改善策の検討を実施して改善に努める。重点取組みは以下のとおりである。

- ・患者確認の徹底
- ・左右表示間違いの防止
- ・MRI 検査室内への磁性体持ち込み防止

4) 資質向上と教育

職員の資質の向上を図るため、学会・研修会に積極的な参加と発表の促進をしている。今年の実績は以下のとおりである。

- ・学会・研修会発表 : 11 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 延べ 42 人
- ・放射線部内勉強会の実施 : 14 回 14 題

3. 平成 23 年の課題

最新の高性能機器への更新と I T 化の充実を進め、こども病院の更なる発展に寄与する。

- ・放射線検査システムの積極的な活用を図り、画像診断の充実
- ・多列 X 線 C T 装置の増設と安定稼動



(1) 放射線検査人数

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	胸部撮影	外来	584	535	867	685	525	682	664	938	737	654	645	637	8,153
		入院	92	97	154	129	143	132	155	165	125	136	137	122	1,587
		計	676	632	1,021	814	668	814	819	1,103	862	790	782	759	9,740
	外科撮影	外来	546	522	719	609	468	561	578	730	562	539	532	562	6,928
		入院	74	86	99	82	89	108	120	93	92	86	93	64	1,086
		計	620	608	818	691	557	669	698	823	654	625	625	626	8,014
	ポータブル	外来													0
		入院	662	626	720	671	629	685	594	679	658	750	687	715	8,076
		計	662	626	720	671	629	685	594	679	658	750	687	715	8,076
	パノラマ・その他	外来	43	52	47	52	48	65	57	72	39	39	57	53	624
		入院	4	2	1	1	2	9	2	0	0	5	7	0	33
		計	47	54	48	53	50	74	59	72	39	44	64	53	657
単純撮影合計	外来	1,173	1,109	1,633	1,346	1,041	1,308	1,299	1,740	1,338	1,232	1,234	1,252	15,705	
	入院	832	811	974	883	863	934	871	937	875	977	924	901	10,782	
	計	2,005	1,920	2,607	2,229	1,904	2,242	2,170	2,677	2,213	2,209	2,158	2,153	26,487	
造影撮影	消化器	外来	6	15	17	14	9	10	11	21	19	14	11	16	163
		入院	12	9	18	14	21	24	15	9	6	17	5	5	155
		計	18	24	35	28	30	34	26	30	25	31	16	21	318
	脳血管	外来													0
		入院	5	0	3	5	1	4	6	3	1	2	0	1	31
		計	5	0	3	5	1	4	6	3	1	2	0	1	31
	心臓血管	外来													0
		入院	19	17	25	24	19	21	15	24	19	16	17	18	234
		計	19	17	25	24	19	21	15	24	19	16	17	18	234
	その他の血管	外来													0
		入院	1	1	1	2	2	0	3	2	1	6	5	3	27
		計	1	1	1	2	2	0	3	2	1	6	5	3	27
	泌尿器系	外来	31	28	46	31	24	32	29	35	43	32	32	41	404
		入院	3	3	2	2	3	1	6	3	1	2	2	4	32
		計	34	31	48	33	27	33	35	38	44	34	34	45	436
	その他の造影	外来	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	16
		入院	1	3	2	4	4	0	6	3	1	4	3	3	34
		計	3	5	4	5	5	2	7	4	2	5	4	4	50
造影撮影合計	外来	39	45	65	46	34	44	41	57	63	47	44	58	583	
	入院	41	33	51	51	50	50	51	44	29	47	32	34	513	
	計	80	78	116	97	84	94	92	101	92	94	76	92	1,096	
CT撮影	外来	106	124	189	142	125	134	134	161	174	131	127	122	1,669	
	入院	116	101	134	121	125	157	148	133	113	115	95	83	1,441	
	計	222	225	323	263	250	291	282	294	287	246	222	205	3,110	
MRI検査	外来	109	111	123	134	98	125	124	156	119	120	114	125	1,458	
	入院	51	47	77	46	55	43	62	56	61	50	48	47	643	
	計	160	158	200	180	153	168	186	212	180	170	162	172	2,101	
核医学検査	外来	18	30	38	25	26	32	37	66	23	24	25	24	368	
	入院	8	9	16	10	9	11	9	10	11	11	8	9	121	
	計	26	39	54	35	35	43	46	76	34	35	33	33	489	
放射線治療	外来	0	0	0	0	0	0	6	13	18	4	20	0	61	
	入院	0	0	0	0	10	72	20	29	73	51	48	66	369	
	計	0	0	0	0	10	72	26	42	91	55	68	66	430	
超音波検査	外来	249	247	331	244	215	250	309	359	258	242	258	273	3,235	
	入院	51	43	59	37	47	67	59	62	59	54	59	42	639	
	計	300	290	390	281	262	317	368	421	317	296	317	315	3,874	
DUP処理	外来	1	0	0	0	3	2	1	0	0	1	1	0	9	
	入院													0	
	計	1	0	0	0	3	2	1	0	0	1	1	0	9	
PACS処理	外来	85	87	111	111	72	107	122	106	109	115	109	78	1,212	
	入院													0	
	計	85	87	111	111	72	107	122	106	109	115	109	78	1,212	
骨塩定量	外来	4	6	10	10	2	5	2	9	5	4	7	8	72	
	入院	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1	1	7	
	計	5	6	11	11	2	5	2	9	5	6	8	9	79	
総合計	外来	1,784	1,759	2,500	2,058	1,616	2,007	2,075	2,667	2,107	1,920	1,939	1,940	24,372	
	入院	1,100	1,044	1,312	1,149	1,159	1,334	1,220	1,271	1,221	1,307	1,215	1,183	14,515	
	計	2,884	2,803	3,812	3,207	2,775	3,341	3,295	3,938	3,328	3,227	3,154	3,123	38,887	

(2) 機器別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
X線撮影装置(胸部)	676	632	1,021	814	668	814	819	1103	862	790	782	759	9,740
X線撮影装置(外科)	620	608	818	814	668	814	819	1103	862	790	782	759	9,457
泌尿器用X線TV装置	34	31	48	691	557	669	698	823	654	625	625	626	6,081
X線TV断層撮影装置(多目的)	3	5	4	38	32	35	42	42	46	39	38	49	373
X線CT撮影装置	222	225	323	263	250	291	282	294	287	246	222	205	3,110
磁気共鳴断層撮影装置	160	158	200	180	153	168	186	212	180	170	162	172	2,101
放射線治療	0	0	0	0	10	72	26	42	91	55	68	66	430
ガンマカメラ装置(RI)	26	39	54	35	35	43	46	76	34	35	33	33	489
デジタルX線TV装置	18	24	35	28	30	34	26	30	25	31	16	21	318
心臓血管連続撮影装置	25	18	29	31	22	25	24	29	21	24	22	22	292

(3) 時間外 時間帯別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	181	137	142	151	181	132	128	122	162	223	137	185	1,881
業務時間(時)	43	34	34	35	46	32	32	30	35	49	33	40	442
稼働日数	12	9	9	9	13	8	10	9	10	11	10	12	122
準夜帯検査人数	146	152	131	127	140	141	131	124	115	118	127	112	1,564
業務時間(時)	55	58	50	43	51	52	44	44	43	42	19	43	545
稼働日数	31	28	31	30	31	29	29	30	28	29	27	29	352
深夜帯検査人数	48	42	39	48	42	42	38	42	31	37	24	31	464
業務時間(時)	21	20	19	20	19	21	16	23	13	18	11	14	215
稼働日数	22	17	20	21	21	21	19	19	16	17	16	17	226
検査人数(計)	375	331	312	326	363	315	297	288	308	378	288	328	3,909
業務時間(計)	118	112	103	99	116	105	92	97	91	110	63	98	1,203

(4) 時間外 検査種別検査人数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	224	206	198	199	206	179	184	202	192	247	202	228	2,467
一般撮影	96	72	67	77	91	73	64	47	66	66	53	61	833
CT	53	50	39	47	63	50	49	34	44	58	30	34	551
TV		2	4	1	2	7		4	4	4		2	30
アンギオ			0						1				1
MRI	2	1	4	2	1	6		1	1	3	3	3	27
エコー													0
その他													0
合計	375	331	312	326	363	315	297	288	308	378	288	328	3,909

(5) 時間外 病棟別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
HCU	13	7	16	17	15	12	11	7	14	22	11	21	166
NICU	66	67	44	70	63	52	58	41	49	71	67	44	692
ICU	49	52	56	50	60	42	43	72	69	83	62	81	719
GPU	16	4	6	10	7	5	13	6	7	6	7	11	98
OP室	21	16	21	7	15	12	22	30	13	16	21	24	218
産科	11	9	6	10	9	13	5	9	10	10	7	6	105
外来		4	3			2	2			1	1	1	14
救急	112	96	67	98	111	89	70	68	81	86	70	76	1,024
PICU	53	41	61	33	55	53	39	29	41	59	31	41	536
一外4B	11	9	1	5	6	10	10	8	6	6	3	2	77
循環器5A	6	8	14	2	4	6	4	6	5	5	2	8	70
循環器5B	4	7	10	6	4	2	7	11	6	5	2	9	73
混合A	5	3	1	5	8	4	7	1	1	1	2	3	41
混合B	2	5	3	2	4	9	2		3	2			32
血液7F	6	3	3	11	2	4	4		3	5	2	1	44
合計	375	331	312	326	363	315	297	288	308	378	288	328	3,909

28. 栄養指導課

1. 栄養指導課員の異動

[転出者]	課長補佐（管理栄養士）	川脇 恵（平成22年4月1日付） （県立姫路循環器病センターへ）
	主任調理員	松崎 勝人（平成22年4月1日付） （県立加古川医療センターへ）
	主任調理員	中村 典子（平成22年4月1日付） （県立がんセンターへ）
	主任調理員	細谷 昌弘（平成22年4月1日付） （県立尼崎病院へ）
[退職者]	主任（管理栄養士）	谷口 章子（平成22年6月30日付）
[転入者]	主任（管理栄養士）	鳥井 隆志（平成22年4月1日付） （県立西宮病院から）
	主任調理員	小西 富夫（平成22年4月1日付） （県立光風病院から）
	主任調理員	田高田和子（平成22年4月1日付） （県立がんセンターから）
	主任調理員	濱田 好史（平成22年4月1日付） （県立加古川医療センターから）

2. 平成22年の活動

平成22年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

- ・ N S T（チーム医療）の円滑な稼働
- ・ 医療事故防止対策に関する取り組み（ひやりハット報告）
- ・ 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・ 調乳機器更新準備に向けての取り組みの推進
- ・ 調乳機器のオーバーホール等による安定的な調乳の提供
- ・ 患者給食サービスの向上を図るための給食イベントの開催「バレンタインデー・デザートバイキング食の提供」
- ・ I T化の推進（給食オーダーリングシステムの導入準備）
- ・ 知識や技能の資質を向上させるための課内研修会の充実
- ・ 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な発表

3. これからの展望

平成23年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養指導課の基盤整備と患者サービスの向上のため、次の業務を中心に推し進める。

- ・ N S T（チーム医療）の円滑な稼働
- ・ 医療事故防止対策に関する取り組み。（ひやりはっと報告）
- ・ 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・ 調乳トータルシステム機器更新により安全で安心できる調乳業務の推進
- ・ I T化の推進（給食オーダーリングシステムの本格稼働）
- ・ 患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「バレンタインデー・デザートバイキング食等の提供」
- ・ 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・ 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な参加と発表

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

① 調製乳人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員(人)		2,144	2,127	2,281	2,417	2,264	1,971	2,200	1,721	1,678	1,950	1,889	1,929	24,571	65.6
調乳食事人員:調乳(人)		345	347	333	277	313	362	352	342	342	308	261	272	3,854	10.3
小計		2,489	2,474	2,614	2,694	2,577	2,333	2,552	2,063	2,020	2,258	2,150	2,201	28,425	75.9
調乳・食事人員(食事)		798	747	742	697	814	835	771	664	689	739	835	715	9,046	24.1
計		3,287	3,221	3,356	3,391	3,391	3,168	3,323	2,727	2,709	2,997	2,985	2,916	37,471	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
13%レーベンスミルク		12,445	11,583	11,860	11,893	12,276	11,757	13,093	11,020	10,120	11,956	11,856	11,982	141,841	51.2
15% LW		5,625	5,194	5,639	6,264	6,144	5,136	5,123	4,203	4,587	4,708	4,142	4,109	60,874	22.0
6%レーベンスミルク														0	
7%レーベンスミルク		175			12									187	
8%レーベンスミルク		42	161											203	
9%レーベンスミルク														0	
10%レーベンスミルク														0	
14%レーベンスミルク						27		36						63	
15%レーベンスミルク		136	340	272	931	1,413	1,523	930	199	88	709	786	239	7,566	
16%レーベンスミルク		428	385	879	758	540	592	467	25	197	279	535	104	5,189	
17%レーベンスミルク		257	266	352	549	687	445	212	183	480	613	476	998	5,518	
18%レーベンスミルク												27	144	171	
20%レーベンスミルク		171	171											342	
13% LW														0	
17% LW														0	
18% LW														0	
4%滋養糖+13%レーベンスミルク														0	
5%滋養糖							9							9	
20%滋養糖														0	
10%滋養糖		604	486	498	491	510	536	517	561	574	526	485	499	6,287	
50%滋養糖														0	
8%MA -1														0	
10%MA -1		140	83	199	90	63								575	
11%MA -1			98											98	
12%MA -1														0	
14%MA -1														0	
15%MA -1		732	923	835	670	587	210	241	155	218	357	194	267	5,389	
16%MA -1														0	
17%MA -1														0	
18%MA -1			169	547	421	147	174	118						1,576	
20%MA -1		248	96	168	8		63							583	
22%MA -1		49	128											177	
8% E赤ちゃん			11											11	
13% E赤ちゃん		58		48	77	152	111		177	284	114	85	224	1,330	
15% E赤ちゃん														0	
18% E赤ちゃん														0	
10%ケトンフォーミュラー											166	50		216	
14%ケトンフォーミュラー				42	267	255								564	
16%ケトンフォーミュラー+2%レーベンスミルク			15	135										150	
10%エレメンタルフォーミュラ		36	54											90	
15%エレメンタルフォーミュラ			72											72	
17%エレメンタルフォーミュラ		18												18	
7%ラクトレス														0	
14%ラクトレス		355	302	372	36									1,065	
10%MC Tフォーミュラ														0	
13%MC Tフォーミュラ														0	
14%MC Tフォーミュラ		47	261	348	49	106	295	157	272	255	412	78	117	2,397	
15%MC Tフォーミュラ			45						8					53	
16%MC Tフォーミュラ		81	196	15	10	210								512	
17%MC Tフォーミュラ			9	207										216	
18%MC Tフォーミュラ														0	
20%MC Tフォーミュラ														0	
13% GL (無乳糖粉乳)														0	
7% GL (無乳糖粉乳)														0	
13% NA-20														0	
13%MM-5低リン乳														0	
15%MM-5低リン乳														0	
16%MM-5低リン乳														0	

II 診療統計

種類	月別												計	%
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
18%MM-5 低リン乳														0
15% 8006														0
9% S-22														0
10% S-22												29		29
13% S-22														0
15% S-22						145	186	186	149	161	60	11		898
15% S-22 + 8% 滋養糖														0
15% S-22 + 12% 滋養糖	186	168	78											432
15% S-22 + 16% 滋養糖			102	180	186	36								504
13% S-23												55		55
15% S-23 (蛋白除去乳)														0
12% S-23 + 3% S-22														0
9% S-23 + 6% S-22														0
8% S-23 + 8% S-22														0
9% S-22 + 5% レーベンスミルク														0
8% 8806 (低カリウム中リンフォーミュラ)														0
15% 8806 (低カリウム中リンフォーミュラ)	16	136	65	84	199	222	56		10	168	30	6		992
15% 低カリウム低リンフォーミュラ														0
15% 508(高カリウム低リンフォーミュラ)														0
MC-2 (無乳糖粉乳)														0
10% 206 + 4% レーベンスミルク														0
7% 206 7% レーベンスミルク														0
14% 206(ビタミンD無添加低Caフォーミュラ)														0
14% 必脂 MCT(721)			142			18	6							166
15% 必脂 MCT(721)								32						32
16% 必脂 MCT(721)			30	120										150
20% 必脂 MCT(721)	3	28	18		27			8	16					100
7% エレンタール														0
9% エレンタール														0
10% エレンタール														0
11% エレンタール														0
12% エレンタール														0
13% エレンタール														0
14% エレンタール														0
15% エレンタール										28	10			38
16% エレンタール														0
18% エレンタール			21	118								10		149
20% エレンタール			164	36	100	24	10		48					382
21% エレンタール														0
23% エレンタール								24	80					104
25% エレンタール														0
26% エレンタール				8				3						11
27% エレンタール														0
30% エレンタール														0
5% エレンタール P											1	16		17
7% エレンタール P														0
8% エレンタール P														0
10% エレンタール P	8		6	90	116	349	435		36	126				1,166
12% エレンタール P	160	140	161	20			100	80			12			673
13% エレンタール P	302		15	53	187			14		8				579
14% エレンタール P	21	14	31	31		18	36							151
15% エレンタール P	79		57	134	168	72	33	80		61		23		707
16% エレンタール P							53	259	270	378	270	279		1,509
17% エレンタール P														0
18% エレンタール P	142	82		61	182	40	32	30	162	15	178	31		955
20% エレンタール P					30		40	114		27	177	14		402
21% エレンタール P														0
22% エレンタール P	4	175										154		333
23% エレンタール P					10									10
24% エレンタール P												49		49
25% エレンタール P											183	275		458
26% エレンタール P														0
27% エレンタール P														0
マクトンオイル	287	321	264	159	287	274	197	28	36	90	70	62		2,075
小計	4,785	5,335	6,071	5,463	6,189	5,156	3,862	2,438	2,903	4,238	3,707	3,606		53,753 19.4
濃厚流動食														
サンエット N3	934	730	806	707	663	643	923	668	995	693	621	801		9,184
アイソカル	790	807	627	424	456	558	646	758	820	935	598	588		8,007
インパクト														0
テルミール 2.0 α														0
小計	1,724	1,537	1,433	1,131	1,119	1,201	1,569	1,426	1,815	1,628	1,219	1,389		17,191 6.2
牛乳	137	292	189	197	173	249	331	310	229	188	184	247		2,726 0.9
減菌水	29	38	4		166	114	145	47	49	64	116	70		842 0.3
計	24,745	23,979	25,196	24,948	26,067	23,613	24,123	19,444	19,703	22,782	21,224	21,403		277,227 100.0
空瓶 大 200 c c	3,905	3,434	3,969	4,028	4,310	4,810	4,955	4,647	4,332	4,736	4,335	3,738		51,199
空瓶 小 100 c c	4,440	4,080	5,232	4,776	4,728	4,488	6,504	6,024	4,925	5,220	4,584	4,416		59,417
計	8,345	7,514	9,201	8,804	9,038	9,298	11,459	10,671	9,257	9,956	8,919	8,154		110,616 100.0

③ 平成 22 年 患者食事数

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
常 食	学 童 食	887	739	1,174	857	619	696	1,243	1,760	683	947	682	813	11,100
	妊 産 婦 食	1,648	1,833	2,067	2,061	2,254	1,746	1,482	1,924	2,059	2,379	2,362	2,267	24,082
	小 計	2,535	2,572	3,241	2,918	2,873	2,442	2,725	3,684	2,742	3,326	3,044	3,080	35,182
軟 菜・幼 児・ 離 乳 食	幼 児・離 乳 食	1,134	1,091	1,304	1,367	1,733	1,864	1,621	1,334	1,529	1,715	1,760	1,651	18,103
	軟 菜・流 動 食	77	91	94	101	83	79	110	118	119	91	126	79	1,168
	小 計	1,211	1,182	1,398	1,468	1,816	1,943	1,731	1,452	1,648	1,806	1,886	1,730	19,271
非 加 算 特 別 食	ペ ー ス ト 食	113	171	109	86	155	119	165	83	71	51	34	13	1,170
	ア レ ル ギ ー 食	653	578	800	591	879	1,026	894	764	727	839	601	685	9,037
	自 由 食	2,846	2,817	3,107	2,726	2,560	2,719	3,144	2,955	3,326	3,176	3,181	3,142	35,699
	口 蓋 裂 食	33	1	33	31	36		50	124	9	39	32	51	439
	扁 摘 術 後 食	98	76	97	129	62	92	164	158	100	190	50	168	1,384
	移 植 対 応 食	224	146	278	356	324	272	349	372	443	409	331	234	3,738
	ク ロ ー ン 病 食							50	86					136
	低 残 査 食			1	27		16	8	3		8	52	18	133
	肥 満 食	91	84	83	77	93	88	83	86	76	93	90	93	1,037
	ヨ ー ド 制 限 食													0
	そ の 他 特 別 食	305	277	153	162	269	351	267	185	220	192	156	168	2,705
小 計	4,363	4,150	4,661	4,185	4,378	4,683	5,174	4,816	4,972	4,997	4,527	4,572	55,478	
加 算 特 別 食	腎 臓 食	82	70	122	146	141	67	206	105	136	167	242	264	1,748
	肝 臓 食	28		7	10	6	8		21	36	12	6		134
	糖 尿 病 食	107	54	144	91	48	120	113	15			10	224	926
	乳 び 胸 食		27	70	43	5			19	34	5	38		241
	心 臓 食	156	173	274	261	256	275	462	545	239	393	505	258	3,797
	潰 瘍 食													0
	低 ナ ト リ ウ ム 食													0
	検 査 食 (加)													0
	妊 娠 中 毒 症 食	283	165	367	185	177	204	171	186	162	54	99	193	2,246
	妊 産 婦 糖 尿 病 食													0
	妊 産 婦 肝 臓 病 食													0
高 尿 酸 血 症 食													0	
小 計	656	489	984	736	633	674	952	891	607	631	900	939	9,092	
計	8,765	8,393	10,284	9,307	9,700	9,742	10,582	10,843	9,969	10,760	10,357	10,321	119,023	
保 存 食	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 査 食	188	170	188	182	187	182	188	188	182	188	181	188	2,212
	小 計	374	338	374	362	373	362	374	374	362	374	361	374	4,402
合 計	9,139	8,731	10,658	9,669	10,073	10,104	10,956	11,217	10,331	11,134	10,718	10,695	123,425	

④ おやつ数

(単位 食)

月別 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
おやつ数	3,497	3,477	4,014	3,893	3,951	4,108	4,747	4,111	4,604	4,928	4,687	4,098	50,115

2) 患者外

① 食事数

(単位 食)

月別 種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食	218	228	266	186	160	182	184	170	162	164	156	158	2,234

29. 指導相談・地域医療連携部

I. 組織

22年4月より、部内の「指導相談室」「地域医療連携室」を廃止し「指導相談・地域医療連携部」として、連携窓口を統合し院内外の診療支援・地域との連携支援に努めた。スタッフは、多職種が各自の専門性を活かしながら互いに協力して業務にあたっている。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）		
次長	橋本ひとみ（看護師）		
保健師	久布白歩		
心理判定員	藤井美有	三木伸子	宮崎美知恵（育児休暇中）
ケースワーカー	野呂朝子（PSW）	石田福代（MSW）	
看護師	藤定睦子		

また、初診患者の予約は、予約センターが窓口となっており、委託業者3名が担当している。

II. 平成22年活動

<活動目標>

1. 患者・家族のQOL向上のための支援に努める
2. 高度専門医療機関としての役割を果たせるように、院内の各部署の支援に努める
3. 地域医療支援病院としての役割を果たせるように、地域医療機関との連携に努める

<22年の主な活動>

1. 新たな連携病院、診療所の登録
2. 広報活動の推進
 - ① ホームページ更新、年報作成、診療のご案内作成、広報誌「げんきカエル」作成
 - ② 予約システムの周知活動
3. 在宅療養支援の推進
 - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催）・研修会開催
 - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催）
 - ③ 制度活用支援・在宅での医療機器等の購入支援
 - ④ 周産期センターからの退院児への支援
4. 院内各科の連携支援
5. 入院中の情緒不応児への対応
 - ① 児への心理評価・カウンセリング・プレイ療法
 - ② 家族へのカウンセリング
 - ③ 病棟スタッフへの関わり方指導
6. 患者家族の不安への対応
7. 発達支援・養育支援
 - ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
 - ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）
 - ③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）
8. 重度心身障害児施設及び療育施設の現状把握と連携強化活動
9. 各科への診療支援
 - ① 各科の発達フォロー支援（各種心理テスト・育児支援）
 - ② 家族背景へのケースワーク
 - ③ 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
10. 各科の研究活動への協力
 - ① 「新生児～小児期における心疾患侵襲治療の安全性向上に関する研究」の支援
 - ② 循環器科患者教育の支援
11. 入院中の教育への支援
 - ① わらび学級入級手続き

<今後の目標>

1. 高度専門医療病院としての役割の広報に努め、当院と地域の連携を更に強化していく。
2. 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修・教育の貢献に努める。
3. 疾病や障害を抱えた子どもとその家族の育児支援に努める。
4. 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める。
5. 子どもと家族の心理的不安の解消に努める。

表1 指導相談部活動内容

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
相 談	発達指導	54	52	64	50	36	53	40	56	36	46	50	44	581
	疾病理解援助	9	4	3	0	3	2	3	5	6	4	2	6	47
	在宅療養支援・退院援助	20	18	26	36	42	81	62	50	68	82	58	52	595
	制度活用	73	80	80	67	56	63	48	49	43	41	52	44	696
	施設紹介	8	6	7	3	1	1	3	0	0	0	2	1	32
	社会生活援助・生活指導	45	76	61	16	20	38	40	25	24	18	34	28	425
	発達外来	25	20	28	29	16	31	25	34	17	24	20	22	291
	窓口・電話相談	9	14	16	7	10	16	6	16	5	17	2	10	128
	相談小計	243	270	285	208	184	285	227	235	199	232	220	207	2795
連 絡 調 整	家庭	27	28	20	26	47	41	57	51	53	68	50	67	535
	院内他部門	135	177	182	97	126	198	186	152	166	228	220	176	2043
	教育関係機関	5	12	12	6	12	10	2	4	3	10	10	9	95
	保健所・保健センター	15	16	18	21	10	25	35	39	24	21	21	25	270
	福祉事務所	8	18	21	2	10	13	12	25	12	18	12	13	164
	こども家庭センター	6	18	24	11	23	23	31	8	10	14	21	10	199
	児童福祉施設	6	6	3	1	6	10	14	16	7	11	9	10	99
	訪問看護ステーション・病院	30	43	32	23	38	35	41	33	21	42	20	14	372
	その他	11	12	9	15	22	26	30	15	18	45	46	30	279
	連絡調整 小計	243	330	321	202	294	381	408	343	314	457	409	354	4056
心 理 療 法	カウンセリング	8	9	9	9	9	8	6	12	24	30	28	13	165
	プレイセラピー	25	31	40	34	30	35	30	34	27	30	34	28	378
	心理療法 小計	33	40	49	43	39	43	36	46	51	60	62	41	543
心 理 検 査	発達・知能検査	84	70	95	87	62	71	91	85	64	86	78	63	936
	性格検査	12	11	14	13	23	18	15	19	15	18	18	13	189
	その他	11	9	10	11	5	8	9	5	7	13	14	11	113
	心理検査 小計	107	90	119	111	90	97	115	109	86	117	110	87	1238
計	626	730	774	564	607	806	786	733	650	866	801	689	8632	

III. 退院調整

退院調整患者

各診療科からの依頼文書で、退院調整を実施した患者は32名であった。そのうち、1名は転院、1名は死亡、23名が在宅医療になったが、7名が12月末に退院できなかった。地域で生活するために、家族の意向を聞き、今後も地域医療機関や訪問看護ステーションと連携を保ちながら退院調整をはかっていきたい。尚、退院・転院した患者の平均入院期間は約227日であった。

表2 依頼書による退院調整件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
退院調整依頼患者数		4	1	4	1	6	3	3	5	2	2	1	32
転帰	在宅		2	2		3	6	1	1	5	3		23
	施設												0
	転院									1			1
	死亡									1			1

表3 診療科別依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
総合診療科						1							1
新生児科		3	1	2	1	5			2		1		15
脳神経内科													0
循環器内科							1	2	3		1	1	8
腎臓内科													0
代謝・内分泌科													0
血液・腫瘍科								1					1
アレルギー・リウマチ科													0
救急集中治療科													0
小児外科		1		2			1			2			6
心臓血管外科													0
脳神経外科							1						1
形成外科													0
整形外科													0
眼科													0
精神科													0
泌尿器科													0
耳鼻咽喉科													0
産科													0
小児歯科													0
合計	0	4	1	4	1	6	3	3	5	2	2	1	32

表4 新生児特定集中治療室の退院調整加算に関わった件数

新生児特定集中治療室 退院調整加算算定介入 延べ人数（退院時）	平成22年4月の 診療報酬改訂後	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
								3	13	11	10

8月23日から退院支援計画書作成開始

表5 産科医師から患者の退院後地域支援依頼

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
依頼患者数				1		1							2

表 7 関係機関カンファレンス

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	前年
被虐待児等症例検討会	2	4	1	2	4	4	5	2	1	2	2	2	31	17
頭部外傷カンファレンス	5	3	3	2	1	3	6	0	2	5	2	0	32	16
施設入所カンファレンス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
在宅療養支援調整カンファレンス	3	4	1	1	1	3	5	1	1	4	3	0	27	25
教育機関カンファレンス	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	4	13

表 8 虐待カンファレンス対象児処遇（2010年1月～12月）

	こども家庭センター	保健所	外来のみ	合計
頭蓋骨骨折のみ	0	0	0	0
硬膜外血腫	0	0	0	0
硬膜外血腫＋骨折	0	1	0	1
硬膜下血腫	4	2	0	6
硬膜下血腫＋骨折	1	2	0	3
頭部打撲のみ	1	1	0	2
四肢骨折	0	2	0	2
熱傷	3	0	0	3
医療ネグレクト	0	0	2	2
計	9	8	2	19

IV. 神戸市立友生養護学校 病弱児訪問学級（わらび学級）

病気療養のため学校に通学できない子どもたちに、神戸市立友生養護学校病弱児訪問学級の教師がベッドサイドに訪問し、教育が受けられるようになっています。当部署で入級の説明から手続きをはじめ、主治医との面談、学校との連絡調整を行っています。

表 9 平成 22 年度わらび学級在籍状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ人数
小学部	新入級数	4	1	2			1	1	3	1	2	2		17
	退級数	1	2	1		2	1	1	1	4			2	15
	在籍数	10	9	10	10	8	8	8	10	7	9	11	9	109
中学部	新入級数			2			1		1				1	5
	退級数								1	2	1		1	5
	在籍数	1	1	3	3	3	4	4	4	2	1	1	1	28
高等部	新入級数													0
	退級数	1												1
	在籍数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
院内全体	新入級数	4	1	4			2	1	4	1	2	2	1	22
	退級数	2	2	1		2	1	1	2	6	1		3	21
	在籍数	12	11	14	14	12	13	13	15	10	11	13	11	149

V. その他

表 10 予防接種に関する問い合わせ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Hib ワクチン問い合わせ件数	0	0	0	1	0	1	1	3	1	0	0	0	7

指導相談・地域医療連携部（予約センター）

1. 業務内容

予約センターは委託職員が従事し、主に初診予約業務を行い、地域医療機関との連携を早く確実にを行うためにFAXを更新した。さらに受診前に患者の診療情報提供書を送信してもらい、事前に担当医に患者情報を提供することで、診察待ち時間の減少をはかった。

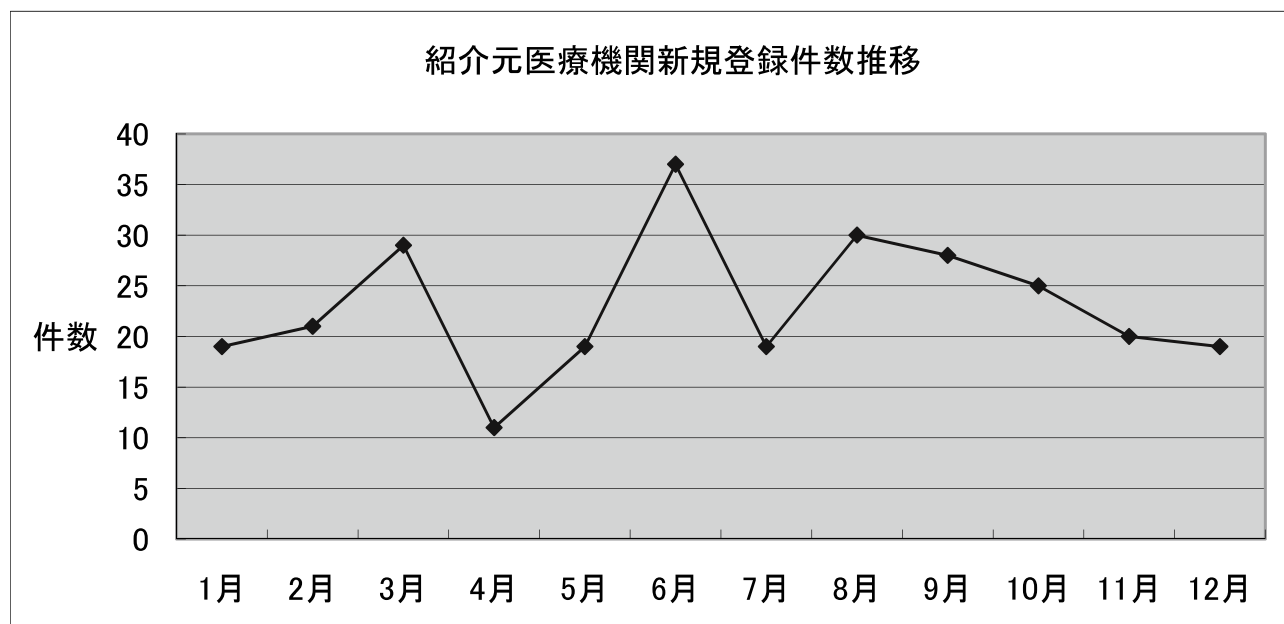
(2000年1月～12月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	延べ数	平成21年
FAX 予約数（地域連携）	187	170	240	197	196	237	256	370	316	336	363	332	3200	1982
紹介状を持ち、予約なしで来院した患者数	/	/	/	3	1	1	4	5	8	7	7	5	41	データなし
医療機関新規登録件数	19	21	29	11	19	37	19	30	28	25	20	19	277	345
受診報告書発送数	/	/	/	527	458	637	562	623	495	496	519	470	4787	データなし
返書率（%）	/	/	/	87.2	95.4	93.7	92.7	94.3	93.9	94.6	92.4	90.3		データなし
メール相談対応数	15	10	13	16	12	12	11	12	7	6	7	5	126	174
（内訳）各科医師相談	12	8	11	12	5	8	6	3	2	0	5	4	76	96
予約センターで返答	3	2	2	4	7	4	5	9	5	6	2	1	50	78
電話相談数（火・金）	2	2	4	7	1	4	4	6	1	1	4	3	39	44
セカンドオピニオン数	2	2	3	3	1	2	5	2	1	1	3	3	28	31

(2010年4月から業務統計の種類を変更したために、過去のデータがない部分を斜線で表す)

2. 紹介元医療機関

紹介元医療機関の新規登録は277件であった。平成17年から地域医療連携業務を行い、平成22年12月末で新規医療機関登録の累計は3125件になった。



30. 臨床工学室

スタッフ紹介

主任 横山 真司 体外循環技術認定士
 八代 真季
 志智 美咲
 岩下 仁美

臨床工学技士業務実績

医療機器管理業務実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
院内修理	20	11	20	7	8	26	12	12	15	31	21	23	206	17.16
依頼点検	48	18	29	20	16	11	15	10	17	32	27	21	264	22
定期点検	615	791	926	710	690	662	766	780	755	505	682	488	8370	695.7
メーカー修理・点検	8	8	8	3	5	2	4	1	4	6	10	8	67	5.58
メーカー定期点検	0	0	1	8	1	3	2	0	1	8	3	1	28	2.33
病棟ラウンド	12	7	6	1	6	1	0	0	0	0	0	0	33	2.75
その他	7	11	9	3	2	5	8	0	3	3	4	4	59	4.91

臨床業務実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
体外循環	12	10	16	14	11	14	17	28	17	13	13	21	186	15.5
ECMO	0	1	1(1)	1(4)	1(1)	1	2(6)	2(7)	2	1(1)	1(2)	0	13 (22)	1.08
血液浄化	0	6	2	4	2	11	14	1	4	3	14	26	87	7.25
自己血回収	12	11	17	15	12	15	17	28	17	14	14	21	193	16.0
アブレーション	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.08
MEP	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	6	0.5
SPECTRA	0	2	0	0	3	2	0	3	1	1	1	0	13	1.08
BMP	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.16

* ECMO：() 回路交換回数

各種委員会活動

医療器械機種選定委員会
 リスクマネジメント委員会
 手術室運営委員会
 呼吸ケア部会

31. 理学療法

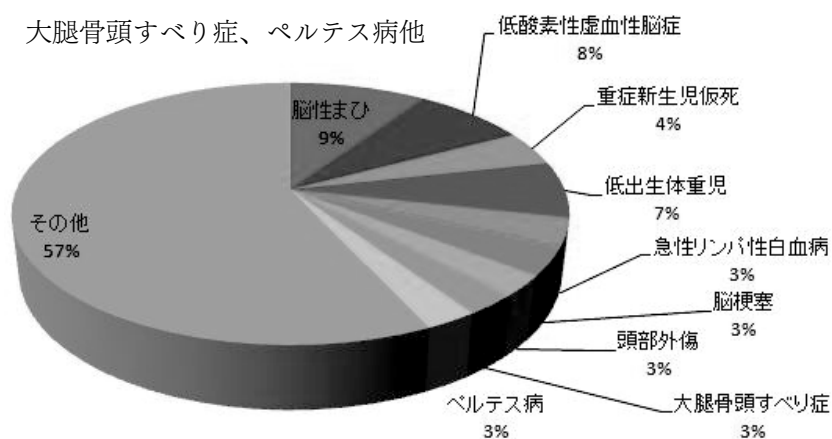
理学療法はこども病院本館、周産期医療センター、小児救急医療センターに入院されている方を対象としている。疾患別にみると、脳性まひ、脳梗塞、頭部外傷などの中枢性疾患、低出生体重、大腿骨頭すべり症やペルテス病などの整形疾患が大きな割合を占める。

ベッドサイドや病棟内を中心に、日常生活復帰、運動発達の支援や呼吸リハビリテーションを行っているが、設備・マンパワー的にも不足しているのが現状であり、少しでも改善されるように努力していきたい。

2010年 理学療法実施延べ件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
220	235	224	256	286	302	276	285	276	256	278	260	3154

疾患：脳性麻痺、低酸素虚血性脳症、新生児仮死、低出生体重、白血病、脳梗塞、頭部外傷、



実施依頼科：整形外科、新生児科、血液腫瘍科、小児科、総合診療科など

32. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全対策担当部長を室長に管理局长、副院長、周産期センター長、診療部長、看護部長、実働メンバーとして9名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長、医事課長で構成されている。今年度より、専従の医療安全対策担当課長が加わり、安全な医療の提供のために取り組みを行った。

主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

1) 各部門・部署ごとで評価、対策を検討、集約し、月1回のリスクマネジメント部会で報告。

①年間のヒヤリハット報告件数は、昨年度より増加したが、レベル2以上のヒヤリハットの増加はなかった。

レベル別ヒヤリハット報告件数割合

レベル0	42.9%
レベル1	54.8%
レベル2	1.9%
レベル3a	0.4%

②部門別では、看護部からの提出が90%を占める。これは、毎年同傾向である。

ヒヤリハット報告件数割合

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	栄養指導課
1.2%	90.2%	0.9%	4.8%	0.7%	2.2%

2) 毎日、総括リスクマネージャー（在室時は院長も在席）会議を開催、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき、評価、対策の検討を行った。

【報告書から改善への取り組み】

- ・ベッド柵の隙間からの転落未遂に対して、ベッド柵の現状調査と不足分を購入、安全なベッド柵の使用について周知した。
- ・MRI検査室への磁性体の持ち込みに対して、医療安全情報の提供と研修会の開催、MRI検査対応の輸液ポンプの導入を行った。輸液ポンプについては、放射線科、看護部で運用手順を作成した。
- ・PVCフリー輸液セットの不具合の収集と再評価を行い、使用にあたっての注意点を啓蒙した。
- ・シリンジポンプの適正使用の周知を行った。
- ・アンビューバックバルブの不具合の調査と更新を検討した。

2. 医療安全研修会の開催

年2回開催を行った。テーマは以下に示す。

第1回目 (12月に2回)	①過去の医療事故から学ぶ ②医薬品の安全な使用 ③シリンジポンプの適正使用 参加者：334名
第2回目 (3月に1回)	各部門の安全への取り組み報告 参加者：137名

3. 医療安全情報の提供

月1回、日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を行った。

III 學術・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
AHTを疑うプロセスのポ イント 虐待の可能性に 気付き確信を得るために	脳神経内科	永瀬裕朗	単著	中村肇	救急医療チームがおさえておきた い診断・治療・予防のポイント どう診る? どう対応する? 乳幼児 の頭部外傷と虐待	12	18	メディカ出版	2010.12
AHTの診断 その基準 と社会的介入の視点から 理解する意味	脳神経内科	永瀬裕朗	単著	中村肇	救急医療チームがおさえておきた い診断・治療・予防のポイント どう診る? どう対応する? 乳幼児 の頭部外傷と虐待	33	39	メディカ出版	2010.12
39章 小児脳腫瘍の化学療法	血内腫瘍内科	小坂嘉之	単著	端 和夫	脳神経外科臨床マニキュアル 第4版	645	654	シュプリンガー ジャパン	2010年7月
グレン手術からフオンタ ン出まで	心臓外科	大嶋義博	共著	全国心臓病の子どもを守る会	心臓をまもる Hyogo	1	6	全国心臓病の 子どもを守る会	2010.3.20
右室流出路の再建	心臓外科	大嶋義博	共著	全国心臓病の子どもを守る会	心臓をまもる Hyogo	49	52	全国心臓病の 子どもを守る会	2010.3.20
水頭症(脳形成不全を含 む)の問題点と長期予後 対策	脳神経外科	長嶋達也	共著	松本 悟、山之内康雄	水頭症、二分脊椎ハンドブック	79	87	日本二分脊椎・ 水頭症研究振興財団	2010年
キアリ奇形の手術	脳神経外科	長嶋達也	共著	新井 一	NS NOW No.11 小児脳神経外科手術	88	98	メディカ出版	2010年
骨系統疾患とは	整形外科	薩摩真一	単著	清野 佳紀	改訂版 骨の病気と付き合うには	18	21	メディカルビュー	2010.10
先天性足部障害	整形外科	薩摩真一	単著	高尾 昌人	絵でみる最新足診療 エッセンシャルガイド	191	201	全日本病院出版社	2010.10
子どもに多くみられる足 の障害	整形外科	薩摩真一	単著	高尾 昌人	絵でみる最新足診療 エッセンシャルガイド	218	225	全日本病院出版社	2010.10
小児関節疾患の診断と治 療	整形外科	薩摩真一	単著	日本整形外科学会	整形外科 卒後教育研修ビデオ			日本整形外科学会	2010.5
・アトロピン ・トローリックコンタクト レンズ ・風疹症候群	眼科	山本節	共著	山本節	視能矯正学 用語解説辞典	6 166 196	7 166 196	メディカル葉出版	2010年
尿路委向(変更)術と 合併症	泌尿器科	杉多良文	共著	溝上祐子、池田均	小児創傷・オストミー・ 失禁管理の実際	41	48	照林社	2010年3月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
近位型尿道下裂に対する形成術	泌尿器科	杉多良文	共著	柿崎秀宏、松田公志、中川昌之、雷田善彦	新 Urologic Surgery シリーズ 7 小児泌尿器科手術	128	139	メジカルビュー社	2010年10月
小児ヘルニア手術、包茎手術	麻酔科	香川哲郎	共著	永井良三、稲田英一	麻酔科研修ノート	527	528	診断と治療社	2010.7
Progesterone and progesterone receptor modulators in uterine myoma cell growth: its implication in women's health	産科	Maruo T, Ohara N, Yoshida S, Nakabayashi K, Xu Q, Chen W, Matsuo H, Yamada H	共著	Hedon B, Mettler L, Timmeberg H.-R	Proceedings of the IFFS 20th World Congress on Fertility & Sterility 2010	115	118	L U K O N - Verlagsgesellschaft mbH	2010
不整脈	栄養指導課	鳥井隆志	共著	本田佳子、松末智、田中清	ケースで学ぶ栄養管理の思考プロセス 第3巻循環器・腎・泌尿器疾患	82	93	文光堂	2010年8月
失禁用品	看護部	鎌田直子	共著	溝上祐子 池田均	小児創傷・オストミー・失禁管理の実際	67	71	照林社	2010年3月
間欠的自己導尿のケア	看護部	鎌田直子	共著	溝上祐子 池田均	小児創傷・オストミー・失禁管理の実際	144	150	照林社	2010年3月

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児頭部外傷症例に対する頭部CT(computed tomography) 適応の検討	救急集中治療科	藤田杏子、永瀬裕朗、中川拓、青木一憲、佐治洋介、丸山あずさ、上谷良行	日本小児救急医学会雑誌	9	3	321	324	日本小児救急医学会	2010年10月
SGA児のフォローアップをどうするか?	総合診療科	上谷良行	周産期医学	40	2	268	272	東京医学社	2010年2月
ハイリスク新生児のフォローアップ率をいかに向上させるか	総合診療科	上谷良行 楠田聡	日本未熟児新生児学会雑誌	22	2	206	207	日本未熟児新生児学会	2010年6月
2005年出生の超低出生体重児3歳時予後の全国調査集計結果	総合診療科	上谷良行	平成21年度藤村班総括・分担研究報告書			99	103	厚生労働科学研究	2010年3月
成長ホルモン分泌不全性低身長症	代謝内分泌科	郷司克己	小児内科	42	4	555	559	東京医学社	2010年4月
救急医療チームがおさえたい診断・治療・予防のポイント どう診る? どう対応する? 乳幼児の頭部外傷と虐待 AHTの診断 その基盤と社会的介入の視点から理解する意味	脳神経内科	永瀬裕朗	EMERGENCY CARE	23		1033	1039	メディカ出版	2010年
救急医療チームがおさえたい診断・治療・予防のポイント どう診る? どう対応する? 乳幼児の頭部外傷と虐待 AHTを疑うプロセスのポイントに	脳神経内科	永瀬裕朗	EMERGENCY CARE	23		741	747	メディカ出版	2010年
小児頭部外傷症例に対する頭部CT (computed tomography) 適応の検討	脳神経内科	藤田杏子、永瀬裕朗、中川拓、青木一憲、佐治洋介、丸山あずさ、上谷良行	日本小児救急医学会雑誌	9	3	321	324		2010年
永瀬裕朗、中川拓、青木一憲、藤田杏子、佐治洋介、丸山あずさ、上谷良行 複雑型熱性けいれんの予後不良因子を用いた急性脳症治療開始基準の検討	脳神経内科	永瀬裕朗、中川拓、青木一憲、藤田杏子、佐治洋介、丸山あずさ、上谷良行	日本小児科学会雑誌	114		858	864		2010年
小児神経集中治療における連続脳波モニタリングの試み	脳神経内科	丸山あずさ、永瀬裕朗	脳と発達	42		23	28		2010年

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児期先天性大動脈弁狭窄症に対する初期治療における経皮的動脈弁形成術の役割	循環器科	齋木宏文、鄭輝男、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治、大嶋義博	日本小児循環器学会誌	26	5	359	367	日本小児循環器学会	2010年11月
ラステリ術後の右肺動脈狭窄に対するバルーン血管形成術により右肺動脈-左房交通を形成した一例	循環器科	田中敏克、齋木宏文、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子、大嶋義博	日本小児循環器学会誌	26	5	423	427	日本小児循環器学会	2010年11月
HUS発症後に遷延性の意識障害および脳梗塞を呈した1例	腎臓内科	下岡武史、神田杏子、田中亮二郎	日本小児腎不全学会誌	第30巻		30	127	日本小児腎不全学会	2010年
治療の実施に関する研究「IDEC-C2B8」	腎臓内科	田中亮二郎	厚生労働科学研究費補助金 医療技術実用化総合研究 治験推進研究事業 平成21年度 総括研究報告書集			119	120	社団法人日本医師会	2010年4月
Down syndrome and GATA1 mutations in transient abnormal myeloproliferative disorder: mutation classes correlate with progression to myeloid leukemia.	血液腫瘍内科	Kanezaki R, Toki T, Terui K, Xu G, Wang R, Shimada A, Hama A, Kanegane H, Kawakami K, Endo M, Hasegawa D, Kogawa K, Adachi S, Ikeda Y, Iwamoto S, Taga T, Kosaka Y, Kojima S, Hayashi Y, Ito E.	Blood	116	20	4631	4638		2010 Nov 10.
Persistent detection of a novel MLL-SACMIL rearrangement in the absence of leukemia.	血液腫瘍内科	Mori T, Nishimura N, Hasegawa D, Kawasaki K, Kosaka Y, Uchida K, Yanai T, Hayakawa A, Takeshima Y, Nishio H, Matsuo M.	Leuk Res	34	10	1398	1341		2010 Oct
Mutations in the ribosomal protein genes in Japanese patients with Diamond-Blackfan anemia.	血液腫瘍内科	Konno Y, Toki T, Tandai S, Xu G, Wang R, Terui K, Ohga S, Hara T, Hama A, Kojima S, Hasegawa D, Kosaka Y, Yanagisawa R, Koike K, Kanai R, Imai T, Hongo T, Park MJ, Sugita K, Ito E.	Haematologica.	95	8	1293	1299		2010 Aug

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
【高位鎖肛 基礎から臨床の最前線まで】 長期フォロー-upの問題点	外科	横井暁子、西島栄治	小児外科	42	11	1218	1221	東京医学社	2010年11月
【あなたならどうする こんな時 プロに訊く術中の機転】 多発腸閉鎖症 どの こまでつなぐ？	外科	横井暁子、西島栄治	小児外科	42	8	853	855	東京医学社	2010年8月
Open-heart surgery in an infant with heterozygous factor VII deficiency.	心臓血管外科	Hironori Matsuhisa, Naoki Yoshimura, Hideki Niimi, Fukiko Ichida	Interact CardioVasc Thorac Surg	10	6	1037	1038	EACTS Publishing	June, 2010
Invited commentary: Suprasternal approach for impending tracheo- innominate artery fistula	心臓血管外科	Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima	Gen Thorac Cardiovasc Surg	58	9	483	484	Springer	September, 2010
Minimally invasive innominate artery transection for tracheomalacia using 3-dimensional multidetector-row computed tomographic angiography: report of a case.	心臓血管外科、 小児外科	Tomomi Hasegawa, Azusa Zaima, Chieko Hisamatsu, Eiji Nishijima, Yutaka Okita	J Pediatr Surg	45	7	E1	E4	Elsevier	July, 2010
Augmentation of systemic blood pressure during spinal cord ischemia to prevent postoperative paraplegia after aortic surgery in a rabbit model	心臓血管外科	So Izumi, Kenji Okada, Tomomi Hasegawa, Atsushi Omura, Hiroshi Munakata, Masamichi Matsumori, Yutaka Okita	J Thorac Cardiovasc Surg	139	5	1261	1268	Mosby	May, 2010
Controlled low-flow reperfusion after warm brain ischemia reduces reperfusion injury in canine model	心臓血管外科	Munakata H, Kenji Okada, Tomomi Hasegawa, Yutaka Hino, Kano H, Matsumori M, Yutaka Okita	Perfusion	25	3	159	168	SAGE	May, 2010
Pioglitazone preserves vein graft integrity in a rat aortic interposition model	心臓血管外科	Zhi Chen, Tomomi Hasegawa, Akiko Tanaka, Yutaka Okita, Kenji Okada	J Thorac Cardiovasc Surg	140	2	408	416	Mosby	August, 2010
Excessively high systemic blood pressure in the early phase of reperfusion exacerbates early-onset paraplegia in rabbit aortic surgery	心臓血管外科	Bishow Pokhrel, Tomomi Hasegawa, So Izumi, Atsushi Ohmura, Hiroshi Munakata, Yutaka Okita, Kenji Okada	J Thorac Cardiovasc Surg	140	2	400	407	Mosby	August, 2010

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
循環器学 2010 年の進歩 - 心臓血管外科学研究の進歩 -	心臓血管外科	岡田健次、長谷川智巳、北川敦士、大北裕	循環器専門医	18	2	312	316	南江堂	September, 2010
Activation of transglutaminase type 2 for aortic wall protection in a rat abdominal aortic aneurysm formation	心臓血管外科	Takashi Munezane, Tomomi Hasegawa, Suritaka, Akiko Tanaka, Kenji Okada, Yutaka Okita	J Vasc Surg.	52	4	967	974	Elsevier	October, 2010
Mondor's disease in the arm after intravenous chemotherapy following breast cancer surgery	心臓血管外科	Tomomi Hasegawa, Yutaka Okita	Ann Vasc Dis	3	3	244	246	Medical Tribune	December, 2010
二分脊椎	脳神経外科	長嶋達也	こどもケア	4	6	15	23	日総研	2010 年 2 月
乳幼児の頭部外傷と虐待：AHT の画像診断	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹	エマージェンシーケア	23	8	84	90	メデイカ出版	2010 年 8 月
乳幼児の頭部外傷と虐待：AHT の画像診断	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹	エマージェンシーケア	23	9	75	81	メデイカ出版	2010 年 9 月
Validity of caregiver's report on head trauma due to falls in young children aged less than 2 years	脳神経外科	Takeo Fujiwara, Tatsuya Nagashima, Makiko Okuyama, Takahiro Hoshino, Kazunori Aoki, Hiroaki Nagase, Hajime Nakamura	Clinical Medicine Insights: Pediatrics	2010	4	1	8	Libertas Academica	2010 年 8 月
虐待による乳幼児頭部外傷—いわゆる Shaken Baby Syndrome について	脳神経外科	長嶋達也	神戸市医師会報	2010				神戸市医師会	2010 年
出生前に破裂し 3 ヶ月後に再発をきたした先天性間葉芽腫の一例	外科、血液腫瘍科、病理検査室、	横井暁子、西島栄治、長谷川大一郎、小阪嘉之、吉田牧子、連利博	小児がん	47	3	452	456	日本小児がん学会	2010 年 9 月
One-stage vermilion switch flap procedure for the correction of thin lips in patients with bilateral cleft lips.	Plastic Surgery	Oyama T, Yosimura Y, Onoda M	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery	63	3	248	252	Elsevier	2010 年 7 月
Acetabular development in the contralateral hip in patients with unilateral developmental dysplasia of the hip.	整形外科	D Kobayashi, S Satsuma M Kurosaka R Kuroda	J Bone Joint Surg Am	92	6	1390	1397	J Bone Joint Surg	2010.8
遺残亜脱臼に対する Salter 骨盤骨切り術の長期成績	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、布居理紗	日本小児整形外科学会雑誌	19	2	374	377	日本小児整形外科学会	2010.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
遺残性股関節亜脱臼の治療―座長総説	整形外科	薩摩真一、坂巻豊教	日本小児整形外科学会雑誌	19	2	366	366	日本小児整形外科学会	2010.8
先天性内反足に対する Ponseti 法の初期治療成績	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、布居理沙	日本小児整形外科学会雑誌	19	2	394	397	日本小児整形外科学会	2010.8
内反趾の病態と治療	整形外科	薩摩真一	整形・災害外科	53	12	1369	1372	金原出版	2010.11
二分脊椎における整形外科的諸問題	整形外科	薩摩真一	Brain and Spinal Cord	17	4	2	3	日本二分脊椎・水頭症研究振興財団	2010
O 脚、X 脚（小児科医が知っておきたい、境界領域疾患）	整形外科	薩摩真一	小児内科	42	6	929	931	東京医学社	2010
既治療例からみた小児化膿性股関節炎の検討	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、布居理沙	中部日本整形外科学会雑誌	53	3	649	650	中部日本整形外科学会 災害外科学会	2010
小児における結核性骨髄炎の治療経験	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、布居理沙	日本小児整形外科学会雑誌	19	2	271	274	日本小児整形外科学会	2010.8
乳児内斜視の術後外斜視移行について	眼科	福村美帆、野村耕治、河村真美、永井隆史	眼科臨床紀要	3	2	178	181	眼科臨床紀要会	2010年2月
出生直後より片眼の牛眼を呈した神経線維腫症の2例	眼科	河村真美、辰巳康子、福村美帆、野村耕治	眼科臨床紀要	3	8	776	781	眼科臨床紀要会	2010年8月
小児の診察を極める「眼科診察」	眼科	野村耕治	小児外科	42	2	121	124	東京医学社	2010年2月
外斜視の治療アップデート	眼科	野村耕治	眼科	52	7	881	889	金原出版	2010年7月
兵庫アイバンク	眼科	山本節	Eye Bank J	14	1	8	9	日本アイバンク協会	2010年
耳鼻咽喉科外来でのお母さんところどもへの対応	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児歯科臨床	15巻	2号	35	39	東京臨牀出版	2010年
小児の深頸部感染症	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児科	51巻	8号	1063	1069	金原出版	2010年
お母さんへの回答マニュアル耳鼻咽喉科 Q&A2010・鼻出血・鼻汁・鼻閉―こどもが鼻づまりのため、しよっちらゆう口を開けていますが、なにか支障はありますか？	耳鼻咽喉科	阪本浩一	JOHNS	26巻	9号	1376	1377	東京医学社	2010年

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
尿道カテーテル留置	泌尿器科	中川賀清、久松英治、高木志寿子、杉多良文	小児科診療	73	5	823	825	診断と治療社	2010年5月
膀胱穿刺	泌尿器科	高木志寿子、久松英治、中川賀清、杉多良文	小児科診療	73	5	826	828	診断と治療社	2010年5月
患側低形成腎の摘出後も膈からの排泄が続いた、膈閉鎖腔への尿管異所開口の一例	泌尿器科	中川賀清、久松英治、高木志寿子、杉多良文	日本小児泌尿器科学会雑誌	19	1	44	46	日本小児泌尿器科学会	2010年5月
非触知精巣に対する診断と治療	泌尿器科	杉多良文	Japanese Journal of Endourology and ESWL	23	1	28	36	日本 Endourology・ESWL 学会	
おねしよの治療とケア おねしよは治るの？	泌尿器科	杉多良文	泌尿器ケア	15	3	258	262	メディカ出版	
小児泌尿器科手術 性器系の手術 尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文、久松英治、高木志寿子、中川賀清	臨床泌尿器科	64	3	201	203	医学書院	
A case of bilateral abdominoscrotal hydroceles without communication with the peritoneum	泌尿器科	Eiji Hisamatsu, Shizuko Takagi, Masashi Nomi, Yoshifumi Sugita	Indian Journal of Urology	26	1	129	130	Urological Society of India	
Prepubertal testicular tumors: a 20-year experience with 40 cases	泌尿器科	Eiji Hisamatsu, Shizuko Takagi, Yoshikiyo Nakagawa, Yoshifumi Sugita, Kaoru Yoshino, Katsuhiko Ueoka, Saburo Tanikaze	International Journal of Urology	17	11	956	959	Japanese Urological Association	
小児の心臓磁気共鳴画像 (MRI) 検査に対する全身麻酔の工夫	麻酔科	間嶋望、香川哲郎、鈴木毅、大西広泰、池島典之	麻酔	59	7	935	939	克誠堂	2010年7月
二絨毛膜性双胎	新生児科	秋田大輔、中尾秀人	周産期医学	40		357	360		2010年
当周産期センター新生児科のける新生児期の不整脈の検討	新生児科	小川楨治、他	周産期医学	40		683	688		2010年
胸椎部巨大髄膜瘤および左肺無形成を合併した Jarcho-Levin 症候群 (spondylothoracic dysplasia) の1例	新生児科	岩谷壮太、山口由美、沖田空、田淵和宏、坂井仁美、上田雅章、吉形真由美、澤淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	周産期新生児学会誌	46	1	73	78		2010年

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
生後早期より心伝道路障害を呈した先天性筋強直性ジストロフィー	新生児科	岩谷壮太、山口由美、 沖田空、小川禎治、 坂井仁美、上田雅章、 吉形真由美、溝淵雅巳、 芳本誠司、中尾秀人	日本小児科学会雑誌	114		1222	1225		2010年
Prophylactic indomethacin in extremely premature infants between 23 and 24 weeks gestation.	新生児科	Seiji Yoshimoto et al	Pediatr Int.	52	3	374	377		2010. Jun
Special Editorial: Translational research in women's health: from bedside to bench and from bench to bedside	産科	Maruo T	Int J Gynaecol Obstet	109	2	83	84	Elsevier Inc.	May, 2010
Cell-type specific actions of progesterone receptor modulators in the regulation of uterine leiomyoma growth	産科	Yoshida S, Ohara N, Xu Q, Chen W, Wang J, Nakabayashi K, Sasaki H, Morikawa A, Maruo T	Semin Reprod Med	28	3	260	273	Thieme Medical Publishers	May, 2010
Editorial: Progesterone, thyroid hormone and relaxin in the regulation of the invasive potential of extravillous trophoblasts in early placental development	産科	Maruo T	Gynecol Endocrinol	26	9	629	630	Informa plc.	Sep., 2010
Translational research with progesterone receptor modulators motivated by the use of levonorgestrel -releasing intrauterine system	産科	Maruo T, Ohara N, Yoshida S, Nakabayashi K, Xu Q, Chen W, Yamada H	Contraception	82	5	435	441	Elsevier Inc.	Nov., 2010
プロゲステロンの臨床応用：IUS とプロゲステロン	産科	丸尾猛	Hormone Frontier in Gynecology	17	2	63	69	メヂカレレビュー社	June, 2010
過去5年間に於ける当院で扱った常位胎盤早期剥離53症例の検討	産科	高松祐幸、牧志綾、 佐々木紘子、笹原淳、 田中達也、喜吉賢二、 佐本崇、船越徹	産婦人科の進歩	62	2	141	143	「産婦人科の進歩」 編集室	2010年5月
当科における “超緊急帝王切開”について	産科	笹原淳、牧志綾、 佐々木紘子、田中達也、 高松祐幸、喜吉賢二、 佐本崇、船越徹	産婦人科の進歩	62	2	108	110	「産婦人科の進歩」 編集室	2010年5月
常位胎盤早期剥離症例の分娩方法	産科	船越徹	ペリネイタルケア	29	3	239	244	メヂカ出版	2010年3月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
妊娠中における感染対策	産科	船越徹	妊産婦と赤ちゃんケア	2	5	66	72	日経研出版	2010年9月
第258回 photoquiz (頭部CTで見つけにくい出血)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	73	7	1225	1228	診断と治療社	
第259回 photoquiz (頭部CTで見つけにくい出血 part2)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	73	8	1421	1424	診断と治療社	
第260回 photoquiz (生後早期より発見される女児の腹部囊胞性腫瘍の鑑別)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	73	9	1611	1614	診断と治療社	
第261回 photoquiz (胃軸捻症を疑った場合)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	73	10	1779	1782	診断と治療社	
第262回 photoquiz (片腎欠損を指摘される女児に注意)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	73	11	2043	2046	診断と治療社	
第263回 photoquiz (成長とともに注意して観察すべき病態が変化する疾患)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	73	12	2221	2224	診断と治療社	
右室内腫瘍の1例	病理診断科1) 心臓血管外科2)	吉田牧子1)、高橋宏明2)、井上武2)、津親志2)、尾文字子2)、大嶋義博2)、松久弘典2)、河村朱美2)、門脇輔2)	小児がん (日本小児がん学会雑誌)	第47巻	第1号	163	163	特定非営利活動法人 日本小児がん学会/財 団法人 がんの子供を 守る会	2010年2月
小児・思春期糖尿病とインスリン注射 手技について	薬剤部	辻本勉	CDEJ News Letter		28	9	9	日本糖尿病療養指導士 認定機構	2010年10月
Correlates of NT-proBNP concentration in patients with essential hypertension in absence of congestive heart failure	検査	Keizo Toda, Yukihito Sato, Tomoko Hara, Kenro Hijiya, Ryutaro Kaneko, Tatu Okada, Yoshiki Takatsu, Hisayoshi Fujiwara, Toshiaki Iwasaki	Journal of clinical laboratory analysis	24	1	12	16		2010年
血清脂質低下と費用からみた脂質異常 症患者における栄養指導の効果	栄養指導課	小野美華、鳥井隆志他	日本臨床栄養学会雑誌	第32巻	第1号	62	68	日本臨床栄養学会	2010年10月
TNT-D受講者の声	栄養指導課	鳥井隆志	ヒューマンコミュニケーション	No. 8		51	52	日本医療企画	2010年11月
周産期のグリーンケア	産科	杉友ユリ	こどもケア	vol.5	no.4	123	127	日経研	2010年7月

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
神戸市小児救急医療体制検討会議の答申と官民学3者協働事業	救急集中治療科	松尾雅文、上谷良行	第24回	日本小児救急医学会	京都	2010年5月28日
川崎病後に発症した中毒性表皮壊死症の男児の一例	救急集中治療科	田中裕也、三好麻里、上谷良行	第24回	日本小児救急医学会	京都	2010年5月28日
脳腫瘍による頭蓋内圧亢進症に対して緊急手術が行われた症例についての検討	救急集中治療科	山口義道、佐治洋介、三好麻里、上谷良行	第24回	日本小児救急医学会	京都	2010年5月29日
シンポジウム3 小児救急医療における医師と看護師の協働 終末期患者を巡るチーム医療—医師の視点から—	救急集中治療科	藤田杏子	第24回	日本小児救急医学会	京都	2010年5月29日
2005年出生超低出生体重児の3歳時予後全国調査成績	総合診療科	上谷良行、河野由美、藤村正哲	第55回	日本未熟児新生児学会	神戸	2010年11月7日
兵庫県立こども病院小児救急医療センターにおける2年間の人工呼吸管理患者156例の検討	救急集中治療科	福原信一、佐治洋介、山口義道、上谷良行	第250回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2010年5月29日
哺乳困難を主訴とした咽後膿瘍の乳児例	救急集中治療科	田中裕也、佐治洋介、上谷良行、佐々木恒之	第251回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2010年9月25日
Hemorrhagic shock and encephalopathy syndromeを合併した新型インフルエンザの1例	救急集中治療科	田中聡、中川拓、藤田杏子、佐治洋介、山口善道、丸山あずさ、永瀬裕朗、福原信一、三好麻里、上谷良行	第23回	近畿小児科学会	大津	2010年3月14日
イレウスにおける緊急手術の適応を判断すべき臨床所見	救急集中治療科	山口義道、永瀬裕朗、佐治洋介、福原信一、三好麻里、上谷良行	第113回	日本小児科学会総会	盛岡	2010年4月24日
当院救急集中治療科における院外心肺停止症例の検討	救急集中治療科	藤田杏子、中川拓、佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗、上谷良行	第113回	日本小児科学会総会	盛岡	2010年4月24日
Excitotoxicityが想定される急性脳炎・脳症に対する脳低温・平温療法の効果	救急集中治療科	佐治洋介、永瀬裕朗、中川拓、藤田杏子、丸山あずさ、上谷良行	第113回	日本小児科学会総会	盛岡	2010年4月24日
委員会報告 総合小児医療の専門研修制度の創設へ向けて	救急集中治療科	田原卓浩、上谷良行	第113回	日本小児科学会総会	盛岡	2010年4月25日
兵庫県立こども病院救急医療センターにおける外傷患者症例の検討	救急集中治療科	福原信一、制野勇介、三好麻里、上谷良行	第38回	日本救急医学会総会	札幌	Sunday, October 10, 2010
兵庫県立こども病院小児救急医療センターにおける2年間の人工呼吸管理患者156症例の検討	救急集中治療科	福原信一、制野勇介、三好麻里、上谷良行	第102回	日本救急医学会 近畿地方会	神戸	2010年7月10日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
小児救急におけるトリアージ	救急集中治療科	福原信一、上谷良行	平成22年度	近畿ブロック 医療技術研修会	神戸	2010年11月13日
虐待の診断と対応	救急集中治療科	上谷良行	平成22年度	近畿ブロック 医療技術研修会	神戸	2010年11月13日
BLS,PALSの基本と実際	救急集中治療科	上谷良行、福原信一、川崎英史、辻真之介	平成22年度	近畿ブロック 医療技術研修会	神戸	2010年11月13日
小児の重症度評価	救急集中治療科	上谷良行	平成22年度	小児初期救急医療研修会	神戸	2010年10月31日
軽度外傷（軽症頭部外傷）	救急集中治療科	上谷良行	平成22年度	小児初期救急医療研修会	神戸	2010年10月31日
乳児副腎皮質腫瘍の3例	代謝内分泌科	奥野美佐子、米倉圭二、尾崎佳代、郷司克己、吉田牧子、松尾雅文	第44回	日本小児内分泌学会	大阪	2010年10月7日～10日
鞍上クモ膜嚢胞7例の内分泌学的検討	代謝内分泌科	米倉圭二、奥野美佐子、尾崎佳代、郷司克己	第44回	日本小児内分泌学会	大阪	2010年10月7日～10日
GALK1 遺伝子に3738bpの欠失とミスセンス変異の複合ヘテロ接合体をみとめたGalactokinase欠損症の1例	代謝内分泌科	尾崎佳代、米倉圭二、奥野美佐子、郷司克己、松尾雅文	第52回	日本先天代謝異常学会	大阪	2010年10月21日～23日
思春期発来の異常	代謝内分泌科	郷司克己	第15回	小児内分泌専門セミナー	神戸	2010年8月20日～22日
単一遺伝子糖尿病の臨床例	代謝内分泌科	奥野美佐子	第9回	若葉小児科臨床研究会	神戸	Saturday, July 17, 2010
胃食道逆流症の関与が疑われた気管支喘息症例における24時間pHモニタリングの評価	リウマチ・アレルギー科	安部信吾	第23回	近畿小児科学会	大津市	2010.3.14
全身型若年性特発性関節炎治療中に併発したニューモシスチス肺炎の1例	リウマチ・アレルギー科	笠井和子	第54回	日本リウマチ学会 総会・学術集会	神戸市	2010.4.24
胃食道逆流症を合併した気管支喘息症例における24時間pHモニタリング検査の評価	リウマチ・アレルギー科	安部信吾	第22回	日本アレルギー学会 春季臨床大会	京都市	2010.5.8
川崎病回復期に発症した中毒性表皮壊死症の男児の1例	リウマチ・アレルギー科	田中裕也	第22回	日本アレルギー学会 春季臨床大会	京都市	2010.5.8
Clinical remission and drug-free in patients with polyarticular juvenile idiopathic arthritis receiving tocilizumab: a case report.	リウマチ・アレルギー科	笠井和子	第14回	Congress of the Asia Pacific League of Associations for Rheumatology	HongKong	2010.7.12

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
トシリズム麻酔により臨床寛解に至り、一時的にdrug freeとなった難治性多関節型若年性特発性関節炎の2例	リウマチ・アレルギー科	中岸保夫	第251回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路市	2010.9.25
牛乳アレルギー児への麻疹・風疹ワクチン接種についての検討	リウマチ・アレルギー科	田中裕也	第60回	日本アレルギー学会 秋季学術大会	東京都	2010.11.27
魚を食べるとアトピー性皮膚炎の重症化を防げるか?	栄養指導課・リウマチ・アレルギー科	小倉有子	第60回	日本アレルギー学会 秋季学術大会	東京都	2010.11.26
卵、牛乳、小麦アレルギーに対する経口免疫療法の試み～当院10年間の経験から～	リウマチ・アレルギー科	安部信吾	第47回	日本小児アレルギー学会	神奈川県	2010.12.4
「小児救急医療における医師と看護師の協働－小児救急医療の責任の一端を担える看護師を目指して－	脳神経内科	藤田杏子	24	日本小児救急医学会 学術集会	熊本	2010.5.28-29
新型インフルエンザ感染に伴う意識障害で認められる非いらいれん性発作の割合	脳神経内科	藤田杏子、中川拓、佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗	52	日本小児神経学会総会	福岡	2010.5.20-22
全身麻酔下での脳低温/平温療法は難治性てんかん重症で発症する急性脳症による神経学的後遺症を低減する	脳神経内科	中川拓、永瀬裕朗、丸山あずさ、佐治洋介、藤田杏子	52	日本小児神経学会総会	福岡	2010.5.20-22
急性脳症が疑われる小児における非いらいれん性発作	脳神経内科	丸山あずさ、中川拓、藤田杏子、佐治洋介、永瀬裕朗	52	日本小児神経学会総会	福岡	2010.5.20-22
Induced Hypothermia/Normothermia with General Anesthesia Therapy Prevents Neurological Damage of Febrile Refractory Status epilepticus in Children	脳神経内科	Taku Nakagawa, Kyoko Fujita, Yohsuke Saji, Azusa Maruyama, Hiroaki Nagase, Hajime Nakamura.		Pediatric Academic Societies'2010 annual meeting	Vancouver	2010.5.1-4
excitotoxicity が想定される急性脳炎・脳症に対する脳低温・平温療法の効果	脳神経内科	佐治洋介、永瀬裕朗、中川拓、藤田杏子、丸山あずさ、上谷良行	113	日本小児科学会学術集会	盛岡	2010.4.23-25
当院救急集中治療科における院外心肺停止症例の検討	脳神経内科	藤田杏子、中川拓、佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗、上谷良行	113	日本小児科学会学術集会	盛岡	2010.4.23-25
イレウスにおける緊急手術の適応を判断すべき臨床所見	脳神経内科	山口善道、永瀬裕朗、佐治洋介、福原信一、三好麻里、上谷良行	113	日本小児科学会学術集会	盛岡	2010.4.23-25
Hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome を合併した新型インフルエンザの1例	脳神経内科	田中聡、中川拓、藤田杏子、佐治洋介、山口善道、丸山あずさ、永瀬裕朗、福原信一、三好麻里、上谷良行	23	近畿小児科学会	大津	2010.3.14
新型インフルエンザ流行期における神経症状合併例の検討	脳神経内科	藤田杏子、中川拓、佐治洋介、丸山あずさ、永瀬裕朗	60	兵庫県小児てんかん研究会	神戸	2010.3.8
急性脳症転送の基準 当院入院患者のデータから	脳神経内科	永瀬裕朗		兵庫県医師会 新型インフルエンザ研修会	神戸	2010.2.20

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
血友病患者における中心静脈カテーテル	血液腫瘍内科	小阪嘉之	第3回	兵庫県血友病看護ネットワーク	大阪府	2010.6.26
血友病診療の状況	血液腫瘍内科	小阪嘉之	第54回	神戸市灘病連主催・生活・教育に関する相談会	兵庫県神戸市	2010.12.5
4Gyの全身放射線照射の前処置で非血縁者間臍帯血移植を施行し、良好な経過を得ている重症複合型免疫不全症の一例	血液腫瘍内科	川崎圭一郎、岩谷壮太、竹田洋樹、長谷川大一郎、小阪嘉之	第32回	日本造血細胞移植学会	浜松市	2010.2.19-20
JACLS ALL study for childhood B-precursor ALL in comparison with ALL-97	血液腫瘍内科	Junichi Hara, Daiichiro Hasegawa, Souiti Suenobu, Yoshihiro Takahashi, Nobuhiro Suzuki, Keiko Yagi, Hirohide Kawasaki, Keizo Horibe, Hiroki Hori, Shinichiro Nishimura, Tooru Kudo, Makoto Yoshida, Tatsutoshi Nakahata, Megumi Oda	第72回	日本血液学会総会	名古屋市	2010.9.24-26
Childhood ALL masquerading as juvenile idiopathic arthritis	血液腫瘍内科	Tatsuya Yamashita, Daiichiro Hasegawa, Aiko Tanaka, Toshiaki Ishida, Keisuke Okuno, Hiroki Takeda, Keichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka	第72回	日本血液学会総会	名古屋市	2010.9.24-26
再発または治療抵抗性神経芽腫に対する 13-cis retinoic acid の意義	血液腫瘍内科	山下達也、長谷川大一郎、西山将弘、田中愛子、石田敏章、竹田洋樹、川崎圭一郎、横井暁子、吉田牧子、赤坂好宣、小阪嘉之	第26回 第52回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
科学治療中に新たに骨移植が出現した stage4S 乳児神経芽腫の一例	血液腫瘍内科	西山将弘、長谷川大一郎、山下達也、田中愛子、石田敏章、竹田洋樹、川崎圭一郎、横井暁子、吉田牧子、赤坂好宣、副島俊典、高橋宏暢、小阪嘉之	第26回 第52回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
Fanconi 貧血に対して同種臍帯血移植を行った 1 例	血液腫瘍内科	竹田洋樹、奥野啓介、田中愛子、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第26回 第52回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
JACLS ALL02 研究における standard risk 群の予後因子解析	血液腫瘍内科	高橋良博、今村俊彦、宇佐美郁哉、小阪嘉之、加藤剛二、河崎裕英、八木啓子、堀部敏三、堀浩樹、原純一、小田慈、中畑龍俊、工藤亨	第26回 第52回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
2 回の TA-TMA に対して初回時には血漿交換、再燃時にはトロンボモジュリン製剤が奏功した小児 PhALL の一例	血液腫瘍内科	石田敏章、西山将弘、山下達也、田中愛子、奥野啓介、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、田中亮二郎、小阪嘉之	第26回 第53回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
再発バークキット白血病に対する臍帯血移植後に HHV-6 脳炎を合併した一例	血液腫瘍内科	田中愛子、奥野啓介、竹田洋樹、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第26回 第53回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
HLA1 座不一致同胞からの骨髓移植を行った bilineal leukemia の 1 例	血液腫瘍内科	奥野啓介、竹田洋樹、田中愛子、西山将弘、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 26 回 第 53 回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
頭蓋内胚細胞腫瘍に対する強化化学療法の有効性を評価する臨床試験について	血液腫瘍内科	岡田恵子、小阪嘉之、副島俊典、長嶋達也、原純一	第 26 回 第 53 回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
JACLS ALL97, 02 研究における acute unclassified leukemia / acute mixed-lineage leukemia の治療成績	血液腫瘍内科	西村真一郎、長谷川大一郎、金田真、出口隆生、太田秀明、河崎裕英、八木啓子、原純一、堀部敏三、堀浩樹、小田慈	第 26 回 第 53 回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
JACLS ALL97, 02 研究におけるダウン症候群に伴発した急性リンパ性白血病の臨床的検討	血液腫瘍内科	高橋良博、末延聡一、長谷川大一郎、金田真、鈴木信寛、吉田真一、西村真一郎、河崎裕英、八木啓子、堀部敏三、堀浩樹、原純一、小田慈、中畑龍俊、工藤亨	第 26 回 第 53 回	日本小児がん学会 日本小児血液学会総会	大阪府	2010.12.17-19
先天性胆道閉鎖症 (BA) に合併し、早期に肺転移をきたしたウィルムス腫瘍の 1 例	血液腫瘍内科	川崎圭一郎、岩谷壮太、奥野啓介、竹田洋樹、長谷川大一郎、小阪嘉之、荒井洋志、横井暁子、赤坂好宣、吉田牧子	平成 21 年度	日本ウィルムス腫瘍研究会	大阪府	2010.1.23
寛解導入時に lineage switch をきたした bilineal leukemia の 1 例	血液腫瘍内科	奥野啓介、田中愛子、竹田洋樹、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 44 回	神戸血液病研究会	神戸市	2010.2.13
血縁者間同種骨髓移植を施行した高 IgM 症候群の 1 例	血液腫瘍内科	奥野啓介、田中愛子、竹田洋樹、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		PID セミナー	兵庫県	2010.3.5
再発パーキッツト白血病に対する臍帯血移植後に HHV-6 脳炎を合併した 1 例	血液腫瘍内科	田中愛子、奥野啓介、竹田洋樹、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 26 回	小児血液検討会	兵庫県	2010.6.4
呼吸困難のため、腫瘍生検後早期に腫瘍全摘荷が必要となった胸膜肺芽腫の 1 例	血液腫瘍内科	田中愛子	第 58 回	近畿小児がんカンファレンス	近畿	2010.8.7
夜間に虫垂炎にて緊急入院となった他院フォロー中の重症血友病 A の 1 例 ~ 当院での対処の反省点と今後の対応について ~	血液腫瘍内科	田中愛子、奥野啓介、竹田洋樹、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 6 回	阪神へモフィリア研究会	阪神	2010.6.26
2 回の TA-TMA に対して初回時には血漿交換、再燃時にはトロンボモジュリン製剤が奏功した小児 Ph1ALL の 1 例	血液腫瘍内科	石田敏章、西山将弘、山下達也、田中愛子、奥野啓介、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、田中亮二郎、小阪嘉之	第 9 回	VOD/TMA 発症予防に関する臨床研究会	大阪府	2010.7.23
治療開始前に頭蓋内出血にて死亡した急性骨髄性白血病 (M5) の 1 例	血液腫瘍内科	長谷川大一郎、森下英明、辻真之介、山下達也、田中愛子、石田敏章、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 7 回	兵庫県血液疾患懇話会	兵庫県	2010.11.5

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
小児白血病におけるがん幹細胞マーカーとしてのBMI-1の臨床的意義に関する研究	血液腫瘍内科	長谷川大一郎	第63回	兵庫県医師会設立記念医学会(兵庫県医師会勤務医事業医学研究助成受賞演題)	兵庫県	2010.11.14
成人期における「片肺循環」の臨床	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、齋木宏文、富永健太、佐藤有美、小川慎治	第12回	日本成人先天性心疾患研究会	大阪	2010年1月9-10日
Angiographic Catheter with Tapered End-holeの開発・使用経験	循環器科	田中敏克、小川慎治、佐藤有美、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、城戸佐知子	第21回	日本小児インタベンション研究会 井埜症候補演題	静岡	2010年1月21-23日
肺動脈分岐部狭窄に対する両側同時ステント留置術(simultaneous stent implantation: SSI)の短期および中長期治療成績	循環器科	田中敏克、小川慎治、佐藤有美、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、城戸佐知子	第21回	日本小児インタベンション研究会	静岡	2010年1月21-23日
長期予後から見た純型肺動脈閉鎖およびcritical PSに対する弁形成の限界	循環器科	齋木宏文、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川慎治	第21回	日本小児インタベンション研究会	静岡	2010年1月21-23日
モヤモヤ病を合併した心房中隔欠損の一例	循環器科	小川慎治、佐藤有美、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第21回	日本小児インタベンション研究会	静岡	2010年1月21-23日
Fontan術後急性期にほぼ閉鎖したFenestrationに対しバルーン拡大術を施行したHLHSの1例	循環器科	佐藤有美、田中敏克、小川慎治、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、城戸佐知子、大嶋義博	第21回	日本小児インタベンション研究会	静岡	2010年1月21-23日
バルーンの違い方・使い方	循環器科	田中敏克	第21回	日本小児インタベンション研究会 Keynote Lecture	静岡	2010年1月21日
肺実質病変と肺高血圧を合併した肺血流増加型心疾患8例の臨床経過	循環器科	齋木宏文、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川慎治	第16回	日本小児肺循環研究会	東京	2010年2月6日
Amplatzer duct occluder(ADO)により動脈管を閉鎖した2例	循環器科	小川慎治、佐藤有美、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第249回	日本小児科学会兵庫県地方会	兵庫医大	2010年2月13日
胎児大動脈弓逆行性血流の臨床的意義	循環器科	齋木宏文、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川慎治	第16回	日本胎児心臓病研究会	大阪	2010年2月19-20日
出生前診断された純型肺動脈閉鎖の臨床経過	循環器科	齋木宏文、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川慎治	第16回	日本胎児心臓病研究会	大阪	2010年2月19-20日
乳児期の大きな心室中隔欠損症を伴った僧帽弁閉鎖不全の臨床経過	循環器科	齋木宏文、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川慎治	第24回	日本小児循環器学会 近畿中四国地方会	大阪	2010年2月21日
僧帽弁腱索断裂による急性心不全を呈した3症例のまとめ	循環器科	佐藤有美、小川慎治、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子、井上武、門脇輔、河村朱美、松久弘典、圓尾文子、大嶋義博	第24回	日本小児循環器学会 近畿中四国地方会	大阪	2010年2月21日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
肺分画症に対し、コイル塞栓術を施行した Scimitar 症候群の一乳児例	循環器科	佐藤有美、田中敏克、小川禎治、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、城戸佐知子	第 23 回	近畿小児科学会	滋賀	2010 年 3 月 14 日
(講演) 心房中隔欠損に対する経カテーテル閉鎖術	循環器科	田中敏克	第 9 回	兵庫ライブデモンストラーション	神戸	2010 年 4 月 10 日
小児における肺血管拡張剤の使用状況	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、齋木宏文、富永健太、佐藤有美、小川禎治、	第 113 回	日本小児科学会学術集会	岩手	2010 年 4 月 23-25 日
心不全を呈した巨大腎部血管腫に対してコイル塞栓術を施行した 1 例	循環器科	佐藤有美、藤田秀樹、森岡一朗、三輪明弘、齋木宏文、田中敏克、城戸佐知子	第 113 回	日本小児科学会学術集会	岩手	2010 年 4 月 23-25 日
カテーテル介入を用いた腎動脈形成術を行なった重複腎動脈合併腎血管性高血圧の 1 例	循環器科	藤田秀樹、田中亮二郎、佐藤有美、齋木宏文、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第 113 回	日本小児科学会学術集会	岩手	2010 年 4 月 23-25 日
外科的治療を要した心臓腫瘍症例の検討	循環器科	田中敏克、小川禎治、佐藤有美、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、城戸佐知子	第 113 回	日本小児科学会学術集会	岩手	2010 年 4 月 23-25 日
成長期・思春期に心身症様の症状を伴った重症心疾患	循環器科	城戸佐知子、富永健太、田中敏克、藤田秀樹、齋木宏文、佐藤有美、小川禎治	第 113 回	日本小児科学会学術集会	岩手	2010 年 4 月 23-25 日
先天性心疾患に対する成人期再手術例の検討	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、齋木宏文	第 109 回	日本循環器学会近畿地方会	大阪	2010 年 6 月 5 日
Simultaneous Stent Implantation for Bilateral Branch Pulmonary Stenosis	循環器科	田中敏克、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、城戸佐知子	第 46 回	日本小児循環器学会学術集会 (The 3rd Congress of Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society 共催)	千葉	2010 年 7 月 6-9 日
食道閉鎖を合併した先天性心疾患の臨床像～肺循環への影響～	循環器科	齋木宏文、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治	第 46 回	日本小児循環器学会学術集会 (The 3rd Congress of Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society 共催)	千葉	2010 年 7 月 6-9 日
Mid-term outcome after TCPC in patients with high resistant pulmonary circulation	循環器科	齋木宏文、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治	第 46 回	日本小児循環器学会学術集会 (The 3rd Congress of Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society 共催)	千葉	2010 年 7 月 6-9 日
先天性大動脈弁上部狭窄の自然予後	循環器科	佐藤有美、小川禎治、富永健太、齋木宏文、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第 46 回	日本小児循環器学会学術集会 (The 3rd Congress of Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society 共催)	千葉	2010 年 7 月 6-9 日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
Exercise Induced Electrocardiograms in mid-long term after Total Caval Pulmonary Connection	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、齋木宏文、富永健太、佐藤有美、小川禎治	第46回	日本小児循環器学会 学術集会 (The 3rd Congress of Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society 共催)	千葉	2010年7月6-9日
最近経験した乳児期発症 Scimitar 症候群の2例	循環器科	亀井直哉、小川禎治、古賀千穂、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第251回	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路	2010年9月25日
Amplatzer duct occluder(ADO)により動脈管を閉鎖した7例	循環器科	小川禎治、田中敏克		小児循環器病 カンファレンス	京都	2010年6月5日
赤ちゃんが生まれる前にわかることー心臓の病気についてー(講演)	循環器科	佐藤有美		心臓病の子どもを守る 会 兵庫県支部 神戸 市難病医療相談会	神戸	2010年12月5日
急性血液浄化を施行した血球貪食性リンパ組織球症の乳児2例	腎臓内科 救急集中治療科 血液腫瘍科 循環器内科	田中亮二郎、神田杏子 制野勇介、福原信一、上谷良行 長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 田村彰広、齋木宏文、城戸佐知子	第11回	神戸急性血液浄化研究会	神戸	2010年2月13日
各種治療に難渋したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対してリリキシマブが奏効した1例	腎臓内科	亀井直哉 神田杏子 田中亮二郎	第8回	若葉小児科臨床研究会	神戸	2010年2月20日
家族性若年性高尿酸血症性腎症の兄妹例ー尿酸コン トロールは腎症進展に影響する	腎臓内科	田中亮二郎 河場康郎 神田杏子	第45回	日本小児腎臓病学会	大阪	2010年7月2日、3日
微小変化・異状メサングキウム増殖を示す小児イガ腎 症における自然寛解率とその予測因子	和歌山県立医科 大学小児科、兵 庫県立こども病 院腎臓内科、神 戸大学小児科	高、友子、中西浩一、戸川寛子、野津寛大、 田中亮二郎、飯島一誠、吉川徳茂	第45回	日本小児腎臓病学会	大阪	2010年7月2日、3日
Life-threatening な重度の貧血で発症した全身性エリ テマトーデスの1例	腎臓内科	神田杏子 河場康郎 田中亮二郎	第45回	日本小児腎臓病学会	大阪	2010年7月2日、3日
各種治療に難渋したステロイド抵抗性ネフローゼ症 候群に対してリリキシマブが著効した1例	腎臓内科	河場康郎 神田杏子 田中亮二郎	第15回	兵庫県腎疾患治療懇話会	神戸	2010年7月9日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
頻回再発型ネフローゼ症候群の治療中に拡張型心筋症を発症した1例	腎臓内科	神田杏子 河場康郎 田中亮二郎	第53回	兵庫県小児腎疾患懇話会	神戸	2010年7月17日
Natural remission rate and prognostic factors in childhood IgA nephropathy with minimal change or focal mesangial proliferation	Wakayama Medical University, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, Kobe University Graduate School of Medicine	Y Shima, K Nakanishi, H Togawa, K Nozu, R Tanaka, K Iijima, N Yoshikawa	The 15th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	New York	August 29-September 2, 2010
Treatment strategy and outcome for Henoch-Schonlein purpura	Kobe University Graduate School of Medicine, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, Wakayama Medical University	T Ninchoji, Y Hashimura, H Kaito, k Nozu, K Kanda, I Kamioka, Y Shima, K Hamahira, K. Nakanishi, R Tanaka, K Iijima, N Yoshikawa, M Matsuo	The 15th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	New York	August 29-September 2, 2010
Encrusted cystitis caused by MRSA in a pediatric renal transplant recipient	Department of Nephrology	R Tanaka, Y Teraoka, T Shimooka, E Hisamatsu, S Takagi, Y Sugita, K Kamei, K Iijima	The 15th	Congress of the International Pediatric Nephrology Association	New York	August 29-September 2, 2010
造血幹細胞移植後に発症した移植関連血栓性微小血管症 (TA-TMA) に対し血漿交換療法が著効した1例	腎臓内科、血液腫瘍科	河場康郎、神田杏子、田中亮二郎、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之	第32回	小児腎不全学会学術集会	札幌	平成22年9月30日—10月1日
造血幹細胞移植後に発症した移植関連血栓性微小血管症 (TA-TMA) に対し血漿交換療法が著効した1例	腎臓内科	河場康郎 神田杏子 田中亮二郎	第42回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2010年11月6日

演 題 名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
Prognostic factors in childhood IgA nephropathy with focal mesangial proliferation treated with angiotensin converting enzyme inhibitor	Wakayama Medical University, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, Kobe University Graduate School of Medicine	Yuko Shima, Koichi Nakanishi, Hiroko Togawa, Hironobu Mukaiyama, Taketsugu Hama, Kandai Nozu, Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima, Norishige Yoshikawa	43rd	American Society of Nephrology, 43rd Annual Meeting and Scientific Exposition	Denver, USA	November 16-21, 2010
A congenital tracheal stenosis with right lung agenesis	外科	Akiko Yokoi, Mitsumasa Okamoto, Yasuaki Taura, Hiroshi Arai, Yuko Bitoh, Makoto Nakao, Eiji Nishijima	第 43 回	Pacific Association of Pediatric Surgery	神戸	2010.5.23-27
先天性気管狭窄症の最近の問題点	外科	横井暁子、前田健一、田村亮、田浦康明、岡本光正、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第 47 回	日本小児外科学会	愛知	2010.6.17-19
A 型食道閉鎖症の 2 例 - Long gap 例と索状物のあつた特殊例	外科	横井暁子、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第 30 回	日本小児手術手技研究会	横浜	2010.10.18
胸骨正中切開に肋間開胸を加えて減量手術をなした巨大胸膜肺芽腫の一例	外科	横井暁子、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第 26 回	日本小児呼吸器外科研究会	横浜	2010.11.19
海外渡航による肝移植を受けた胆道閉鎖症 3 例の長期経過後の肝生検像	外科、病理検査室	横井暁子、吉田牧子、西島栄治	第 37 回	日本胆道閉鎖研究会	東京	2010.12.11
胆門重複症の一例	外科	橋木由美子、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第 46 回	日本小児外科学会 近畿地方会	滋賀県	2010.8.28
当院で経験した総排泄腔外反症の初回手術と術後経過についての検討	小児外科	田浦康明、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、岡本光正、橋木由美子、田村亮、前田健一、西島栄治	2010 年度、 第 47 回	日本小児外科学会学術集会	名古屋	2010.6.17-19
腕頭動脈離断術後に大動脈胸骨固定術を行い気管大動脈瘻のリスクを回避した 1 例	小児外科	田浦康明、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、橋木由美子、岡本光正、清水裕史、田村亮、谷本光隆、西島栄治	2010 年度、 第 26 回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	横浜	2010.11.20
前回わからん会報告の続報：腹部造影 CT でこんなものが～再噴門形成術後、順調であった彼女に一体何が？～	小児外科	田村亮、前田健一、田浦康明、岡本光正、橋木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第 63 回	小児外科わからん会	大阪府 大阪市	2010.3.5

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
総胆管狭窄に対する分流手術後に膽管狭窄が明らかとなった一症例	小児外科	田村亮、前田健一、田浦康明、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第63回	小児外科わからん会	大阪府 大阪市	2010.3.5
噴門形成術後の胃排泄遅延の要因についての再検討	小児外科	田村亮、前田健一、田浦康明、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第47回	日本小児外科学会 学術集会	愛知県 名古屋	2010.6.17-19
胎児期に発見された腹腔内停留精巣に生じた奇形腫の一乳児例	小児外科	田村亮、谷本光隆、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第46回	日本小児外科学会近畿 地方会	滋賀県 大津市	2010.8.27
右上腹部に圧痛を認める児の胆嚢壁肥厚 - 本当に胆嚢炎？	小児外科	田村亮、谷本光隆、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第64回	小児外科わからん会	大阪府 大阪市	2010.9.24
当院における原発性自然気胸症例の治療方針の検討	小児外科	田村亮、谷本光隆、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第21回	日本小児呼吸器外科 研究会	神奈川県 横浜市	2010.11.18
Herlyn-Werner-Wunderlich 症候群を合併した直腸膈前庭嚢の1例	小児外科	清水裕史、田村亮、谷本光隆、田浦康明、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第46回	日本小児外科学会 近畿地方会	滋賀県 大津市	2010.08.28
The rolled peritoneal flap bridging abdominal wall to the hepatic surface prevents dislodgement of the percutaneous trans-hepatic central venous catheter	Department of Surgery	Hiroshi Arai, Eiji Nishijima, Akiko Yokoi, Makoto Nakao, Yuko Bitoh, Mitsumasa Okamoto, Yasuaki Taura, Ryo Tamura, Ken-ichi Maeda	第23回	Congress of Asian Association of Pediatric Surgeons	Kuala Lumpur, Malaysia	22-24 Feb 2010
A case of Biliary atresia associated with Wilms tumor	Department of Surgery	Hiroshi Arai, Eiji Nishijima, Akiko Yokoi, Makoto Nakao, Yuko Bitoh, Mitsumasa Okamoto, Yasuaki Taura, Ryo Tamura, Ken-ichi Maeda	第44回	Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons	Kobe, Japan	23-27 MAY 2010
当科における腹腔鏡下噴門形成術	小児外科	荒井洋志、西島栄治、横井曉子、中尾真、尾藤祐子、岡本光正、田浦康明、田村亮、前田健一	第47回	日本小児外科学会 学術集会	愛知県 名古屋	2010.6.17-19
腸管機能不全患児における消化管出血	小児外科	荒井洋志、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第37回	日本小児内視鏡研究会	東京都 港区	2010.7.3
腹腔鏡下噴門形成術における Nathanson liver retractor による食道裂孔部の展開	小児外科	荒井洋志、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第30回	日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会	神奈川県 横浜市	2010.10.18-20

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
先天性気管狭窄症の術後管理におけるステロイド吸入の有用性	小児外科	荒井洋志、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	第21回	日本小児呼吸器外科研究会	神奈川県横浜市	2010.11.19
Airway reconstruction using endoscopic KTP laser ablation: A case of a child with congenital complete laryngeal atresia	Department of Pediatric Surgery,	Mitsumasa Okamoto, Eiji Nishijima, Akiko Yokoi, Makoto Nakao, Yuko Bitoh, Hiroshi Arai	第44回	Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons	Kobe, Japan	23-27 MAY 2010
超低出生体重児のMeconium Obstruction手術症例の考察 ～保存的治療中の消化管穿孔のリスク因子は？～	外科 ¹⁾ 、 新生児科 ²⁾	岡本光正 ¹⁾ 、中尾秀人 ²⁾ 、溝淵雅巳 ²⁾ 、横井曉子 ¹⁾ 、中尾真 ¹⁾ 、尾藤祐子 ¹⁾ 、荒井洋志 ¹⁾ 、田浦康明 ¹⁾ 、田村亮 ¹⁾ 、前田健一 ¹⁾ 、橋本由美子 ¹⁾ 、西島栄治 ¹⁾	第47回	日本小児外科学会 学術集会	愛知県 名古屋	2010.6.17-19
先天性気管狭窄症の周術期におけるベッドサイド気管支ファイバースコープ検査の重要性	外科	岡本光正 横井曉子 中尾真 尾藤祐子 荒井洋志 橋本由美子 清水裕史 田浦康明 田村亮 谷本光隆 西島栄治	第37回	日本小児内視鏡研究会	東京	2010.3.7
二期的に右肺全摘を行った気管支閉鎖症の1幼児例	外科 ¹⁾ 、 病理部 ²⁾	岡本光正 ¹⁾ 、横井曉子 ¹⁾ 、田浦康明 ¹⁾ 、中尾真 ¹⁾ 、尾藤祐子 ¹⁾ 、荒井洋志 ¹⁾ 、田村亮 ¹⁾ 、橋本由美子 ¹⁾ 、西島栄治 ¹⁾ 、吉田敦子 ²⁾	第21回	小児呼吸器外科研究会	横浜	2010.11.20
Left-sided Bochdalek hernia associated with intrathoracic kidney presenting with recurrent pulmonary infections; A case report	外科	Yuko Bitoh		Asian Association of Pediatric Surgeons	Kuala Lumpur	2010.2.1
総胆管内腔の開存を認めた胆道閉鎖症Ⅲb1v型の1例	小児外科	谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	46	日本小児外科学会 近畿地方会	大津	2010.8.27
当科で根治手術を施行した先天性胆道拡張症の術後合併症についての検討	外科	中尾真、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	47	日本小児外科学会総会	名古屋	2010.6.17-19
胆道穿孔を伴った脾・胆管合流異常症の検討	外科	中尾真、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	30	小児内視鏡手術・ 手術手技研究会	横浜	2010.10.18
隔壁形成術を施行した喉頭気管食道裂3例の経験	外科	中尾真、谷本光隆、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井曉子、西島栄治	21	日本小児呼吸器外科 研究会	横浜	2010.11.19
小児期気管切開術後の気管腕頭動脈瘤に対する外科治療（予防的手術も含めて）	心臓血管外科、 小児外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、井上武、河村朱美、尾藤裕子	第249回	日本小児科学会 兵庫県地方会	西宮	2010年2月13日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
房室弁の形態異常を合併した心内臓欠損症の外科治療ー2心室修復かFontan手術か	心臓血管外科	大嶋義博、松久弘典、圓尾文子、井上武、河村朱美、門脇輔、山口眞弘	第40回	日本心臓血管外科学会 学術総会	神戸	2010年2月15日
ディベーターゼーション17 TOF + moderate-severe PS(65-70% of N-PV)に対するRA-PA手術	心臓血管外科	大嶋義博	第40回	日本心臓血管外科学会 学術総会	神戸	2010年2月16日
left isomerism における二心室修復とFontan	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、松久弘典、井上武、河村朱美、門脇輔	第40回	日本心臓血管外科学会 学術総会	神戸	2010年2月16日
一般演題33 先天性6座長	心臓血管外科	大嶋義博	第40回	日本心臓血管外科学会 学術総会	神戸	2010年2月17日
部分肺静脈還流異常症に対する上大静脈-右心耳吻合症例の検討	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、井上武、河村朱美	第40回	日本心臓血管外科学会 学術総会	神戸	2010年2月17日
Scooping の程度に応じ術式選択した房室中隔欠損症の成績	心臓血管外科	井上武、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、河村朱美、門脇輔	第40回	日本心臓血管外科学会 学術総会	神戸	2010年2月17日
最近経験した Yasui 手術の2例 -VSD 形態による治療戦略の見直し-	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、松久弘典、井上武、河村朱美、門脇輔	第24回	日本小児循環器学会 中国四国近畿地方会	大阪	2010年2月21日
Simultaneous repair of congenital heart defects and accompanying congenital tracheal stenosis	心臓血管外科	Ayako Maruo, Yoshihiro Oshima, Hironori Matsuhisa, Takeshi Inoue, Akemi Kawamura, Tasuku Kadowaki	第26回	アジア心臓血管外科学 会総会	New Delhi	2010年2月28日
Staged Yasui procedure for interrupted aortic arch, ventricular defect, and left ventricular outflow tract obstruction	心臓血管外科	Takeshi Inoue, Yoshihiro Oshima, Ayako Maruo, Hironori Matsuhisa, Akemi Kawamura, Tasuku Kadowaki	第26回	アジア心臓血管外科学 会総会	New Delhi	2010年2月28日
大動脈瘤形成における組織型トランスグルタミナーゼの役割に関する実験的検討	心臓血管外科	長谷川智巳、宗実孝、Sunitala、田中亜紀、岡田健次、大北裕	第110回	日本外科学会定期 学術集会	名古屋	2010年4月10日
先天性横隔膜ヘルニアを合併した先天性心疾患症例	心臓血管外科	河村朱美、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、門脇輔、中井秀和	第250回	日本小児科学会兵庫 地方会・総会	神戸	2010年5月29日
Complex Aortic re-coarctation に対し上行大動脈・腹部大動脈バイパスを施行した1例	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、中井秀和	第49回	神戸心臓外科研究会	神戸	2010年5月29日
下肢静脈瘤の診療	心臓血管外科	長谷川智巳	第2回	神戸血管エコーセミナー	神戸	2010年6月5日
胸骨柄斜切開アプローチによる低侵襲腕頭動脈離断術の1例～3D-MDCT angiography を用いた術式検討の有用性～	心臓血管外科、 小児外科	長谷川智巳、在間梓、久松千恵子、大北裕、西島栄治	第47回	日本小児外科学会総会	名古屋	2010年6月17日
0.1mm ePTFE シート製2弁付きパッチによる右室流出路再建術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第59回	近畿心臓外科研究会	大阪	2010年6月19日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
ピデオセクション 先天性	心臓血管外科	大嶋義博、藤原慶一	第53回	関西胸部外科学会	名古屋	2010年6月24日
CoA/IAAにおける左室流出路狭窄の治療戦略(シンポジウム)	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第53回	胸部外科学会関西地方会	名古屋	2010年6月24日
小児期気管切開術後の気管腕頭動脈瘻	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、井上武、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第53回	関西胸部外科学会	名古屋	2010年6月24日
ARを伴う大動脈基部拡大に対してAortic sinus plicationを施行したPA-VSDの一例	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、中井秀和	第53回	関西胸部外科学会 学術集会	名古屋	2010年6月24日
狭小弁輪に対して僧帽弁置換を行った乳児感染性心内膜炎の一例	心臓血管外科	井上武、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、河村朱美、門脇輔	第53回	関西胸部外科学会 学術集会	名古屋	2010年6月24日
先天性完全房室ブロックによるベースメーカ植込後の中期予後	心臓血管外科	河村朱美、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、門脇輔、中井秀和	第53回	関西胸部外科学会 学術集会	名古屋	2010年6月25日
フロー四徴症 術後遠隔期の問題点	心臓血管外科	大嶋義博		神戸市難病連 医療相談会	神戸	2010年6月27日
術後合併症 座長	心臓血管外科	大嶋義博	第46回	日本小児循環器学会総会	浦安	2010年7月8日
Comparison of intraatrial and extraconduit Fontan operation: Early and midterm results	心臓血管外科	大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、井上武、河村朱美、門脇輔、山口真弘	第46回	日本小児循環器学会総会	浦安	2010年7月8日
術後長期に達した心房内血流転換/動脈スイッチ手術症例の臨床像	心臓血管外科、 循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、井上武、河村朱美、門脇輔、中井秀和、城戸佐知子、田中敏克、山口真弘	第46回	日本小児循環器学会 学術集会	浦安	2010年7月9日
超低出生体重児の動脈管閉存症に対する外科的治療と成績	心臓血管外科	河村朱美、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、門脇輔、中井秀和	第46回	小児循環器学会総会 学術集会	浦安	2010年7月9日
乳児期僧帽弁手術例の中期成績	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、中井秀和	第46回	小児循環器学会総会 学術集会	浦安	2010年7月9日
IVC狭窄を伴ったScimitar syndrome に対する乳児期根治術の1例	心臓血管外科	中井秀和、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、門脇輔	第55回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2010年7月16日
胎児心エコーによる出生前心疾患診断の有用性	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第251回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2010年9月15日
PA, VSD, MAPCAs	心臓血管外科	Yoshihiro Oshima		Roger B.B. Mee's Memorial International Symposium	Osaka	2010年10月23日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
Pulmonary atresia with ventricular septal defect, diminished pulmonary arteries, major aortopulmonary collaterals	心臓血管外科	Yoshihiro Oshima, Ayako Maruo, Tomomi Hasegawa, Hironori Matsuhisa, Akemi Kawamura, Tasuku Kadowaki, Hidekazu Nakai, Masahiro Yamaguchi		Roger B.B. Mee's Memorial International Symposium	Osaka	2010年10月24日
Internal session-congenital 2 Chairpersons	心臓血管外科	Yoshihiro Oshima, Shintaro Nemoto	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月25日
気道狭窄を合併する単心室疾患の治療	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月25日
右室低形成境界領域に対するASD部分閉鎖の妥当性に関する検討(シンポジウム)	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月25日
肺無形成合併疾患に対する胸部外科手術	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月25日
ピオグリタゾンによる移植心冠動脈硬化抑制効果のメカニズムの解明	心臓血管外科	長谷川智巳、岡田健次、David J. Pinsky、大北裕	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月25日
多発性心室中隔欠損閉鎖術後の心室中隔機能-Speckle tracking法による局所壁運動解析	心臓血管外科	松久弘典、芳村直樹、三崎拓郎、大沼芳子、市田啓子、大嶋義博、村上博久、山口真弘	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月25日
Fenestrated TCPCにおけるfenestration開存性に関する検討	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、中井秀和	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月25日
Complete thoracic ectopia cordis with complex intracardiac anomalies and respiratory disturbance	心臓血管外科、小児外科	Takeshi Inoue, Yoshihiro Oshima, Yuko Bitoh, Shiiki Sato, Ayako Maruo, Hironori Matsuhisa, Akemi Kawamura, Tasuku Kadowaki, Tomomi Hasegawa, Hidekazu Nakai	第63回	日本胸部外科学会定期学術集会	大阪	2010年10月27日
下肢静脈瘤の診療	心臓血管外科	長谷川智巳	第3回	神戸血管エコーセミナー	神戸	2010年11月7日
Ventricular Septal Dysfunction Following Surgical Closure of Multiple Ventricular Septal Defects: An Analysis Using Two-Dimensional Speckle Tracking Imaging	心臓血管外科	Hironori Matsuhisa, Naoki Yoshimura, Tomonori Higuma, Yoshiko Onuma, Fukiko Ichida		American Heart Association, Scientific Sessions	Chicago	2010年11月15日
右肺無形成を合併した大動脈弁下狭窄の1例	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第50回	神戸心臓外科研究会(KCCS)	神戸	2010年11月24日
当院における最近の肺動脈弁位 hand made valved conduit	心臓血管外科	中井秀和、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、河村朱美、門脇輔	第56回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2010年11月26日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
横隔膜ヘルニアを合併した冠状動脈肺動脈起始症の1例	心臓血管外科、循環器科	河村朱美、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、門脇輔、中井秀和、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川慎治、古賀千穂	第19回	小児循環器カンファレンス	京都	2010年11月27日
ソボゾラム3：日常診療における虐待への気づきー虐待による乳幼児頭部外傷	脳神経外科	長嶋達也	第113回	日本小児科学会	盛岡	2010.4.24
虐待による乳幼児頭部外傷：いわゆる Shaken Baby Syndrome について	脳神経外科	長嶋達也		「子どもの虹情報研修センター」研修会（日本虐待・思春期問題情報研修センター）	横浜	2010.5.13
当施設における3歳未満のAT/RT 3例の治療経験	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、山元一樹、堀達雄	第38回	日本小児神経外科学会	富山	2010.6.5
3歳未満髄芽腫に対する集学的治療	脳神経外科	長嶋達也、山元一樹、河村淳史、堀達雄	第38回	日本小児神経外科学会	富山	2010.6.5
虐待が疑われる乳幼児頭部外傷の臨床的検討	脳神経外科	山元一樹、河村淳史、長嶋達也	第38回	小児神経外科学会	富山	2010.6.5
小児の脳神経外科救急	脳神経外科	長嶋達也		西播磨脳神経外科懇話会	姫路	2010.6.16
The combined therapy of 3 AT/RT cases under 3-year-old in Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、山元一樹、堀達雄	第14回	International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology	Wien	2010.6.20-23
総排泄腔外反における脊髄病変に対する治療	脳神経外科	山元一樹、河村淳史、長嶋達也	第27回	二分脊椎研究会	大阪	2010.7.24
虐待による乳幼児頭部外傷：いわゆる Shaken Baby Syndrome について	脳神経外科	長嶋達也		広島市母子保健従事者研修会	広島	2010.7.31
3歳未満の髄芽腫に対する集学的治療	脳神経外科	長嶋達也、山元一樹、河村淳史、中井友昭	第69回	日本脳神経外科学会総会	東京	2010.11.16
化学療法が著効を示したテント上非典型的胎児性腫瘍の1例	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、山元一樹、溝脇卓	第69回	日本脳神経外科学会学術総会	福岡	2010.10.27-29
虐待が疑われる乳幼児頭部外傷	脳神経外科	山元一樹、長嶋達也、河村淳史、溝脇卓	第69回	日本脳神経外科学会総会	福岡	2010.10.29
小児の第3脳室脈絡叢乳頭腫の手術	脳神経外科	溝脇卓、長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第69回	日本脳神経外科学会総会	福岡	2010.10.29

演題名	所属科	発表者名	第〇会	学会名	主催都市名	開催年月日
3歳未満の髄芽腫に対する集学的治療体制の確立に向けて	脳神経外科	長嶋達也	第63回	兵庫県医師会記念医学会	神戸	2010.11.14
総排泄腔外反症の脊髄病変に対する治療	脳神経外科	山元一樹、長嶋達也、河村淳史	第28回	日本こども病院 神経外科医会	千葉	2010.11.20
脳神経孔に浸潤した稀少な小脳橋角部髄芽腫	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、山元一樹、溝脇卓	第28回	日本脳腫瘍学会	軽井沢	2010.11.28-30
鞍上部和第4脳室に同時に存在した髄芽腫の1例	脳神経外科	溝脇卓、長嶋達也、河村淳史、山元一樹		神戸大学 脳神経外科同門会	神戸	2010.12.12
心臓脱の一例	形成外科	北村奈都子、大山知樹、小野田素大	94	日本形成外科学会 関西支部学術集会	兵庫	2010.3.7
小児の下顎骨折治療における顎間固定の工夫	形成外科	小野田素大、鄭聡柄、大山知樹	95	日本形成外科学会 関西支部学術集会	大阪	2010.7.11
当科におけるreverse-U法による唇裂鼻形成術	形成外科	鄭聡柄、大山知樹、小野田素大	96	日本形成外科学会 関西支部学術集会	大阪	2010.12.4
大腿骨頭すべり症の治療—議論の分かれる点と一致する点—	整形外科	薩摩真一	8	第8回千葉県 小児整形外科セミナー	千葉	2010.8.10
先天性足部変形治療における新しい展開	整形外科	薩摩真一		神戸市整形外科医会	神戸	2010.8.7
小児股関節疾患を見逃さないためのチェックポイント	整形外科	薩摩真一		香川県整形外科集団会	香川	2010.9.2
小児の足部疾患 診察のポイントと最近の話題	整形外科	小林大介		平成22年度堺市 臨床整形外科医会	堺	2010.7.3
Secondary ossification center の出現が白蓋発育に及ぼす影響について	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、井上美帆	49	日本小児股関節研究会	京都	2010.6.11-12
脊髄膜瘤患者の整形外科的問題点 Congenital abnormality と Acquired disorder	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、井上美帆	21	日本小児整形外科学会	徳島	2010.11.26-27
Acetabular development in the contralateral hip in patients with unilateral developmental dysplasia of the hip. Consideration for primary acetabular dysplasia	整形外科	D Kobayashi S Satsuma M Kinugasa R Nunoi		Pediatric Orthopaedic Society of North America (POSNA)	Hawaii	2010.5.4-7
Long term follow-up study of Salter innominate osteotomy for residual subluxation in the patients with developmental dysplasia of the hip	整形外科	D Kobayashi S Satsuma M Kinugasa M Inoue	5	International Federation of the Pediatric Orthopaedic Societies (IFPOS)	Seoul	2010.9.8-11

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
Radiographic Evaluation of Percutaneous Achilles Tenotomy in the Ponseti Method for Correction of Clubfoot	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Maki Kinugasa, Miho Inoue	5	International Federation of the Pediatric Orthopaedic Societies (IFPOS)	Seoul	2010.9.8-11
RBによるペルテラス様変化発生の動向と危険因子の検討	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、井上美帆	49	日本小児股関節研究会	京都	2010.6.11-12
先天性垂直距骨治療の変遷と新しい治療法の試み	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、井上美帆、布居理沙	35	日本足の外科学会	奈良	2010.6.17-18
創外固定を用い下肢の変形矯正を行なった症例の検討	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、	23	日本創外固定・骨延長学会	東京	2010.1.15-16
過剰肢による足部変形に対し、創外固定器を用いて治療した1例	整形外科	衣笠真紀、小林大介、薩摩真一	23	日本創外固定・骨延長学会	東京	2010.1.15-16
距骨に発症した dysplasia epiphysealis hemimelica の1例	整形外科	衣笠真紀、小林大介、薩摩真一、布居理沙	45	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2010. 2. 13
大腿骨頭すべり症患者の内分泌学的血液検査結果の検討	整形外科	衣笠真紀、小林大介、薩摩真一、布居理沙	49	日本小児股関節研究会	京都	2010. 6. 11 - 12
先天性内反足に対する Ponseti 法の治療成績 -5 年以上経過した症例について-	整形外科	衣笠真紀、小林大介、薩摩真一、井上美帆	21	日本小児整形外科学会	徳島	2010. 11. 26 - 27
Ollier 病により生じた橈骨頭脱臼の治療経験	整形外科	井上美帆、衣笠真紀、小林大介、薩摩真一	46	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2010. 8. 7
尺骨矯正骨切り術を行った小児の陈旧性橈骨頭脱臼の2症例	整形外科	井上美帆、衣笠真紀、小林大介、薩摩真一	21	日本小児整形外科学会	徳島	2010. 11. 26 - 27
小児の眼窩吹き抜け骨折への対応	眼科	野村耕治	33	兵庫県形成外科医学会 研究会	神戸	2010.5.29
頭部外傷後に視機能障害を認めた小児の2例	眼科	平井宏二、福村美帆、別所宣洋、野村耕治	35	日本小児眼科学会総会	東京	2010.7.2
内斜視術後移行性外斜視に対する内直筋戻し前転術の治療成績	眼科	別所 宣洋、福村 美帆、野村 耕治	66	日本弱視斜視学会総会	東京	2010.7.2
シンポジウム：「発達緑内障」術後管理（視機能）	眼科	野村耕治	35	日本小児眼科学会総会	東京	2010.7.2
弱視の治療判断、他	眼科	野村耕治	254	広島大学眼科症例検討会	広島	2010.10.14
小児眼位異常の早期診断	眼科	野村耕治	54	神戸小児医学講座	神戸	2010.10.30

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
当院における遠視性不同規弱視の治療成績	眼科	寺岡力新、平井宏二、中村礼恵、野村耕治	64	日本臨床眼科学会総会	神戸	2010.11.14
兵庫県下において当アイバンクが施行しているターゲット別病院開発	眼科	渡邊和善、吉谷麻衣、田口浩司、片上千加子、根本昭、山本節	第34回	角膜カンファレンス	仙台	2010.2.12
日帰り手術のライブ映像について	眼科	山本節、村田洋	第25回	須磨区医師会学術集談話会	神戸市	2010.3.6
小児眼科日帰り手術のライブ映像	眼科	山本節、村田洋	第35回	日本小児眼科学会	東京都	2010.7.2
財団法人兵庫アイバンクの医学基準の在り方	眼科	渡邊和善、吉谷麻衣、山本節	第9回	日本組織移植学会	福島	2010.8.28
小児眼科	眼科	山本節	2010年度	神戸視能訓練学院	神戸市	2010.10.20
目の健康	眼科	山本節	2010年度	神戸医師会市民健康大学	神戸市	2010.10.21
卒業生と恩師との対談	眼科	村戸トール、山本節	2010年度	神戸大学ホームカミングデイ	神戸市	2010.10.30
乳幼児疾患の角膜移植	眼科	山本節、野村耕治、マイケル寺岡	第64回	日本臨床眼科学会	神戸市	2010.11.13
兵庫県立こども病院における滲出性中耳炎の治療と経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第6回	明石耳鼻咽喉科学術講演会	明石	2010.2.6
加古川周辺の花粉症と花粉症の最近の話題	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成21年度第9回	加古川市民健康フォーラム	加古川	2010.2.13
みみの話	耳鼻咽喉科	阪本浩一		播州地区耳の日講演会	高砂	2010.3.4
後鼻漏と咳嗽：共同研究最終報告	耳鼻咽喉科	阪本浩一	2010年度	喉頭アレルギー研究会2010	名古屋	2010.4.24
一側性 Auditory neuropathy 様症状を呈した小児例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第111回	日本耳鼻咽喉科学会総会	仙台	2010.5.22
乳幼児難聴における ASSR 施行上の留意点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第5回	日本小児耳鼻科学会総会	札幌	2010.6.26
ワークショップ：喉頭アレルギーの診断－診断基準改定の歩み	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第62回	日本気管食道科学会総会	別府	2010.11.4
CHARGE association の聴覚障害の評価における聴性定常反応 (ASSR) の有用性と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第55回	聴覚医学会総会	奈良	2010.11.11

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
耳鼻咽喉科外来における慢性咳嗽患者の診断および治療経過の現況－喉頭アレルギー症例の検討－	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第12回	日本咳嗽研究会	福岡	2010.11.13
喉頭アレルギーの臨床像	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第8回	東播耳鼻科研究会	加古川	2010.11.18
尿路変更術を必要としたHinman症候群（非神経因性神経因性膀胱）の1例	泌尿器科	岡田桂輔、久松英治、高木志寿子、中川賀清、杉多良文、	第19回	日本小児泌尿器科学会	札幌市	2010.7.1
spiral Monti法による腹壁導尿管2例の経験	泌尿器科	岡田桂輔、久松英治、高木志寿子、中川賀清、杉多良文、	第62回	日本泌尿器科学会 西日本総会	鹿児島市	2010.11.5
PIPPI SALLE PROCEDURE FOR THE TREATMENT OF URINARY INCONTINENCE	泌尿器科	Shizuko Takagi, Eiji Hisamatsu, Yoshikiyo Nakagawa, Yoshifumi Sugita	第10回	The 10th congress of JKSP	東京都	2010.2.27
Pippi Salle法を用いた尿失禁防止術の経験	泌尿器科	高木志寿子、久松英治、中川賀清、杉多良文	第98回	日本泌尿器科学会総会	盛岡市	2010.4.27
Mitrofanoff principleによる腹壁導尿管20年の経験	泌尿器科	久松英治、岡田桂輔、高木志寿子、中川賀清、杉多良文	第19回	日本小児泌尿器科学会	札幌市	2010.7.1
デフラックスの国内臨床試験および最近の文献レビュー	泌尿器科	杉多良文	第19回	日本小児泌尿器科学会	札幌市	2010.7.2
小児精索静脈瘤に対する顕微鏡下低位精索静脈結紮術の検討	泌尿器科	中川賀清、岡田桂輔、高木志寿子、久松英治、杉多良文	第19回	日本小児泌尿器科学会	札幌市	2010.7.2
遺尿を主訴とする小児患者と排尿問診票でのスコア化について	泌尿器科	中川賀清、岡田桂輔、久松英治、高木志寿子、杉多良文	第62回	日本泌尿器科学会 西日本総会	鹿児島市	2010.11.5
THE EFFICACY OF PREOPERATIVE PARENTERAL TESTOSTERONE THERAPY PRIOR TO HYSPADIAS SURGERY USING PREPUTIAL FREE SKIN GRAFT IN MICROPHALLIC CHILDREN	泌尿器科	Yoshikiyo Nakagawa, Keisuke Okada, Eiji Hisamatsu, Shizuko Takagi, Yoshifumi Sugita	第3回	3rd WORLD CONGRESS OF PEDIATRIC SURGERY	New Delhi, India	2010.10.23
尿道下裂修復術における尿道海綿体側方先行剥離の有用性	泌尿器科	杉多良文、中川賀清、久松英治、高木志寿子、岡田桂輔	第98回	日本泌尿器科学会総会	盛岡市	2010.4.29
無機能腎に対する腎（半腎）摘除術後の遺残尿管に関する検討	泌尿器科	久松英治、高木志寿子、中川賀清、杉多良文	第98回	日本泌尿器科学会総会	盛岡市	2010.4.30
顕微鏡下低位結紮手術を施行した小児精索静脈瘤症例の検討	泌尿器科	中川賀清、久松英治、杉多良文	第47回	日本小児外科学会 学術集会	名古屋市	2010.6.18
性分化異常症の診断と治療	泌尿器科	杉多良文	第19回	日本小児泌尿器科学会	札幌市	2010.7.1

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
小児下腿骨延長術の術後鎮痛に関する検討	麻酔科	鹿原史寿子、上北郁男、野々村智子、池島典之、岡田雅子、香川哲郎	第 57 回	日本麻酔科学会	福岡	2010.6.3
硬膜外穿刺は全身麻酔下に施行してもよいか 小児の硬膜外麻酔	麻酔科	池島典之	第 57 回	日本麻酔科学会	福岡	2010.6.3
小児麻酔の論争点 鎮痛法 - IV 鎮痛法	麻酔科	香川哲郎	第 57 回	日本麻酔科学会	福岡	2010.6.5
縦隔腫瘍を伴った患児に対する 3 通りの気道管理	麻酔科	上北郁男、鈴木毅、大西広泰、楠大弘、岡田雅子、香川哲郎	第 56 回	日本麻酔科学会 関西支部学術集会	大阪	2010.9.4
小児の術中輸液管理 この症例にはどんな輸液が必要ですか？	麻酔科	香川哲郎	第 16 回	日本小児麻酔学会	倉敷	2010.9.18
気道管理・その他 小児病院における病棟での全身麻酔の検討 頻回麻酔を中心に	麻酔科	黒崎明子、香川哲郎、鈴木毅、大西広泰、池島典之、野々村智子、鹿原史寿子	第 16 回	日本小児麻酔学会	倉敷	2010.9.19
右肺低形成を合併した気管狭窄症新生児に対するスライド式気管形成術の麻酔経験	麻酔科	鈴木毅、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子、香川哲郎	第 16 回	日本小児麻酔学会	倉敷	2010.9.19
胸壁聴診器の音がスピーカーから聞こえるようにすることでもモニターとしての有用性を向上させる試み	麻酔科	香川哲郎、上北郁男、大井まゆ	第 16 回	日本小児麻酔学会	倉敷	2010.9.19
幼児の膀胱尿管逆流症根治術における術後鎮痛法の比較検討	麻酔科	上北郁男、岡田雅子、楠大弘、笠間あきつ、香川哲郎	第 16 回	日本小児麻酔学会	倉敷	2010.9.19
気管狭窄合併先天性心疾患患児に対する気管形成術および開心術同時手術の麻酔	麻酔科	鈴木毅、上北郁男、野々村智子、鹿原史寿子、池島典之、大西広泰、香川哲郎	第 15 回	日本心臓血管麻酔学会	東京	2010.10.10
小児の気道管理 困難気道への対処 ラリンジアルマスキ	麻酔科	香川哲郎	第 30 回	日本臨床麻酔学会	徳島	2010.11.4
中毒性表皮壊死融解症を発症した 3 歳児に対する処置時の麻酔経験	麻酔科	上北郁男、鹿原史寿子、池島典之、香川哲郎	第 30 回	日本臨床麻酔学会	徳島	2010.11.4
右腕頭動脈と左総頸動脈の共通幹を有する乳児において人工心肺中に局所脳酸素飽和度の低下を認めた 1 症例	麻酔科	岡田雅子、香川哲郎、池島典之	第 30 回	日本臨床麻酔学会	徳島	2010.11.6
Netherton 症候群の麻酔経験	麻酔科	浅野真依子、上北郁男、香川哲郎	第 30 回	日本臨床麻酔学会	徳島	2010.11.6
新生児期早期に、大量の消化管出血による出血性ショックをきたし、ミルクアレルギーが疑われた 1 例	新生児科	下川祐子、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 251 回	日本小児科学会 兵庫県地方会		2010.2.13
当院における早産児遅発型敗血症の臨床像の検討	新生児科	猪俣慶、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 23 回	近畿小児科学会		2010.3.9

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
新型インフルエンザ母体から出生した超早産児の一例	新生児科	中村有香里、田中聡、浅野貴大、猪俣慶、秋田大輔、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 252 回	日本小児科学会 兵庫県地方会		2010.5.29
28週924gで出生し先天性横隔膜ヘルニアの一例	新生児科	田中聡、中村有香里、浅野貴大、猪俣慶、秋田大輔、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 252 回	日本小児科学会 兵庫県地方会		2010.5.29
selective FGRを伴った一絨毛膜性二羊膜性双胎の背景と予後	新生児科	坂井仁美、猪俣慶、秋田大輔、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 113 回	日本小児科学会		2010.4.23
Late Preterm 児において人工肺サーファクタント補充を要した呼吸障害の背景因子解析	新生児科	芳本誠司、亀井直哉、田村彰広、浅野貴大、猪俣慶、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、中尾秀人	第 113 回	日本小児科学会		2010.4.23
在胎 32 週未満で出生した双胎での膜性による神経学的予後の比較	新生児科	秋田大輔、猪俣慶、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 113 回	日本小児科学会		2010.4.23
当院で経験した Twin amniotic fluid discordance(TAFD)症例の検討	新生児科	妹尾絵美、岩谷壮太、浅野貴大、猪俣慶、下川祐子、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 46 回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11
臨床・検査所見のスコア化による超早産児の胎盤組織学的炎症所見の推測	新生児科	妹尾絵美、岩谷壮太、浅野貴大、猪俣慶、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 46 回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11
第 3 次周産期医療センターでの管理を要した、新生児ミルクアレルギー 15 例の検討	新生児科	下川祐子、妹尾絵美、浅野貴大、猪俣慶、岩谷壮太、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 46 回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11
late preterm HIE 症例の急性期 MRI DWI と ADC 値を用いた評価	新生児科	浅野貴大、妹尾絵美、坂井仁美、岩谷壮太、秋田大輔、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 46 回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11
重症 CLD の胸部 CT 分類と周産期臨床像	新生児科	坂井仁美、浅野貴大、妹尾絵美、猪俣慶、岩谷壮太、秋田大輔、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 46 回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11
母体硫酸マグネシウム投与は未熟児動脈管閉存症の危険因子か？	新生児科	芳本誠司、浅野貴大、妹尾絵美、猪俣慶、岩谷壮太、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、中尾秀人	第 46 回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11
早産児における生後発育と血清 IGFBP-3 値の関連性	新生児科	猪俣慶、浅野貴大、妹尾絵美、岩谷壮太、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 46 回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
胎児に著明な心筋肥厚と脳室拡大、孔脳症を合併したMD 双胎例	新生児科	妹尾絵美、岩谷壮太、浅野貴大、猪俣慶、下川祐子、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第46回	日本周産期新生児医学会		2010.7.11
covered cloacal exstrophy の1例	新生児科	西山将広、浅野貴大、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、中村有香里、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人、中尾真、西島栄治、久松英治、杉多良文、山川勝、春田恒和、横山直樹、松尾雅文 ⁵⁾	第253回	日本小児科学会 兵庫県地方会		2010.9.25
慢性肺疾患増悪期におけるサーファクタント洗浄の有効性	新生児科	西山将広、浅野貴大、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、中村有香里、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人、中尾真、西島栄治、久松英治、杉多良文、山川勝、春田恒和、横山直樹、松尾雅文 ⁵⁾	第46回	日本サーファクタント 界面医学会		2010.10.23
超早産児の難治性低血圧に対するヒドロコルチゾン単回投与の有効性	新生児科	溝淵雅巳、浅野貴大、猪俣慶、岩谷壮太、岸田祐介、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
CLD 児の修正36週におけるRoom Air Saturation(RA-SAT)で酸素離脱時期は予測できるか？	新生児科	坂井仁美、浅野貴大、猪俣慶、岩谷壮太、岸田祐介、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
超早産児における生後1週間の気管内吸引液量は慢性肺疾患の進展を予測できる	新生児科	岩谷壮太、浅野貴大、猪俣慶、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
極低出生体重児の呼吸障害に対するBi-level nasal directional positive airway pressure(NDPAP)の使用経験	新生児科	猪俣慶、浅野貴大、岩谷壮太、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
重症慢性肺疾患罹患児における修正40週以前での心電図評価	新生児科	芳本誠司、浅野貴大、猪俣慶、岩谷壮太、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
ミトコンドリア病を疑われ肥大型心筋症と腎不全が進行し死亡した早産児の1例	新生児科	岸田祐介、浅野貴大、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
超早産児の正期産相当MRIにおける小脳体積	新生児科	浅野貴大猪俣慶、岩谷壮太、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
胎児母体間輸血症候群の重症度規定因子の検討	新生児科	中村有香里浅野貴大、猪俣慶、岩谷壮太、岸田祐介、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第55回	日本未熟児新生児学会		2010.11.05
VERY EARLY PHASE MR IMAGING IN NEONATAL HYPOXIC-ISCHEMIC ENCEPHALOPATHY:	新生児科	Takahiro Asano, Akihiro Tamura, Kei Inomata, Daisuke Akita,		2010 ASPR		2010.4.17
The Effect of Hydrocortisone Therapy on Severe Leaky Lung Syndrome	新生児科	Masami Mizobuchi, Sota Iwatani, Daisuke Akita, Hitomi Sakai, Masaaki Ueda, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao.		2010 PAS annual meeting		2010.5.1

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
HIE の急性期MR I	新生児科	浅野貴大、猪俣慶、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 253 回	未熟児新生児懇話会 (大学)		2010.9.16
The effect of timing of antenatal steroids on early postnatal blood pressure in extremely low gestational age newborns	新生児科	Daisuke Akita, Kei Inomata, Souta Iwatani, Yuusuke Kishida, Yukari Nakamura, Hitomi Sakai, Masami Mizobuchi, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		2010ESPR		2010.10.23
T A F D の 2 症例～評価と介入についての考察	新生児科	坂井仁美、浅野貴大、猪俣慶、岩谷壮太、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 254 回	未熟児新生児懇話会 (大学)		2010.12.2
小児病院を母体とした総合産科医療センターにおける現状	新生児科	中尾秀人	第 187 回	熊本産科懇話会		2010.12.8
Plenary Session on Uterine Fibroids: Cell-type specific attack on uterine fibroids by progesterone receptor modulators	産科	Maruo T, Ohara N, Yoshida S, Nakabayashi K, Xu Q, Chen W	The 14th	World Congress of Gynecological Endocrinology	Florence, Italy	March 4 - 7, 2010
Symposium on Innovation in Endometriosis Therapy: Experience with dienogest in the treatment of endometriosis in Japan	産科	Maruo T	The 14th	World Congress of Gynecological Endocrinology	Florence, Italy	March 4 - 7, 2010
The role of thyroid hormone in granulosa cell luteinization and villous and extravillous trophoblast function in early pregnancy maintenance	産科	Maruo T, Matsuo H, Laoag-Fernandez JB, Oki N		Infertility and Reproductive Medicine Forum	Chengdu, China	August 13-15, 2010
Progesterone and progesterone receptor modulators in uterine myoma cell growth : Its implication in women's health	産科	Maruo T, Ohara N, Yoshida S, Nakabayashi K, Xu Q, Chen W, Matsuo H, Yamada H	The 20th	World Congress on International Federation of Fertility and Sterility (IFFS)	Munich, Germany	September 12-16, 2010
お母さんと胎内の赤ちゃんとのいのちの絆としての胎盤と臍帯血	産科	丸尾猛	第 2 回	神戸市民講座	神戸	2010年9月25日
Congratulatory remarks: Advances in Korea-Japan Joint Conference	産科	Maruo T	The 15th	Seoul International Symposium & 96th Annual Congress of Korean Society of Obstetrics and Gynecology	Seoul, Korea	September 30 - October 2, 2010
Attack on uterine leiomyomas by progesterone receptor modulators in a cell-type specific manner	産科	Maruo T, Ohara N, Yoshida S, Nakabayashi K, Xu Q, Matsuo H, Yamada H	The 3rd	NIH International Congress on Advances in Uterine Leiomyoma Research	Bethesda, USA	November 22-23, 2010

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
The role of thyroid hormone in early pregnancy maintenance	産科	Maruo T		International Federation of Gynecology and Obstetrics (FIGO) Educational Training Macau 2010	Macau, China	December 10-12, 2010
Usefulness of progesterin-releasing IUS in the management of menorrhagia caused by uterine myomas and adenomyosis	産科	Maruo T		International Federation of Gynecology and Obstetrics (FIGO) Educational Training Macau 2010	Macau, China	December 10-12, 2010
Twin-twin transfusion syndrome followed by the recipient intrauterine fetal death and the donor right heart failure after selective fetoscopic laser photo-coagulation: a case report.	産科	Kenji Kiyoshi, Michihisa Shiro, Aya Makishi, Jun Sasahara, Yukou Takamatsu, Tatsuya Tanaka, Takashi Samoto, Toru Funakoshi, Sachiko Kido, Keisuke Ishii, Takeshi Murakoshi	20th	World congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology	チェコ プラハ	2010.10.10～14
周産期における緑膿菌感染症 —当科における症例から—	産科	牧志綾、喜吉賢二、佐々木紘子、 笹原淳、田中達也、高松祐幸、 佐本崇、船越徹	第2回	周産期新生児感染症 研究会	神戸市	2010.01.21
平成20年兵庫県周産期医療システム 母体紹介搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成21年 度	家族計画母体保護法指 導者講習会伝達講習会	神戸市	2010.03.14
当院における切迫早産、 特に頸管短縮例、胎胞形成例の管理	産科	喜吉賢二、牧志綾、笹原淳、 佐々木紘子、高松祐幸、田中達也、 佐本崇、船越徹	第62回	日本産科婦人科学会 学術集会	東京都	2010.04.23～25
当科における胎児脳室拡大症例について	産科	笹原淳、高松祐幸、牧志綾、 佐々木紘子、田中達也、喜吉賢二、 佐本崇、船越徹	第62回	日本産科婦人科学会 学術集会	東京都	2010.04.23～25
当院における最近6年間の羊水染色体検査の分析	産科	船越徹、牧志綾、佐々木紘子、 笹原淳、田中達也、高松祐幸、 喜吉賢二、佐本崇	第84回	兵庫県産科婦人科学会	神戸市	2010.06.06
胎児水腫、両側大量胸水症例に対して 胸水除去、帝王切開を一期的に行った2症例	産科	喜吉賢二、牧志綾、佐々木紘子、 笹原淳、田中達也、高松祐幸、 喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第122回	近畿産科婦人科学会	京都市	2010.06.19～20
当院の最近6年間における羊水染色体検査の検討	産科	船越徹、牧志綾、笹原淳、 田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、 佐本崇	第122回	近畿産科婦人科学会	京都市	2010.06.19～20

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
当科における胎児腸管拡張症例について	産科	笹原淳、佐本崇、牧志綾、田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、船越徹	第122回	近畿産科婦人科学会	京都市	2010.06.19～20
当院におけるHELLP症候群の検討	産科	前澤陽子、笹原淳、城道久、牧志綾、田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第125回	こども病院症例検討会	神戸市	2010.06.24
当院の最近6年間における羊水染色体検査の分析	産科	船越徹、牧志綾、佐々木絢子、笹原淳、田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇	第46回	周産期新生児医学会	神戸市	2010.07.11～13
Potter sequence との鑑別診断に羊水注入が有用であった羊水過少の1例	産科	喜吉賢二、牧志綾、佐々木絢子、笹原淳、高松祐幸、田中達也、佐本崇、船越徹	第46回	周産期新生児医学会	神戸市	2010.07.11～13
子宮収縮抑制剤使用を制限した切迫早産の管理、特に頸管短縮例、胎胞形成例の管理	産科	喜吉賢二、牧志綾、佐々木絢子、笹原淳、高松祐幸、田中達也、佐本崇、船越徹	第46回	周産期新生児医学会	神戸市	2010.07.11～13
臍帯血流異常の有無による、超早産・不軽量児の予後について	産科	笹原淳、佐本崇、牧志綾、佐々木絢子、田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、船越徹	第46回	周産期新生児医学会	神戸市	2010.07.11～13
子癇を発症したHELLP症候群の1例	産科	前澤陽子、笹原淳、城道久、牧志綾、田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	平成22年度	位育会臨床セミナー	神戸市	2010.08.21
「超緊急帝王切開術」にまつわる検討課題	産科	喜吉賢二、城道久、前澤陽子、牧志綾、笹原淳、田中達也、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第33回	日本母体胎児医学会	東京都	2010.08.28～29
当院における“超緊急帝王切開”について	産科	城道久、笹原淳、前澤陽子、牧志綾、田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	2010.08.28
胎盤早期剥離の取り扱い “超緊急帝王切開術”の実際と児の予後	産科	船越徹	第27回	日本分娩管理研究会	東京都	2010.10.16
当院における先天性心疾患の出生前診断	産科	牧志綾、喜吉賢二、城道久、前澤陽子、笹原淳、田中達也、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第123回	近畿産科婦人科学会 学術集会周産期研究会	京都市	2010.11.07

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
過去16年間に経験した仙尾部奇形腫10例の検討	産科	田中達也、佐本崇、城道久、前澤陽子、牧志綾、笹原淳、高松祐幸、喜吉賢二、船越徹	第123回	近畿産科婦人科学会 学術集会周産期研究会	京都市	2010.11.07
羊水過多における鑑別診断（消化管異常とそれ以外）	産科	喜吉賢二	第12回	イアソドナルド 超音波講座	浜松市	2010.12.4～5
胎児機能不全——最近経験した症例から学ぶ——	産科	高松祐幸、城道久、牧志綾、笹原淳、田中達也、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	平成22年度	兵庫県周産期医療研修会	神戸市	2010.12.18
小児脳腫瘍の画像診断・質診断の攻略	放射線科	赤坂好宣	23	ミッドウインターセミナー	東京	2010年1月24日
先天奇形と正常変異を見極める - 腹部 -	放射線科	赤坂好宣	7	日本小児放射線学会	東京	2010年2月20日
小児の頭頸部疾患 - 腫瘍を中心に -	放射線科	赤坂好宣	69	日本医学放射線学会総会	横浜	2010年4月8日
フィルムリレーディングセッション：輪状臍	放射線科	赤坂好宣	46	日本小児放射線学会	栃木	2010年6月25日
こども病院内のMRI-代表疾患の画像-	放射線科	赤坂好宣	73	福山MRI勉強会	福山	2010年6月10日
先天性尿路奇形	放射線科	赤坂好宣	46	日本医学放射線学会 秋季臨床大会	横浜	2010年9月20日
炎症の画像	放射線科	赤坂好宣	15	近畿小児リウマチ・ 膠原病研究会	大阪	2010年9月25日
腹部救急疾患の画像診断	放射線科	赤坂好宣		明石市医師会 小児科医学会学術講演会	明石	
鞍上部と第四脳室内に腫瘍の形成を認めた脳腫瘍の1例	放射線科	西井達也、赤坂好宣、西山章次	296	日本医学放射線学会 関西地方会	高槻	2010年11月11日
小児静脈栄養におけるビタミンの投与量の現状	薬剤部	井上量代	31	日本病院薬剤師会 近畿学術大会	京都市	2010.1.30
小児TPNにおけるビタミンの投与量は適正に行われているか	薬剤部	辻勉	25	日本静脈経腸栄養学会	千葉市	2010.2.25
当院におけるTPN処方実態調査 ～薬剤師の立場から～	薬剤部	上野陽介	25	日本静脈経腸栄養学会	千葉市	2010.2.25

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
『お薬の上手な与え方』に関するパンフレットの作成と評価 ～小児のコンプライアンス向上を目指して～	薬剤部	井上量代	8	兵庫県立病院学会	神戸市	2010.8.28
病院経営を考えた薬剤師の取り組み	薬剤部	福田朝恵	8	兵庫県立病院学会	神戸市	2010.8.28
血管外漏出時に注意すべき薬剤の情報提供について —非細胞毒性薬剤一覧の作成—	薬剤部	藤永仁美	8	兵庫県立病院学会	神戸市	2010.8.28
兵庫県立こども病院における院外処方せん発行の課題	薬剤部	辻本勉	43	日本薬剤師学会学術大会	長野市	2010.10.11
小児がん患者における嘔吐発現に影響を及ぼす要因の検討	薬剤部	汐谷 恵	20	日本医療薬学会	千葉市	2010.11.14
I.I. 交換の効果と問題点	放射線科	関尾直士		"兵庫県放射線技術師会 医療安全講習会"	神戸市	2010/3/20
小児心大血管造影におけるグリッド除去効果の検討	放射線科	関尾直士	第 26 回	"日本放射線技術師会放 射線技術師総合学術大 会"	東京市	2010/7/1
小児心大血管造影検査におけるCuプレフィルターとグリッド未使用による被曝低減効果の検討	放射線科	関尾直士	平成 22 年度	"兵庫県立病院放射線 技術研修会"	神戸市	2010/7/10
小児大血管造影検査におけるグリッド未使用による被曝低減への取り組み	放射線科	関尾直士	第 8 回	県立病院学会	神戸市	2010/8/28
血管造影検査室における動画ネットワークシステム導入による業務改善と問題点	放射線科	関尾直士	第 8 回	県立病院学会	神戸市	2010/8/28
MRI による Adamkiewics Artery 描出の一例	放射線科	北住一敬	第 8 回	県立病院学会	神戸市	2010/8/28
Cone-Beam CT を用いた位置づけ精度の改善	放射線科	小田敏彦	第 8 回	県立病院学会	神戸市	2010/8/28
こども病院、放射線放射線検査システムの導入 ～経緯と現状～	放射線科	原田亮輔	第 8 回	県立病院学会	神戸市	2010/8/28
小児心大血管造影におけるグリッド未使用時の画質改善の検討	放射線科	関尾直士	第 38 回	日本放射線技術師学会 秋季学術学会	仙台市	2010/10/14
MRI 新生児から幼児において脊椎検査時におけるコイル選択	放射線科	北住一敬	第 49 回	全国自治体病院学会	秋田市	2010/10/15

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
小児血管造影検査における鉛デイスク法を用いた散乱線含有率の測定	放射線科	関尾直士	第22回	兵庫県放射線技師会 学術大会	福崎市	2010/11/14
検査部門における特定医薬・消耗品のコスト削減効果(21年度)と要因について	こども病院 (検査・放射線部)	入野博文、松木慎一郎、小幡朋愛、真田浩一、 駒井隆夫、松尾美也子、桑島恭二、綿岡恭子、 竹田富男	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	H 22年 8月 28日
当院における胎児超音波の検討	こども病院 (検査・放射線部)	西垣久実代、四元寿江、松本郁子、 小寺郁美、芳賀由美、三村仁志 船越徹	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	H 22年 8月 28日
腹部腫瘍の1例	病理診断科1) 外科2) 血液腫瘍科3) 放射線科4)	吉田牧子1)、横井暁子2)、荒井洋志2)、 尾藤祐子2)、中尾真2)、西島栄治2)、 竹田洋樹3)、川崎圭一郎3)、 長谷川大一郎3)、小阪嘉之3)、赤坂好宣4)	第63回	関西小児病理研究会	大阪市	2010.6.26
脳腫瘍	病理診断科	吉田牧子	2010年	2010年小児腫瘍組織分 類委員会・症例検討会	大阪市	2010.9.3
生検時横紋筋への分化が認められた傍膀胱腫瘍の2例	病理診断科1) 外科2) 血液腫瘍科3) 放射線科4)	吉田牧子1)、横井暁子2)、荒井洋志2)、 尾藤祐子2)、中尾真2)、岡本光正2)、 田浦康明2)、田村亮2)、西島栄治2)、 竹田洋樹3)、川崎圭一郎3)、 長谷川大一郎3)、小阪嘉之3)、赤坂好宣4)	第30回	日本小児病理研究会	大阪市	2010.9.4
少年期の心理と行動の理解について	指導相談・ 地域医療連携部	宅見晃子	平成21年度	青少年補導委員研修会	加東市	2010年2月13日
事例から見る小児在宅医療の課題	指導相談・ 地域医療連携部	藤定睦子、橋本ひとみ、宅見晃子	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	2010年8月28日
看護部活動目標への取り組み ～『毎月24日はニシノミヤデー』	県立西宮病院1)、 県立柏原病院2)、 県立こども病院 3)	井口小百合、米津壽美子、蘆田久子、糸田昭子、 井上祥子、高橋ひとみ、森岡法子、柏木まゆみ、 金谷美恵子、高田ゆかり、天野和美、吉田八重、 福島芳江、瀬戸口敏子、石田悦子、足立育子1)、 山本寿美子2)、橋本ひとみ、成田康子3)	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	2010年8月28日
デンバーⅡ講習会	指導相談・ 地域医療連携部	宅見晃子	平成22年度 2回目	デンバーⅡ判定技術 養成講習会	新潟市	2010年9月16日
ICU入室患者に対するシンパンバイオエクス併用早期経腸栄養投与プログラムの可能性	栄養指導課	鳥井隆志	第32回	日本臨床栄養学会総会	名古屋	2010年8月28日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
臨床におけるシンバイオテイクス療法の理論と実践	栄養指導課	鳥井隆志		兵庫県臨床検査技師会	神戸市	2010年6月15日
家庭のできるアレルギー除去食入門編	栄養指導課	鳥井隆志		神戸市保健福祉局 子育て支援部母子保健係	神戸市	2010年10月14日
狭心症・心筋梗塞を防ぐ食事	栄養指導課	鳥井隆志	第18回	東灘医師会 地域医療シンポジウム	神戸市	2010年10月16日
肝臓病の食事療法	栄養指導課	鳥井隆志		西宮市民公開講座	西宮市	2010年10月23日
減塩食のコツ	栄養指導課	鳥井隆志		減塩スキルアップセミナー	姫路市	2010年11月20日
静脈・経腸栄養管理のポイント	栄養指導課	鳥井隆志	第2回	滋賀ニュートリニション セラピー研究会	滋賀	2010年12月11日
重症心身障害児の術後疼痛コントロール	一般外科主体病棟	茨木 美鶴	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
倫理性の芽をそだてる取組み ・2年間看護長補佐会の「アキガケ」グループとして取り組んだこと・ 学童期における慢性心不全患者のセルフケア能力向上に向けた関わり	一般外科主体病棟	岩崎 真弓	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
先天性心疾患児の母親が行うマッサージによる対児感情の変化	循環器B病棟	森松 舞	第46回	日本小児循環器学会	千葉	2010年7月6日
在宅酸素療法を受ける心疾患児の家族が生活する中で感じる困難	循環器A病棟	濱谷 有希子	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
看護師と保育士の連携の実例	循環器A病棟	林 京子	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
魅力あるブレパレーションを実践しよう	混合B病棟	森本 陽香	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
オーラルケア定着への働きかけ ー実施後の半年を振り返ってー	混合B病棟	栗林佑季、橋口ゆかり	第20回	日本小児看護学会 エキスパスパートナーパネル	神戸市	2010年6月26日～27日
先天股脱牽引療法の看護 ー牽引における皮膚障害の予防的援助	混合B病棟	橋口ゆかり	第8回	県立病院学会	神戸市	2010年8月27日
県立子ども病院における保育士の取り組みー看護師と保育士の協働・保育記録・コミュニケーション取り組みー	混合B病棟	岡本幸恵	第21回	日本小児整形外科学会	徳島市	2010年6月26日～27日
	混合B病棟	保育士、坂東泰江	平成22年度	日本医療保育学会 東北ブロック研修会 教育講演	札幌市	2010年5月15日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
超低出生体重児・超早産児のストーマケア	NICU	山本陽子	第20回	日本新生児看護学会	神戸	2010年11月5日
テガダーム貼付に伴う皮膚トラブルに関する実態調査～開始から5年間を振り返って～	NICU	熊谷千穂	第20回	日本新生児看護学会	神戸	2010年11月6日
第1報 超早産児における蘇生時の保温対策～超早産児保温モジュールの確立～	NICU	松本京子	第20回	日本新生児看護学会	神戸	2010年11月5日
第2報 超早産児の出生直後から搬送・入院までの新保温方法の導入	NICU	藤原真弓	第20回	日本新生児看護学会	神戸	2010年11月5日
クベース内の音環境改善の取り組み～防音シートの導入～	NICU	門野理奈	第20回	日本新生児看護学会	神戸	2010年11月6日
在胎28～31週未満で出生した児の早期至適温度環境を目指して	NICU	山崎弥生	第20回	日本新生児看護学会	神戸	2010年11月5日
当院におけるN-DPAPのプログラミングによる褥瘡発生の状況と発生因子の検討	NICU	山本陽子	第21回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	大阪市	2010年12月3日
災害時にこどもの安全を守るために ー災害ケアパッケージ・3分間シミュレーションを導入してー	GCU	内海祐子	第8回	兵庫県立病院学院学会	神戸市	2010年8月27日
患者サービスマス向上に向けて～育児指導室の改善について～	GCU	栗登志美	第20回	日本新生児看護学会	神戸市	2010年11月6～7日
胎児発育不全を指摘され出生した新生児の看護	GCU	杉森恵美	平成22年度	周産期医療研修会	神戸市	2010年12月12日
造血幹細胞移植に伴う臀部皮膚トラブルの予防的ケアの検討 第1報	HCU 外科系一般病棟	高澤道子	第20回	小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
小児ICUにおける用手換気教育プログラムによる効果：第2報	ICU	鈴木朝子	第20回	日本小児看護学会 学術集会	神戸	2010年6月26日～27日
ICUにおけるこども用パンプレット導入の効果ーこどもと親への効果ー	ICU	田路久美子	第46回	日本小児循環器学会 学術集会	千葉	2010年7月6日
ICUにおけるこども用パンプレット導入の効果ースタッフへの教育効果ー	ICU	中谷扶美	第46回	日本小児循環器学会 学術集会	千葉	2010年7月6日
危機的状況にある患者への看護ー産科病棟での取り組みー	産科	岸野早希	第8回	兵庫県立病院学院学会	神戸市	2010年8月27日
「高機能シミュレーターを用いたフィジカルアセスメントと救急蘇生研修ー病棟看護師を対象とした独自のPALS教育ー」	救急センター	藤原 健太	第24回	日本小児救急医学会	京都市	2010年5月27日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
「小児救急の終末期における意思決定サポート・ガイドラインを活用したチーム医療の検討」	救急センター	浅井桃子	第6回	日本クリティカルケア看護学会	札幌市	2010年7月15日
シンポジウム・小児救急における医師と看護師の協働・看護の立場から	救急センター	清水称喜	第24回	日本小児救急医学会	京都市	2010年5月27日
ナーマセッション ドナーとなる子どもと家族の権利を擁護する看護実践	救急センター	清水称喜	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
救急医療における県立病院の役割とあり方ー救急認定看護師の立場からー	救急センター	清水称喜	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	2010年8月27日
「危機的状況にある家族への看護」 「小児の熱傷の看護」	救急センター	清水称喜	平成22年度	日本看護協会看護研修学校講義	清瀬市	2010年8月2日
「小児救急看護」	救急センター	清水称喜	平成22年度	大阪看護協会救急看護認定学課	大阪	2010年9月27日
学校祭特別講演「子どもと家族を中心とした小児救急医療」	救急センター	清水称喜	平成22年度	宝塚市立看護専門学校	宝塚市	2010年10月14日
講演「子どもと家族を中心とした小児救急医療」	救急センター	清水称喜	平成22年度	中国四国ブロック内小児救急研究会	岡山市	2010年10月21日
兵庫県立病院部長会 認定看護師主催研修「小児の救急蘇生・子どもの頑張る力を引き出す関わり」	救急センター	清水称喜	平成22年度	兵庫県立柏原病院	丹波市	2010年11月23日
兵庫県立病院部長会 認定看護師主催研修「小児のフイジカアルアセスメント・危機的状況への対応」	救急センター	清水称喜	平成22年度	兵庫県立塚口病院	尼崎市	2010年11月28日
小児の生理学的観察 子どもの頑張る力を引き出す関わり	救急センター	清水称喜	平成22年度	京都府看護協会	京都市	2010年11月30日
他部門との連携強化によるチーム医療の促進ー超緊急帝王切開シミュレーションの取り組みー	手術室	高橋紫	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	2010年8月27日
1型糖尿病患者の療養支援 ～糖尿病合同カンファレンスと患者指導パンフレット作成から患者指導を考える～	看護部	泊菊子	第8回	兵庫県立病院学会	神戸市	2010年8月27日
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子		北越ストーマケア講習会	富山市	2010年3月26日
間欠的自己導尿の実際	看護部	鎌田直子	第16回	日本小児ストーマ・排泄管理セミナー	さいたま市	2010年4月20日
統合講義・事例検討	看護部	鎌田直子	第16回	日本小児ストーマ・排泄管理セミナー	さいたま市	2010年4月21日

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
低出生体重児のストーマケアー早期からCPBを含む皮膚保護剤を貼付した3事例を経験して	看護部	鎌田直子	第23回	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	さいたま市	2010年4月22日
皮膚・排泄ケア概論対象論小児	看護部	鎌田直子	平成22年度	兵庫県看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程	神戸市	2010年4月29日
二分脊椎症患者の排尿・排便管理	看護部	鎌田直子	平成22年度	二分脊椎症協会岡山支部勉強会	岡山市	2010年4月30日
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	平成22年度	兵庫県看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程	神戸市	2010年6月22日
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	平成22年度	関西ストーマケア講習会	西宮市	2010年7月9日
低出生体重児の皮膚ケア	看護部	鎌田直子	平成22年度	兵庫県看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程	神戸市	2010年7月23日
二分脊椎症患者の排便管理～逆行性洗腸の適応と効果	看護部	鎌田直子	第27回	日本二分脊椎研究会	大阪市	2010年7月23日
失禁ケア	看護部	鎌田直子	平成22年度	兵庫県看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程	神戸市	2010年8月10日
小児消化管ストーマ術前ケア	看護部	鎌田直子	第1回	近畿小児WOCケア勉強会	大阪市	2010年12月3日
体圧による足部の褥瘡ケア	看護部	鎌田直子	第21回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	大阪市	2010年12月3日
プレパレーションの院内定着に向けた方策ープレパレーション・ガイドラインの開発ー	看護部	堀場 里美	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
呼吸器管理に関する看護師の役割拡大 第1報ーベテラン看護師の呼吸器離脱における経験知の可視化ー	看護部	齋藤 富美代	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日
呼吸器管理に関する看護師の役割拡大 第2報ー呼吸器離脱標準化に向けたケアツールの開発ー	看護部	谷本 江利子	第20回	日本小児看護学会	神戸市	2010年6月26日～27日

4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
ひょうごの医療 子どもに多い病気①アトピー性 皮膚炎	リウマチ・アレルギー科	三好麻里	神戸新聞	2010.5.1
関西情報ネット ten	小児外科	西島栄治	読売テレビ	2010.11.3
ひょうごの医療 小児がん①白血病	血液・腫瘍科	小坂嘉之	神戸新聞	2010.11.6
ひょうごの医療 小児がん③脳腫瘍	脳神経外科	長嶋達也	神戸新聞	2010.11.20
救い支える児童虐待防止法 10 年 体に残る無言の S O S	小児科	宅見晃子	神戸新聞	2010.11.20
小児脳腫瘍の治療	脳神経外科	長嶋達也	関西テレビ	2010.9.1
虐待による乳幼児頭部外傷	脳神経外科	長嶋達也	関西テレビ	2010.3.18
虐待による乳幼児頭部外傷	脳神経外科	長嶋達也	日本テレビ (情報ライブ ミヤネ屋)	2010.3.18
耳の日座談会	耳鼻咽喉科	大津雅秀	神戸新聞	2010. 2. 27

5) 実習生・研修生受け入れ状況（平成 22 年）

①実習生

診療部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	6 年次個別計画実習・脳神経外科	1	7 月 6 日～7 月 17 日	手術室、病棟、外来
神戸大学	小児心臓外科実習	2	4 月 6 日～5 月 22 日	手術室
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	2 月 15 日～2 月 19 日	耳鼻咽喉科外来および手術室
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	10 月 25 日～11 月 30 日	耳鼻咽喉科外来および手術室
兵庫歯科学院専門学校歯科衛生学科		2	7 月 1 日～7 月 29 日	歯科外来・他
兵庫歯科学院専門学校歯科衛生学科		2	10 月 1 日～10 月 28 日	歯科外来・他

看護部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	総合看護小児 ab	5	5 月 31 日～6 月 28 日	7F・5A・5B・4B
	総合看護基礎 C	5	5 月 31 日～6 月 29 日	6A・6B
	生涯健康看護	18	7 月 5 日～7 月 22 日	7F・5A・5B・4B6A・6B・5A・5B・4B・産科
	生涯健康看護	23	10 月 4 日～10 月 21 日	7F・6A・6B・5A・5B・4B・産科
	インパクト実習	16	8 月 3 日～8 月 5 日	6A・6B5A・5B・産科
	総合看護技術実習	24	12 月 7 日～12 月 9 日	7F・6A・6B・5A・5B・4B
			12 月 13 日～12 月 15 日	
	出会い実習	18	1 月 31 日～2 月 10 日	7F・6A・6B・5A・5B・4B・
小児看護学実践研究実習	5	8 月 9 日～10 月 5 日	7F・6A・6B・5B・5B・HCU	
看護学科定時制	6	5 月 25 日～5 月 27 日	産科	
		6 月 1 日～6 月 3 日		産科

		6	6月22日～6月24日	産科	
		6	9月7日～9月9日	産科	
		6	9月25日～10月28日	産科	
		6	11月2日～11月5日	産科	
		4	9月27日～9月27日	産科	
		4	10月5日～10月9日	産科	
		4	1月19日～1月21日	産科	
		4	1月25日～1月27日	産科	
		6	9月7日～9月17日	7F・4B	
		5	10月26日～11月5日	7F・4B	
		5	11月16日～11月26日	7F・4B	
		4	7月5日～7月15日	HCU	
		4	9月27日～10月7日	HCU	
		7	10月26日～11月2日	HCU	
		17	11月16日～11月25日	6A・6B・5A・5B	
		4	8月23日～9月3日	6B・5A・5B・4B	
		22	8月30日～11月15日	ストーマ・排泄外来、その他	
兵庫県立総合衛生学院	助産学科				
	助産学科				
	看護学科全日制				
近大姫路大学看護学部	こども看護				
	こども看護				
	こども看護				
	こども看護				
	統合実習				
兵庫県看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師研修センター	小児病院実習				

薬剤部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
武庫川女子大学薬学部	薬学生実務実習	2名	9月6日～11月19日	薬剤部と主な部署

検査・放射線部（検査）

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
岡山大学 医学部 保健学科	施設見学実習	2	8月16日～8月20日	検査部
神戸大学医学部 保健学科検査技術科学専攻	臨地実習	2	11月9日～11月26日	検査部
神戸常磐大学 保健科学部 医療検査学科	臨地実習	1	1月17日～3月11日	検査部

栄養指導課

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
同志社大学	臨床栄養学臨地・校外実習	4	2月15日～2月26日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	4	3月1日～3月12日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	5	3月15日～3月26日	栄養指導課
武庫川女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	4	5月31日～6月11日	栄養指導課
神戸松蔭女子学院大学	臨床栄養学臨地・校外実習	4	6月21日～7月2日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	5	7月5日～7月16日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	5	8月2日～8月13日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	6	8月16日～8月27日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	6	9月6日～9月17日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	6	10月25日～11月5日	栄養指導課

②研修生
診療部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
塚口病院	2年目研修医(選択科目/脳神経外科)	1	7月6日～9月3日	手術室、病棟、外来
当院小児科	放射線科	3	3ヶ月1名、6ヶ月2名	読影室、超音波室、透視検査室など
兵庫県立がんセンター	産科	1	11月の1ヶ月	産科病棟・外来、手術室
神戸赤十字病院	産科	6	8、9、10、11、12月の1ヶ月づつ	産科病棟・外来、手術室

看護部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
兵庫県立大学大学院	看護学研究科小児看護学博士前期課程	3	10月6日～3月31日	7F・6A・6B・5A・5B・4B・HCU・救急・NICU・GCU
	看護学研究科小児看護学博士前期課程	1	4月23日～11月30日	5A・5B
神戸市看護科大学大学院	小児看護学特講演習	2	10月1日～3月31日	7F・6A・6B・5A・5B・4B・HCU・救急
愛知県立大学看護実践センター	認定看護師教育課程がん科学療法	1	7月21日～7月27日	7F・HCU・外来・薬剤部
兵庫県看護協会	認定看護師教育課程皮膚・排泄コース	10	8月30日～11月15日	外来・全病棟
神戸大学大学院	保健学科研究科家族看護分野	1	7月～10月	外来
兵庫県立大学大学院	看護学研究科小児看護学	1	11月～3月	7F・外来
兵庫医科大学	看護学部看護学科小児看護	1	5月～3月	産科病棟除く全病棟

栄養指導課

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
武庫川女子大学大学院	生活環境学研究科(管理栄養学コース)	1	1月1日～3月31日	栄養指導課
神戸女子大学	家政学部管理栄養士養成課程	1	1月1日～11月8日	栄養指導課

指導相談・地域医療連携部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
兵庫県看護協会	退院調整看護師養成研修	1	9月9日、16日、21日、24日、28日	指導相談・地域医療連携部、病棟

6) 長期院外研修

研修先施設名	所属部署	研修者名	研修期間	研修内容
大阪府立母子保健総合医療センター	薬剤部	藤永 仁美	平成 22 年 11 月 29 日 (月) ~ 平成 22 年 12 月 3 日 (金)	日本病院薬剤師会妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修

6. 研修（2010年）

1）公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
第115回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	1月14日	17:45～18:30	研修室A B	41	1	42	新生児期心臓手術症例について	松久弘典	心臓血管外科
第116回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	1月28日	17:45～18:30	研修室A B	28	4	32	新型インフルエンザ流行期における中枢神経合併症入院症例の検討	藤田杏子	救急集中治療科
第117回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	2月25日	17:45～18:30	研修室A B	18	1	19	小児尿路変向（変更）術	中川賀清	泌尿器科
第118回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	3月11日	17:45～18:30	研修室A B	25	2	27	基礎心疾患を持たない児に発祥した重度僧帽弁閉鎖不全～急性左心不全を呈した3乳児例の検討～	佐藤有美	循環器内科
第119回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	3月25日	17:45～18:30	研修室A B	17	1	18	頭部外傷後に視機能障害を認めた2例	別所宣洋	眼科
第120回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	4月8日	17:45～18:30	研修室A B	20	2	22	小児脳腫瘍の画像診断－質診断の攻略－	赤坂好宣	放射線科
第121回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	4月22日	17:45～18:30	研修室A B	19	3	22	小児の気道確保～麻酔的アプローチ～	大井まゆ	麻酔科
第122回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	5月13日	17:45～18:30	研修室A B	30	3	33	新生児敗血症～早発型と遅発型～	猪俣慶	新生児科
第123回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	5月27日	17:45～18:30	研修室A B	14	0	14	唇顎口蓋裂児の歯科治療	曾根由美子	小児歯科
第124回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	6月10日	17:45～18:30	研修室A B	17	0	17	再発パターキトリンパ腫に対する臍帯血移植後にHHV-6脳炎を発症した1例	奥野啓介	血液腫瘍科
第125回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	6月24日	17:45～18:30	研修室A B	28	1	29	当院におけるHELLP症候群の検討	前澤陽子	産科
第126回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	7月8日	17:45～18:30	研修室A B	12	1	13	アレルギー科かえみあみ胃食道逆流症	安部真吾	アレルギー科
第127回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	7月22日	17:45～18:30	研修室A B	19	4	23	漏斗胸の治療	谷本光隆	小児外科
第128回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	9月9日	17:45～18:30	研修室A B	11	7	18	耳鼻咽喉科における小児慢性咳嗽	阪本浩一	耳鼻咽喉科
第129回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	10月14日	17:45～18:30	研修室A B	13	3	16	小児科医、産婦人科医が遭遇する小児整形外科疾患～治療開始のタイミングと経過について～	衣笠真紀	整形外科
第130回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	10月28日	17:45～18:30	研修室A B	22	1	23	発達に偏りのある子どもたちの理解と支援	宅見晃子	指導相談・地域医療連携部
第131回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	11月11日	17:45～18:30	研修室A B	19	0	19	頻回再発型ネフローゼ症候群について－当科でのフォローアップ症例から最近のトピックスまで－	神田杏子	腎臓内科
第132回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	11月25日	17:45～18:30	研修室A B	25	1	26	清水が丘学園（情緒障害児短期治療施設）の紹介－虐待を受けた子どもや、不登校の子どもたちが治療を受けている施設－	前田宏章	精神科

2) 院内全体研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
新病院構想講演会	新病院構想委員会	7月5日	17:30～19:00	研修室A B	80	「近代病院」から「脱近代病院」へー兵庫県立こども病院の建築に向けて	久保田秀夫	広島国際大学
新病院構想講演会	新病院構想委員会	8月27日	17:30～19:00	研修室A B	60	小児ER:病院統合整備の中で	林 奨	東京都立小児総合医療センター
改正臓器移植法講演会	臓器移植に関する検討会	6月28日	17:30～19:00	研修室A B	70	改正臓器移植と小児からの脳死臓器提供について	藤原亮子 河崎由香	兵庫県臓器移植コーディネーター 日本臓器移植ネットワーク 西日本支部
平成21年度シニアトル小児病院研修報告会	国際交流推進委員会	5月11日	17:30～19:00	研修室A B	55	1. シニアトル小児病院P I C Uでの研修 2. シニアトル小児病院N I C Uでの研修	佐治洋介 坂井仁美	診療部
第2回シニアトル・神戸ジョイントセミナー	国際交流推進委員会	11月18日	15:30～17:00	研修室A B	70	1. Development of a Guideline for Prenatal, Delivery, and Surgical management of Gastrochisis 2. Chest CT Findings in Preterm Infants with CLD 3. Neonatal Pain Assessment and Development of NICU Analgesia Protocol at Seattle Children's Hospital 4. IL-6 Levels in Tracheal Aspirate Fluid and Tracheal Colonization in Ventilated ELGANS 5. Continuous Performance Improvement in Neonatology at Seattle Children's Hospital based on Toyota Production Methods	Linda Wallen 坂井仁美 Catherine Wagner 澤淵雅巳 J. Craig Jackson	シニアトル小児病院 こども病院
平成21年度第2回クリニカルバス大会	クリニカルバス委員会	8月27日	17:30～19:00	研修室A B	136	原点回帰・こども病院のモデルバスから学ぼう	小野田泰大 小林大介	診療部
平成22年度第1回クリニカルバス大会	クリニカルバス委員会	10月1日	17:30～19:00	研修室A B	116	多指症・合指症 二つのバスにある差異:そこは?	関尾直士 大谷幸広 小田敏彦 赤坂好宣 北住一哉	検査・放射線部 放射線科
平成21年度第2回放射線安全研修会	放射線安全管理委員会	1月28日	15:30～17:00	研修室A B	31	①障害防止法令・予防規定 ②R Iの安全取扱い ③放射線発生装置の安全取扱い ④人体への影響 ⑤M R Iの危険性	関尾直士 藤井康司 小田敏彦 赤坂好宣 北住一哉	検査・放射線部 放射線科
平成22年度第1回放射線安全研修会	放射線安全管理委員会	6月22日	17:15～18:45	研修室A B	36	①障害防止法令・予防規定 ②R Iの安全取扱い ③放射線発生装置の安全取扱い ④人体への影響 ⑤M R Iの危険性	関尾直士 藤井康司 小田敏彦 赤坂好宣 北住一哉	検査・放射線部 放射線科

C T装置勉強会	放射線科	4月19日	17:30～19:00	研修室A B	30	C T装置3社の最新機種紹介	各社 技術担当者	
感染管理研修会 (清掃委託業者対象)	感染対策委員会	9月2日	11:30～12:00	研修室C	28	1. 病院における手指衛生の必要性 2. 正しい手指衛生の方法	久松英治	感染対策チーム
感染管理研修会 (医療従事者対象)	感染対策委員会	① 11月4日 ② 11月11日 ③ 11月29日 ④ 11月29日	①②④ 17:30～18:30 ③ 16:30～17:30	研修室A B	561	1. 心臓血管外科における周術期の抗菌剤使用 2. 当院で分離される耐性菌の特徴 3. 耐性菌と摂食感染予防	心臓血管外科 戸田圭三 鳴滝由佳	感染対策チーム
感染管理研修会	感染対策委員会	12月6日	17:30～18:30	研修室A B	45	インフルエンザとは	SARAYA 学 術部	感染対策チーム
医療安全研修会	医療事故防止対 策委員会	3月9日	17:30～18:30	研修室A B	144	各部内の安全への取り組み報告	芳賀由美 原田亮輔 尾崎孝秋 藤田真理子 辻本勉 長嶋達也	検査部 放射線部 栄養指導部 看護部 薬剤部 診療部
医療安全研修会	医療事故防止対 策委員会	① 12月2日 ② 12月7日	17:30～19:00	研修室A B	延べ334	①過去の医療事故から学ぶ ②医薬品の安全な使用 ③シリンジポンプの適正使用	斉藤富美代 辻本勉 岩下仁美	医療安全対策 担当課長 薬剤部 ME

3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	1月6日	17:30～18:30	研修室C	21	1) 小脳腫瘍 (2歳女児) 2) リンパ腫 (15歳女児) 3) 右卵巢腫瘍 (11歳女児) 4) 腸管腫瘍 (4歳男児) 5) 神経芽腫 (6歳女児) 6) 乳児神経芽腫 (4ヶ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	1月7日	17:30～17:45	研修室C	19	1) 腹部腫瘍 (6歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	1月13日	17:30～18:00	研修室C	20	1) 肝腫瘍 (12歳男児) 2) 左網膜細胞腫 (2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	1月20日	17:30～18:15	研修室C	19	1) 腹部腫瘍 (6歳男児) 2) 乳児神経芽腫 (5ヶ月男児) 3) 卵巢嚢腫 (2歳女児) 4) 左腎部腫瘍 (3歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	1月27日	17:30～18:00	研修室C	17	1) 神経芽腫 (7歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理、救急	2月3日	17:30～18:30	研修室C	21	1) 肝腫瘍 (12歳男児) 2) 左半球大脳腫瘍 (3歳男児) 3) 脊髄腫瘍 (4歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理、救急	2月10日	17:30～18:15	研修室C	22	1) 右卵巢嚢腫 (14歳女児) 2) 腰椎腫瘍 (11歳) 3) 小脳腫瘍 (2歳女児) 4) 視神経～視床下部腫瘍 (1歳5ヶ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理、総合診療科	2月17日	17:30～18:15	研修室C	21	1) 腹部腫瘍 (1歳5ヶ月女児) 2) 左卵巢成熟奇形腫 (2歳女児) 3) 脳腫瘍 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理、救急	2月22日	17:30～18:30	研修室C	20	1) 右胸腔内腫瘍 (2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理、整形外科	2月24日	17:30～18:45	研修室C	19	1) 乳児神経芽腫 (6ヶ月男児) 2) 腰椎腫瘍 (11歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、病理	3月3日	17:30～18:30	研修室C	22	1) 胸壁腫瘍 (1歳3ヶ月) 2) 左卵巢嚢腫捻転 (5日女児) 3) 右胸腔内腫瘍 (2歳男児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	3月10日	17:30～18:00	研修室C	21	1) 腹部腫瘍 (2歳男児) 2) 脳腫瘍 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	3月17日	17:30～18:30	研修室C	21	1) 胸壁腫瘍 (1歳4ヶ月女児) 2) 縦隔腫瘍 (1歳2歳男児) 3) 脳腫瘍 (7歳女児) 4) 脳腫瘍 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、病理	3月24日	18:00～19:00	研修室C	22	1) 胸壁腫瘍 (1歳4ヶ月女児) 2) 右副腎神経芽細胞腫 (3歳男児) 3) GIST (1歳2歳女児) 4) malignant lymphoma (8歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、病理	4月7日	17:30～19:00	研修室C	21	1) 胸壁腫瘍 (1歳4ヶ月女児) 2) 腹部腫瘍 (1歳5ヶ月女児) 3) 腹部腫瘍 (4歳女児) 4) malignant lymphoma (8歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	4月14日	17:30～18:10	研修室C	22	1) 小脳髄芽腫 (8歳女児) 2) 左腎腫瘍 (0歳男児) 3) 乳児神経芽腫 (8ヶ月男児) 4) 下腹部腫瘍 (4歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、外科、脳外科、病理	4月21日	17:30～18:00	研修室C	14	1) 乳児神経芽腫 (8ヶ月男児) 2) 小脳髄芽腫 (4歳男児) 3) 小脳腫瘍 (8歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	4月27日	17:30～18:00	研修室C	13	1) 視神経膠腫・間脳症候群 (1歳5ヶ月男児) 2) 松果体腫瘍・水頭症 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理、	5月6日	17:30～17:50	研修室AB	12	1) 悪性脳腫瘍 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理、 泌尿器科	5月13日	17:30～18:00	研修室C	24	1) 膈部腫瘍 (1歳女児) 2) 右耳下腺部腫瘍 (4ヶ月女児) 3) 小脳 (7ヶ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	5月19日	17:30～18:00	研修室C	13	1) 小脳髄芽腫 (2歳女児) 2) 左椎体骨腫瘍 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、眼科、病理	5月26日	18:05～18:45	研修室C	13	1) 右目網膜芽腫 (2歳女児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、眼科、外科、脳外科、泌尿器科、病理	6月2日	17:30～18:45	研修室C	30	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右眼球腫瘍 (4ヶ月女児) 2) 右精巣腫瘍 (1歳男児) 3) 小脳芽腫 (9歳男児) 4) 左腎腫瘍 (6歳男児) 5) 小脳外側部腫瘍 (14歳男児) 6) 視神経膠腫 (1歳10ヶ月男児) 7) 横紋筋肉腫 (4歳8ヶ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、眼科、外科、脳外科、整形外科、病理	6月9日	17:20～17:50	研修室C	26	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右坐骨腫瘍 (3歳) 2) 神経芽腫 (6歳男児) 3) 左腎腫瘍 (6歳男児) 4) 左網膜芽細胞腫、化学療法+左眼球摘出後 (8歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、病理	6月16日	17:30～17:50	研修室C	16	<ul style="list-style-type: none"> 1) 左腎腫瘍 (6歳男児) 2) 髓芽腫 (14歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	6月23日		研修室C	19	<ul style="list-style-type: none"> 1) 横紋筋肉腫 (3歳男児) 2) 腹腔内腫瘍 (1歳5ヶ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、病理	6月30日	17:30～18:30	研修室C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右坐骨腫瘍 (3歳女児) 2) 腹腔内腫瘍 (1歳5ヶ月男児) 3) 仙尾部腫瘍 (25日女児) 4) 左側頭骨腫瘍 (1歳) 5) 頸部リンパ節腫瘍 (13歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、形成外科、病理、泌尿器科、耳鼻科	7月14日	17:30～18:00	研修室C	25	<ul style="list-style-type: none"> 1) 左側頭骨腫瘍 (1歳) 2) 後頭部皮下腫瘍 (19日) 3) 下腹部腫瘍 (4歳女児) 4) 乳児神経芽腫 (11ヶ月男児) 5) 右副腎腫瘍 (5歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、病理	7月28日	18:00～18:45	研修室C	21	<ul style="list-style-type: none"> 1) 小脳腫瘍 (6歳10ヶ月女児) 2) 仙尾部腫瘍 (1ヶ月女児) 3) 神経芽腫 (7歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、病理	8月4日		研修室C	21	<ul style="list-style-type: none"> 1) 横紋筋肉腫 (4歳女児) 2) LCH (3歳女児) 3) 左頸部腫瘍 (13歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、形成外科、病理、泌尿器科、脳外科、整形外科	8月11日	17:30～18:30	研修室C	31	<ul style="list-style-type: none"> 1) 小脳芽腫 (2歳女児) 2) 後頭部皮下腫瘍 (1ヶ月男児) 3) LCH (11歳) 4) 右精巣腫瘍 (1歳3ヶ月男児) 5) 神経芽腫 (5歳男児) 6) リンパ腫 (8歳男児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、病理	9月1日	17:30～18:30	研修室C	21	1) リンパ腫 (8歳男児) 2) 神経芽腫疑い (2歳女児) 3) 後頭蓋窩腫瘍 (2歳男児) 4) 小脳髓芽腫 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	9月8日	17:20～17:40	研修室C	17	1) 神経芽腫 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	9月15日	17:30～19:00	研修室C	21	1) 後縦隔腫瘍 (4歳男児) 2) ホジキンリンパ腫 (13歳女児) 3) optic pathway glioma (3歳女児) 4) LCH (S-S) (8歳女児) 5) 脳腫瘍 (後頭蓋窩腫瘍) (2歳男児) 6) ependymoma (10歳男児) 7) 鞍上部腫瘍+小脳腫瘍 (3歳)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、整形外科、病理	9月22日	17:30～18:00	研修室C	24	1) 神経芽腫 (7歳女児) 2) 右網膜芽腫 (7ヶ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、病理	9月29日	17:30～18:30	研修室C	21	1) 肝腫瘍 (3ヶ月男児) 2) 右上腕二頭筋内の腫瘍 (11歳男児) 3) 小脳髓芽腫 (9歳男児) 4) 小脳髓芽腫 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、形成外科、脳外科、病理	10月6日	17:30～18:20	研修室C	22	1) 口腔内腫瘍 (8日女児) 2) 左頸部腫瘍 (2歳5ヶ月女児) 3) 第4脳室・鞍上部腫瘍 (3歳男児) 4) 左側頭葉腫瘍 (14歳女児) 5) 視神経路視床下部 (6歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、耳鼻科、病理	10月20日	17:30～19:00	研修室C	25	1) 右眼窩内腫瘍 (5歳) 2) 大脳脳腫瘍 (1ヶ月女児) 3) 左頸部腫瘍 (2歳女児) 4) ホジキンリンパ腫 (13歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理、泌尿器科	10月27日	18:00～18:30	研修室C	15	1) 口腔内腫瘍 (8日女児) 2) 膈部腫瘍 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、形成外科、病理	11月2日	8:00～8:30	研修室C	19	1) yolk sac tumor (1歳男児) 2) 後縦隔腫瘍 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、病理	11月10日	17:30～18:40	研修室C	23	1) 神経芽腫 (1歳男児) 2) 左頸部腫瘍 (2歳女児) 3) 右眼窩内腫瘍 (5歳男児) 4) 大脳脳腫瘍 (1ヶ月女児) 5) 脳幹部 pilocytic astrocytoma (12歳男児) 6) 脳幹部腫瘍 (8歳)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳外科、病理	11月17日		研修室C	22	1) 腫瘍 (2歳女児) 2) optic pathway glioma (3歳女児) 3) yolk sac tumor (1歳男児) 4) 腹部腫瘍 (8歳男児) 5) 右頸部～上縦隔腫瘍 (5歳) 6) 左卵巣腫瘍疑い (7歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、形成外科、耳鼻科、病理	11月24日		研修室C	25	1) 左小脳橋角部腫瘍 AT/RT (7ヶ月男児) 2) 左中耳原発傍髄膜胎児型横紋筋肉腫 (5歳男児) 3) 左頸部腫瘍 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、病理	12月1日		研修室C	19	1) Hodgkin リンパ腫 (13歳女児) 2) 白血病骨髄移植後 (16歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急科、病理	12月6日		研修室C	21	1) 上縦隔腫瘍 (9ヶ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	12月8日		研修室C	22	1) 神経芽細胞腫再発の疑い (7歳男児) 2) 右胸膜肺芽腫 (2歳男児) 3) 右眼窩内神経鞘腫 (5歳男児) 4) ependymoma (10歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、耳鼻科、病理	12月15日	17:30～18:30	研修室C	24	1) 右精巣腫瘍 (1歳7ヶ月男児) 2) 膀胱腫瘍 (4歳男児) 3) 左頸部腫瘍 (2歳7ヶ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	12月22日	18:00～18:30	研修室C	16	1) 髓芽腫 (4歳女児) 2) 後縦隔腫瘍 (3歳男児) 3) 脳腫瘍 (4歳男児)
麻酔科・心臓外科合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科	毎日	7:55～8:10	I C U	約10	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス
循環器カンファレンス	循環器科、心臓外科、麻酔科	毎週月曜日	17:00～	本館4階 カンファレンスルーム	約15	心臓カテーテル検査症例や手術検討症例についてのカンファレンス
循環器抄読会	循環器科、心臓外科	隔週木曜日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	約15	最近の小児循環器関連の文献より
周産期カンファレンス	産科、新生児科、小児外科、病理診断科、看護師、検査技師、薬剤師	毎月曜 (月が休日の場合は火)	16:30～16:55	産科外来指導室	20～24	未分娩の症例提示と新生児の経過報告
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護師、検査技師、薬剤師	毎金曜 (金が休日の場合は木)	16:00～16:25	産科病棟詰りめ所	10～12	入院中症例の検討
MRIカンファレンス	産科、放射線科	奇数月最終週金	17:00～	放射線科読影室	約12	胎児MRI撮影症例の提示と読影、新生児の画像提示

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者 / 担当
journal club	救急集中治療科	1月5日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	高アノモニア血症	奥野美佐子
journal club	救急集中治療科	1月12日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	15	DIC	笠井和子
journal club	救急集中治療科	1月14日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	赤血球輸血の適応と使用指針	長谷川大一郎
journal club	救急集中治療科	1月19日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	精巢捻転	山口善道
journal club	救急集中治療科	1月26日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	DM sick day	米倉圭二
journal club	救急集中治療科	2月2日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	TLS	竹田洋樹
journal club	救急集中治療科	2月9日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	急性細気管支炎	奥野啓介
case report	救急集中治療科	3月29日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	症例報告	伊賀真紀子
journal club	救急集中治療科	4月13日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	膀胱尿管逆流症における抗菌薬使用について	田中亮二郎
journal club	救急集中治療科	4月20日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	小児心停止症例における心肺蘇生について	藤田杏子
journal club	救急集中治療科	5月11日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	新生児痙攣における aEEG の有用性について	永瀬敏郎
journal club	救急集中治療科	5月18日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	15	ショック治療におけるドパミンとノルエピネフリンの比較	神田杏子

journal club	救急集中治療科	5月25日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	川崎病の治療	中岸保夫
journal club	救急集中治療科	6月8日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	小児の頭痛について	丸山あずさ
journal club	救急集中治療科	6月15日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	小児の虐待における骨折について	辻真之介
case report	救急集中治療科	8月31日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	15	低酸素脳症	田原奈津子
case report	救急集中治療科	9月27日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	先天性十二指腸膜様狭窄症	西村健
case report	救急集中治療科	9月28日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	虫垂炎	塩津 聡一
case report	救急集中治療科	9月30日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	軽症頭部外傷を契機にけいれんを来した症例	魚住加奈子
journal club	救急集中治療科	10月5日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	気管支炎に対して高張食塩水の吸入療法について	田中裕也
journal club	救急集中治療科	10月19日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	15	頭部外傷後の内分泌障害について	尾崎佳代
journal club	救急集中治療科	11月2日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	ARDS 治療における筋弛緩剤の使用について	福原信一
journal club	救急集中治療科	11月9日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	重症頭部外傷に対しての高張液使用について	佐治洋介
journal club	救急集中治療科	11月16日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	虫垂炎の治療	長谷川大一郎
case report	救急集中治療科	11月30日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	小児の深頸部膿瘍の1例	齊藤光
case report	救急集中治療科	11月30日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	原発性腸リンパ管拡張症	黒瀬潤

case report	救急集中治療科	12月24日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	TTPとAIHAを合併した1例	倉橋幸也
journal club	救急集中治療科	12月28日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	アセトアミノフェンによる肝障害	川崎英史
case report	救急集中治療科	12月28日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	水沼謙一
術前カンファレンス	心臓血管外科	毎週月曜日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	各週の手術症例の術前検討	心外
術後カンファレンス	心臓血管外科	毎週金曜日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	各週の手術症例の術後報告	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	1月13日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	6	TGAに対するASO術後PSに関して、術後カテーテル検査と手術記録の見直し	松久
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	1月21日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	6	AVSDにおけるPABの適応見直し	圓尾
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	2月10日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	6	心臓血管外科学会予演会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	2月17日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	6	小児科学会兵庫地方会、中四国地方会予演会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	3月17日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	6	アジア心臓血管外科報告会、神奈川こども見学報告	井上、松久
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	3月24日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	6	TGAに対するASO術後PSに関して、文献的考察	松久
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	3月31日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	6	AVSD術式	井上
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	4月7日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	小児心臓MRIの可能性	圓尾
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	4月14日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	unilateral lung agenesis 症例の心臓手術	長谷川

心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	4月28日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	小児領域における三尖弁位の人工弁	中井
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	5月12日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	coronary fistula 至適手術時期	門脇
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	5月26日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	KCCS 予演会	門脇
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	6月2日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	心筋保護	河村
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	6月9日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	小児に対するTVR	中井
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	6月16日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	関西胸部予演会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	6月30日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	小児循環器予演会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	7月14日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	小児循環器総会報告会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	7月21日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	JaSCOP アウトライン説明、今後のカンファレンステーマ	圓尾
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	8月4日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	Ebstein 術式	圓尾、中井
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	8月18日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	MM カンファレンス(無脾症、単心房、共通房室弁、総肺静脈還流異常)	門脇
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	9月8日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	mVSD 閉鎖法による心機能の違い(スペックルトラッキング)	松久
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	9月22日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	ドレーン説明会	ユニチカ
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	9月29日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	人工心肺回路説明会、小児科地方会報告	泉工医化、圓尾

心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	10月5日	8:30～9:00	本館1階 心臓血管外科医局	7	手術中の呼吸合併症症例見直し	麻酔科、心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	10月13日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	胸部外科学会学会予演会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	10月19日	8:30～9:00	本館1階 心臓血管外科医局	7	胸部外科学会学会予演会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	10月20日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	胸部外科学会学会予演会	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	11月2日	8:30～9:00	本館1階 心臓血管外科医局	7	MMカンファレンス(右室流出路再建術後脳梗塞)	松久
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	11月9日	8:30～9:00	本館1階 心臓血管外科医局	7	胸部外科学会報告	心外
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	11月10日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	MMカンファレンス(TOF修復術後肺炎)	圓尾
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	11月17日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	KCCS 予演会	長谷川
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	11月24日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	HSHS 予演会	河村
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	12月1日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	MMカンファレンス(右肺欠損、左室流出路狭窄解除)	長谷川
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	12月8日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	小児先天性心疾患手術データベース説明	松久
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	12月15日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	VSD閉鎖法、三尖弁切開法について	中井
心臓血管外科カンファレンス	心臓血管外科	12月22日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	7	MMカンファレンス(HLHS, 21 trisomy)	松久
麻酔科カンファレンス	麻酔科	毎日	8:30～9:00	手術室内麻酔医室	8～15	毎日の麻酔症例について検討、情報交換を行う	

麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜	8:30～9:00	手術室内麻酔医室	8～15	英文雑誌から麻酔関連論文の紹介	
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月5日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	2010年ルーチン・総括	溝渕 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月7日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	偽性低アルドステロン症	田村 彰広
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月12日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	ミルクアレルギー	下川 祐子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月14日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	F I R S	上田 雅章
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月19日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月21日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	Amnio fluid discordance	妹尾 絵美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月26日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		澤野 英樹
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	1月28日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		制野 勇介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月2日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	2009年新生児科統計	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月4日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		溝渕 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月9日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児学会：ANSと生後早期の血圧	秋田 大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月9日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	地方会：ミルクアレルギー	下川 祐子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月16日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児学会：Subclinical TTTS	妹尾 絵美

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月18日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児学会：FIRSスコアと胎盤病理	上田 雅章
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月23日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児学会：IGFBP3	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月23日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児学会：CLDと胸部CTのパターン	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月25日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		田村 彰広
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月2日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児学会：気道感染とTAF IL-6	溝淵 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月2日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児学会：PDAと母体Mg投与	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月4日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	高インスリン性低血糖	澤野 英樹
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月9日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	近畿小児科：早産児の遅発型敗血症	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月11日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	FIRSスコア	上田 雅章
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月16日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	Stress-Velocity関係	制野 勇介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月18日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	胎児水腫、ジギタリスの使用法	下川 祐子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月23日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	E S P R：ANSと生後早期血圧	秋田 大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月25日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月30日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	スタッフミーティング	

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月1日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10		秋田 大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月6日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	シフトル報告	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月6日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	トロンボモジュリン	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月8日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	ESPR : ANS Early BP	秋田 大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月8日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	ASPR : Early MIRI	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月13日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	地方会 : 超低出生体重児のCDH	田中 聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月13日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	小児科 : 双胎の膜性と予後	秋田 大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月15日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	小児科 : Selective FGR の背景と予後	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月20日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	地方会 : 新型インフルエンザ, 超低出生体重児	中村 有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月20日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	小児科 : Late Preterm に対するSTA 投与	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月22日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	PAS : LLS HC	溝渕 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月27日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	VATER 症候群	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月6日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	T T T S	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月11日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		田中 聡

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月13日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	FMT	中村 有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月13日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	ASPR 報告+研究	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月18日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	PAS 報告	溝渕 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月20日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	Bi-Level NDPAP	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月20日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	TAF study ①	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月25日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	地方会：ELBWのCDH	田中 聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月25日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児：ANSのタイミングと生後早期血圧	秋田 大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月27日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	超早産児、MSSA感染	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月27日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	地方会：新型インフルエンザ，超低出生体重児	中村 有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月1日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		水田 麻雄
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月3日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11		猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月8日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	FMT	中村 有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月10日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	RA-SAT 2009	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月15日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	CLDによるPH	芳本 誠司

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月17日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：超早産児の小脳体積	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月17日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	低血圧に対するHC投与	溝渕 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月22日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：Bi-Level NPPAP	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月22日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：生後早期TAFとCLD	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月24日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：ミトコンドリア病	岸田 祐介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月29日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：胎児母体間輸血	中村 有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月1日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：RASATによる酸素離脱予測	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月1日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児：Late Preterm HIE	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月6日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児：IGFBP3と生後早期発育	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月6日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児：TAF-IL-6	溝渕 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月8日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児：CLDの胸部CT	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月8日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児：母体Mg投与とPDA	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月15日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：低血圧に対するHC投与	溝渕 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月15日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：CLD児のECG所見	芳本 誠司

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月20日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	13 トリミー	水田 麻雄
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月22日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	肝不全	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月27日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	FMT - HIE	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月27日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	HIE	中村 有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月29日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	胎児水腫	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月3日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	PKD	田中 聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月5日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	地方会：総排泄腔遺残	西山 将広
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月10日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	TAF study②	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月12日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	胎盤病理と小脳体積	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月17日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	ECMO 下に根治術を選択した CDH の一例	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月19日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	ELBW, 高 IgM 血症, 3 型 CLD	中村 有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月19日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	RA-SAT と CLD の頻度	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月24日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	ELGANs における IGFBP-3	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月26日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	肺サーファクタント学会：CLD に対する STA 洗浄	岩谷 壮太

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月26日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	先天性水頭症の1例（水無脳症）	岸田 祐介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月31日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児懇話会：早剥とFMTのMRI	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月2日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	テガダームの副作用	溝淵 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月7日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	胎便病に盲腸穿孔を合併したELBW	西山 将広
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月9日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	腸炎後のタンパク漏出症候群	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月14日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	新生児仮死児に対するMgSO4の適応	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月16日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	骨形成不全症	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月16日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	胎内診断のあったCCAMの一例：パンフレット	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月21日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	地方会：Covered Cloacal Exstrophy	西山 将広
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月28日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	PDA	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月30日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	ELGANSの保温	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月5日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	sLLS, TAF-IL-6	溝淵 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月7日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	CLDの胸部CTのパターン分類	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月8日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	遅発型敗血症	西山 将広

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月12日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	小児科：CLDのPH	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月13日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	小児科：FMT	岸田 祐介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月14日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	未熟児：超早産児の小脳体積	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月19日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	33週胎盤早期剥離による新生児仮死例	石原 佳代
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月21日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	CLDに対するサーファクタント洗浄の有効性	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月26日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	S i P A P	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月28日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	未熟児：R A S A Tによる酸素離脱時期の予測	坂井 仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月2日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	未熟児：低血圧に対するHC投与	溝淵 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月2日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	未熟児：CLDとEEG	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月4日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	CDH	西山 将広
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月9日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	PAS：生後早期のT A F スコアによるCLD発症予測	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月11日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	PAS：T A F I L -6と気管内最近畿	溝淵 雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月11日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	正期産児PDA	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月16日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	F I R Sの時相についての検討	猪俣 慶

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月18日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	air leak	西山 将広
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月24日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	23週早発型敗血症	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月25日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	近畿小児科：S T A洗浄の有効性	岩谷 壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月26日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	E b s t e i n 奇形	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月30日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	近畿小児科：WMI と ADC 値	浅野 貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月2日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	26週CAMを合併した腹壁破裂	石原 佳代
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月7日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	2011年研究計画	溝渕 雅巳 猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月9日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	2011年研究計画	岩谷 壮太 坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月14日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	地方会：肝移植を行った肝血管腫症例	辻 真之介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月16日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	2011年研究計画	猪俣 慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月21日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	2011年研究計画	芳本 誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月28日	午後4:00～5:30	NICU カンファレンスルーム	10	2011年研究総括	溝渕 雅巳
産科モーニングカンファレンス	産科	毎朝	8:40～9:05	産科病棟詰め所	28	当直報告と入院患者の症例検討、連絡事項	
抄読会	産科	毎金曜	8:20～8:40	産科病棟医師控え室	8	英文雑誌から産科関連論文の紹介	

症例検討会	産科	偶数月最終週 月	17:00～	産科外来指導室	8	管理に難渋した症例の振り返り
薬剤部勉強会	薬剤部	1月6日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科 「TINU 症候群の症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	1月8日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科 「抗てんかん薬服用妊婦への薬剤管理指導症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	1月13日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 血液腫瘍科 「抗がん剤の取り扱いについて～被爆防止を中心に～」
薬剤部勉強会	薬剤部	1月20日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 心臓血管外科 「人工弁置換後の血栓弁に対する血栓溶解療法について」
薬剤部勉強会	薬剤部	1月27日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科 「グリベック服用に関する症 例」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月1日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「イメンド」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月2日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器科 「ラコールの投与方法について」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月3日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 眼科 「霞粒腫と高IgE 症候群について」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月3日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 眼科 「眼科の薬剤管理対象疾患について」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月16日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会 「ベネフィクス」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月17日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 心臓血管外科 「MRSA ハイリスク症例に対 する周術期感染予防について」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月24日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 心臓血管外科 「人工弁置換後の血栓弁に対 する血栓溶解療法について②」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月24日	17:30～18:30	薬剤部	7	部内勉強会 産科 「糖尿病合併妊娠と妊娠糖尿病について」

薬剤部勉強会	薬剤部	3月17日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 循環器科 「発作性上室性頻拍について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	4月14日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科 「CDDPにより難聴を発生した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	4月20日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 「必要エネルギーの算出～糖・アミノ酸・脂質～」	
薬剤部勉強会	薬剤部	4月21日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器科 「アスピリン喘息の既往のある親族をもつ患児にアスピリンを投与した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	4月22日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「ブリティオン」	
薬剤部勉強会	薬剤部	4月28日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科 「サイトメガロウイルス感染の新生児に対するスクリーニングについて」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月10日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「ラスリテック」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月12日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「ネフローゼ症候群に甲状腺ホルモン補充をした症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月19日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「再発小児固形腫瘍に対する臨床試験について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月19日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 血液腫瘍科 「造血幹細胞移植」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月26日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科 「当院産科における羊水穿刺による羊水細胞染色体分析検査」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月2日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科 「C3欠損症を併発したループス腎炎の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月2日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 腎臓内科 「慢性腎臓病と透析」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月9日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器科 「PGE1製剤による骨膜肥厚に関する症例」	

薬剤部勉強会	薬剤部	6月16日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科 「トポテニンによりコロナ様症状を呈した症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	6月23日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科 「マグセント注の血管外漏出について」
薬剤部勉強会	薬剤部	6月23日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 産科 「子宮頸癌の診断・治療・予防」
薬剤部勉強会	薬剤部	6月30日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科 「ネフローゼ症候群と好酸球増加症」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月7日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「エクジエイドの服薬コンプライアンスに関する症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月14日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科 「PIH 症例（妊娠高血圧症候群）に対する服薬指導」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月14日	17:30～19:30	薬剤部	8	部内勉強会 循環器科 「拡張型心筋症」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月21日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「ネオラル内用液のコンプライアンスについて」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月28日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 循環器科 「DCM びβプロッカーを高用量で投与した症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月29日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「プレベナー」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月4日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科 「小児ホジキンリンパ腫に対する化学療法」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月4日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 腎臓内科 「ネフローゼ症候群の薬物療法」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月11日	8:45～9:00	薬剤部	9	症例報告会 産科 「授乳中のペントキササ錠の服用について」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月11日	17:30～18:30	薬剤部	7	部内勉強会 「がん性疼痛コントロールについて①」

薬剤部勉強会	薬剤部	8月19日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「腎血管性高血圧患者の血圧コントロールに難渋した症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月25日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「イメドとDEXの相互作用について」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月25日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 血液腫瘍科 「横紋筋肉腫」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月1日	8:45～9:00	薬剤部	9	症例報告会 産科 「リトドリン注による皮疹が疑われた症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月8日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科 「HUS症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月15日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 循環器科 「バクタによる薬疹が疑われた症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月15日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 産科 「母子感染について」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月22日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「MTX大量療法時の口内炎予防にロイコホリン含そうと保湿ジェルによる口腔ケアが有効であった症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月22日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 「がん性疼痛コントロールについて②」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月27日	8:45～9:00	薬剤部	9	症例報告会 産科 「喘息合併妊婦の症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月6日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科 「急性糸球体腎炎の症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月6日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 「薬剤師のこれから」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月14日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「MMFの服薬コンプライアンスが低下した症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月20日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「2次性急性骨髄性白血病を発症した症例」

薬剤部勉強会	薬剤部	10月27日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科 「ケフラルによると思われる下痢を発生した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月27日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 「眼科の薬剤管理指導業務～斜視について～」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月1日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 「血友病について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月10日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 眼科 「斜視手術後患者への薬剤管理指導」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月15日	17:30～18:30	薬剤部	7	製品勉強会 「イナビル吸入粉末剤」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月17日	8:45～9:00	薬剤部	9	症例報告会 心臓血管外科 「心臓血管外科におけるノボセブンHIの使用について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月24日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 眼科 「胎児頻脈にジゴシン錠を母体に投与した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月25日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 「薬剤師行う臨床研究の進め方」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月1日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「化学療法施行小児患者における帯状疱疹後神経痛にカルバマゼピンを使用した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月6日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会 「ラビアクタ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月8日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 循環器科 「授乳中のアルコール・カフェインの摂取について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月15日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 眼科 「陥裂縮小症候群の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月16日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 血液腫瘍科 「制吐剤適正使用ガイドラインについて」 腎臓内科「ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の薬物療法」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月20日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 「予防接種とワクチンに関する情報」	

検査部研修会	検査部	1月7日	17:00～17:30	検査技師室	12	免疫組織化学染色について	川畑順子
検査部研修会	検査部	1月21日	17:00～17:30	検査技師室	9	胎児超音波の実際	西垣久実代
検査部研修会	検査部	2月3日	17:00～17:30	検査技師室	13	接遇に関して	井上鮎美
検査部研修会	検査部	3月4日	17:00～17:30	検査技師室	11	時間外勤務者版輸血ガイドライン その1	幸福淳子
検査部研修会	検査部	3月18日	17:00～17:30	検査技師室	13	時間外勤務者版輸血ガイドライン その2	幸福淳子
検査部研修会	検査部	6月18日	17:00～17:30	検査技師室	14	こども病院代謝内分泌科における臨床的遺伝子診断	郷司医師
検査部研修会	検査部	7月1日	17:00～17:30	検査技師室	13	静岡県立こども病院、あいち小児保健総合医療センターの視察報告	三村 仁志
検査部研修会	検査部	7月15日	17:00～17:30	検査技師室	10	SPD システムについて	入野博文
検査部研修会	検査部	8月5日	17:00～17:30	検査技師室	11	脳死判定について	小寺郁美
検査部研修会	検査部	8月19日	17:00～17:30	検査技師室	11	緊急時輸血対応マニュアルの検証	八尾雅美
検査部研修会	検査部	9月2日	17:00～17:30	検査技師室	8	2009/2010 シーズンのインフルエンザ	末道愛子
検査部研修会	検査部	9月16日	17:00～17:30	検査技師室	9	出生前胎児超音波検査について	西垣久実代
検査部研修会	検査部	10月17日	17:00～17:30	検査技師室	13	アンバウンドビリルビンの測定意義について	石川妙子
検査部研修会	検査部	10月21日	17:00～17:30	検査技師室	10	CBC マニュアルについて	野口啓子

検査部研修会	検査部	11月2日	17:00～17:30	検査技師室	10	BNP, NT-proBNP について	戸田圭三
検査部研修会	検査部	11月25日	17:00～17:30	検査技師室	8	T&S 法の試行について	藤中早代
検査部研修会	検査部	12月2日	17:00～17:30	検査技師室	9	クリニカルパスについて	中右高信
検査部研修会	検査部	12月16日	17:00～17:30	検査技師室	8	神経伝導検査について	松本郁子
部内勉強会	放射線科	1月28日	16:30～17:15	放射線技師室	14	シーメンス社の最新CTの現状について	シーメンス社
部内勉強会	放射線科	2月18日	16:00～17:15	放射線技師室	13	GE社の最新CTの現状について	GE社
部内勉強会	放射線科	3月4日	16:30～17:15	放射線技師室	10	リスクマネージメント報告	原田亮輔
部内勉強会	放射線科	6月3日	16:30～17:15	放射線技師室	10	それってど忘れ？認知症？	吉野太司
部内勉強会	放射線科	6月17日	16:30～17:15	放射線技師室	7	こども病院の放射線治療症例	木村浩司
部内勉強会	放射線科	7月1日	16:45～17:30	放射線技師室	9	頭痛について	服部真吾
部内勉強会	放射線科	7月15日	16:30～17:15	放射線技師室	9	口腔線（唾液腺）salivary glands	松本敏幸
部内勉強会	放射線科	9月3日	16:30～17:15	放射線技師室	9	鉛ディスプレイを用いた血管造影装置の散乱線含有率測定	関尾直士
部内勉強会	放射線科	9月16日	16:30～17:15	放射線技師室	9	緊急MRI検査を施行する時の注意・問題点	北住一哉
部内勉強会	放射線科	10月21日	16:30～17:15	放射線技師室	9	オートプロシーメーキングについて	清水俊文

部内勉強会	放射線科	10月27日	16:30～17:15	放射線技師室	10	パノラマ撮影の基礎について	竹中修
部内勉強会	放射線科	11月4日	16:30～17:15	放射線技師室	8	動脈硬化について	小田敏彦
部内勉強会	放射線科	11月25日	16:30～17:15	放射線技師室	8	小児専門病院のアメニティーについて	射場智美
部内勉強会	放射線科	12月16日	17:00～17:30	放射線技師室	9	こども病院、放射線検査システム紹介について	原田亮輔
課内研修会	栄養指導課	4月5日	15:00～15:30	栄養指導課	7	職員駐車場の利用について	尾崎孝秋
課内研修会	栄養指導課	5月6日	15:00～15:30	栄養指導課	8	綱紀肅正の徹底について	尾崎孝秋
課内研修会	栄養指導課	7月2日	15:00～15:30	栄養指導課	7	ヒヤリハット報告について 服務規律の遵守について	尾崎孝秋
課内研修会	栄養指導課	8月26日	15:00～15:30	栄養指導課	8	おやつバイキングの試行実施について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	9月2日	15:00～15:30	栄養指導課	8	厨房内での衛生管理について (マスク・帽子、手洗いの徹底等)	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	10月7日	15:00～15:30	栄養指導課	8	厨房内での衛生管理について (マスク・帽子、手洗いの徹底等)	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	11月25日	15:00～15:30	栄養指導課	8	選択メニューの試行実施について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	12月28日	15:00～15:30	栄養指導課	7	服務規律の遵守について	鳥井隆志
部内勉強会	指導相談・地域 医療連携部	6月17日	15:20～16:00	こあらの部屋	6	発達について	宅見晃子

看護部部署内勉強会 (2010年度)

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者 / 担当
チーム勉強会	一般外科 主体病棟	5月17日	17:30～18:00	4階 カンファレンスルーム	10	症例検討	当番
チーム勉強会	一般外科 主体病棟	6月15日	17:30～18:00	母と子	15	プレパレーション	当番
チーム勉強会	一般外科 主体病棟	7月9日	17:30～18:00	4階 カンファレンスルーム	7	事例検討	当番
病棟勉強会	一般外科 主体病棟	7月12日	17:30～18:30	7F会議室		記録勉強会	記録係
カンファレンス	一般外科 主体病棟	8月5日	15:00～15:30	4階 カンファレンスルーム	8	膀胱拡大、CIC/CISC	担当
チーム勉強会	一般外科 主体病棟	8月25日	17:30～18:30	母と子	11	膀胱拡大、CIC/CISC、尿道下裂	担当
カンファレンス	一般外科 主体病棟	9月28日	14:15～15:00	4階 カンファレンスルーム	8	ヒルシユスプルング病	担当
勉強会	一般外科 主体病棟	9月19日	17:30～18:00	4階 カンファレンスルーム	15	呼吸アセスメント	Aチーム
チーム勉強会	一般外科 主体病棟	10月28日	17:30～18:00	4階 カンファレンスルーム	9	事例検討	当番
勉強会	一般外科 主体病棟	11月29日	17:30～19:30	4階 カンファレンスルーム	7	呼吸管理基礎	教育
カンファレンス	一般外科 主体病棟	12月1日	14:30～15:00	4階 カンファレンスルーム	6	漏斗胸	担当
カンファレンス	一般外科 主体病棟	12月22日	14:30～15:00	4階 カンファレンスルーム	9	接遇	担当

カンファレンス	一般外科 主体病棟	12月24日	15:05～15:20	4階 カンファレンスルーム	10	接遇	担当
病棟勉強会	一般外科 主体病棟	12月13日	17:30～18:00	4階 カンファレンスルーム	20		感染症
チーム勉強会	一般外科 主体病棟	1月27日	17:30～18:00	4階 カンファレンスルーム	11	VUR	担当
チーム勉強会	一般外科 主体病棟	2月7日	17:30～18:00	4階 カンファレンスルーム	7	事例検討	担当
病棟勉強会	循環器A病棟 循環器B病棟	8月18日	18:10～19:10	7F会議室	17	褥創の理解と予防時・発生時のケア	各病棟WOC 委員
病棟勉強会	循環器B病棟	8月24日	18:00～20:00	研修室C	4	人工呼吸管理についての基礎知識	小林
病棟勉強会	循環器B病棟	8月26日	18:20～21:10	7F会議室		人工呼吸管理についての基礎知識	小林
病棟勉強会	循環器B病棟	9月14日	18:10～19:50	研修室C	21	救急蘇生のシミュレーション	刈谷・森松
病棟勉強会	循環器B病棟	9月30日	17:40～19:35	研修室D	6	グレン・フォントタン循環について	松浦・小林
病棟勉強会	循環器B病棟	9月30日	18:05～19:55	7F会議室	5	ドレーン管理について	伊達・平井
病棟勉強会	循環器B病棟	10月28日	17:50～19:05	7F会議室	5	眼科疾患, プレパレーションの演習	黒木・中野
病棟勉強会	循環器B病棟	11月18日	17:50～ 19:05	研修室D	5	正常心電図, 不整脈について	藤原・平井
病棟勉強会	循環器B病棟	11月25日	17:45～19:00	7F会議室	6	ペースメーカー管理について	松島・沼田・ 濱端
病棟勉強会	循環器B病棟	1月21日	17:55～19:10	研修室C	17	救急蘇生のシミュレーション	楠本・古川・ 難波

病棟勉強会	循環器B病棟	1月31日	18:00～19:15	7F会議室	5	PDA, B Tシャントについて	松尾・松木
病棟勉強会	循環器B病棟	1月13日	18:05～19:18	7F会議室	6	リーダーシップについて	開保津
病棟勉強会	循環器B病棟	2月23日	17:55～19:00	4F業者対応室	5	新生児看護, 管理について	大田・赤尾
病棟勉強会	循環器B病棟	6月15日	17:30～18:30	7階会議室	5	6B病棟に入院する、初めて腹膜透析をする患者様について	田中 Dr
病棟勉強会	混合B病棟	6月22日	17:30～18:30	研修室D	11	慢性腎不全・腹膜透析について ゆめの使用方法について	田中 Dr 業者
病棟勉強会	混合A病棟	6月24日	17:30～18:30	7階会議室	12	PI挿入・管理について	二星 CNS
病棟勉強会	混合A病棟	7月27日	17:45～18:45	研修室C	7	病気が子どもにも与える影響について	二星 CNS
病棟勉強会	混合A病棟	7月30日	17:30～18:15	研修室AB	13	DDH・ベルテスについて	整形外科Dr
病棟勉強会	混合B病棟	9月8日	17:30～18:30	研修室AB	8	呼吸不全のフィジカルアセスメント	二星 CNS
病棟勉強会	混合B病棟	9月28日	17:30～18:30	研修室AB	4	循環不全について	二星 CNS
病棟勉強会	混合B病棟	10月29日	17:30～18:30	研修室AB	4	痛みが生体に及ぼす影響について	二星 CNS
病棟勉強会	混合B病棟	11月16日	17:30～18:30	研修室AB	9	術後鎮痛について	麻酔科Dr
病棟勉強会	混合A病棟	2月4日	17:45～17:50	病棟面談室	5	火災発生時の動きについて	藤原 Ns
病棟勉強会	混合B病棟	1月26日	17:30～18:30	研修室D	8	呼吸理学療法	呼吸ケア委員

病棟勉強会	混合B病棟	6月25日	18:00～18:45	研修室C	8	LTV勉強会	Aチーム
病棟勉強会	混合B病棟	12月24日	14:00～14:30	病棟	10	HT-50勉強会	Aチーム
病棟勉強会	混合B病棟	1月27日	18:00～19:00	研修室C	8	ニューポートe 150 勉強会	Aチーム
病棟勉強会	混合B病棟	8月11日	14:00～15:00	病棟	8	ニューポートe 360 勉強会	Aチーム
病棟勉強会	混合B病棟	9月8日	17:30～18:30	研修室C	10	呼吸不全の看護	Aチーム
病棟勉強会	混合B病棟	9月28日	17:30～18:30	研修室C	8	循環不全の看護	Aチーム
病棟勉強会	混合B病棟	7月15日	17:30～18:30	病棟面談室	8	事例を元に基本的な救急蘇生を学ぶ	姑山
病棟勉強会	混合A病棟 混合B病棟	7月27日	17:30～18:30	研修室C	11	乳児期～思春期までの成長・発達の特徴を学ぶ	二星
病棟勉強会	混合B病棟	7月28日	17:30～18:30	7階会議室	15	腹膜透析の看護を学ぶ	森田
病棟勉強会	混合B病棟	7月30日	17:30～18:30	研修室C	15	DDHの病態と治療・看護を学ぶ	二星・衣笠
病棟勉強会	混合B病棟	10月26日	17:30～18:30	7階会議室	18	痛みのメカニズム・こどもの痛みの表現・疼痛評価スケール	姑山
病棟勉強会	混合B病棟	11月17日	17:30～18:30	4階研修室	10	小児救急蘇生を学ぶ	前原
病棟勉強会	混合B病棟	11月25日	17:30～18:30	研修室C	16	薬理学的疼痛緩和について学ぶ	姑山・香川
病棟勉強会	混合B病棟	1月17日	17:30～18:30	研修室C	20	非薬理学的疼痛緩和について学ぶ	二星

病棟勉強会	混合B病棟	10月14日	17:30～18:30	7階会議室	20	摂食障害勉強会	栗林・森本
病棟勉強会	血液主体病棟	4月13日	17:30～18:30	血液主体病棟	10	髓注・マルクの検査について	勉強会係
病棟勉強会	血液主体病棟	4月28日	17:30～18:30	血液主体病棟	6	化学療法(1年目対象)	プリセプター
病棟勉強会	血液主体病棟	6月2日	17:30～18:30	血液主体病棟	6	救急シミュレーション(1年目対象)	プリセプター
病棟勉強会	血液主体病棟	7月7日	17:30～18:30	血液主体病棟	8	歯科の勉強会	勉強会係
病棟勉強会	血液主体病棟	8月26日	17:30～18:30	血液主体病棟	13	尿崩症について	勉強会係
病棟勉強会	血液主体病棟	9月22日	17:30～18:30	血液主体病棟	16	移植について	勉強会係
病棟勉強会	血液主体病棟	10月28日	17:30～18:30	血液主体病棟	6	痛みの勉強会(1年目対象)	プリセプター
病棟勉強会	血液主体病棟	11月25日	17:30～18:30	血液主体病棟	8	口腔ケアについて	勉強会係
病棟勉強会	血液主体病棟	12月24日	17:30～18:30	血液主体病棟	8	呼吸器勉強会・摂食ケア(1年目・異動者対象)	勉強会係
病棟勉強会	血液主体病棟	2月24日	17:30～18:30	血液主体病棟	22	事例検討会(移植後の児について)	勉強会係
病棟勉強会	NICU GCU	5月25日	17:30～18:30	研修室AB	34	Let's Enjoy Neonatal Care	勉強会係
病棟勉強会	NICU	6月21日	17:30～19:00	研修室AB	21	救急蘇生NCP R	救急蘇生G
病棟勉強会	NICU	6月30日	17:45～19:30	新生児 カンファレンスルーム	10	1年目 救急蘇生の基本	プリセプター

病棟勉強会	NICU	7月12日	17:30～18:45	研修室A B	20	救急蘇生 超早産児の帝王切開立ち会い時のケア	救急蘇生G
病棟勉強会	NICU GCU	7月29日	17:30～18:30	研修室A B	22	呼吸管理について	勉強会係
病棟勉強会	NICU	8月2日	17:30～18:30	新生児 カンファレンスルーム	16	ラダーI II 大切にしている看護について	ラダー担当者
病棟勉強会	NICU	8月9日	17:30～18:30	研修室A B	20	ラダーI NICUでよくある外科疾患について	ラダー担当者
病棟勉強会	NICU	9月28日	17:30～18:45	新生児 カンファレンスルーム	13	1年目 ファミリーケア	プリセプター
病棟勉強会	NICU GCU	9月17日	17:30～18:45	研修室A B	40	新生児病棟の感染対策	勉強会係
病棟勉強会	NICU	10月30日	17:30～19:00	新生児 カンファレンスルーム	10	1年目 呼吸ウィニングについて	プリセプター
病棟勉強会	NICU	11月9日	17:30～18:30	研修室A B	42	新生児仮死の管理	勉強会係
病棟勉強会	NICU	12月27日	17:30～19:00	新生児 カンファレンスルーム	12	1年目 入院受け	プリセプター
病棟勉強会	NICU GCU	1月7日	17:30～18:30	研修室A B	30	栄養	勉強会係
病棟勉強会	NICU	1月31日	17:30～18:30	新生児 カンファレンスルーム	10	1年目 入院受け振り返り	プリセプター
病棟勉強会	NICU	2月24日	17:30～19:00	新生児 カンファレンスルーム	15	体位ドレナージ	新生児集中ケア認定看護師
病棟勉強会	NICU	3月9日	17:30～18:30	新生児 カンファレンスルーム	15	テーマの種類	異動者
病棟勉強会	NICU	3月28日	17:30～18:30	新生児 カンファレンスルーム	10	1年目 基本的な看護技術について	1年目

病棟勉強会	N I C U G C U	5月25日	17:30～18:30	研修室 AB	22	新生児医療の目指すもの	中尾医師 【講師】
病棟勉強会	N I C U G C U	7月29日	17:30～18:30	研修室 AB	22	呼吸管理について	芳本医師 【講師】
病棟勉強会	N I C U G C U	11月9日	17:30～18:30	研修室 AB	41	新生児仮死の管理	石原医師 【講師】
病棟勉強会	G C U	9月22日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	16	呼吸器（トリロジー）	岸・砂川
病棟勉強会	G C U	10月22日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	15	災害時の役割・行動について	砂川・小椋・石原
病棟勉強会	G C U	11月30日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	19	HOTについて	林・砂川・岸・伊賀・笠作・永野・田口
病棟勉強会	G C U	1月31日	17:30～18:30	本館 4F	26	救急蘇生	田丸・岸・林・後藤
病棟勉強会	G C U	8月9日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	11	1年目対象救急蘇生	彼末・笠作・山辺・山崎
病棟勉強会	G C U	9月15日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	9	1年目対象接遇について	伊賀・吉田・福田
病棟勉強会	G C U	10月12日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	15	1年目対象直母指導について	竹田 要
病棟勉強会	G C U	10月19日	17:30～18:35	沐浴室	8	1年目対象沐浴指導について	永野
病棟勉強会	G C U	5月31日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	16	ストーマ造設OP後の看護	山崎あ
病棟勉強会	G C U	6月17日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	9	血液型不適合黄疸のある児の看護	山辺
病棟勉強会	G C U	7月2日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	細菌性髄膜炎の看護	笠作

病棟勉強会	GCU	8月6日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	14	IVHの児の看護について	福田
病棟勉強会	GCU	11月5日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	13	ストーマ造設OPを受けた児の看護	竹田
病棟勉強会	GCU	1月7日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	14	T/TTS児の看護	吉田
病棟勉強会	GCU	2月4日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	看護観	釣・黒木
病棟勉強会	GCU	6月15日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	6	救急蘇生	田丸・砂川・植山
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	4月23日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	13	移植後の感染症について	奥野医師
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	5月7日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	11	感染について	三木看護師
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	5月28日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	気管狭窄症について 気管狭窄症の看護について	横井医師 武田補佐
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	6月4日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	感染について	長谷看護師
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	6月10日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	11	呼吸器について	業者
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	6月24日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	13	移植について	長谷川医師
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	7月9日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	呼吸器について（トリロジー）	業者
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	7月29日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	11	移植後の臀部ケアについて	高澤看護師
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	9月17日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	BCRでの口腔ケアについて	石田医師

病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	12月9日	17:30～18:30	研修室C	20	Y チューブ入れ替えの術後管理について	西島医師
病棟勉強会	HCU 外科系一般病棟	1月14日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	10	移植についての研究	長谷川医師
病棟勉強会	ICU	1月22日	17:30～19:00	研修室AB	17	乳び胸の病態、診断、治療について	補佐・ 講師：門脇 Dr
病棟勉強会	ICU	1月27日	17:40～19:00	研修室AB	22	急変時の受け持ち・メンバーの役割行動が理解でき実践できる	井上・山本・ 馬場・西川
病棟勉強会	ICU	3月12日	17:40～19:00	研修室D	27	ECMO 管理について	補佐・ 講師：井上 Dr
病棟勉強会	ICU	6月4日	17:40～19:00	ICU	25	蘇生時のチームの動きがわかり、各役割の行動がわかる	西川・永野
病棟勉強会	ICU	8月4日	17:30～18:30	研修室AB	17	背景要因分析の実施によってリスクセンスを高める	安全係
病棟勉強会	ICU	8月26日	17:30～19:00	研修室AB	18	家族へ対応を考える	患者サービス係
病棟勉強会	ICU	9月15日	17:30～18:30	研修室AB	23	CHDF の管理について	補佐・岩下 ME
病棟勉強会	ICU	9月24日	17:30～19:00	ICU	25	① BLS の手技、② 急変時における準備、及び処置介助の2項目についてスタッフ全員が知識・技術を身につける	A チーム
病棟勉強会	ICU	10月13日	17:30～18:30	研修室D	19	正常な発達過程を含めた摂食ケアの実際について	C チーム
病棟勉強会	ICU	11月17日	17:30～18:30	研修室AB	20	思春期のICU入室患者への関わり	染矢・山下・ 吉見・山本・ 笠木
病棟勉強会	ICU	12月8日	17:30～18:30	研修室D	32	OP・ECCの流れとその影響	補佐・ 教育委員・ 講師：門脇 Dr
病棟勉強会	小児救急医療 センター	6月2日	17:45～18:45	救急初療室	18	CPA シミュレーション	A チーム

病棟勉強会	小児救急医療センター	6月17日	17:45～18:45	救急初療室	23	CPA シミュレーション	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	7月15日	17:45～18:45	救急初療室	14	CPA チームダイナミズム	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	8月5日	17:45～18:45	救急初療室	12	重症初療セッティング	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	8月26日	17:45～18:45	救急初療室	9	処置介助	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	9月9日	17:45～18:45	救急初療室	14	PALS アルゴリズム勉強会	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	10月6日	17:45～18:45	救急初療室	12	CPA シミュレーション	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	10月20日	17:45～18:45	救急初療室	12	PALS アルゴリズム勉強会	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	11月3日	17:45～18:45	救急初療室	11	CPA シミュレーション	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	12月5日	17:45～18:45	救急初療室	10	痙攣重積	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	12月15日	17:45～18:45	救急初療室	9	頭部外傷・緊急気管挿入	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	1月19日	17:45～18:45	救急初療室	16	重症外傷初療基本スキル	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	3月30日	17:45～18:45	救急初療室	24	災害／最重症3人同時受けシミュレーション	Aチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	9月27日	17:45～18:45	カンファレンスルーム	40	最新のエンゼルケア・エンゼルメイク	Dチーム
病棟勉強会	小児救急医療センター	2月13日	17:45～18:45	カンファレンスルーム	9	小児プレパレーションの考え方	Bチーム

病棟勉強会	小児救急医療 センター	10月27日	17:45～18:45	研修室D	15	終末期 家族の意思決定 事例からの学び	Dチーム
病棟勉強会	小児救急医療 センター	2月16日	17:45～18:45	カンファレンスルーム	34	脳死下臓器提供における一連の流れ	Dチーム
病棟勉強会	小児救急医療 センター	3月12日	9:00～13:00	研修室AB	25	脳死下臓器提供シミュレーション	Dチーム
病棟勉強会	小児救急医療 センター	7月20日	17:45～18:45	カンファレンスルーム	10	呼吸整理基礎	教育
病棟勉強会	小児救急医療 センター	9月2日	17:45～18:45	カンファレンスルーム	10	循環生理基礎	教育
病棟勉強会	小児救急医療 センター	10月21日	17:45～18:45	カンファレンスルーム	10	中枢神経系基礎	教育
病棟勉強会	産科	12月6・7・ 8・10・12日	15:00～15:30	産科話所	延べ39	ケアパッケージ・デモンストレーション	大納チーム
病棟勉強会	産科	12月21日	17:30～18:30	外来指導室	16	妊娠期の栄養指導について	大亀チーム
病棟勉強会	産科	2月17日	17:30～18:30	外来指導室	21	ペリネイタルロス	大西チーム
病棟勉強会	産科	5月27日	17:30～18:30	外来指導室	20	乳房ケア 基礎編	大亀
病棟勉強会	産科	10月4日	17:30～18:30	外来指導室	20	乳房ケア 応用編	大亀
病棟勉強会	産科	11月26日	17:30～18:30	分娩室	6	新生児の蘇生	新人
病棟勉強会	産科	1月11日	17:30～18:30	外来指導室	11	経腹コー	新人・喜吉医 師
病棟勉強会	産科	2月28日	17:30～18:45	外来指導室	12	PIH	新人

病棟勉強会	産科	3月18日	18:40～19:40	分娩室	8	分娩介助	新人
病棟勉強会	産科	10月18日	15:00～15:30	産科詰所	17	胎児母体間輸血症候群 症例検討会	田中医師
病棟勉強会	産科	10月29日	15:00～15:30	産科詰所	16	弛緩出血 症例検討会	笹原医師
病棟勉強会	産科	11月5日	15:00～15:30	産科詰所	22	癒着胎盤 症例検討会	田中医師
病棟勉強会	産科	11月18日	17:30～18:30	外来指導室	21	CTG判読	船越医師
病棟勉強会	産科	9月28日	17:30～18:30	産科処置室	16	緊急時の対応：通常の緊急CSの対応・シミュレーション	勉強会チーム
手術室カンファレンス	手術室	毎週	16:00～16:30	OP①	各8	次週の全症例	担当チーム
手術室カンファレンス	手術室	毎週火曜日	16:00～16:30	整形外来	各6	次週の全症例	担当チーム
手術室勉強会	手術室	6月30日	17:15～18:15	OP⑥	13	超緊急カイザー	原田
手術室勉強会	手術室	7月26日	17:15～18:15	リカバリー	10	伝達講習（民間病院派遣研修）	藤澤
手術室勉強会	手術室	10月19日	14:30～15:30	OP⑥	12	超緊急カイザー合同シミュレーション	合田
手術室勉強会	手術室	11月5日	17:15～18:15	休憩室	11	特殊診療材料について（泌科）	稲岡・坂野
手術室勉強会	手術室	1月7日	17:15～17:50	休憩室	15	小児におけるウイルス性感染症	三好
手術室勉強会	手術室	1月25日	17:30～18:30	休憩室	10	整形アリマドについて	那須

手術室勉強会	手術室	3月23日	17:15～18:15	休憩室	10	ラテックスアレルギーについて	藤原由
手術室カンファレンス	手術室	毎日	16:30～17:00	リカバリー	各7～10	手術当日の看護評価と翌日の症例検討	各チーム
手術室勉強会	手術室	11月16日	15:30～16:00	リカバリー	10～15	バルーンカテーテル管理	木戸
手術室勉強会	手術室	11月17日	15:30～16:00	リカバリー	10～15	体内異残について	藤原
手術室勉強会	手術室	2月28日	16:00～17:00	リカバリー	10～15	血液の取り扱い	片山
外来勉強会	看護部	7月15日	17:30～18:30	研修室C	26	外来における療養指導 ～県立加古川医療センターの場合～	外来
外来勉強会	看護部	7月28日	16:45～17:30	内科点滴室	15	看護相談外来について	外来
外来勉強会	看護部	8月26日	17:30～18:15	内科点滴室	20	小児糖尿病の特徴と治療	外来
外来勉強会	看護部	9月9日	17:30～18:30	内科点滴室	16	SMBGとインスリン調節の実際	外来
外来勉強会	看護部	9月30日	16:30～17:15	内科点滴室	9	ストマ外来での取り組み/フットケアの方法	外来
外来勉強会	看護部	10月29日	16:30～17:15	内科点滴室	12	患児・家族のエンパワメント/コーチングスキル	外来
地域連携カンファレンス	診療部	12月1日	16:30～17:30	指導相談部	8	人工透析を希望しない患児・家族へのかわり① (患児が危機的な状況にあるケース)	腎臓内科
地域連携カンファレンス	診療部	1月31日	15:00～16:30	指導相談部	6	人工透析を希望しない患児・家族へのかわり② (患児が危機的な状況にあるケース)	腎臓内科
地域連携カンファレンス	診療部	3月3日	16:30～18:30	指導相談部	6	人工透析を希望しない患児・家族へのかわり③ (患児が危機的な状況にあるケース)	腎臓内科

外来勉強会	看護部	6月28日	16:30～17:00	外科処置室	8	各科での緊急対応患者と緊急患者搬送時の連携について	外来
外来勉強会	看護部	12月6日	16:30～17:00	内科点滴室	15	緊急患者搬送時の連絡方法と他職種との連携・対応	外来
外来勉強会	看護部	3月14日	16:35～17:50	内科点滴室	9	人工透析を導入しない家族への外来支援について	外来
外来勉強会	看護部	3月23日	16:45～17:30	外科処置室	10	家族が治療しないまま希望退院した両側網膜芽細胞腫患児の外来支援について	外来
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 外来担当看護師	1月22日	16:00～16:50	整形外科外来診察室	7	二分脊椎外来を受診した要観察患者の情報共有 対象患者 10名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 外来担当看護師	2月26日	15:30～16:20	整形外科 外来診察室	6	二分脊椎外来を受診した要観察患者の情報共有 対象患者 12名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 外来担当看護師	3月26日	15:30～16:30	整形外科 外来診察室	7	二分脊椎外来を受診した要観察患者の情報共有 対象患者 16名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 外来担当看護師	7月16日	16:00～17:25	整形外科 外来診察室	9	二分脊椎外来を受診した要観察患者の情報共有 対象患者 22名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 外来担当看護師	9月24日	15:30～17:00	整形外科 外来診察室	9	二分脊椎外来を受診した要観察患者の情報共有 対象患者 17名	
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 外来担当看護師	12月10日	15:45～17:10	整形外科 外来診察室	11	二分脊椎外来を受診した要観察患者の情報共有 対象患者 18名	

IV ボランティア

ボランティア受け入れ状況

ボランティアの状況

ボランティア名	内容	活動人数	活動日	活動場所
神戸市生活指導研究会 こども病院ボランティアグループ	看護用品、医療材料、保育材料の作成	24	月・金	毎回3名交代で活動
こども病院ボランティアグループ	子どもの遊び相手、本の読み聞かせ	13	月～金	本館病棟

イベントボランティアの状況

クリニックラウン	笑いやユーマアを届けるコミュニケーション	12名	6回/年	本館病棟・HCU・外来
ハッピーカラープロジェクト	集団お絵かき	5名	6月29日	研修室A B
フィーリングアーツ	光と音の癒しのイベント	4名	6月18日	研修室A B
ミニコンサート	ピアノ演奏と歌	6名	9月6日	研修室A B
ホッとアートプレゼント (NPO兵庫県こども文化振興協会)	人形劇	5名	8月12日	研修室A B
	人形劇	16名	1月に4回	本館病棟プレイルーム
時田直也コンサート	歌とピアノ演奏	2名	2月7日	研修室A B
神戸女子大学キッズリーダークラブ	人形劇	9名	12月22日	研修室A B
クリスマスコンサート (ハバ・ライオンズクラブ主催)	歌と音楽コンサート	15名	12月7日	周産期センター玄関ホール
NPO 神戸ママ	人形劇	5名	3月10日	研修室A B

V 1 年 の あ ゆ み

V 1年のあゆみ(2010.1.1～12.31)

2010. 2.1	病院運営懇話会・地域医療支援病院委員会の開催
5.20	会計検査院による会計実地検査の実施
7.22	県監査委員による平成 21 年度本監査の実施
8.25	神戸市保健所による平成 22 年度医療監視の実施
8.28	第 8 回兵庫県立病院学会を主催
11.18	シアトル小児病院ジョイント・セミナーの開催
12.18	平成 22 年度兵庫県周産期医療研修会を開催